

1997年度

# 経済学部シラバス

獨協大学

---

# はじめに

## ——シラバスの正しい使い方——

経済学部長 千代浦昌道

### 1. シラバスとはなにか？

諸君は、シラバスなんて言葉、これまでに聞いたことあるだろうか？  
実は私も、数年前にシラバスを作るから原稿を書くようにと言われて、  
そのような妙な言葉がこの世に存在することをはじめて知ったのだ。聞き慣れない言葉だったから、はじめはなかなか覚えられずにすぐ忘れてしまった。もちろん、物忘れの激しいのはいくぶん年のせいでもあるが……。 (困ったね！)

日本では、シラバスは「年間授業計画表」あるいは「年間授業計画案」などと訳されている。それなら、そのような表題を付ければ良いのに、日本ではまだ外来語のほうがありがたく聞こえるだろうか？ (これも困ったことだ。) でも、この問題はそれからだんだんに改めて行くとして、今回はとりあえず「シラバス」という表題を使うことにしよう。

シラバスは、英語で syllabus と書く。この言葉は、近代ラテン語に由来するものだそうだが、古代ローマの政治家、雄弁家でもあり著述家でもあったキケロ (Cicero) の書き残した書物のシティバス (citybas) というギリシャ語を後世の人が誤読したものとされている。(だから、もともと変な言葉なのだ!) このシティバスとは、むかしパピルスの巻物に貼った紙片のことだそうだ。

その後、シラバスは、ローマカトリックの説教表、あるいは1864年にローマ法王ピウス9世が誤りであると宣言した80のテーマを載せた謬 (びゅう) 説表 (Syllabus of Errors) を指す言葉になった。また、最近では、法律用語で裁判の際に判決文の前につけた本のこともシラバスと呼んでいる。たぶん、この法律用語から敷衍 (ふえん) して、われわれの使っているシラバスという言葉の意味が生まれただろう。しかし、本来のシラバスの意味はやはり上の法律用語に近い、講義や講演の前後に配られるいわゆるレジュメ (これはフランス語) のことを呼ぶようである。だから、さらにはそうした概要を一冊にまとめたものもシラバスと呼ばれるようになったのだろう。

---

## 2. シラバスにはなにが書かれているか？

本学のシラバスには、一応の書式もあるが、最終的には講義担当者である教員の自由意志によって書かれているから、書き方の形式や内容の詳しさなどもそれぞれの担当教員によって異なる。また、上に述べたようにあくまでも「計画表」あるいは「計画案」であるから、毎回の講義が完全に計画通りに行くというわけには行かない。むしろ、担当教員はできるだけ計画通りに講義を進めようと努力はしているのだが、諸君も知ってのとおり、計画をその通りに実行することはまったく難しい。また、教員の中にはこうした授業計画を公表すること自体に反対している人も居る。いわぬ、「大学の講義というのは、いつも時事的なものや最先端の内容を採り入れなければならないから、計画や予定表などを作って公表するとそれに縛られて良い講義ができなくなる」。学科目によっては、そのような指摘が当てはまるものもあることは否定できない。しかし、とにかく年間のだいたいの予定を立てるということは、何事にとってもやはり必要なことだと思う。それによって、講義内容の自由度が制限されるという人は、計画をゆるやかに立てれば良いのだから、それほど深刻な問題ではないだろう。

しかし、担当教員がシラバスとはまったく異なる内容の講義を繰り返しているような場合には、学生諸君も注意していて、場合によっては抗議しなければならない。それは、「看板に偽りあり」で、経済学的に言えば、教育サービスという商品の表示と中身が違う「不当表示」ということになる。まあ、担当者が少なくともできるだけ計画に近づける努力をしていると認められたならば、諸君もある程度は大目に見てあげて欲しい。

## 3. シラバスはどう利用するか？

シラバスは全教員の年間授業計画が載っているから、どうしてもある程度の厚さが必要となる。しかし、こんなに厚い印刷物は、現在のインターネットの普及状況から見て、もう数年のうちに必要なくなるだろう。シラバスはすべて、インターネット上の獨協大学ホームページにアクセスさえすれば簡単に見られるようになるに違いない。しかし、今年はまだこのような分厚い印刷物で我慢して欲しい。

ただし、数年前のシラバスはもっと馬鹿みたいに厚いものだったのだ。これでもずいぶん良くなったのである。でもこんなに厚い、それに自分の履修しない科目の授業計画表まで全部載っているようなものは、無用の長物と思うかもしれない。

そこで、シラバスの一番良い利用法を紹介しよう。まず、科目履修登録のためにはシラバスは一冊全部を参照する必要があることはいうまでもない。科目内容を十分読まないで履修登録すると、後で一年間後悔することになる。履修登録が済んだらもうシラバスは要らないかというと、

---

そうではない。むしろ、授業が始まってからのほうが、シラバスは大切なのだ。まず、シラバスのうちで自分の履修登録科目のページだけをコピーしよう。それを、講義ノートの裏幕紙にでも貼っておこう。そうすれば、授業の予習や復習に役立つばかりでなく、たまたま欠席した場合のチェックの役にも立つ。終わった授業日や講義内容にはマークをしておこう。

#### 4. 使用後のシラバスをどうするか？

以上すべてが済んでも、シラバスは諸君の部屋のどこかに保存しておく必要はある。講義ノートをうっかり無くしてしまった時などには役に立つし、彼女/彼を部屋に呼んだときなどにはいかにも勉強熱心なようで格好がいい。シラバスは、彼女/彼との楽しい語らいのきっかけを創り出してくれるかも知れない。しかし、1年経って後期試験も終了したら、もうその年のシラバスは要らなくなる。役割をまったく終えたシラバスは、古本屋に持ち込んでもまったくのくたびれ損になる。古本屋の親父の不愉快きわまりない答えが返ってくるだけだから、諸君！それだけは止めてほしい！

古くなったシラバスは、毎週月水金曜日の「燃えるゴミ」の日に、指定されたごみの回収場に置いておこう。たまたま、シラバスがどこかのおじいさんに拾われて読まれたとしても、こんなに立派なシラバスなのだから、恥ずかしがることはまったくない。おじいさんの脳味噌には獨協大学の名前がしっかりと刻み込まれて、孫には獨協受験を奨めようと決心させるかも知れない。(これでおしまい！)

---



## 目次の見方

○目次は1994年度以降入学者用カリキュラム順になっています。

○入学年度によりカリキュラムは異なるので、1993年度以前入学者は該当する科目を目次で参照してください。

また、科目名が違う場合は下記の表を参照し、それぞれ対応する科目で検索してください。

### 1993年度以前入学者用科目対応表

経済学科			経営学科		
94以降入学者	93入学者	92以前入学者	94以降入学者	93入学者	94以降入学者
経済原論		経済原論Ⅰ	情報処理概論		情報処理論Ⅰ
情報処理概論		情報処理論Ⅰ	情報処理論 (1)～(3)		情報処理論Ⅱ
地域経済論 (1)～(5)		地域経済論Ⅰ・Ⅱ		総合講座(1)	総合講座
地域経済論 (6)	/	地域経済論Ⅰ・Ⅱ	特殊講義A	特殊講義	経営学特論A
情報処理論	情報処理論 (1)～(3)	情報処理論Ⅱ	経営管理論		経営管理総論
			行動科学論		行動科学概論
総合講座(1)		総合講座			
特殊講義A	特殊講義	経済学特論A			
経済社会学		経済原論Ⅱ			
近代経済学		理論経済学			
社会科学概論		社会科学方法論			
簿記原理(営)		簿記			

※93入学者空欄は、94以降入学者と同科目名となります。

# 目 次

はじめに

経済学部長 千代浦 昌道

1993年度以前入学者は、各自のカリキュラムの科目を参照して下さい。

## 一般基礎科目群 (経済学科/経営共通)

文 学	(日本文学)	飯 島 一 彦	.....	1
"	(日本文学)	北 村 進	.....	3
"	(日本文学)	肥田野 昌之	.....	5
"	(世界文学)	北 澤 滋 久	.....	7
"	(世界文学)	松 山 恒 見	.....	9
"	(世界文学)	宮 澤 康 造	.....	11
"	(世界文学)	山 路 朝 彦	.....	13
国 語		飯 島 一 彦	.....	15
"		小 島 幸 枝	.....	17
"		中 村 文	.....	19
"		肥田野 昌之	.....	21
歴史学	(日本史)	新 井 孝 重	.....	23
"	(日本史)	齊 藤 博	.....	25
"	(東洋史)	熊 谷 哲 也	.....	27
"	(西洋史)	御園生 真	.....	29
思 想	(哲学)	高 尾 由 子	.....	31
"	(宗教)	鈴 木 康 治	.....	33
法 学		土 田 道 夫	.....	35
地理学		犬 井 正	.....	37
"		原 田 洋一郎	.....	39
民俗学		辻 雄 二	.....	41
心理学		杉 山 憲 司	.....	43
"		増 田 直 衛	.....	45
"		三 本 茂	.....	47
数 学		遠 藤 信	.....	49
自然科学概論		遠 藤 信	.....	51
"	A	加 藤 僖 信	.....	53
"	B	加 藤 僖 重	.....	55
保健論		藤 井 賢一郎	.....	57
体育理論		勝 瀬 武	.....	59
"		松 本 光 弘	.....	61
"		山 中 邦 夫	.....	63
"		吉 田 卓 司	.....	65
"		和 田 智	.....	67

## (経済学科) 専門基礎科目群

経済学	小林 進	69
"	仙波 憲一	71
"	西村 允克	73
"	益山 光央	75
"	松本 正信	77
"	山本 美樹子	79
"	米山 昌幸	81
" (再履修用)	益山 光央	(最初の授業で説明する)
経済原論	高橋 房二	85
"	西村 允克	87
日本経済史	齊藤 博	89
経済地理	犬井 正	91
経済政策	伊藤 正昭	93
日本経済論	波形 昭一	95
統計学	富田 幸弘	97
"	本田 勝	99
"	松井 敬	101
経済統計	松本 正信	103
情報処理概論	各担当教員	356

## (経済学科) 主要専門科目群

経済変動論	松本 正信	105
近代経済学	小林 進	107
経済社会学	高橋 善四郎	109
経済学史	鈴木 勇	110
経済哲学	高橋 善四郎	112
一般経済史	原 剛	113
日本社会史	新井 孝重	115
西洋経済史	御園生 眞	117
東洋経済史	駒形 哲哉	119
国際経済論	益山 光央	121
産業構造論	山越 徳	123
産業組織論	青木 雅明	125
流通経済論	西村 允克	127
交通経済論	岡田 博	129
地域経済論 (1) 北米	庄司 啓一	131
地域経済論 (2) 西ヨーロッパ	大島 通義	133
地域経済論 (3) 東ヨーロッパ	鈴木 勇	135
地域経済論 (4) アジア・オセアニア	森 健	137

地域経済論 (5) アフリカ
地域経済論 (6) ラテンアメリカ
地域産業政策論
社会政策
労働経済論
財政学
日本財政論
公共財政学
金融論 A・B
国際金融論

千代浦 昌 道	139
山 本 正 三	141
伊 藤 正 昭	143
桑 原 靖 夫	145
桑 原 靖 夫	147
大 島 通 義	149
伊 藤 為一郎	151
伊 藤 為一郎	153
田 村 申 一	155
山 本 美樹子	157

## (経済学科) 一般専門科目群

社会科学概論
地域精神衛生論
経営学
保険論
会計学
応用統計学
プログラミング論
〃
情報処理論
〃
〃
民法
商法
国際法
政治学総論

宮 澤 清	159
佐々木 雄 司	161
河 野 重 榮	163
岡 村 国 和	247
宮 澤 清	165
本 田 勝	405
高 柳 敏 子	415
立 田 ル ミ	417
高 柳 敏 子	419
立 田 ル ミ	423
富 田 幸 弘	421
滝 澤 昌 彦	167
青 木 英 夫	169
廣 部 和 也	171
永 森 誠 一	173

<1学年 第一外国語>
ドイツ語 I (総合)
英語 I (会話)
英語 I (会話特別)
英語 I (講読)
フランス語 I
<1学年 第二外国語>
ドイツ語 I
英語 I
英語 I
フランス語 I
スペイン語 I (総合)
スペイン語 I (会話)
ロシア語 I (講読)
ロシア語 I (文法)

各担当教員	175
各担当教員	177
(英語学科シラバス、英語Ⅲ(A.C)参照)	
各担当教員	179
各担当教員	180
各担当教員	181
上 村 巖	183
森 永 京 一	185
各担当教員	186
各担当教員	187
各担当教員	189
井 上 幸 義	191
井 上 幸 義	193

中国語Ⅰ（講読）	類 明	195
中国語Ⅰ（講読）	陳 跡	197
中国語Ⅰ（文法）	奏 敏	198
韓国語Ⅰ（講読）	朴 勇俊	199
韓国語Ⅰ（文法）	朴 聖雨	201
〈2学年 第一外国語〉		
ドイツ語Ⅱ（総合）	各担当教員	203
英語Ⅱ	信 達郎	205
〃	平 柳久美子	207
〃	山 本英政	209
フランス語Ⅱ	各担当教員	210
〈2学年 第二外国語〉		
ドイツ語Ⅱ	各担当教員	211
英語Ⅱ	菅 原清次	213
英語Ⅱ	飛 田ルミ	214
フランス語Ⅱ	各担当教員	216
スペイン語Ⅱ（総合）	各担当教員	217
スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員	219
ロシア語Ⅱ（総合）	井 上幸義	221
ロシア語Ⅱ（会話）	井 上幸義	223
中国語Ⅱ（総合）	張 継濱	225
中国語Ⅱ（講読）	陳 跡	227
韓国語Ⅱ（総合）	朴 勇俊	228
韓国語Ⅱ（講読）	朴 聖雨	230
〈3学年 第二外国語〉		
ドイツ語Ⅲ	(英語学科シラバス、ドイツ語Ⅲ・ドイツ語会話参照)	
フランス語Ⅲ	(英語学科シラバス、フランス語Ⅲ・フランス語会話参照)	
スペイン語Ⅲ（総合）	(英語学科シラバス、スペイン語Ⅲ・スペイン語会話(英)参照)	
〃（講読）	( 〃 )	
〃（L. L.）	( 〃 )	
外国書研究Ⅰ	青木 雅明（A）	232
〃	青木 雅明（B）	233
〃	井 出 健二郎	234
〃	伊 藤 為一郎	236
〃	伊 藤 正 昭	237
〃	犬 井 正	239
〃	氏 原 茂 樹	241
〃	内 倉 滋（A・B）	243
〃	遠 藤 信	245
〃	岡 下 敏	247
〃	岡 田 博	248
〃	岡 村 国 和（最初の授業で説明する）	
〃	奥 山 正 司	250
〃	香 取 徹	252

"		栗村英二	253
"		河野重榮	254
"		小林進	256
"		斎藤正章(A)	257
"		斎藤正章(B)	259
"		庄司啓一	261
"		高橋善四郎	263
"		高松和幸(A)	264
"		高松和幸(B)	266
"		立田ルミ	268
"		田村申一	270
"		中村泰将	272
"		西川純子	274
"		原亨	275
"		益山光央	(最初の授業で説明する)
"		松本正信	276
"		宮城浩祐	278
"		百瀬房徳	279
"		森健	281
"		山越徳	282
"		山田浩一	284
"		山本栄	285
"		山本正三	287
"		山本美樹子	289
"		湯田雅夫	291
"		米山昌幸	292
"		G. D. Moen	294
"	(外国人学生用)	駒形哲也	296
"	(独語)	御園生眞	298
"	(仏語)	千代浦昌道	299
外国書研究Ⅱ		伊藤為一郎	301
"		香取徹	302
"		小林進	303
"		高松和幸	304
"		宮城浩祐	306
"		森健	307
"		山本美樹子	289
"	(外国人学生用)	駒形哲也	310
"	(独語)	御園生眞	312
"	(仏語)	千代浦昌道	299
貿易英語		山崎静光	313
総合講座(1)		経済学部	315
特殊講義A		栗村英二	317
"		田代力也	319

"	和田 智	320
"	D. G. Moen	322

## 経営学科 (1994年度以降入学者)

経済学	小林 進	69
"	仙波 憲一	71
"	西村 允克	73
"	益山 光央	75
"	松本 正信	77
"	山本 美樹子	79
"	米山 昌幸	81
" (再履修用)	駒形 哲哉	83
経営学総論	河野 重榮	323
"	高松 和幸	325
"	富田 忠義	327
マーケティング論	大久保 貞義	329
企業論	西川 純子	331
貿易論	米山 昌幸	333
簿記原理	井出 健二郎	335
"	氏原 茂樹	337
"	内倉 滋	339
"	岡下 敏	341
"	香取 徹	343
"	中村 泰将	345
"	細田 哲	347
"	百瀬 房徳	348
"	湯田 雅夫	350
会計学原理	内倉 滋	352
"	百瀬 房徳	354
統計学	富田 幸弘	97
"	本田 勝	99
"	松井 敬	101
情報処理概論	各担当教員	356

## (経営学科) 主要専門科目群

経営管理論	富田忠義	358
経営労務論	宮城浩祐	360
財務管理論	細田哲	362
国際経営論	小林哲也	364
一般経営史	原剛	366
日本経営史	齊藤博	368
行動科学論	大久保貞義	370
広告論	梶山皓	372
交通論	山野邊義方	374
証券市場論	原享	376
保険論	岡村国和	378
企業形態論	栗村英二	380
協同組合論	栗村英二	382
財務会計論	中村泰将	384
社会会計論	湯田雅夫	386
管理会計論	香取徹	388
経営分析論	百瀬房徳	390
原価計算論	齋藤正章	392
会計監査論	長吉眞一	394
税務会計論	山田浩一	396
上級簿記	細田哲	398
〃	湯田雅夫	399
管理工学	山本栄	401
経営数学	前田功雄	403
応用統計学	本田勝	405
オペレーションズ・リサーチ	本田勝	407
システムズ・エンジニアリング	天笠美知夫	409
情報システム論	前田功雄	411
標本調査論	松井敬	413
プログラミング論	高柳敏子	415
〃	立田ルミ	417
情報処理論 (1)	高柳敏子	419
情報処理論 (2)	富田幸弘	421
情報処理論 (3)	立田ルミ	423

## (経営学科) 一般専門科目群

老年社会学	奥山正司	425
宗教学	鈴木康治	427



高齢者エルゴノミクス

経済原論

〃

国際経済論

民法

商法

国際法

政治学総論

第一外国語

第二外国語

外国書研究Ⅰ

外国書研究Ⅱ

貿易英語

総合講座(1)

特殊講義A

〃

〃

〃

山本 栄 ..... 429

高橋 房二 ..... 431

西村 允克 ..... 433

益山 光央 ..... 121

滝沢 昌彦 ..... 167

青木 英夫 ..... 169

廣部 和也 ..... 171

永森 誠一 ..... 173

(経済学科「第一外国語」参照)

(経済学科「第二外国語」参照)

(経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)

(経済学科「外国書研究Ⅱ」参照)

山崎 静光 ..... 313

経済学部 ..... 315

栗村 英二 ..... 317

田代 力也 ..... 319

和田 智 ..... 320

D. G. Moen ..... 322

科目名	文学（日本文学）	担当者名	飯島一彦
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深くて長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>	
講義概要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>	
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。
	参考文献	その都度教室で指示する。
評価方法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。	
受講者に対する要望など	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「お伽草子」とは何か？
2	「浦島太郎」を読む①
3	「浦島太郎」を読む②
4	「浦島太郎」を読む③
5	奈良時代の「浦島太郎」① 日本書紀
6	奈良時代の「浦島太郎」② 万葉集
7	平安時代の「浦島太郎」①
8	平安時代の「浦島太郎」②
9	昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10	国定教科書の「浦島太郎」
11	まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12	予備日「絵本の中の浦島太郎」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「一寸法師」を読む ①
2	「一寸法師」を読む ②
3	「一寸法師」を読む ③
4	奈良時代の「一寸法師」①
5	奈良時代の「一寸法師」②
6	平安時代の「一寸法師」①
7	平安時代の「一寸法師」②
8	芸能に見る「一寸法師」
9	国定教科書の「一寸法師」
10	昔話の「一寸法師」
11	まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
12	予備日「絵本の中の一寸法師」
備考	

科 目 名	文学（日本文学）	担当者名	北 村 進
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>近代の代表的な短編小説を読み味わいながら、小説のおもしろさ、奥深さを学ぶとともに、人間・社会・愛・自己などについて考える。いろんな作品を取り上げることによって、それぞれの作者の考え方・ものの見方の違いを知り、小説に対する興味を持たせたい。今が一番本を読める時期なので、本を選ぶ手助けとしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>近代を代表する作家の短編小説をなるべく多く読み、内容を把握しながらその作品世界について考える。作品の読み、解説が中心となるが、作品を読んだ後に、簡単な読後感想を書いてもらう。これも評価の対象とする。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	『近代の短篇小説』（憐おうふう）。その他必要があればその都度指示する。	
	参 考 文 献	その都度指示する。	
評 価 方 法	<p>前期はレポート、後期は未定。 出席を重視する。その他講義時に課すさまざまな課題。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	休まず出席すること。講義中無駄話をしないこと。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明する。近代文学についてどの程度の知識があるか、簡単な試験を試みる。
2	初めに坂口安吾を取り上げる。坂口安吾について解説し、安吾の文学史における位置付け、及び「無頼派」について解説する。
3	坂口安吾の代表作である「桜の森の満開の下」を読む。
4	「桜の森の満開の下」の作品世界について考察し、他の作品についても解説する。
5	太宰治を取り上げる。太宰の生涯をたどりながら、文学活動を三期に分け、それぞれの特徴について解説する。
6	「桜桃」を読み、晩年の太宰について「家庭」という面から考察する。
7	太宰の作品の中で最もよく読まれている「走れメロス」を取り上げ、この話の元となったシラーの「人質」との比較を通して、作品化の方法について考察する。
8	同 上
9	横光利一「頭ならびに腹」「蠅」を読み、その作品の意図を探り、「新感覚派」について解説する。
10	横光利一「春は馬車に乗って」を読み、解説する。
11	中島敦を取り上げる。中島敦について解説し、「名人伝」を読む。
12	「名人伝」について解説し、中島敦の文学方法について考察する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	樋口一葉の生涯を解説し、「十三夜」を読む。
2	「十三夜」について解説し、他の作品にも触れる。
3	森鷗外を取り上げる。鷗外について解説し、「普請中」を読む。
4	「普請中」について解説する。
5	鷗外の歴史小説を紹介し、「阿部一族」を読む。
6	「阿部一族」について解説する。
7	大江健三郎について解説し、「他人の足」を読む。
8	「他人の足」について考察し、作品の意図をさぐる。
9	武田麟太郎について解説し、「雪の話」を読む。
10	「雪の話」について解説する。
11	有島武郎「小さき者へ」を読む。
12	葛西善蔵「哀しき父」を読む。
備考	

科目名	文学（日本文学）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的な事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについて考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌・防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。
2	巻一 1番・雄略天皇の歌について考える。
3	中大兄の三山歌について、いろいろの角度から考察する。
4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5	柿本人麻呂とその長歌を中心に読む。
6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件との関連で、それらの歌を読む。
7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8	有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
9	柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10	前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
11	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心に読む。
12	大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にして読む。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	真間娘子の歌——赤人と虫麻呂——
2	山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしてその歌と説明。
4	高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
5	寄物陳思・正述心緒——巻十一の歌を読む。
6	万葉集の用字法——特に義訓・戯訓など——
7	東歌についての説明と歌。
8	中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋とその贈答歌について。
9	巻十六有由縁并雑歌を中心に読む。
10	後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
11	大伴家持とその歌について読む。
12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についても説明する。
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	北澤 滋久
-----	----------	------	-------

講義の目標	文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもり科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20-30%の不合格者が出ています。		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	松山恒見
-----	----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。		
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。	
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨーン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネリュ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、(鞠)コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジュージュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニェまで。
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	宮澤康造
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢詩文を通じて、中国の古典を学習し、その読解力を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>	
講義概要	<p>古くから日本の文物制度は、中国に負うところが大きい。特に中国文学がわが国の文学に与えた影響は大きい。日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。本講座では、漢文読解の力を養い、漢詩文を理解し、また日本で現在も生きている故事成語を広く学ぶ。基礎編で漢文の訓読、演習編で漢詩文の読解・演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を多く用意して、広く中国文学の概要を学び、日本所在の漢詩文の碑（いしぶみ）の読解なども加えて、興味ある講座を用意している。</p>	
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考（御牧貞風編）
	参考文献	<p>①漢文学習のための辞典 ②教材学習のための参考書</p> <p>いずれも授業時プリント等で示し、解説する。</p>
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日頃の訓読演習への参加は学習向上への鍵。</p> <p>②前・後期末実施のテストの成績。</p> <p>③学生の自己評価表も参考にする。</p> <p>④自主レポート</p> <p style="text-align: right;">以上の四点から総合評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>継続は力、日常の学習の積み重ねが肝要。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから申し込みをしないこと。学問を通じて人間形成を望む者は来れ。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学の重要性を知る。まず身近かな故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢文の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在の漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の漢文碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト1頁） 読解（指名読・範読・斉読・語釈・通解・・・以下共通）日本のことわざと比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト2～3頁）読解。
6	「蛇足」「四面楚歌」「寒翁馬」（テキスト4～6頁）読解。
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解。陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。夏休みの自主レポートのこと。
備考	夏休みの余暇に、漢文や漢詩の碑を探访して、その読解を試みる。（参照——全国漢詩碑）読めないところは、後期の質問として解明していく。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。「唱渭城」とは。唐代の詩の概説——主なる詩人とその作品について——
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。対句的表現の妙について。
3	李白と杜甫について——プリントにより対比考察。李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府について解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中より好きな一詩をとくに考究して、暗誦できるまで学習する。六詩の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を選び、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。杜甫の詩の特色についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について——「慈烏夜啼」読解。
8	「長恨歌」を学ぶ。——長編の詩の通読、表現上の特色について知る。段落と押韻について考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。設問（プリント）の解答。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景について解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁）現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	山路朝彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法 ①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解説
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解説
6	④構造主義的方法
7	カフカの解説
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解説
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解説
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	国語	担当者名	飯島一彦
-----	----	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行なう。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>	
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対すとりくみの深さ、その成果。夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行なわれる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>	



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス。
2	講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3	
4	
5	
6	
7	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8	
9	
10	
11	
12	夏休み課題ガイダンス。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み課題提出。後期ガイダンス。
2	
3	
4	
5	
6	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
7	
8	
9	
10	
11	
12	冬休み課題提出。年間のまとめ。
備考	

科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の吸収および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙文のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	松村明編『国語表現法』おうふう	
	参考文献	・都度、紹介する。	
評価方法	提出物による平常点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなるとおっしゃいます。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語	担当者名	中村文
-----	----	------	-----

講義の目標	<p>私たちが他者と接する場面で、言葉はどのようにはたらくものなのだろうか。「超～」や「すげー」と言うだけで、気分を伝え合うことのできる相手との会話は、確かに楽かもしれないけれど、そこに安住しては、他者にも、そして他ならぬ自分にさえ、出会うことができない。社会に出て働き始めれば、また厳しい言葉の規範に従わざるをえず、それで自分自身が見つけにくくなってしまいうことも多いだろう。だから、比較的自由に言葉が使える今、自分の考えをかたどることを通して、「私とは何か」という問題を見つて直す時間を持ってもらいたい。</p>		
講義概要	<p>日本の国語教育は、あまりにもアララギ的な考え方に毒されていると思う。抒情的であることも、抽象的な概念で事態を示すことも、大事には違いないが、最も重要なのは、言葉によって対象を理解すること、自分の考えを言葉できちんと伝えられることではないだろうか。従って、この授業では、自分の使っている言葉を認識することから始めて、様々なジャンルの文章を読んで、それに対する自分の考えを書くことに重点を置く。読んでもらう文章は、現代的なテーマを取り扱ったものであるから、書くことを通して、考え、判断する力も養ってほしい。提出されたものは、授業中に取り上げることがあるので、これを了解した上で受講されたい。</p>		
使用教材	テキスト	授業時にプリントを配布する。	
	参考文献		
評価方法	<p>ほぼ毎回、書くことを要求する。特別に試験・レポート等は課さず、提出された文章によって判定する。但し、上手・下手とか、内容が高邁であるか否かによるのではなく、自分と言語との関係に対して、どの程度真剣に取り組んでいるかという観点から評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>B 5、またはA 4の原稿用紙を用意すること。その他の注意事項は、第1時間目に口頭で伝える。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス。授業の進め方についての説明
2	中世のなぞなぞを解いてみよう。字謎を作ってみよう。
3	折句を作ってみよう。／自分の中の言葉の掘り起こし
4	昨日の出来事を簡単に書きとめてみよう。／普段使っている言葉を認識する
5	興味のある事柄を示して、自己紹介文を書いてみよう。／「考えていること」と文章の落差
6	新聞を読んで、文章を批判してみよう。／言葉を縛る規範
7	an・anを読んでみよう。／通念は誰が作るのか
8	新聞の論説を読んで、批判してみよう。／硬直することのつまらなさ
9	佐藤信一『言述のすがた』を読む
10	上野千鶴子『〈私〉探しゲーム』
11	大塚英志『子供流離譚』
12	田中貴子『〈悪女〉論』
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	松浦理英子『優しい去勢のために』
2	大平健『拒食の喜び、媚態の憂鬱』
3	鷺田清一『ちぐはぐな身体』
4	小倉千加子『風を野に追うなかれ』
5	四方田犬彦『ストレンジャー・ザン・ニューヨーク』
6	種村弘『シンジケート』
7	小森陽一『物語としての文体』
8	中村雄二郎『共振する世界』
9	多木浩二『欲望の修辞学』
10	田中克彦『言語学とは何か』
11	山下洋輔『ピアノ弾き翔んだ』
12	中島梓『コミュニケーション不全症候群』
備考	

科目名	国語	担当者名	肥田野 昌之
-----	----	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。	
講義概要	<p>論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。</p> <p>また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。
	参考文献	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語・国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2	現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3	「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4	文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5	文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6	文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7	豊かな内容とは——物の見方や読書などについて考える。
8	国語表記の問題——段落の分け方や送りがななどについても言及する。
9	原稿用紙の使い方や校正などについて説明する。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
10	作文を書く（添削と採点）
11	作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
12	教養としての文学史——熊野・附子など——
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教養としての文学史——勸進帳・与話情浮名横櫛など——
2	文字について——特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
3	仮名づかいについて——仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
4	標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
5	文章のさまざま——実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など——
6	手紙を書く——添削——
7	手紙の書き方——手紙の形式を中心にして説明する。
8	課題作文を書く（添削と採点）。
9	作品を返還し、感想や注意事項を述べる。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
10	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
11	教養としての文学史——俳句について——
12	ことばと社会について——ことばの乱れや敬語法について考える。
備考	

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	----------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 ・佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実を注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生するの経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新时期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 独協史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤 博『歴史の精神』学文社</li> <li>・齊藤 博『民衆史の構造』新評論</li> </ul>	
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない</p>	
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学（東洋史）	担当者名	熊谷哲也
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム教徒たちが共有する過去を知ることにより、彼らが何を常識とし、何に価値をおき、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードだが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム世界の拡大によって広大な文明圏が形成される様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後半はイスラーム世界における近代化の歴史を地域・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな問題について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらう。詳しくは授業で指示する。
評価方法	夏休みあけのレポート提出と、学年末の試験。ともに発想のオリジナリティを重視する。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教が誕生する以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島に広まる経過を理解する。
4	最初の4人のカリフ（正統カリフ）時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問の展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代から発達したイスラームの科学とその内容について、また、中世イスラーム社会における民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義（スーフィーズム）について考察する。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現し軍事政権とその展開について概観する。
10	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度は西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作りあげたヨーロッパ人の歴史観を検討する。
12	まとめを行なう。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。
2	欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化について学ぶ。
3	近代イスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）が成立する基本的なメカニズムを理解する。
4	さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィーズムなどの問題について考える。
5	エジプトの近代化とその過程について考える。
6	トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
7	近代化がイスラームの世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とそのゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
8	知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事柄をとりあげ、近代化との関係について検討する。
9	同上。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
11	現代のアラブ諸国がかかえる問題を検討する。
12	まとめを行なう。
備考	

科目名	歴史学（西洋史）	担当者名	御園生 眞
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部での学習の基礎となる歴史学（西洋史）を目標とします。近代のヨーロッパの歴史を、社会や経済の歴史に重点をおいて講義します。</p>		
講義概要	<p>前期：市民革命（ブルジョワ革命）を主要なテーマとして、近代社会と近代資本主義経済の成立過程を講義します。</p> <p>後期：産業革命、ナショナリズム、帝国主義をテーマとして、19世紀からのヨーロッパの歴史を、国際的な経済関係に視点をおいて講義します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史〔近代編〕』ミネルヴァ書房、1987年。</p>	
	参考文献	<p>最初の講義の時に指示します。</p>	
評価方法	<p>定期試験（前後期の2回）の成績と簡単なレポート（前後期とも2回程度）の両方で評価します。試験は文章で解答する論述式です。レポートは、レポート用紙2枚程度の課題を出す予定です。</p>		
受講者に対する要望など	<p>履修希望者は必ず最初の講義に出席してください。</p> <p>事情により講義内容の予定が変更される場合があります。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス。参考文献の紹介。
2	1 市民革命 1 大航海時代
3	1 大航海時代(続)
4	2 絶対王政
5	2 絶対王政(続)
6	3 市民革命(1) イギリス
7	3 市民革命(1) イギリス(続)
8	3 市民革命(2) アメリカ
9	3 市民革命(2) アメリカ(続)
10	3 市民革命(3) フランス
11	3 市民革命(3) フランス(続)
12	3 市民革命(3) フランス(続)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Ⅱ 産業革命 1 イギリス産業革命とその波動
2	1 イギリス産業革命とその波動(続)
3	2 後発国の産業革命
4	2 後発国の産業革命(続)
5	Ⅲ ナショナリズムの時代 1 1848年の革命
6	1 1848年の革命(続)
7	2 ドイツの統一
8	2 ドイツの統一(続)
9	Ⅳ 帝国主義の時代 1 ドイツ
10	2 オーストリア
11	3 フランス
12	4 イギリス
備考	

科目名	思想(哲学)	担当者名	高尾由子
-----	--------	------	------

講義の目標	「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。主に西洋哲学の基本的な概念を用いながら、「私」という足場を固め、「他者」と「世界」に向かう態度をつくってゆく。	
講義概要	哲学史上の主要な思想家の著作を手がかりにするが、哲学史の知識を得るのではなく、その考え方、また考えるための準備の仕方を扱う。	
使用教材	テキスト	年間予定を参照。
	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	前後期各一回のレポートによる。 提出期限・提出方法は授業時に指示する。	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義内容の説明をして、哲学という学について考える。
2	プラトンの『ソクラテスの弁明』を読みながら「哲学すること」について考える。
3	"
4	"
5	"
6	"
7	デカルトの『方法叙説』を読みながら、「私」、「精神と身体」について考える。
8	"
9	"
10	"
11	"
12	前期のまとめと課題の説明。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	デカルト以後のヨーロッパ大陸の哲学（大陸合理論）とイギリスの思想（イギリス経験論）を対比させながら、「厳密な知」について考える。
2	"
3	カントの『純粋理性批判』の、とくに序文を読みながら、「主観」、「客観」、「世界」について考える。
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	ヴィトゲンシュタインの『論理哲学論考』を読みながら、「言語」と「世界」について考える。
10	"
11	"
12	一年間のまとめと課題の説明。
備考	

科目名	思想（宗教）	担当者名	鈴木康治
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現実に見聞きする東西の宗教は、さまざまな形や姿をあらわしている。</p> <p>ここでは、宗教とは何か（定義も難しい）を中心にとすることなく、現実の宗教（例えば、民族宗教、世界宗教等）の変遷・経緯を辿ってみる。</p> <p>幅が広いので、つまみぐいの場合もある。</p>	
講義概要	<p>講義予定を参照のこと。尚、順不同や変更もありうる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>特にない。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>テスト。但し、あらかじめ問題提示もありうる。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	一応、宗教の定義のことに触れる
3	既成宗教における三要素
4	エジプト、ギリシャの宗教、ゾロアスター
5	仏教（原始仏教）Ⅰ
6	仏教 Ⅱ
7	日本の平安仏教まで
8	鎌倉新仏教
9	以上の日本仏教
10	ユダヤ教
11	キリスト教
12	プロテスタント史
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概観
2	イスラム教
3	ヒンズー教
4	道教・儒教
5	日本人の宗教Ⅰ 宗教心
6	日本人の宗教Ⅱ 習合の問題
7	日本人の宗教Ⅲ 修験
8	米国における教会
9	シャマニズムの諸問題
10	神道の歴史
11	祭祀の問題Ⅰ
12	祭祀の問題Ⅱ
備考	

科目名	法 学	担当者名	土 田 道 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>法（法律）は、社会生活を営む上での最低限のルールである。その仕組みや内容をできるだけわかりやすく講義し、基本的な知識を身につけてもらうことを目標とする。テキストは、判例を中心とする理解しやすいものだが、適宜資料なども配布して、学生諸君の知的好奇心を刺激できるような講義にしたい。</p>	
講義概要	<p>法（法律）には多くの種類がある。国の最高法規である憲法、財産取引や家族関係など、人と人との関係を法的に規律する基本法である民法、「罪と罰」について定める刑法、取引法を発展させた商法、訴訟（裁判）の仕組みを規定する訴訟法（民事訴訟法・刑事訴訟法）——以上を「六法」という。そのほかにも、行政法、労働法、経済法、国際法などがある。この講義では、憲法、民法、刑法、労働法を中心に講義したい。イントロダクションを2回、刑法は「脳死」などトピックスも交えて6回、憲法は人権を中心に6回、民法は取引法を中心に6回、労働法は4回講義する予定である。詳細は「年間講義予定」を参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法	<p>前期・後期とも試験を行い、評価・採点は厳格に行う。出席も考慮する。はっきり言って私は厳しい。教員が真剣に講義し、学生もそれと同様の真剣さをもって受講することを要求される——これが私のモットーである。</p>	
受講者に対する要望など	<p>以上のようなわけで、単位狙いの怠け学生はご遠慮いただき、受講するだけ無駄である。法（法学）に対する知的好奇心をもつ学生だけに受講してもらいたい。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション(1)——法の仕組み(体系)や裁判制度について概説する。
2	イントロダクション(2)——法の性格と役割(機能)について概説する。
3	刑法(1)——刑法の基礎；「罪と罰」の基本的思想について講義する。
4	刑法(2)——犯罪の成立要件①；構成要件該当性について/違法性について(その1)。正当防衛を題材に。
5	刑法(3)——犯罪の成立要件②；違法性について(その2)。安楽死・尊厳死を題材に。
6	刑法(4)——「脳死問題」を法的側面から考える。
7	刑法(5)——犯罪の成立要件③；故意・過失について。
8	刑法(6)——共犯；地下鉄サリン事件を題材に考える。
9	民法(1)——契約に基づく権利義務①；誰でも1日に1回は結ぶ契約。その基本的知識を講義する(債務不履行とは何か? など)。
10	民法(2)——契約に基づく権利義務②契約の成立と終了などについて、具体的事例によって講義する。
11	民法(3)——不法行為①；どんな所にも顔を出すのがこの不法行為。交通事故やセクシャル・ハラスメントを題材に講義する。
12	民法(4)——不法行為②；公害と法、人格権・環境権も交えて考える。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法(5)——所要権と物権変動；誰でも欲しい一戸建ての売買を例に解説する。
2	民法(6)——結婚と法；不倫した側(不倫された側ではない)による離婚請求は認められるか? この問題を中心に講義する。
3	憲法(1)——法の下での平等；社会の中の差別と、法のあり方について考える(性による差別、尊属殺問題など)。
4	憲法(2)——プライバシーの権利；「宴のあと」事件、HIV感染問題を取り上げる。
5	憲法(3)——法と宗教；オウム問題・破防法問題などを素材に、信教の自由について考える。
6	憲法(4)——表現の自由；表現の自由と対立する人権・法益の衝突について考える。
7	憲法(5)——外国人の人権；選挙権・社会権等を取り上げる。
8	憲法(6)——死刑の合憲性；死刑は「残虐な刑罰」か?
9	労働法(1)——労働条件の保護；「会社で楽しく過ごす方法」について考える。
10	労働法(2)——労働関係の開始と終了；内定取消とリストラについて考える。
11	労働法(3)——男女平等と法；雇用機会均等法を中心に考える。
12	労働法(4)——労働災害と法；「過労死」について考える。
備考	

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目標	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	
	参考文献	・T.C.ホイトモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ジョン・C.クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス	
評価方法	前期、後期各1回ずつの定期試験による。		
受講者に対する要望など	「経済地理（犬井担当）」、「地域経済論〈ラテンアメリカ〉（山本正三教授担当）」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	VTR『緑を守る男たち』視聴。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	地理学	担当者名	原田 洋一郎
-----	-----	------	--------

講義の目標	この講義は、鉱物資源の開発について、経済、技術、時代背景など様々な要素との関連から検討し、資源開発と地域変化の相互関係のあり方を考察することを目的とする。		
講義概要	鉱物資源の開発は、これまでに世界の各地で様々な時期に行われてきた。そして、その特徴や展開の過程は、それぞれの地域、時代の有する諸条件の影響を受けてきたとともに、しばしば地域の変化に重要な役割を果たしてきた。本講義では、様々な地域、様々な時代の鉱山開発の事例をあげて、そのあり方を具体的に検討していく。		
使用教材	テキスト	特に指定しない。必要に応じてその都度指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎茂『鉱山業フロンティアの諸相』1992年 大明堂</li> <li>・磯部欣三『佐渡金山』1992年 中公文庫</li> </ul>	
評価方法	前後期の定期試験の結果による。		
受講者に対する要望など			



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	導入
2	鉱山開発と変革期(1)―新大陸の金銀とヨーロッパ社会
3	鉱山開発と変革期(2)―金銀山の開発と日本の戦国時代
4	鉱山開発とフロンティア(1)―アメリカ合衆国の事例
5	鉱山開発とフロンティア(2)―オーストラリアの事例
6	鉱山の衰退＝地下資源の枯渇か？
7	日本列島の鉱物資源
8	日本の鉱山集落の特質(1)―鉱床の分布、形状と集落立地
9	日本の鉱山集落の特質(2)―開発時期と集落形態
10	「鉱山町」の成立
11	鉱山経営、技術の変化「鉱山町」
12	「鉱山町」に暮らす人々
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「鉱山町」における文化
2	「鉱山町」をめぐる物資の移動
3	鉱山衰退期の「鉱山町」
4	江戸期における鉱業技術の拡散
5	江戸期の小規模鉱山開発
6	江戸期の鉱山業と山林資源
7	日本の近代化と鉱山業
8	近代的鉱山技術の導入と鉱山業地域の変容
9	買鉱製錬の開始と鉱山業地域
10	「鉱業都市」から「工業都市」へ
11	近代における鉱山業衰退とゴーストタウン
12	まとめ
備考	

科目名	民俗学	担当者名	辻 雄 二
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、日本の民俗文化に関する知識を受講者各人が得ることにより、今日の生活において無意識のうちに接してきた、あるいは存在する様々な民俗事象の本質的な意味を考え、自文化に対する内省的理解を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>近年、日本あるいは日本人とは何か？を問う声を盛んに耳にする。日本民俗学は従来その立場から伝承されてきた社会構造・経済活動・さらに生活文化そして精神世界についてさまざまな研究をすすめてきた。本講義はその成果を踏まえて、概論的性格をもったものとする。尚、失われゆく世界を理解する術として映像資料を逐次利用し、個別具体的に研究の視角・方法等を具体的に紹介する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定はなし。但し展開に応じて参考文献・資料等をそのつど指示する。</p>	
	参考文献	<p>・柳田国男『柳田国男全集』全 32 巻 1990 年 ちくま文庫</p>	
評価方法	<p>前後期の試験によって判定。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民俗概観：民俗学的視点から、日本の現在社会にみられるさまざまな「慣習」を例にとり、「伝承」される民俗的世界について解説する。
2	民俗学の歴史的展開：日本の民俗学の成り立ちを柳田国男、折口信夫等の活動をとおして、学史的に解説をする。特に柳田民俗学の特徴的な研究として『海上の道』をとりあげる。
3	日本民俗学の方法：日本の民俗学の方法論として柳田国男の唱えた比較研究法、重出立証法について検討を加え解説する。その事例として柳田の『鍋牛考』をとりあげる。
4	社会伝承Ⅰ：民族学が対象とする社会のうち、特に村についてその構成と運営という点について注目し解説する。さらに日本におけるイエとはなにかを考える。
5	社会伝承Ⅱ：日本人にとってイエ永続の願いは強く、その家族のあり方について考え、現代社会に即したかたちで解説する。
6	経済伝承Ⅰ：日本の文化の要素の一つとして海に関わる民俗文化をとりあげ、そこに生きる漁民の生活をとおしてその特色を探る。
7	経済伝承Ⅱ：漁民の生活文化についてさまざまな事例を紹介し、その信仰習俗について検討を加え、その精神世界のあり方を考える。
8	経済伝承Ⅲ：日本の産業の基盤として営み続けられた農業に関わる民族文化をとりあげ、特に中国江南地方から伝来したとされる稲に注目し、稲作をめぐる民俗文化をそこに生きる農民の生活をとおしてその特色を探る。
9	経済伝承Ⅳ：農民の生活文化の中で実際の一年にわたる稲の成育とその儀礼にまつわる信仰習俗について検討を加える。
10	経済伝承Ⅴ：日本の伝統的な食生活において重要な位置を占めてきた雑穀に注目し、山村と焼畑における民俗文化の特色を探る。
11	経済伝承Ⅵ：山民の生活文化の基幹的位置を占める「山の神」信仰について、山を中心とした民俗宗教との関わりを考え検討する。
12	まとめ：日本文化の主要素である海と山の文化、さらに里の文化についての経済伝承をまとめ、それぞれの交流をとおして創造された文化について考える。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	儀礼伝承Ⅰ：人の一生の始まりにいかなる意味が込められてきたのか考える。特に産育にまつわる儀礼を紹介し、そこにみられる民俗文化について解説する。
2	儀礼伝承Ⅱ：人生の終焉である死がどのようにとらえてきたかを考え、葬送にまつわる儀礼について紹介し、そこにみられる民俗文化について解説する。
3	儀礼伝承Ⅲ：日本の一年の暦にそって、様々な行事が行われる。その年中行事にみられる民俗文化について解説する。
4	儀礼伝承Ⅳ：年中行事のうち、特に盆と正月について詳しく解説し、そこにみられる民俗的意味を考える。
5	信仰伝承Ⅰ：日本の墓制に関して概説し、特に両墓制に注目し、日本人の靈魂観、他界観について検討する。
6	信仰伝承Ⅱ：日本のカミ観念のあり方をさまざまな神霊表出の類型を中心に解説する。特に祖霊についてその民俗的意味を探る。
7	信仰伝承Ⅲ：祖霊信仰に対置すると考えられる御霊信仰と憑霊信仰について解説を加え、特に御霊信仰と関わりの深い「十三塚」をとりあげ検討を加える。
8	信仰伝承Ⅳ：「十三塚」を中心に日本の塚信仰を民俗社会における空間認識との関わりで検討する。
9	言語伝承Ⅰ：口承文芸の分類とその世界について概説し、「十三塚」を例に検討する。
10	言語伝承Ⅱ：口承文芸の中で特に「語り」と「唄」の関係に注目し、南島の歌謡を例に検討を加える。
11	芸能伝承：民俗芸能について概説し、愛知県北設楽郡東栄町の「花祭」を例にその諸相に迫る。
12	まとめ：現代社会の中で今日の生活を営む人々の心に心意として存在する民俗事象を、都市生活者である自らの問題として捉え内省的理解を深める。
備考	

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、動機づけ、社会などの心理学の諸領域からなるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学のキー概念や諸理論を学ぶ。そして、現代の様々な日常的諸問題に諸概念や諸理論を、適用し、諸課題を捉える心理学の視点や問題への対処法について講義する予定である。</p> <p>心理学から見た科学的な人間の理解が講義の最終的な目標である。しかしその人間観は単一ではなく、複数の多様な人間観とその背景をなす研究成果とを学ぶことになろう。</p>	
講義概要	<p>心理学の研究内容は日常的で身近な現象が多い。従って、学生は、既に、一定の意見を持っていることが多い。例えば、良心や道徳性の問題、知的理解と行動の関係、社会現象や自分の行動の因果帰属、人の性格の形成と変容過程などであるが、案外、解っていないことも多く科学的研究の成果を論議する。また、心理学は自分自身を研究対象にすることも多く、また、心理学は自分自身が研究者でありながら同時に研究対象という特徴があり、自己意識についても講義する。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、①性格や知性などの様に、一人一人の個性・個人差の領域と、②人間に共通する学習・知覚・動機づけなどの一般的な共通特性とに分けられるが、これらと日常生活との関わりについて講述する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	青柳隆・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）「こころのサイエンス」「トピックスこころのサイエンス」福村出版（各¥1,900）
	参考文献	教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。</p> <p>リーディングレポートの実施については授業の始めに相談する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用すること。</p> <p>授業を聞く際、自分の専攻や、将来の職業、現代社会の諸問題との関連を考えながら聴講するよう希望する。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：心理学の全体的体系について。心理学の研究対象と研究方法。他の学問との比較。人間に共通な一般法則を学習する意味。一人一人の個性や個人差について。
2	前期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）：1）気質類型論とクレペリン検査、DSM-IVと精神障害
3	2）パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
4	3）パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷 4）人間性心理学説のパーソナリティ論
5	パーソナリティの形成・発達と病理 1）初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性 2）パーソナリティの病理と対処法、クライアント中心療法
6	II. 知能と創造性（2章）：1）知能研究の源、知能観と知能検査、2）新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
7	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1）拡散的思考と集中的思考 2）創造性の育成と活性化
8	III. 生涯発達（3章）：1）研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点 2）研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
9	初期発達 1）乳児の気質の型、アタッチメント 2）コンピテンスと自己原因性の獲得
10	社会性の発達 1）道徳性と向社会性の発達段階 2）仲間関係のルールとスキル
11	青年期と自己意識 1）公的自己・私的自己、自我同一性の獲得 2）自己主張、対人不安
12	生涯発達と生き甲斐 1）仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業 2）老人の喪失感、統制感の喪失
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間理解のために、IV. 行動の視点からの人間研究（4章） 1）行動の種類と発達・進化 2）学習の基本型、しつけ、情緒の統制など、他律から自律へ
2	行動の視点から人間研究（その2） 1）模倣の理論、役割、影響力のあるモデルの特性など、観察学習の影響 2）行動の自己制御（良心の仕組みと機能）
3	重要な学習・行動の種類と内容 1）スポーツと健康の自己管理、2）技能学習の特徴、自動車運転の要因と交通安全
4	重要な学習・行動の種類と内容（その2 社会的行動）：1）リーダーシップ 2）同調と服従、実験室のアイヒマン
5	社会的行動（その2）：3）攻撃行動、愛他行動 4）課題達成と愛他行動のバランスと育成
6	V. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章） 1）感覚（受容器の特徴や種差など、対人感受性も人毎に違う 2）知覚（恒常性や錯視などの特徴、人毎にもの見方は違う
7	3）認知のプロセス 4）人間の情報処理モデル、日常的判断との異同 2）社会的認知、事象の原因帰属
8	記憶の構造や特徴 1）短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など 2）記憶の情報処理モデル
9	VI. 動機づけと情緒の視点から（6章）： 1）生理的動機、ホメオステシス 2）情緒、快不快が行動に及ぼす効果
10	内発的動機 1）知的好奇心、自己原因性、有能感、動機の自発性と活性化の条件 2）内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
11	対人社会動機 1）愛着、共感性と愛他動機 2）動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス
12	最終のまとめ 1）心理学からみた人間、2）現代の問題にどれだけ答えられたか、3）自己について何を学び得たか等と、残された諸課題について。
備考	

科目名	心理学	担当者名	増田直衛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それはほんの一部分なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。</p>		
講義概要	<p>現代の心理学が問題としている項目の中から、いくつかのトピックスを選び、心理学的事実の紹介にとどまらず、科学としての心理学の考え方を検討していきます。</p> <p>スライド、OHP、VTRなどを使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しません。	
	参考文献	<p>宇津木 保ほか著『心理学のあゆみ』（有斐閣新書）</p> <p>野口 薫ほか著『心理学入門』（有斐閣新書）</p> <p>この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。</p> <p>手元に置くと便利な本を開講時に指示します。</p>	
評価方法	<p>評価は2回の定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>岸田 秀「ものぐさ精神分析」（中央文庫）や橋本 治「帰ってきた桃尻娘」（講談社文庫）に戯画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めいたします。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	最初に心理学とはどんな学問か、
2	心とはなんだろうか、
3	心理学の誕生、
4	心理学の分野、
5	心理学の方法、
6	個体と環境との関係、などについて考察します。
7	次に、感覚・知覚心理学を中心に、主として人間の認識機構について講義をします。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の内容をひきつぎながら、
2	行動・学習心理学を中心に、人間以外の動物も含めた行動の発達、変容について講義をします。
3	さらに、時間的に余裕があれば、小集団の社会心理学の問題にも触れていきたいと思います。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>人間行動を理解するために——心理学は、人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。今年度の講義では、人間の行動を個人行動と社会的行動の二つの側面から考察する。</p>		
講義概要	<p>個人としての行動の側面については、パーソナリティ（性格、知能、集団的パーソナリティ、適応のメカニズムなど）を取り上げる。</p> <p>次いで、社会的行動の側面では、集団の機能、リーダーシップ、コミュニケーション、社会的態度、文化と社会現象などを扱う。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度紹介する。	
評価方法	<p>前期のレポートと年度末の筆記試験による。ただし、随時のレポート提出を要求することがある。</p>		
受講者に対する要望など			



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	性格とパーソナリティー
2	性格の理論(1)
3	性格の理論(2)
4	パーソナリティーの形成
5	集団的パーソナリティー
6	パーソナリティーの診断(1)
7	パーソナリティーの診断(2)
8	適応のメカニズム
9	知能の構造論
10	知能検査
11	知能の分布とその特性
12	
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	人間の集団と他の動物の集団
2	集団の機能(1)
3	集団の機能(2)
4	リーダーシップ
5	集団内のコミュニケーション
6	社会的態度 (形成と変容)
7	社会と文化(1)
8	社会と文化(2)
9	社会と文化(3)
10	社会現象(1) マス・コミュニケーション、流行
11	社会現象(2) 流言、パニック
12	
備考	

科目名	数 学	担当者名	遠 藤 信
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。</p>		
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。	
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。	
評価方法	前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の定義 行列の演算
3	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
4	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列を求める方法
11	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
12	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数と関数の極限 関数の連続
2	関数と関数の極限 関数の連続
3	微分係数と導関数の定義
4	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
5	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
6	平均値の定理 関数の極大・極小
7	平均値の定理 関数の極大・極小
8	偏微分の定義 偏微分の応用
9	偏微分の定義 偏微分の応用
10	不定積分と定積分
11	不定積分と定積分
12	微積分の社会科学への応用
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	遠藤 信
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、また、それがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙についてどこまで解明しているかということを、生々しく、定性的に、また感性的にでも分かってもらうことが講義の目標である。</p>	
講義概要	<p>前半では、究極の物質は何かについて講義する。デモクリストス以来、自然科学が追求してきたこの問題を、歴史をたどりながら、現在ではどのように考えられているかを説明し、また、ミクロの世界の理論である量子論について講義する。</p> <p>後半では、相対論を中心に講義する。この理論がどのようにして生まれたか、また、相対論がもたらした結果について考察し、さらに宇宙の成り立ちや進化について現代の科学はどこまで解明しているかについて述べる。</p> <p>授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わないこと。また、講義の進行に合わせてビデオを観る。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じてビデオを利用する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬立成著『現代物理への招待』培風館</li> <li>・アインシュタイン-インフェルト著 石原純訳</li> <li>『物理学はいかに創られたか』（上、下巻）岩波新書</li> </ul> <p>その他、適当と思われるものを、授業中に示す。</p>
評価方法	<p>①年に1～2回、授業中にまとめのレポートを提出する。この際、自筆のノートのみ使用可とする。</p> <p>②後期に試験をおこなう。</p> <p>①と②の成績に出席状況を考慮して、成績評価をおこなう。</p>	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	根元物質をめぐる先人達の考え
2	原子とその構造
3	量子の世界
4	量子の世界
5	素粒子
6	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
7	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
8	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
9	自然界の力 力の統一
10	自然界の力 力の統一
11	自然界の力 力の統一
12	まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とエーテル
2	光速度の測定
3	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
4	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
5	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
6	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
7	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
8	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
9	特殊相対性理論
10	宇宙のはじまり 相転移
11	宇宙のはじまり 相転移
12	まとめ
備考	

科目名	自然科学概論 A	担当者名	加藤 僖重
-----	----------	------	-------

講義の目標	この科目は特に法とのかかわりで環境問題を論じる講義で、近年問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。	
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、これについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。簡単なテストを行う。
2	日本人の抱える環境問題① ヒトの影響が大きくなった地球。
3	日本人の抱える環境問題② 人口増加に追いつかない食糧の総量。
4	トピックス① 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	生態系とは① 無機物→有機物→…→…→の流れ
6	生態系とは② 産業革命の前と後
7	生態系を乱す例① 温暖化現象、CO <sub>2</sub> 排出量を規制する
8	生態系を乱す例② 水質汚染
9	トピックス② 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出
10	我々はどのように環境を保全しているか① ナショナルトラストとは(その1)
11	我々はどのように環境を保全しているか② " (その2)
12	トピックス③ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 後期の講義進め方を説明。
2	種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	ラムサール条約 日本のフライウェイを渡る鳥たち。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	ワシントン条約① 絶滅の危機に瀕している動植物。WWF(世界自然保護基金)の役割
6	ワシントン条約② " "
7	ワシントン条約③ " "
8	ワシントン条約④ " 自然保護協会は何をしているか
9	ワシントン条約⑤ " "
10	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
11	豊かな生活とは 地球環境を守るために。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学概論B	担当者名	加藤 僖重
-----	---------	------	-------

講義の目標	この科目は経済とのかかわりで環境問題を論じる講義で、近年問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、これについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。簡単なテストを行う。
2	日本人の抱える環境問題① マルサスの人口論。
3	日本人の抱える環境問題② 日本人が消費している食糧の総量。
4	トピックス① 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	生態系とは① 物質不減の法則。
6	生態系とは② 生産者、消費者、分解者。
7	生態系を乱す例① 温暖化現象、オゾンホールと紫外線。
8	生態系を乱す例② 農業と昆虫
9	トピックス② 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
10	我々はどのように環境を保全しているか① 国立公園制度（その1）
11	我々はどのように環境を保全しているか② " （その2）
12	トピックス③ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 後期の講義進め方を説明。
2	種の多様性保全条約 その経済的影響。
3	ラムサール条約 湿地開発の是非。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	ワシントン条約① 絶滅の危機に瀕している動植物を守ることの経済的意義。
6	ワシントン条約② "
7	ワシントン条約③ 絶滅の危機に瀕している動植物と民俗文化。
8	ワシントン条約④ "
9	ワシントン条約⑤ "
10	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
11	豊かな生活とは 地球環境を守るために。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	保健論—産業精神衛生を中心に	担当者名	藤井賢一郎
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、病気と健康及びそれに対する社会制度・仕組みの現状や今後のあり方について議論し理解することを目標としている。特に、わが国の産業現場における心の健康（精神衛生：メンタルヘルス）の現状と今後の可能性について議論し、その中からわが国の保健あるいは医療・福祉の制度、システムに及ぶ問題点を抽出し、分析を加える。なお、制度、システムの分析に関しては、特に経済学の視点・手法を用い、問題点の一般化・普遍化に力点をおく。同時に、疾病や保健医療に関する基礎的な知識についても学習していただく。</p>	
講義概要	<p>以下の内容について、配布資料等をもとに講義を行う。グループワーク等を行い、受講者に対して積極的に意見を求める。</p> <p>①産業現場の精神衛生の現状と今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの病の理解と産業場面の個別事例の検討</li> <li>・産業精神衛生のシステムの現状と可能性</li> </ul> <p>②保健・医療・福祉の現状と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の保健・医療・福祉の現状と問題点</li> <li>・保健・医療・福祉の経済学</li> </ul> <p>※なお、授業に関する意見・感想があれば随時レポート・電子メールで提出してもらい、それを授業にできる限り反映する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>福祉士養成講座編集委員会（編）『精神保健』中央法規出版</p> <p>（特に佐々木雄司、藤井賢一郎著『職場における精神保健』の章）</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤正明他（監）：職場のメンタルヘルスのすすめ方、中央労働災害防止協会。</li> <li>・厚生省（監）：我が国の精神保健、厚健出版。</li> <li>・厚生統計協会（編）：国民衛生の動向、厚生統計協会。</li> <li>・VR Fuchs：保健医療の経済学、江見康一他訳、頤草書房。</li> <li>・池上直己、J. C. Campbell：日本の医療、中公新書。</li> <li>・鶴田忠彦：日本の医療経済、東洋経済。</li> </ul>
評価方法	<p>①前期終了後レポートと②後期終了後試験の成績を主とする。ただし、③平常成績（授業への意見・感想に関する随時レポートの提出回数と内容）や④その他（講義への貢献度等）も含めて評価を行う。詳細は第1回講義時に説明。</p>	
受講者に対する要望など	<p>次の条件を持つ学生諸君の積極的な参加を希望する。①産業精神衛生または保健・医療・福祉に自分なりの興味や問題意識を持っている、②問題を客観的・分析的に捉え、自分なりに考えようという姿勢がある。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 本講義の目標と概要、評価の方法について説明を行う。受講希望者は必ず出席すること。
2	健康と病気（1） 死因や疾病・健康状態に関する統計をもとに、わが国の現状を概説する。
3	健康と病気（2） 健康観、疾病観とその背景について概説を行う。
4	保健と医療（1） 病院や診療所の機能と設置状況について概説を行う。
5	保健と医療（2） 保健の意義と保健所、健康センター等の機能について概説を行う。なお授業終了後グループディスカッション1で用いる資料を配布する。
6	グループディスカッション1（前半） 配布した課題をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。
7	グループディスカッション1（後半） 各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。
8	こころの病と予防・治療（1） ビデオをもとに、こころの病（精神分裂病、そううつ病）についての解説を行う。
9	こころの病と予防・治療（2） ビデオをもとに、こころの病（アルコール依存症、思春期の問題等）についての解説を行う。
10	こころの病と予防・治療（3） こころの病の分類と治療・予防についての解説を行う。
11	職場における「こころの問題」 わが国の職場において起こっているこころの問題の現状について、概説を行う。
12	まとめ 前期の授業についてまとめを行う。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 後期講義の目標と概要説明
2	グループディスカッション2（前半） 配布した課題（職場の心に関する課題）をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。
3	グループディスカッション2（後半） 各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。
4	職場における精神衛生活動（産業精神衛生）の現状（1） 職場において精神衛生活動を行う意義と限界について解説を行う。
5	職場における精神衛生活動（産業精神衛生）の現状（2） わが国における産業精神衛生の取り組みの現状について概説を行う。
6	職場における精神衛生活動（産業精神衛生）のあり方（1） 職場における精神衛生活動のあり方について解説を行う。
7	職場における精神衛生活動（産業精神衛生）のあり方（2） 職場における精神衛生活動のあり方について解説を行う。
8	精神衛生と保健医療制度 わが国の現状を中心に、精神衛生の問題から保健医療制度全般の問題について解説を行う。
9	経済学から見た保健医療サービス（1） 医療サービスの経済学の基本概念である「情報の非対称性」「エイジェント理論」「リスク拡散」について解説を行う。
10	経済学から見た保健医療サービス（2） 保健医療サービスの経済学の基本概念である「人的資本論」「外部性」について解説を行う。
11	経済学から見た保健医療サービス（3） 制度学派の観点から保健医療について言及する。
12	まとめ 講義全体に関するまとめを行う。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	勝 瀬 武
-----	------	------	-------

講義の目標	近年、機械化、自動化は年毎に進み、そのうえ車社会の発展は日常生活において体を動かすことを少なくしています。そこで本講義は、健康の維持、増進を目的とした、主として生涯スポーツについての講義を行う。		
講義概要	教室における講義のほかに、自転車エルゴメータを使用して、各個人の自己体力を把握し、自分が将来健康な生活を送るための運動処方を作成する。また、運動障害における救急処置の方法を習ぶ。たとえば、ケガ予防あるいは応急処置としてのテーピングの技術を習得するなどスポーツ医学面の実習も行う予定である。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	評価は筆記テストにおいて60点以上を合格とする。また、授業に参加することを原則とし、1/3以上の欠席者は受験停止とする。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（講義概要ならびに評価についての説明）
2	運動の必要性
3	運動障害と救急処置
4	テーピングの理論
5	テーピングの実際（実習）
6	健康と運動
7	肥満と運動
8	生涯スポーツ
9	体カトレーニング
10	体力診断テスト（自転車エルゴメータを用いての自己体力の把握）
11	運動処方作成
12	総合テスト（筆記試験）
備考	

科目名	体育理論	担当者名	松本光弘
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人間の運動の発生のメカニズムを知ることにより、日常生活の在り方について学生各個人が自己観察できるようになることを目標とする。</p> <p>又、後半には日本及び世界のスポーツについてサッカーを教材として社会的観点からその存在のあり方や意義等について検討する。</p>	
講義概要	<p>各時間テーマに従って討論し、簡単なレポートを提出してもらおう。このレポートが総合評価の大きなウエイトを占める。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<p>浅見俊雄著『スポーツトレーニング』朝倉書房</p> <p>米花正勝著『Jリーグのスポーツ革命』株式会社ほんの木</p> <p>大住良之著『サッカーへの招待』岩波書店</p>
評価方法	<p>毎時間提出のレポート、最終レポートによって評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	調査書記入、講義の概要の説明
2	スポーツと筋肉
3	スポーツと呼吸
4	スポーツと循環
5	スポーツと血液
6	スポーツと神経
7	スポーツとホルモン
8	Jリーグ設立の経緯
9	Jリーグを取りまく諸問題
10	Jリーグの経済学
11	Jリーグを含む世界のサッカー
12	スポーツに含む人間的要素
備考	

科目名	体育理論	担当者名	山中邦夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>スポーツとは何か。スポーツと人間のかかわり方を理解し、各自の今後のスポーツ活動の向上や発展のための、何らかの知識や指針を得ること。</p>	
講義概要	<p>人間とスポーツのかかわり方をテーマに、スポーツに関連する諸科学的知識や結果について検討することを中心とする。特にチームスポーツを対象とし、技術・戦術・体力論的観点からの各種の測定・評価・分析結果を材とし、スポーツのトレーニング法について論じる。また、コンピュータやVTRを用いた分析結果も紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	授業時に、紹介する。
評価方法	<p>出席状況とテストにより評価する。</p>	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	スポーツ、スポーツマン、スポーツマンシップとは スポーツ技術や戦術の歴史の変遷 スポーツ人口と競技力
3	スポーツのルール、競争、トレーニングについて スポーツのルールと審判法
4	スポーツ競技における三要素について
5	スポーツ種目と体力要素
6	チームスポーツにおけるプレーのスタイルとシステムについて
7	スポーツトレーニングプログラム作成方法（1） 概要について
8	スポーツトレーニングプログラム作成方法（2） 具体例について
9	スポーツマンと心理 セルフコントロールについて メンタルトレーニングおよびメンタルリハーサルについて
10	チームスポーツにおける管理運営法について 組織の戦略・戦術とコーチングスタッフ
11	スポーツにおけるデータ管理とQC手法
12	テスト
備考	

科目名	体育理論	担当者名	吉田卓司
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現在、我国は、男女ともに世界一の長寿国であり、高齢者社会になっている。本講義は、運動生理学の観点から基本的知識や正しい運動処方、生涯スポーツなどを通して、健康でより美しく老ゆるためには、どのようにしたら良いかを学習する。</p>		
講義概要	<p>体育理論の概要は、「健康、体力と運動」を中心に展開し、健康観、体力の構成、体力養成のためのトレーニング方法、正しい運動処方、スポーツと栄養、運動不足による肥満とその対策など、全般的に幅広く講義する予定である。また、長期間、運動することによって、形態的变化や機能的变化が起るスポーツ障害やスポーツ外傷の原因・テーピングの理論と実際について実習する。この講義が、学生諸君の健康維持・増進や安全対策に役立てば幸いであると考えている。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	必要に応じて、資料を準備する。	
評価方法	<p>テストの点数と出席状況から出席点を加味して、総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	健康と体力について
3	運動は必要か？
4	トレーニング法について
5	運動処方
6	スポーツと栄養 肥満の対策について
7	W-up と cooling down の生理
8	スポーツ障害について
9	スポーツ心理（あがり、slump）
10	テーピングの理論と実際
11	生涯スポーツ
12	まとめ
備考	

科目名	体育理論	担当者名	和田 智
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人生80年時代において労働時間は人生の1割、自由時間は2～3割へと増えつつある。現在から将来に向けて、この自由時間をいかに有効に使えるかが人生にとって重要な課題となるだろう。そこでこのクラスでは、自由時間をレジャーという観点からとらえ、自分のレジャーの将来像を考えていきたい。</p>	
講義概要	<p>自由時間について、さまざま考え方を紹介し、各自の考え方を作文にまとめてもらう。また、レジャー実習として実際に体を動かしてもらうこともある。</p>	
使用教材	テキスト	特に指定しない
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野孝次、『清貧の思想』、草思社</li> <li>・松田義幸他、『人生80年時代のライフスタイル』、日経マーケディア</li> <li>・ミヒャエル・エンデ（大島かおり訳）、『モモ』、岩波書店</li> </ul>
評価方法	<p>出席状況（40%）、テストの成績（60%）で評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2	自由時間の意味の変遷
3	自由時間の現状
4	レジャーとレクリエーション
5	わたしの自由時間の過ごし方
6	わたしの自由時間の過ごし方
7	レジャー実習 その1
8	レジャーとライフスタイル
9	レジャーの実践のための手順
10	レジャー実習 その2
11	わたしのレジャーライフの創造
12	わたしのレジャーライフの創造
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2	自由時間の意味の変遷
3	自由時間の現状
4	レジャーとレクリエーション
5	わたしの自由時間の過ごし方
6	わたしの自由時間の過ごし方
7	レジャー実習 その1
8	レジャーとライフスタイル
9	レジャーの実践のための手順
10	レジャー実習 その2
11	わたしのレジャーライフの創造
12	わたしのレジャーライフの創造
備考	

科目名	経済学	担当者名	小林 進
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮させるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	参考文献 講義の中で適時に指示する	
評価方法	<p>前期と後期の二回の試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

I マクロ経済学

国民所得概念

付加価値の定義 (単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意)

GNP = 雇者所得 (賃金) + 営業余剰 (利潤) + (間接税 - 補助金) + 資本減耗分

GNP - 資本減耗分 = NNP (資本減耗分 = 減価償却費)

GNP と GDP (国内総生産) の相違 (海外からの要素所得の純受取分)

GNP = C + I + G + X - Q (総需要)

(C: 消費, I: 投資, G: 政府支出, X: 輸出, Q: 輸入)

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか?

消費関数  $C = cY + A$  の性質

限界消費性向  $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$  ( $0 < c < 1$  の経済的意味に注意)

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定 I. 単純モデル ( $Y = C + I$ )

① 代数解

$$Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$$

② 45度線図による理解

③ 貯蓄と投資の均等による図からの理解

(投資) 乗数理論

$$\Delta Y = \frac{1}{1-c} \Delta I$$

生産関数  $Y = F(K, N)$  (Kは資本, Nは労働)

短期生産関数  $Y = f(N)$  (Kは短期では一定と見なす, したがってNのみの関数)

インフレギャップとデフレギャップ

(完全雇用時の国民所得  $Y_f$  と現実の国民所得の乖離)

国民所得の決定 II. 政府を含むモデル ( $Y = C + I + G$ )

可処分所得  $Y_d = Y - T$

貯蓄と投資の関係式  $I = S + (T - G)$

均衡予算乗数は 1 ( $\Delta Y = \Delta G$ )

貯蓄のパラドックス (貯蓄は美德か?)

マネタリストの主張 (大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小)

資本の限界効率と投資関数

IS曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数とLM曲線

IS・LM曲線と経済政策の有効性

貨幣数量説 (フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式)

マーシャルのkといわゆる「カネ余り」の問題

$$\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y} \quad (y: \text{実質国民所得})$$

短期及び長期のフィリップス曲線

II ミクロ経済学

経済主体 (消費者及び企業) の合理的行動 → 最大化行動

・消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率 (MRS) 逓減の経済的意味

予算線

最適消費点 → MRS = 価格比

所得効果, 上級財 (正常財), 下級財 (劣財等)

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

寡作貧乏の理論分析

Jカーブ効果

・企業の理論

総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)

平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)

MC > AC ならば AC は増加する

MC < AC ならば AC は減少する

利潤最大条件 → 価格 P = MC

個別供給曲線の導出, 損益分岐点, 操業停止点

ワルラス的安定条件

科目名	経済学	担当者名	仙波 憲一
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>個人の消費や生産活動、国と国との諸取引等の背景には、何らかの行動原理や経済法則が働いている。経済学はこれらを体系的に解明することを目指す学問である。我々の身近な問題から世界の諸問題に至るまで、経済的要因を抜きにしては議論できない。したがって、経済学は極めて身近な学問である。本講では具体的な事例を用いて、経済学特有の考え方、分析方法をわかりやすく解説し、経済学の基本体系を理解できるようにする。</p>	
講義概要	<p>経済学にはミクロ経済学あるいは価格理論と、マクロ経済学あるいは所得理論と呼ばれる分野がある。ともに、有限な資源を用いて経済活動を無駄なく行う為に、また得られた利益を公平に分配する為に望ましい経済システムは何かを考える。なお、ミクロ経済学は個々の消費者や生産者の行動原理及び市場における価格決定原理を分析する。マクロ経済学は個々の集合体である民間部門（消費部門と生産部門）、政府部門、海外部門ごとの行動論及び各部門の有機的な相互関連を分析する。前期はミクロ経済学を、後期はマクロ経済学を解説する。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	<p>試験、レポート等の総合点で評価します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>主体的に考える姿勢を持って出席してください。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要
2	経済学の役割
3	経済学の構成
4	分析の手法(1)
5	分析の手法(2)
6	需要について
7	供給について
8	市場の機能(1)—価格の決定
9	市場の機能(2)—需給調整
10	消費者余剰と生産者余剰
11	市場の失敗
12	規制緩和と経済厚生
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済のマクロ的側面
2	国民経済計算、フローとストック
3	財市場の構成
4	国民所得の決定—有効需要の原理
5	財政政策
6	金融市場の構成、金利の決定
7	金融政策
8	総需要関数
9	労働市場と失業
10	総供給関数、物価の決定
11	開放経済(1)
12	開放経済(2)
備考	

科目名	経済学	担当者名	西村 允克
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>経済学の基本的な考え方とそれをどう現実の経済に適用していくかを理解することが、この講義の目的である。基本的考え方については講義中繰り返しふれるが、これを理解することが、経済学を理解するための最低条件である。</p>	
講義概要	<p>前期は基本的な分析ツール（道具）とマイクロ経済学の考え方を中心として、後期は前期に学んだ分析ツールを用いながらマクロ経済学の考え方を中心として、講義を進める予定である。</p>	
使用教材	テキスト	幸村千佳良著『経済学事始』多賀出版
	参考文献	
評価方法	<p>前期、後期の筆記試験の結果によって評価する。私の試験はすべて持込不許可である。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義開始前にテキストを終りまで通読しておくこと、内容の理解が問題ではなく、経済学とはいかなる学問であるかをとにかく知ることである。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに——経済主体と経済活動
2	数式と図表の読み方（1）
3	数式と図表の読み方（2）
4	市場経済について
5	競争について
6	経済主体について
7	消費者行動の理論（1）
8	消費者行動の理論（2）
9	消費行動の理論（3）
10	生産者行動の理論（1）
11	生産者行動の理論（2）
12	生産者行動の理論（3）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国内総生産（GDP）を中心として。
2	名目値と実質値。
3	消費関数（1）
4	消費関数（2）
5	最も簡単な GDP 決定理論（1）
6	最も簡単な GDP 決定理論（2）
7	財政政策と GDP 決定理論
8	金融政策と GDP 決定理論
9	貿易と GDP 決定理論
10	景気循環
11	経済成長
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	益山光央
-----	-----	------	------

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。		
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はマイクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 未定	
	参考文献	近代経済学（非マルクス経済学）の文献であれば全て可。	
評価方法			
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	消費者行動の理論Ⅰ
3	消費者行動の理論Ⅱ
4	消費者行動の理論Ⅲ
5	生産者行動の理論Ⅰ
6	生産者行動の理論Ⅱ
7	生産者行動の理論Ⅲ
8	完全競争市場Ⅰ
9	完全競争市場Ⅱ
10	独占Ⅰ
11	独占Ⅱ
12	まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の諸概念
2	消費関数と貯蓄関数
3	所得決定メカニズムⅠ
4	所得決定メカニズムⅡ
5	投資関数
6	利子率の決定（流動性選好説）Ⅰ
7	利子率の決定（流動性選好説）Ⅱ
8	貨幣供給メカニズム
9	IS 曲線と LM 曲線
10	金融政策と財政政策Ⅰ
11	金融政策と財政政策Ⅱ
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	松本正信
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。——経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根岸隆他共著『近代経済学—経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣</li> <li>・サミュエルソン・ノードハウス供書『経済学上・下』（第13版）（都留重人訳）岩波書店</li> </ul>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い。自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積もりである。

○ 序章 (プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり）、現代の経済思想。

○ 第Ⅰ部 ミクロ経済学（価格分析）

1 消費の理論

（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。

1章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

2 生産の理論

（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

3 市場；マーケット（交換の理論）

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）

4 競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による重畳的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉價販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5 市場の限界と失敗・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争。アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（フィロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税では賄うかどうか効率的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

○ 第Ⅱ部 マクロ経済学（所得分析）

6 国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論。国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7 貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いゆる市場利率

8 中央銀行の機能と役割；金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的案措、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ法定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9 政府の経済的役割；財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線

10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて、国民生産物資市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マナタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○ 終章（エピローグ）—結びにかえて—

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学	担当者名	山本美樹子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>イギリスの経済学者ジョー・ロビンソンは「経済学は人間の行動の原理」であるという。さてわれわれの日常の経済行動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論とはこのような法則について取り扱う学問と考えればわかりやすいだろう。本講義の受講対象者は大学の経済学部に入學したばかりの一年生である。経済学部の一年生が今後学んでいく専門過程の基礎として最低限知っておいて欲しい基礎的な経済理論について講義する。</p>																								
講義概要	<p>経済理論はミクロ経済理論、マクロ経済理論に分けられる。</p> <p>ミクロ経済理論：個々の消費者、生産者、社会の意志決定まで遡り、各自の行動を分析する。ミクロ経済理論の背後には「限られた資源の効率的分配による経済的厚生最大化」という経済学の究極目標がある。</p> <p>マクロ経済理論：経済全体、とくに一つの国のレベルをひとつの巨大な経済的な単位と考えて、その単位の各集計量（消費、投資、輸出入etc）と、集計量間の関係について考えていく。</p> <p>前期はマクロ経済理論、後期はミクロ経済理論について講義する。</p>																								
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="3">英創社 「エレメンタルミクロ経済学」 「エレメンタルマクロ経済学」</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>・中谷 巖</td> <td>『入門マクロ経済学』</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・伊藤 元重</td> <td>『入門ミクロ経済学』</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・福岡 正夫</td> <td>『ゼミナール経済学入門』</td> <td>日本経済新聞社</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・松下他</td> <td>『チャートで学ぶ経済学』</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・幸村 千佳良</td> <td>『経済学事始』</td> <td>多賀出版</td> </tr> </table>	テキスト	英創社 「エレメンタルミクロ経済学」 「エレメンタルマクロ経済学」			参考文献	・中谷 巖	『入門マクロ経済学』	日本評論社		・伊藤 元重	『入門ミクロ経済学』	日本評論社		・福岡 正夫	『ゼミナール経済学入門』	日本経済新聞社		・松下他	『チャートで学ぶ経済学』	有斐閣		・幸村 千佳良	『経済学事始』	多賀出版
テキスト	英創社 「エレメンタルミクロ経済学」 「エレメンタルマクロ経済学」																								
参考文献	・中谷 巖	『入門マクロ経済学』	日本評論社																						
	・伊藤 元重	『入門ミクロ経済学』	日本評論社																						
	・福岡 正夫	『ゼミナール経済学入門』	日本経済新聞社																						
	・松下他	『チャートで学ぶ経済学』	有斐閣																						
	・幸村 千佳良	『経済学事始』	多賀出版																						
評価方法	<p>前期、後期の期末試験</p> <p>毎回とる出席（前期、後期あわせて5回までの欠席は認めるが、それ以上は試験の成績がよくても単位は出さない）</p>																								
受講者に対する要望など	<p>1年間でミクロ経済学、マクロ経済学の両方を駆け足で講義するので、一回でも欠席すると講義についていけなくなる。できる限り欠席しないで講義を受けること。</p>																								



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

### 第一部 序

#### 第1章 経済学とはなにか

1. 経済学を学ぶ目的
2. 経済学と経済理論

#### 第2章 経済体制

1. 混合資本主義体制の性格
2. 社会主義体制の性格

### 第二部 マクロ経済の基礎理論

#### 第3章 マクロ経済学の課題

1. マクロ経済学で取り扱うこと
2. ストックとフロー

#### 第4章 国民所得とそれに関連する集計量 (第4、5週)

1. 国民総生産、国民純生産、国民所得
2. 三面等価の原則
3. 国民所得集計上の留意点

#### 第5章 有効需要の理論 (第6、7、8週)

1. 消費関数
2. 投資関数
3. 簡単な国民所得決定の理論
4. 海外部門を含めた場合
5. 乗数の理論

#### 第6章 貨幣の需要と供給 (第9、10週)

1. 貨幣とは何か
2. 貨幣の需要
3. 貨幣の供給と信用乗数

#### 第7章 IS-LM 分析

1. IS 曲線
2. LM 曲線
3. IS-LM 曲線の同時均衡の意味すること

#### 第8章 マクロ的経済政策の効果

1. 財政政策
2. 金融政策

## 後 期

### 第三部 ミクロ経済の基礎理論

#### 第9章 ミクロ経済学(理論)の課題

#### 第10章 消費者行動の理論 (第2、3、4、5週)

1. 効用、限界効用
2. 無差別曲線とその性質
3. 限界代替率と限界代替率遞減の法則
4. 予算の制約
5. 消費者の効用最大化(極大化)行動
6. 所得が変化した場合 所得消費曲線
7. 財の価格が変化した場合 価格消費曲線
8. 需要曲線
9. 財の分類
10. 社会的需要曲線と消費者余剰

#### 第11章 生産者の行動の理論 (第6、7、8、9週)

1. 等量曲線と限界代替率
2. 生産可能性曲線と限界変形率
3. 生産者の利潤極大化、費用最小行動と最適生産量の決定
4. 費用関数
5. 供給関数
6. 社会的供給曲線と生産者余剰

#### 第12章 市場価格の決定 (第10、11週)

1. 均衡価格
2. 価格調整のメカニズム フルラス的調整 マーシャル的調整 蜘蛛の巣の理論

### 第4部 まとめ

科目名	経済学	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指している実践的な学問である。経済学の研究は、みなさんが現実社会に対して日頃抱いている問題意識や疑問を経済学的な問題として捉えることから始まる。</p> <p>この講義では、経済学の理論的フレームワークの修得を通して、現実の経済学の問題に実態的・理論的にアプローチするための基礎（分析道具）を得ることが目標である。</p>
講義概要	<p>経済学は、分析対象の経済変数を決定し、経済変数間の相互依存関係を明らかにする学問である。前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする「ミクロ経済学」を講義する。ここでは、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。</p> <p>後期は、GNP、物価水準、利子率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする「マクロ経済学」について講義する。ここでは、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにする。また、マクロ経済政策の効果の分析も行う。</p>
使用教材	<p>テキスト 未定（次のものを予定している）。  <b>【前期】</b> 奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。  <b>【後期】</b> 中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。</p> <p>参考文献  福岡正夫『ゼミナール経済学入門（第2版）』日本経済新聞社、1994年。  倉澤資成『入門価格理論（第2版）』日本評論社、1988年。  西村和雄『ミクロ経済学入門（第2版）』岩波書店、1995年。  伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。  浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリ＝3）、1993年。  広松毅・R.ドーンブッシュ・S.フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上・下）』マグローヒル、1989年。  なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>
評価方法	成績評価は、前期および後期の定期試験によって行う。
受講者に対する要望など	<p>出席もせずに、試験だけとりあえず受けたような人で、試験ができたためしがありません。まず、出席して講義を聞いて下さい。でも、聞いているだけではだめです。自分で本を読んで勉強し、練習問題で腕試しをして下さい。でも、勉強しっぱなしで、わからないところをそのままにしておいてはだめです。質問に来て下さい。以上のような努力をすれば、その努力は必ず結果につながるでしょう。</p> <p>経済学は皆さんがこれから進んで行く専門分野の基礎となることを十分に認識して、わかろうとする努力をして下さい。その場しのぎで何とか単位が取れればいいと考えていると、後々苦勞します。</p>

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 経済学とは？、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、成績評価の方法、前期講義の範囲
2	1. 家計の行動と需要曲線 効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、予算制約線、最適消費点の決定、所得の変化と需要の変化（所得消費曲線）、所得弾力性、正常財と劣等財、エンゲル係数、価格の変化と需要の変化（価格消費曲線）、個別需要曲線の導出、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、スルツキー分解（代替効果と所得効果）、ギッフェン財、代替財と補完財、与件の変化と需要曲線のシフト→テキスト第2章。
3	
4	
5	
6	
7	2. 企業の行動と短期供給曲線 利潤とは？、生産関数（技術の制約）と利潤最大化、短期と長期、短期総生産物曲線、限界生産性逓減の法則、短期費用曲線、（短期）限界費用・平均費用・平均可変費用、利潤最大化と（短期）個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と供給曲線のシフト→テキスト第3章。
8	
9	
10	
11	3. 完全競争市場と効率性—部分均衡分析— 完全競争市場とは？、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件の変化と市場均衡の変化、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財）、分配と公正→テキスト第4章および第1章。
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の解説、後期講義の範囲の説明。
2	1. GNP と物価指数 GNP（国民総生産）とは？、三面等価の原則、IS バランスと財政収支・経常収支、貯蓄と投資の恒等関係、パーシェ指数とラスパイレス指数→テキスト第2章。
3	
4	
5	2. 財市場の分析 需給不均衡とその調整、消費関数と貯蓄関数、45° 線分析による国民所得決定の理論、乗数、均衡予算乗数の定理、財市場と貨幣市場の統合（投資の限界効率表）→テキスト第7章、その他 pp. 18-22, 83-85, 85-87。
6	
7	
8	
9	3. 貨幣市場の分析 貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要（取引需要と資産需要）、債券価格と利子率の関係、資産需要と市場利子率（流動性選好表）、貨幣需要関数と貨幣市場の均衡、名目利子率と実質利子率→テキスト第4章、その他 pp. 87-88。
10	
11	4. IS-LM 分析と総需要曲線 IS 曲線の導出、財市場における不均衡の調整、LM 曲線の導出、貨幣市場における不均衡の調整、財市場と貨幣市場の同時均衡、財政金融政策の効果、労働市場との関係、不均衡からの調整過程、IS-LM 分析のまとめ、総需要関数の導出→テキスト第8章。
12	
備考	

科目名	経済学(経営学科再履修)	担当者名	駒形哲哉
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>「手に取るように経済が分かる」といった触れ込みの本が書店には数多く並んでいるが、残念ながら現実の経済事象を理解するのはそれほど簡単なことではなく、経済学の基本的な理解がどうしても欠かせない。そこで本講義では、はじめて経済学を学ぶ受講者を対象に、経済学の基本的な考え方とその手法について説明することにした。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学とミクロ経済学のごく基本的な概念に触れ、2年次以降に学ぶであろう専門的な経済学を学ぶ際に抵抗を感じないようにしたい。受講者の状況によってはまた幅広い考え方を身につけてもらうために、マルクス経済学についても説明するつもりである。右記の講義予定は大幅に変更する可能性がある。本講座はおそらく履修者と担当者とが共に学ぶ形をとることになるであろう。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩澤修平『経済学・入門』有斐閣アルマ、1996年</li> <li>・林敏彦『ハート&amp;マインド経済学入門』有斐閣アルマ、1996年</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	<p>筆記試験をおこない成績評価を決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>各講義の最後に次回の内容について予告するので、テキストの該当箇所に目を通したうえで次回の講義に臨んでほしい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の趣旨と概要説明
2	経済学の基本問題と経済学の課題
3	日本経済の戦後の歩み
4	日本経済の現状と課題
5	消費者の行動
6	生産者の行動
7	市場の分類①—競争市場
8	市場の分類②—不完全競争
9	市場機構の効率性とその限界
10	国際貿易と資本移動
11	不確実性と社会的選択
12	予備日
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の概念①
2	国民所得の概念②
3	均衡所得の決定①
4	均衡所得の決定②
5	IS-LM 分析①
6	IS-LM 分析②
7	インフレーションと合理的期待①
8	インフレーションと合理的期待②
9	国際マクロ経済学①
10	国際マクロ経済学②
11	景気循環と経済成長
12	予備日
備考	

科目名	経済原論	担当者名	高橋 房二
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>本年は経済原論として現代経済理論にしたがってマクロ経済学の基礎を体系的に講義する。経済学科の専門課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の涵養をはかる。それと同時に現実経済の動きに関する認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学に関して取扱いべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられそれらの特質や問題点に関して講義が行われる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーンブッシュ、フィッシャー『マクロ経済学』マグローヒル</li> <li>・バロー『マクロ経済学』多賀出版</li> <li>・中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社</li> <li>・ホール・テラー『マクロ経済学』多賀出版</li> <li>・サックス・ラレーン『マクロエコノミックス』日本評論社</li> </ul>	
評価方法	定期試験、レポート、ミニテスト、出席状況		
受講者に対する要望など	出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済原論の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念 GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析
2	最終消費と貯蓄に関する基礎的關係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS
3	単純な国民所得の決定關係 (I) 貯蓄と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系)、広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論
4	単純な国民所得の決定關係 (II) 最終消費と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系)、均衡の存在と安定条件
5	インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論 (I) —閉鎖体系— 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学
6	乗数理論 (II) —閉鎖体系— 政府活動と乗数理論、その一般的关系、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果
7	乗数理論 (III) —開放体系— 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数
8	ケインズ経済学 (I) ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違、有効需要の原理
9	ケインズ経済学 (II) 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ
10	ケインズ経済学 (III) 貨幣需要、流動性、流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利子率、資産選好
11	消費関数の理論 (I) ケインズ型消費関数、相対所得仮説
12	消費関数の理論 (II) 恒常所得仮説、恒常所得とその導出、ライフサイクル仮説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのバラエティ、ストック調整モデル
2	経済成長の理論 (I) 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性
3	経済成長の理論 (II) カルドアによる定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、最適成長
4	景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル
5	IS・LM分析 (I) 生産物市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、古典派と初期ケインズ学派のLM曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利子率の決定
6	IS・LM分析 (II) IS曲線のシフト、LM曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利子率の変化、IS・LM分析と金融政策
7	物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップルール
8	失業とインフレ (I) フィリップス曲線、インフレ期待、適応的期待、インフレ率
9	失業とインフレ (II) 短期インフレ率、長期均衡への調整、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線
10	合理的期待仮説 合理的期待、単純な合理的期待モデル、合理的期待仮説とその評価
11	マネタリズムとケインズ学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違
12	国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定
備考	

科目名	経済原論	担当者名	西村 允克
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は一つの組織である。組織が永続的に機能するには、そこに秩序が維持されなければならない。経済学では、この秩序を市場均衡として把握する。それゆえ、市場均衡をいかに理解するかが、この講義の第一の主要課題となる</p> <p>だが、市場経済は単に均衡を維持するだけでなく、変動しながら成長する組織である。それゆえ、この変動と成長の過程を理解する論理システムを学ぶことが第二の主要課題となる。このようにして、現実の経済を理解するための論理システムを習得する。</p>				
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑である。複雑なシステムを理解するには、システムを、そのシステムを構成する基本的要素と基本的要素間の関係によって、複雑なシステムを理論的分析が可能なモデルに変える必要がある。1～8は経済を構成する基本的要素と要素間の関係を理解し、経済分析の基礎的分析ツールを学習する。9～16では、理論モデルに基づいて、基本的経済分析を行ない、現実経済分析のやり方を学習する。17～18では失業とインフレを問題とするが、それはこれまでのモデル分析を通じてなされる。19～24では、変動と成長の関係を取扱う。経済理論はマクロとミクロに分けられるが、講義はマクロに重点を置くが、ミクロも必要なぎり論じられる。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・幸村千佳良 『マクロ経済学事始』 多賀出版</li> <li>・J.P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・幸村千佳良 『マクロ経済学事始』 多賀出版</li> <li>・J.P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul>
テキスト	・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・幸村千佳良 『マクロ経済学事始』 多賀出版</li> <li>・J.P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul>				
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題とその採点は講義において注意した点をよく理解しているかについてなされる。</p>				
受講者に対する要望など	<p>学習効果は日々学習し、その学習成果を次の講義において役立てることによって完全なものとなる。講義に出席するには、必ずテキストの関連する部分を読んでいなければならない。</p>				



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎(1) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役、実物資産と金融資産
2	経済学を学ぶための基礎(2) 分析ツール 関数と曲線、関数の限界値、数式と図表の読み方、市場均衡と主体均衡、完全競争市場、独占的競争市場、不完全競争市場、独占市場
3	国民経済計算(1) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、三面等価の原則、内需と外需、グロスとネット
4	国民経済計算(2) 物価指数(デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 投入量と産出量 等産出量曲線 限界生産力、規模の経済
6	消費関数(1) 限界消費性向、限界貯蓄性向、平均消費性向、平均貯蓄性向
7	消費関数(2) 恒常所得仮説、合理的期待仮説、ライフサイクル仮説
8	投資関数 投資の限界効率 加速度原理(独立投資と従属投資) 技術革新(イノベーション)
9	市場均衡理論(1) 価格を調整変数とする場合 価格の決定と価格の変動理論(生鮮食料品はなぜ日々価格が変化するか。工業製品の価格はなぜ変化しないかなどの問題を考える基礎理論)
10	市場均衡理論(2) 生産量を調整変数とする場合 国民所得の決定と国民所得の変動理論
11	市場均衡理論(3) 生産量を調整変数とする場合 投資乗数の理論を中心とした問題
12	前期のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣と貨幣市場 マネーサプライ、その決定因、金融政策とマネーサプライ 貨幣数量説、ハイパワードマネー
2	貨幣供給と貨幣需要(貨幣市場の均衡理論) 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS・LM分析(1) 国民所得と利率の同時決定 IS曲線とLM曲線の導出とその意味、国民所得、利率の同時決定のメカニズム
4	IS・LM分析(2) 国民所得と利率はどのように変化するか。IS曲線とLM曲線を変化させる要因、これらの要因が変化すればどのように両曲線は変化するか。財政・金融政策の効果
5	失業問題 自然失業率 フイリップス曲線
6	インフレーション マネーサプライとインフレ、スタグフレーション
7	成長と変動の理論(1) 景気変動、在庫循環、設備投資循環 リアル・ビジネス・サイクル
8	成長と変動の理論(2) 経済成長の理論。(ハロッドモデル、新古典派モデル)
9	成長と変動の理論(3) 戦後日本の成長と変動
10	国際マクロ経済理論 外国貿易乗数、外国為替相場制(固定相場制と変動相場制)、国際収支(貿易収支、貿易外収支、移転収支、経常収支、長期短期資本収支)
11	総供給・総需要分析(I) 総供給曲線と総需要曲線の導出
12	総供給・総需要分析(II)
備考	

科目名	日本経済史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、眞摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>	
講義概要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣</p> <p>6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の一般的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にした。地域民衆社会史という「新しい歴史学」の立場に立つから、従来の学問教養で安易に考えることはできない。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社</li> <li>・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店</li> </ul>
	参考文献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>
評価方法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートをきちんと作成していることを評価の際に重視したい。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。なお、受講生有志の強い希望があれば、(金5)に少人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
2	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
3	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
4	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
5	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
6	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
7	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
8	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風、いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
9	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風、いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
10	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風、いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
11	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
12	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	⑤ 社会経済史学の課題一
2	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
3	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
4	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
5	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
6	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
7	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
8	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
9	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
10	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
11	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
12	⑨ 総括一近代日本の批判的考察と現代日本への展望
備考	

科目名	経済地理	担当者名	犬井 正
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>		
講義概要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、前期、後期に各1回ずつのフィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式なども採り入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各2回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、論文の書き方の基本を習得する。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房</li> <li>・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂</li> <li>・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院</li> <li>・ 山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂</li> </ul>	
評価方法	<p>年間指定小論4作、および2回のフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。フィールドワークに出かけるため多人数では不可能なので、第1回目の講義時に受講者が50人を超えた場合は抽選を行う。したがって、受講希望者は第1回目の講義には必ず出席すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2	経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。
3	経済地理学研究のためのデータの収集とその活用方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4	農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5	農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。〈前期小論1提出〉
6	農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。
7	農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8	国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9	日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。〈前期小論2提出〉
10	東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
11	同上
12	前期のまとめと評価。前期フィールドワークのレポート提出
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の農業の特色と農業地域の概観。
2	首都圏の農業地域の構造と特色。
3	輸送圏芸農業地域の構造と特色。
4	米作地域の農業経営の特色と問題点。〈後期小論1提出〉
5	農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
6	イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
7	イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。
8	イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
9	農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。〈後期小論2提出〉
10	同上
11	草加市の綾瀬川流域沖積低地の伝統的農産物生産地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
12	1年間の講義のまとめと評価。後期フィールドワークのレポート提出。
備考	

科目名	経済政策	担当者名	伊藤正昭
-----	------	------	------

講義の目標	<p>資源配分のゆがみ、不公平な所得分配、経済の低成長、景気の変動、地価や内外価格差問題、そして、談合などにみられる企業の独占的な行動、消費者・生活者を重視した経済への体質転換（構造調整）、規制緩和など現代的な経済問題が山積している。こうした経済問題へのいわば処方箋を検討するのが経済政策（論）ということができるであろう。</p> <p>経済問題に関心をもつ者に、経済政策の理論と現実をできるかぎりやさしく解説することにより、受講者の経済政策をみる目を養うことを目的としたい。</p>		
講義概要	<p>経済政策は応用経済学の一分野であり、マクロおよびミクロ経済学で蓄積された諸理論を応用することになる。経済政策の方法論から始め、マクロ経済学のエッセンスを学んだ後、財政学、金融論などを応用して財政、金融政策について学習する。ついで、マクロ経済学をベースにした経済成長政策、そして、景気循環や雇用・物価問題にかかわる経済安定政策を学ぶ。</p> <p>さらに、価格理論ともいわれるミクロ経済学をベースとする産業組織政策などに触れ、市場経済の役割、規制緩和の是非など現代的な経済問題へアプローチする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正昭『経済政策の基礎—講義ノート—（1997）』</li> <li>・長谷川啓之・伊藤正昭他著『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年（使用予定）</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年</li> <li>・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年</li> <li>・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年</li> <li>・伊東正則・山崎良也編『基本経済政策』有斐閣、1987年</li> <li>・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学（上・下）』マグローヒル</li> <li>・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年</li> <li>・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。</li> </ul>	
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行い、その結果で成績評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学部必修科目である「経済学」の単位をすでに取得していることを前提に講義を進める。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策序説(1) 経済政策とはなにか(講義のフレームワークの説明とガイダンス) 資源の希少性、効率的な資源配分、経済問題、経済体制
2	経済政策序説(2) 戦後日本の経済政策のレビュー ブラザ合意以降の政策、財政・税制改革、規制緩和と自由化
3	政策の主体と経済政策思想(1) 政策主体と政策決定メカニズム 政治と経済、公共選択、政治家・官僚の行動原理、審議会
4	政策の主体と経済政策思想(2) 現代の経済政策思想—政府介入をどうみたらよいか— ケインズ、新古典派総合、新自由主義、サプライ・サイド
5	経済政策の目的と手段(1) 経済政策における価値判断の問題 ウェーバー、ピグー、パレート最適、厚生経済学の基本定理
6	経済政策の目的と手段(2) 政策の目的と階層性—目的間のトレード・オフ— 政策手段(財政・金融政策、経済的規制)の多様性と有効性
7	マクロ経済政策の原理(1) 完全雇用と政府介入の論理—ケインズのねらい— 古典派とケインズの雇用理論(2つの公準)、価格調整と数量調整
8	マクロ経済政策の原理(2) 国民所得決定の理論—マクロ経済政策の基礎理論— 有効需要、国民所得、消費(貯蓄)関数、投資乗数、 $I=S$
9	財政政策(1) 財政政策と手段 財政の機能、予算と財政投融资、財政制度改革、公債負担問題
10	財政政策(2) ビルト・イン・スタビライザーと裁量的財政政策 経済安定化政策、累進税制、政府支出乗数、政策のラグ
11	金融政策(1) 金融政策の理論的基礎 貨幣の需要と供給、流動性選好、マネー・サプライ、 $L=M$
12	金融政策(2) 金融政策の目的と手段 ハイパワード・マネー、マネー・サプライの管理、金融自由化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政政策と金融政策のIS-LM分析(1) 財政政策と金融政策の有効性と条件 生産物市場と貨幣市場の同時均衡、ポリシー・ミックス
2	財政政策と金融政策のIS-LM分析(2) 財政金融政策に関する諸見解 ケインジアンとマネタリストの論争、貨幣数量説、合理的期待
3	経済成長と経済安定の政策(1) 経済成長の基礎理論と政策 ハロッド=ドーマー/新古典派モデル、生産関数、技術選択
4	経済成長と経済安定の政策(2) 景気変動と政策 景気循環の理論、リアル・ビジネス・サイクル、景気動向指数
5	インフレーションの理論と政策(1) 総需要曲線と総供給曲線 物価水準、インフレ供給・需要曲線、スタグフレーション
6	インフレーションの理論と政策(2) ケインジアンとマネタリスト フィリップス曲線、自然失業率仮説、オーカンの法則
7	産業政策(1) 産業構造政策と産業調整政策 サプライ・サイド、保護主義、NAPとPAP、技術革新
8	産業政策(2) 産業組織論と独占禁止政策—日本とアメリカの比較— S-C-Pパラダイム、シカゴ学派、コンテストタビリティ、サンク・コスト
9	規制緩和と経済政策(1) 現代の市場システムと問題 市場の失敗、自然独占と規制の論拠、レント・シーキング
10	規制緩和と経済政策(2) 産業規制と規制緩和 規制緩和の経済理論、規制緩和のプラスとマイナス
11	国際協調の経済政策(1) 自由貿易と保護主義の論理と現実 GATTからWTOへ、国家主権、地域統合の時代
12	国際協調の経済政策(2) 経済摩擦の分析と政策 日米経済摩擦の3つの局面、経済政策摩擦、日本の経済体質
備考	

科目名	日本経済論	担当者名	波形昭一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きようだ。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないでいるように見受けられる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目標としたい。</p>	
講義概要	<p>〔前期〕では、戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>〔後期〕では、ドル・ショック、オイル・ショックを契機に高度経済成長のシステムが崩れ、新たなシステム再構築を迫られる現代日本経済の諸問題を論ずる。</p> <p>詳細については、次頁の年間講義予定を参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	竹内宏著『昭和経済史』筑摩書房、1988年
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木隆爾編『昭和史の事典』東京堂出版、1995年</li> <li>・中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986年</li> <li>・柴垣和夫著『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局、1995年</li> <li>・降旗節雄著『日本経済の構造と分析』社会評論社、1993年</li> </ul>
評価方法	<p>前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。追試験はおこなわない。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の取得はほとんど不可能に近いことを心得ておいてほしい。</p>	
受講者に対する要望など	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義中の私語は慎むべし。「私語」は「死後」と同音。同義にならないよう注意されたい。</li> <li>② 講義中の飲食は固く禁ずる。大学は歌舞伎座や新橋演舞場ではない。</li> </ol>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本経済の近代化とその構造 (1) 産業・貿易構造
2	日本経済の近代化とその構造 (2) 金本位制の成立
3	恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4	井上財政から高橋財政への転換
5	戦時経済システムとその実態
6	戦後経済復興 (1) 4大経済改革
7	戦後経済復興 (2) 復興対策とインフレ
8	戦後経済復興 (3) ドッジ・ラインとシャープ勧告
9	戦後経済からの脱皮、高度経済成長へ
10	高度経済成長の構造
11	高度経済成長の精神的土台
12	高度経済成長の時代背景——大衆消費社会との関連で——
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	高度経済成長の終焉 ——ドル・ショック、オイル・ショック、そしてインフレ——
2	日本経済の構造転換
3	プラザ合意とバブル景気
4	平成不況への転落、その長期化
5	平成不況＝「複合不況」の意味
6	日本経済の諸問題 (1) 産業空洞化
7	日本経済の諸問題 (2) 対外経済摩擦
8	日本経済の諸問題 (3) 金融再建
9	日本経済の諸問題 (4) 農業と食料
10	日本経済の諸問題 (5) 高齢化社会対策
11	日本経済の諸問題 (6) 「法人資本主義」
12	日本経済の諸問題 (7) 「大競争時代」の到来
備考	

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計  (2)主要な確率分布  (3)統計的推定  (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』  内田老鶴圃</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。また、出席状況も考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートと電卓が必要です。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

前 期

※各週の〈 〉の中は、キーワードです。

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の「統計学」の講義について 〈教科書とノート、定期試験と出欠席、評価〉
2	統計的な考え方と例 〈国勢調査、品質管理、コンピュータ〉
3	統計学の発達と先駆者 〈コルモゴロフ、ピアソン、フィッシャー〉
4	データの整理(1) 〈尺度、平均値、標準偏差〉
5	データの整理(2) 〈中央値、範囲、四分位数〉
6	データの整理(3) 〈度数分布表、ヒストグラム、階級値〉
7	データの整理(4) 〈簡便法、平均値、標準偏差〉
8	データの整理(5) 〈散布図、相関係数、回帰直線〉
9	データの整理のまとめ
10	確率(1) 〈大数の法則、事象、組み合わせ〉
11	確率(2) 〈互いに独立、条件付き確率、乗法定理〉
12	確率分布(1) 〈離散型確率変数、二項分布、漸化式〉
13	確率分布(2) 〈連続型確率変数、正規分布、標準化〉
14	確率と確率分布のまとめ
15	前期試験

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果と復習
2	母集団と標本(1) 〈乱数、標本調査、無作為抽出〉
3	母集団と標本(2) 〈母集団分布、標本分布、中心極限定理〉
4	統計的推定(1) 〈推定、信頼係数、区間推定〉
5	統計的推定(2) 〈比率の推定、二項分布、サンプルサイズ〉
6	統計的推定(3) 〈母平均の推定、正規分布、最尤推定〉
7	統計的推定のまとめ
8	統計的仮説検定(1) 〈帰無仮説、第1種の過誤、有意水準〉
9	統計的仮説検定(2) 〈比率の仮説検定、片側検定、両側検定〉
10	統計的仮説検定(3) 〈 $2 \times 2$ の分割表、独立性の仮説、 $r \times s$ の分割表〉
11	統計的仮説検定(4) 〈母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定、相関係数の検定〉
12	統計的仮説検定のまとめ
13	ノンパラメトリックな方法(1) 〈スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、適合度検定〉
14	ノンパラメトリックな方法(2) 〈符号検定、順位和検定、ウイルクソンの符号付き順位和検定〉
15	後期試験

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。</p>	
講義概要	<p>講義は年間を通して統計的かつ段階的に進めていく。</p> <p>(1)記述統計と呼ばれる、データの整理の方法。  (2)確率の概念。  (3)確率分布の考え方。  (4)特殊な確率分布。  (5)標本分布の考え方。  (6)点推定や区間推定の考え方。  (7)統計的仮説検定の考え方。  (8)2変量の相関と回帰。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著：『基本統計学』（産業図書）
	参考文献	・講義時にそのつど指示
評価方法	前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価。	
受講者に対する要望など	講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計的とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2	標本として得られるデータの整理の仕方について述べる。位置の尺度のとらえ方など。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3	ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の仕方について述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4	データ整理の方法を理解するための演習を行なう。
5	確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6	確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7	確率度数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8	確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9	2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10	ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11	連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12	正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2	標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3	カイ2乗分布およびスチュードントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4	母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5	母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。
6	母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7	統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8	2度数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9	回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10	カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
11	ノンパラメトリック検定の考え方を述べる。(符号検定、順位和の検定)
12	一年間の総復習を行なう。
備考	

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>		
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期のテーマは、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄、松井敬、冨田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</p>	
	参考文献	<p>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているのので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</p>	
評価方法	<p>前・後期二回の期末試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
2	統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
3	データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
4	2つの変数の間の関係をさぐる-1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
5	2つの変数の間の関係をさぐる-2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
6	確率-1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
7	確率-2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
8	確率分布-1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布-超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
9	確率分布-2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
10	確率分布-3：(1)連続型確率分布-連続型確率分布の意味。(2)正規分布-分布の形状、特徴その他。
11	正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
12	データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	無作為標本、母集団と標本：母集団と標本は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
2	母集団と標本-2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
3	推定-1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
4	推定-2：(1)正規分布の母平均 $\mu$ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか-推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法-データから母数を探る。
5	統計的仮説検定-1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
6	統計的仮説検定-2：(1)比率の検定-考え方と手順。(2)2x2表-2x2表にもとづく検定の意味。
7	統計的仮説検定-3：(1)2x2表-モデルとの関連、タイプの異なる2x2表。(2)rxs表。
8	統計的仮説検定-4：正規分布の母平均の検定-母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
9	統計的仮説検定-5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意-具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
10	ノンパラメトリックな方法-1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
11	ノンパラメトリックな方法-2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
12	統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。
備考	

科目名	経済統計	担当者名	松本正信
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講義概要	<p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠  第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表  第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷）</p>	
	参考文献	<p>・講義の都度指示</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後期定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>まずは講義を聴き給え。きっと面白いぞ。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

以下の、序論を含めた19の項目を年間を通じて1～3回にわたる講義で進める予定である。

## 序 論

経済と経済統計と経済学

### 第Ⅰ部 指数

- 1 指数について（指数理論）
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数（付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式）
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例

### 第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス  
（2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制）
- 3 新SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

### 第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析——トレンド（趨勢、傾向線）、循環変動、季節変動、不規則変動——
- 3 時系列分析の方法——移動平均法、趨勢線のあてはめ、他——
- 4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス——
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

付 論 ORの話；オペレーション・リサーチとゲームの理論

科目名	経済変動論	担当者名	松本正信
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>		
講義概要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	私の「講義ノート」による。	
	参考文献	講義の都度、指示する。	
評価方法	後期定期試験によって評価する		
受講者に対する要望など	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

## 序論 経済変動論の現代的課題

### 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環

### 2 経済変動の歴史的素描

産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題

### 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描

資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論

### 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics、

修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊

### 5 経済変動要因の理論的類別

### 6 有効需要拡大の「拡大」解釈——グローバル化——

## I 均衡成長とその不安定性論

### 1 経済成長の不可避的要素と必要性

古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義

### 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論

### 3 独立投資と誘発投資

### 4 外生要因と内生要因

## II 景気循環のメカニズム

### 1 定常状態の経済

### 2 新投資の循環（更新投資循環）

### 3 在庫投資の循環

### 4 ヒックスの景気循環モデル

### 5 カレッキーの景気循環論

### 6 カルドアの景気循環論

### 7 景気変動への安定化要因

### 8 景気循環論の類型と循環の局面

### 9 景気循環と経済諸変量

### 10 景気の転換点と景気動向指数

## III 経済成長と景気循環

### 1 成長経済における「定型化された事実」

### 2 新古典派成長理論の登場

### 3 新古典派の経済成長理論

### 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）

## IV 現代景気循環論

### 1 現代ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派

### 2 経済成長軌道は安定か不安定か

### 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題

### 4 これからの景気循環論への展望

科目名	近代経済学	担当者名	小林 進
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		
講義概要	<p>経済学（必修）及び経済原論Ⅰをすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を中心に講義し、最後にマクロ経済学の特にオープンモデルへの展開についても触れる。最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史における役割を簡潔に説明する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示する。	
評価方法	前期と後期の二回の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

1. ミクロ経済学

消費者は効用関数を最大にするように行動する。

効用関数  $U = U(X, Y)$  の定義とその性質

(辞書的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)

無差別曲線と予算線の接点  $\rightarrow MRS = P_x/P_y$

予算線  $\rightarrow$  所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。

所得効果と代替効果

(この概念の理解が重要であることを強調する)

労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的となき時の賃金率と供給量の関係

不労所得がある場合の労働供給曲線

失業保険と労働供給曲線

二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利率と貯蓄の関係

効率賃金理論

需要の価格弾力性  $e$  と支出額  $Z$  の関係

$$\frac{dZ}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$$

この関関のJカーブ効果への応用

競争市場の企業の最適化行動  $P = MC$

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

総余剰分析(消費者余剰+生産者余剰)と完全競争の最適性

応用として自由貿易の問題、関税と補助金の相違

バレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の利潤最大条件  $MR = MC$  (限界収入=限界費用)

$$MR = P \left[ 1 - \frac{1}{e} \right]$$

ラーナーの独占度  $1/e$

二つの分離した市場に直面した独占者  $MR_1 = MR_2$  より  $e_1 > e_2$  ならば

$P_1 < P_2$  (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル(価格協定)

独占と余剰分析

独占の規制  $\rightarrow$  式限価格の設定

寡占と屈折需要曲線

ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、フォーク定理

市場の失敗

1. マクロ経済学

付加価値と国民所得概念の解説

一般消費税の本質は付加価値税である。

市場の不完全性とケインズ経済学、有効需要の原理

$$Y = C + I + G + X - Q$$

限界消費性向  $c$ 、限界租税性向  $t$ 、限界輸入性向  $m$

$$\text{そのときの乗数} = \frac{1}{1 - c(1 - t) + m}$$

IS-LM 分析と国際経済学

経常収支は為替レート  $\pi$  と国民所得  $Y$  に依存

資本収支は国際間の利率格差に依存

国際収支の均衡  $\rightarrow$  経常収支 + 資本収支 = 0

これが不均衡のとき、たとえば赤字からばドルの流出(貨幣量の減少)。

資本移動が完全ならば、世界的に利率は一価となる(このときの経済政策は、金融政策が有効で財政政策は無効)。

科目名	経済社会学	担当者名	高橋 善四郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>——現代の体制思想——</p> <p>マルクスとネオ・リベラリズムの思想を代表するハイエクを対峙させて、現代の体制思想の両極性を解説し、さらに、両者によってサンドイッチされる形で、マックス・ウェーバーの資本主義観を挿入する。</p> <p>M・ウェーバー以後、いくつかの重要な資本主義あるいは近代に関する著作があるが、それ等については、将来検討することとして、当面は、この両極性に重点を置きたい。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カール・マルクス 唯物史観と資本主義</li> <li>2. マックス・ウェーバー プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 (世界宗教の経済倫理)</li> <li>3. F・A・ハイエク 自由の構成</li> </ol>	
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。
	参考文献	
評価方法	期末試験の成績に、出席状況を加味して、総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	経済学史	担当者名	鈴木 勇
-----	------	------	------

講義の目標および概要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで遡って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を促える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年	
	参考文献	鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年	
評価方法	評価は前期・後期の定期試験の成績と出席状況をもって行う。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	アリストテレスの経済学
3	聖トマス・アキナスの経済学とスコラ学者の価値論
4	近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革
5	ヘイルズの王室重商主義論
6	マンの貿易差額論と国富増進論
7	ベティの財政論と価値論
8	ロックの所有論と利子論
9	16-17世紀の効用説……自然法哲学者と経験主義者
10	カンティロンの経済学と価値論
11	ステュアートの重商主義論
12	ケネーの重農主義論
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス産業革命と経済社会の変化
2	スミスの道徳哲学体系
3	スミスの経済学と価値論
4	産業革命期の経済学(1)
5	同 上 (2)
6	ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1)
7	同 上 (2)
8	マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1)
9	同 上 (2)
10	同 上 (3)
11	メンガーの限界効用説
12	まとめ
備考	



科目名	経済哲学	担当者名	高橋善四郎
-----	------	------	-------

講義の目標	<p style="text-align: center;">——自由の哲学——</p> <p>経済哲学を、私は、経済学説の根底にある理念と方法論を解明していくこととしては、考えていない。たまたに見付ける欧米の economic philosophy はそのような形をとっている。</p> <p>20世紀の経済社会をどう生きるか、という問いは、この世紀に生きる者にとっては、重大な問題であった。東西の冷戦構造の根底には、理性の確実性に依拠した思想と、逆に、「理性の無謬性の仮定」を理性の倨傲として拒否する思想とが、二つの潮流のように対立している。私は、後者の思想を「自由の哲学」として捉えて、以下の三人の思想家の文献を跡付けたい、と考えている。この姿勢はカール・ポパーも同じだ、と私は思うが、21世紀へ向けて“開かれた”思想の様式を整えていくことが、文化の共存と共生への道である、と私は考える。</p>	
	講義概要	<p>I J・S・ミル</p> <p>1. 『自伝』——『原理』より『静止的状态』</p> <p>2. 『自由論』</p> <p>II マックス・ウェーバーの社会科学論</p> <p>III カール・ヤスパースの実存哲学</p>
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。
	参考文献	
評価方法	期末試験の成績に、出席状況を加味して、総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	一般経済史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	近代的工業化社会の成立にいたるまでの人間社会の経済の歴史の跡を、原始時代からたどることを目的とする。		
講義概要	まず経済史の課題について述べ、次に人口変化と経済変化の歴史的関係について述べる。その後には世界の様々な文明圏における経済発展の歴史を産業別に講義する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<p>マックス・ウエーバ著 上原他訳『古代社会経済史』（東洋経済新報1959）          ロストウ著 木村他訳『経済成長の初段階』（ダイヤモンド社1961）          ケンウッド/ロッキード著 岡村他訳『国際経済の成長』（文真堂1977、改訂版1985）          堀江保蔵『経済史概説』（有斐閣1961、新版1975）          石坂・船山・宮野・諸田『新版西洋経済史』（有斐閣双書1976、新版1993）          長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門 欧米とアジア』（ミネルヴァ書房1992）          楠井・馬場・諸田・山本『エレメンタル 西洋経済史』（英創社1995）          この他多数、講義の中で紹介する。</p>	
評価方法	前期試験および学年末試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済史の課題：経済発展の歴史的考察の方法
2	人口の歴史：人口変化と経済変化の歴史的関係
3	農業の起源と古代世界の農業：最初の経済革命、栽培植物と農耕の起源、古代中国の農業、古代地中海世界の農業
4	中世の農業：東アジアの農業、イスラム圏の農業
5	同       ：ヨーロッパ封建制度下の農業
6	近・現代の農業：イギリスの農業革命とヨーロッパ大陸諸国の農業
7	同       ：アジア、大洋州、アフリカの農業
8	同       ：アメリカ大陸の農業
9	工業の歴史の開始と古代の工業：新石器革命と日用品の製作、中国、オリエント、ギリシャ、ローマの工業
10	中世の工業：中国とヨーロッパの手工業と東から西への技術の伝播
11	近代ヨーロッパ工業：イングランドの早期産業革命
12	同       ：イギリスの産業革命
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近代ヨーロッパ工業：産業革命の世界への波及
2	後発工業国の前進：英国経済の相対的な衰退
3	商業の起源と古代の商業：ヒックスのモデルと古代アジアと地中海地域の商業
4	中世の商業：東アジア、イスラム圏の商業
5	同       ：ヨーロッパの商業：初期の停滞と復活
6	近代の商業：16世紀の商業革命：世界貿易の開始
7	国民経済の衝突：重商主義
8	世界経済の成立：工業化と国際分業
9	大企業の時代：流通システムの整備と株式会社の増加
10	近代社会の貧困：救貧法の歴史
11	同       ：福祉国家の形成
12	工業化の功罪：生活水準の向上と環境破壊
備考	

科目名	日本社会史	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>11・12世紀から16世紀にいたる中世の全時代を通して、日本社会の基本構造を観察する。そのさい、土地をめぐる経済システムと、これを土台に組み立てられた社会と国家を注目するのは重要な観点となる。今年度は室町期を講義の対象とする。</p>		
講義概要	<p>日本の封建制度の構造は、南北朝の内乱を経過するなかで、大きく変容をとげる。守護領国制の成立と国人領主制の発展は、なによりも、封建制度の構造変化をもたらす直接的な契機にほかならなかった。いっぽう、14世紀後半以降の中世後期の時代、民衆の政治的力量的増大は、在地における自治団体＝惣村をうみ出す。この団体の結合原理を核とする農民の一揆運動は、国内統治を固めようとする戦国大名と矛盾する。大名は一揆を克服するなかで封建国家をつくる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・永原慶二『日本中世の社会と国家』（増補改訂版）青木書店</p>	
	参考文献	<p>・永原慶二『日本の中世社会』岩波書店</p>	
評価方法	<p>評価は、後期試験の成績をもっておこなう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大幅な遅刻のばあいは、入室はおことわりする。（佳境にはいるときの無遠慮な入室は、授業が攪乱されるからです）</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	律令制農村における富豪層の活動
2	平安時代の農村景観 河川の氾濫、自然堤防、畠作、堀内、片荒し農法
3	開発と寄進、浪人招据え、労働編成、鹿子木荘
4	領主権の重層性、散在性、皇室領荘園、八条院領荘園群
5	「職」の秩序と百姓名編成、「職」とはなにか、「職」の秩序の特質、名主職なるもの
6	荘園領主経済の構造、都市貴族の経済生活を支える荘園制の交通・支配の体系
7	鎌倉幕府の成立と地頭設置
8	承久の乱と新補地頭
9	荘園農村の人びとの生活、非農業部門の生業、河川漁業、山の仕事、荘園の管理役人
10	百姓名の経営と負担Ⅰ、名の発生、名の本質
11	百姓名の経営と負担Ⅱ、黒田荘の66名体制、名体制の破たん
12	職人的武士と領主的武士、武士の存在形態、イエ、所領、武器
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	百姓の結合と在地領主の運動、阿氏川荘、百姓申状、太良荘
2	在地領主制の発展と封建制、辺境の領主、所領、在家、堀ノ内、惣領制、主従制
3	悪党と惣百姓Ⅰ、黒田荘、大江清定、観俊、金王兵衛盛俊
4	悪党と惣百姓Ⅱ、矢野荘、寺田法念、実長、起請文
5	南北朝内乱と農民生活、軍勢の通る村、美濃国大井荘、野伏、刈田、路次狼藉、北陸地方の事例
6	守護、国人と半済令、畿内国人の土地給与、戦争遂行の条件、兵糧確保
7	東寺領荘園群の消長、永原慶二の業績、網野善彦の業績、二人の見解の相違、内乱期理解のちがひ
8	中世の一揆Ⅰ（正長の土一揆）比叡山山徒と大津馬借の関係
9	中世の一揆Ⅱ（伊賀惣国一揆）地侍、農民、共同体、織田信長
10	中世の一揆Ⅲ（一向一揆、石山戦争）
11	大名領国制の展開、後北条氏の関東支配、支城、道路、常備軍
12	太閤検地、荘園制の終焉、石盛、石高、身分編成
備考	

科目名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパを主要な対象地域として、資本主義経済の成立と発展の要因を考察する。これを基礎に、19世紀後半以降のイギリスを中心とする資本主義的な世界体制の構造を解明する。必要な場合には、非ヨーロッパ地域も対象に含める。</p>	
講義概要	<p>前期：イギリスにおける資本主義の成長発展を中心に、資本主義経済の古典的モデルの特徴を分析する。具体的には、資本主義農業の成立、農村工業の展開、商業革命、絶対王政の歴史的役割、市民革命、重商主義政策などをとりあげる。</p> <p>後期：イギリス産業革命を起点とし、その前提条件、展開過程、特徴と問題点などを考察する。続いて後発諸国の対抗的工業化の特質を分析する。これらを基に、世界市場の成立、大不況と資本主義の変容、資本主義的世界体制の構造などについて講義する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年。</p>
	参考文献	<p>最初の講義の時に指示する。</p>
評価方法	<p>出席および定期試験（前期後期の2回）の成績を基に評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>事情により講義内容の予定が変更になる場合がある。</p> <p>履修希望者は、必ず最初の講義に出席すること。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス。参考文献の紹介
2	I 資本主義経済の起点 1 農業土地制度の変容
3	2 大航海時代と商業革命
4	II 資本主義経済の成立 1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開
5	1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開 (続)
6	1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物工業の展開
7	1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物工業の展開 (続)
8	2 絶対王政と市民革命
9	2 絶対王政と市民革命 (続)
10	3 重商主義政策
11	3 重商主義政策 (続)
12	III 産業革命と工業化社会 1 産業革命前夜のイギリス経済
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
2	2 イギリス産業革命 (続)
3	2 イギリス産業革命 (続)
4	3 対抗的工業化の諸相 (1)フランス産業革命
5	(1)フランス産業革命 (続)
6	(2)ドイツ産業革命
7	(2)ドイツ産業革命 (続)
8	(3)ロシアの工業化
9	(4)アメリカ産業革命
10	IV 世界市場の成立と構造
11	V 19世紀末の「大不況」と資本主義の変容
12	VI 資本主義的世界体制の構造
備考	

科目名	東洋経済史	担当者名	駒形哲哉
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義では以下の2点について、新中国成立前の経済史から理解を深めることを目標としている。1)中国は現在、改革開放政策の下、急速な経済成長で世界の注目を集めているが、建国以来1978年末までは、「社会主義計画経済」という特異な経済制度をとりおこなっていた。計画経済は資源配分上、非効率な制度とされているにもかかわらず、なぜ建国後すぐに改革開放政策をとらなかったのか。2)旧ソ連東欧など、かつて同じく社会主義計画経済体制をとり、現在経済改革にとりくむ国々のなかで、中国が突出して外資導入に成功しているのはなぜか。</p>		
講義概要	<p>上記の2点のうち、1)についてポイントの1つを先取りして述べれば、中国の国内資本によっては資本主義を十分発展させることができなかったということである。また同様に2)について述べれば、かつて中国から流出した華僑・華人の資本が、外資の中心的役割を担い、その他の外資の呼び水となって改革開放後の中国の経済成長を支えているということである。そこで本講義では、まず、中国が社会主義計画経済制度を採択するに至った経緯について、アヘン戦争から日中戦争に至るまでの内外経済の動き、とくに民族工業の発展とそれを妨げた諸事情を中心にフォローする。続いて改革開放後の中国の経済成長を支える華僑・華人資本の発展史、対中投資の歴史などについて説明したい。</p>		
使用教材	テキスト	とくに指定しないが、下掲文献を参照されたい。	
	参考文献	<p>1)狭間直樹、岩井茂樹、森時彦、川井悟『データでみる中国近代史』有斐閣選書、1996年  2)池田誠、田尻利、山本恒人、西村成雄、奥村哲『中国工業化の歴史—近現代工業発展の歴史と現実—』法律文化社、1985年  3)小島晋治、丸山松幸『中国近現代史』岩波新書、1986年  *華僑・華人資本に関する参考文献は開講後随時指示することにする。</p>	
評価方法	<p>論述筆記試験をおこない成績評価を決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講義は、現代中国（さらには東アジア）への理解を深める一助となるようおこなうので、受講者も各自で新聞・雑誌等に目を通し、中国・東アジアの現状への関心を高めるよう努めてほしい。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の趣旨・概要説明
2	近代中国社会変容の概要—政治経済と国際関係
3	近代中国の経済システム①
4	近代中国の経済システム②
5	開国前夜の在来産業
6	欧米資本主義の進出①
7	欧米資本主義の進出②
8	中国民族工業の誕生①
9	中国民族工業の誕生②
10	中国民族工業の黄金期①
11	中国民族工業の黄金期②
12	予備日
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中国紡績業の再編過程
2	農村恐慌と中国工業化の展望①
3	農村恐慌と中国工業化の展望②
4	現代中国の改革開放政策と華僑・華人資本
5	華僑問題の概観
6	華僑の故郷の風土・歴史・社会
7	華僑の変容①—苦力・契約移民から自由移民へ
8	華僑の変容②—苦力から買弁商人、エリートへ
9	近代・華僑の対大陸投資①
10	近代・華僑の対大陸投資②
11	本講義のまとめ
12	予備日
備考	

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	産業構造論	担当者名	山越 徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化すること、またその変化がより一層の発展を促すことはよく知られた事実である。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変化を注視し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、これらを支える様々な経済構造、相互依存関係を考察し、かつての高度経済成長や重工業化の意味を考える。そして石油危機以降の構造変化、サービス化、ソフト化、情報化、国際化などの分析を通して、これまでの産業構造の捉え方や分析指標の意味とそれにとってかわるべき捉え方、指標を考察していく。</p>				
講義概要	<p>経済発展、経済成長に伴う産業構造および最近の経済の構造変化の実態とそこでの議論を一層身近なものにするため、各国の経済成長や産業構造の変化に関する実証分析や、短期間に後進国からトップクラスの先進工業国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、構造変化の意味を考察していく。またその際、産業構造および相互依存関係、技術構造等を分析する上で有効な手段の一つである投入-産出表についてその基本的考え方、内容、利用の仕方、実際の分析例など、実際の統計表を用いながらみていくことにする。</p> <p>なお今年の講義は前期集中のため、1週に2コマずつ進めていくことにする。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・篠原三代平著『産業構造論』筑摩書房 第二版 経済学全集18</li> <li>・W. レオンチェフ著／新飯田宏訳『産業連関分析』東京大学出版会</li> </ul> <p>この他の参考書および各項目の参考書はその都度、講義の中で紹介する。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	・宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篠原三代平著『産業構造論』筑摩書房 第二版 経済学全集18</li> <li>・W. レオンチェフ著／新飯田宏訳『産業連関分析』東京大学出版会</li> </ul> <p>この他の参考書および各項目の参考書はその都度、講義の中で紹介する。</p>
テキスト	・宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篠原三代平著『産業構造論』筑摩書房 第二版 経済学全集18</li> <li>・W. レオンチェフ著／新飯田宏訳『産業連関分析』東京大学出版会</li> </ul> <p>この他の参考書および各項目の参考書はその都度、講義の中で紹介する。</p>				
評価方法	<p>現実の経済発展、経済成長に伴う経済構造の変化への理解がどの程度深めたか、あるいは実際のデータからそれらをどの程度読みとることができるかなどについて、試験答案を通して評価する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>経済成長、産業構造、各国の経済状況とくに日本経済の最近の動向や課題に関して、関心を持つとともにそれらについての文献等にできるだけ触れてほしい。</p>				

年 間 講 義 予 定

後期のみ (週 2 回)

回	主 要 テ ー マ
1	産業および経済構造 産業の概念、生産構造、技術、商品、産業分類、産業社会、産業革命、経済構造の変化、工業化
2	経済発展、経済成長 経済成長とは、近代的経済発展、1人当り国民所得、労働生産性、産出規模、進歩と変化、高度化、多様化、進歩の指標
3	経済発展の構造 経済進歩の歴史過程、三部門分類、ベティの法則、AMS分類
4	産業と職業、農業の位置、労働力構成と所得構成、所得弾性 成長の弾索性、時系列とクロスセクション
5	経済成長と産業構造の変化 経済成長と製造業、経済発展段階説、製造業内部の発展・構造変化
6	迂回生産、消費財と投資財、最終財と中間財、工業用原材料
7	生産規模と経済効率、雁行形態、輸入代替、重化学工業化 加工度、生産過程、分業構造
8	分析用具としての投入-産出表 投入-産出表とは、フローとストック、中間投入、中間需要
9	最終需要、付加価値、投入係数、産出係数、逆行列、逆行列係数
10	直接および間接波及、投入係数の固定性、中間投入構造と生産技術
11	U表とV表、商品ベースと企業ベース 感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、相互依存関係 輸入と輸出、スカイライン分析
12	投入-産出表による分析 I 構造変化の要因分析、投入係数変化の意味、技術変化
13	投入-産出表による分析 II 生産過程と素原材料系統、ブロック化、三角形化、経済の基本構造
14	資本マトリックス、雇用および産業職業マトリックス、
15	規模別 I-0 表、地域 I-0 表、国際 I-0 表、 公害 I-0 表、情報 I-0 表
16	産業構造の新しい方向 サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化
17	財とサービス、有形財と無形財、家計内サービスの外部化、 構造変化の流れ、豊かさと進歩、構造変化の指標
18	産業内部の構造変化——ケース・スタディ 3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、FAとOA
19	高度経済成長期の生産技術と'80年代の生産技術
20	生産技術とインフラストラクチャー、リストラクチャリング 事例：鉄鋼、電気、工作機、自動車、時計、印刷、銀行、商社など
21	構造変化と就業構造 労働力の需要と供給、人口構造、基幹労働力と縁辺労働力、
22	日本の労働市場、新規学卒労働力、雇用制度、雇用慣行、
23	労働力の属性 (性、年齢、学歴、技能)、産業と職業、 構造変化と労働力移動、経済動向と雇用調整
24	日本の産業政策 経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき
備考	

科目名	産業組織論	担当者名	青木雅明
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>① 産業組織論の基本的考え方を理解してもらう。</p> <p>② 産業組織論に基づく（公正）競争政策、規制緩和などの政府の政策や企業の行動のあり方を評価できるようになってもらう。</p> <p>③ 産業組織論、（公正）競争政策、規制緩和などに関するレポートが書けるようになってもらう。</p> <p>④ 「会社とは何か」、「産業とは何か」、「それらは自分の人生にとってどのようなかわりがあるか」などについて考えてもらう。</p>				
講義概要	<p>産業組織論は、日本においても近年にわかに重視されるようになった「規制緩和」、「公正競争」、「競争政策」などの理論的基礎を体系化した経済学の一分野である。企業行動のルールに関わる場所が大きい。</p> <p>そこでは、個々の産業の内部における典型的な企業行動、あるいは市場の動きを分析するが、その目的は資源配分効率、生産効率、技術進歩など各種の基準から産業および企業行動を評価するとともに、その改善方を提言するところにある。「規制緩和」はそのような改善方策の一つにほかならない。</p> <p>講義の前半は基本的な考え方や分析方法について述べ、後半は最近発展した理論、競争政策の実例などについて述べる。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（1994年） 各種の資料を別に配布</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植草益『産業組織論』筑摩書房（1982年）</li> <li>・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣（1991年）</li> <li>・その他については必要に応じて提示</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（1994年） 各種の資料を別に配布	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植草益『産業組織論』筑摩書房（1982年）</li> <li>・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣（1991年）</li> <li>・その他については必要に応じて提示</li> </ul>
テキスト	小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（1994年） 各種の資料を別に配布				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植草益『産業組織論』筑摩書房（1982年）</li> <li>・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣（1991年）</li> <li>・その他については必要に応じて提示</li> </ul>				
評価方法	<p>基本事項の理解度テスト（前期）の成果および特定テーマのレポート（後期）の評点の合計値による。後者については、数回の書き直しを求める。また、授業中の質疑・意見表明・討論の態度と内容を評価する一方、単なる出席は評価しない。</p>				
受講者に対する要望など	<p>遅刻、私語、居眠りは禁止。</p>				

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現実の産業のプロフィール、産業分類・商品分類、産業別生産額、市場・市場機構・市場経済
2	
3	
4	
5	産業組織論の課題と方法、市場構造と市場集中・製品差別・参入障壁
6	
7	
8	
9	市場行動としての価格設定・プライス・リーダーシップ・管理価格、市場行動としてのカルテル、企業統合と企業系列
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	資源配分効率からみた市場成果、日本・米国・EUにおける競争政策 論文作成指導
2	
3	
4	
5	産業組織論の発展型 ① コンテスタビリティ、② 動態的競争、③ 多角化、④ 技術革新 論文作成指導
6	
7	
8	
9	規制緩和、民営化、対外市場開放、国際的競争政策 論文作成指導
10	
11	
12	
備考	

科目名	流通経済論	担当者名	西村 允克
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講義概要	<p>指定したテキストには、流通経済に関連する統計データが多く含まれている。講義はこれらの統計データを基礎として進められ、テキストに不十分な点をカバーしながら進行するから、テキストを読んでいることを前提としている。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡田千尋・岩永忠康・尾崎眞編『現代日本の商業構造』ナカニシヤ出版</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本流通新聞社編『流通現代史』 日本経済新聞社</li> <li>日経流通新聞社編『流通経済の手引 96』 日本経済新聞社 (本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている)</li> <li>マクネア、メイ著 清水猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣</li> <li>林 周二著『流通』 日経文庫</li> <li>鈴木安昭 関根孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣</li> </ul>	
評価方法	<p>〔前期 レポート 後期 試験〕 両者を総合して判断（一方のみは不可）</p>		
受講者に対する要望など	<p>流通現象の多くは、日々受講者の生活環境のなかで生起しているものであるから、講義内容を生活体験を通じて追体験して理解を深められたい。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	流通経済分析の基礎理論(1) 主要な用語について 流通経済とは、流通主体、流通チャネル、流通費用、リベート、流通市場
2	流通経済分析の基礎理論(2) 価格を中心として
3	流通経済分析の基礎理論(3) 前回のつづき
4	流通経済分析の基礎理論(4) 統計データの読み方を中心として
5	小売業の変化(1) 流通革命論を中心として、 第1次流通革命、第2次流通革命
6	小売業の変化(2) チェーン・ストアを中心として
7	卸売業 卸売業とは、卸売業の現状
8	百貨店
9	スーパー(1)
10	スーパー(2)
11	コンビニエンス・ストア
12	前期のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	専門量販店
2	ショッピング・センター(1)
3	ショッピング・センター(2)
4	小売商業間競争と商店街
5	青果物と米の流通構造(1)
6	青果物と米の流通構造(2)
7	消費生活協同組合
8	流通規制の問題(1) 大店舗法を中心として
9	流通規制の問題(2) 再販売価格維持制度を中心として
10	流通規制の問題(3) 消費者保護を中心として
11	96年度の流通問題 96年度に発生した流通問題を取り上げ、これまでの学習成果を再確認する。
12	まとめ
備考	

科目名	交通経済論（交通論）	担当者名	岡田 博
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを供給する交通システムも現代の社会経済活動を支えている重要な経済システムである。</p> <p>本講義においては交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について分析を行う。交通の経済学的分析とともに現代の交通問題に対する交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。</p>	
講義概要	<p>本講義は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を適用して分析を行うものである。</p> <p>講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、これは経済学の方法を適用するものである。交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。</p>	
使用教材	テキスト	未定、講義の最初に指示する。
	参考文献	岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣
評価方法	<p>前期および学年末の定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、これらを総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業には必ず出席して、ノートをとること。また授業で勉強したことについて、図書館で関連の書物を読み、さらに知識を深め確実なものとすることを習慣化してもらいたい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通経済論について、研究の方法、交通の概念、交通の生産物について
2	交通需要Ⅰ 交通需要の特性、交通需要の弾力性について
3	交通需要Ⅱ 交通需要の予測とその方法
4	交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給の史的概観
5	交通サービスの供給Ⅱ 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化
6	交通市場Ⅰ 交通市場の特性
7	交通市場Ⅱ 交通市場の構造
8	運賃理論Ⅰ 運送価値説
9	運賃理論Ⅱ 独占運賃と差別運賃1
10	運賃理論Ⅲ 独占運賃と差別運賃2
11	運賃理論Ⅳ 運賃費用説
12	運賃理論Ⅴ 限界費用運賃
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通の社会的費用Ⅰ 交通の社会的費用の概念
2	交通の社会的費用Ⅱ 交通の社会的費用の実態と対策
3	交通の社会的費用Ⅲ 交通の社会的費用の内部化
4	交通投資と資金調達Ⅰ 交通投資の経済効果
5	交通投資と資金調達Ⅱ 資金調達の方法について
6	国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長、近年におけるGDPと輸送量の乖離とその要因
7	国民経済と交通Ⅱ 交通の発達と地域開発
8	国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化
9	国民経済と交通Ⅳ 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
10	交通政策Ⅰ 交通政策の理論
11	交通政策Ⅱ 交通安全政策
12	おわりに
備考	

科目名	地域経済論（１）北米	担当者名	庄 司 啓 一
-----	------------	------	---------

講義の目標	アメリカ経済の歴史的・構造的特質を段階規定を踏まえて捉えることを目標とする。		
講義概要	アメリカ経済の産業構造の特徴に焦点をあて、先端軍事産業と基幹重化学工業との関係とその矛盾の展開の過程を捉えてみたい。とくに、冷戦体制と経済の軍事化が経済構造にどのような影響を及ぼしたのか。また、日本経済の台頭がアメリカ経済にどのように影響を与えたのかについても説明したい。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	開設時に指定	
評価方法	前期・後期テスト		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済分の方法 歴史分析と構造分析
2	ボックス・アメリカーナ IMF体制の成立
3	冷戦と経済の軍事化 核戦略と軍産部合体の成立
4	独占の停滞 基幹重化学工業：鉄鋼・自動車
5	ベトナム戦争とインフレの高騰
6	IMF体制の崩壊とスタブフレイション 石油価格の高騰 価格体系の崩壊
7	ドル危機 ドルの価値低下
8	ME革命 軍事技術の民需への展開 エレクトロニクス産業
9	ハイテク化とサービス化
10	多国籍企業の展開(1) 生産拠点のアジアへの進出
11	多国籍企業の展開(2) 産業の空洞化
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本経済の復興 新鋭重化学工業の抬頭と輸出
2	日米経済関係 貿易摩擦の発生
3	産業のリストラ (1) リストラとは何か
4	産業のリストラ (2) 新鋭軍事産業と在来重化学工業
5	研究開発の動向 ハイテク産業分析
6	日本のリストラ 日米比較
7	日米一体化 日本企業の在米生産の強化
8	東アジアの工業化 アジア NIES の抬頭
9	NAFTA 北米自由貿易圏構想
10	アメリカのベンチャービジネス
11	コンピューター・ネットワーク
12	アメリカ経済の「再生」と冷戦の崩壊
備考	

科目名	地域経済論(2) 西ヨーロッパ	担当者名	大島 通義
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパは今、アジアとアメリカとならんで、世界経済の三極化の一つの中心をなしている。その原動力はドイツにあり、第二次世界大戦後には、ドイツとフランスの協調関係のうえにヨーロッパ共同体が築かれてきた。しかし、この大戦の以前にまでさかのぼるならば、そこではドイツとフランスは政治的にも経済的にも対立し競合していた。列強の対立から協調へとこのように大きな転変をとげるヨーロッパ経済の歴史を、前世紀後半以来の時期について振り返り、現在の状況を見るのが、この講義の目的である。</p>		
講義概要	<p>前期においては、19世紀後半期以来第一次世界大戦まで、両大戦間の時期、第二次世界大戦後の時期にわけて、ヨーロッパにおける諸国の経済関係がどのように発展してきたかを概観し、かつては対立・競合していた列強が戦後になって経済の統合へと転換していく過程を明らかにする。戦後のマーシャル援助にはじまり、最近の通貨統合までの統合の諸段階をおって、その発展の跡をたどることとする。</p> <p>後期には、この地域にあるおもな国をとりあげて、その近年の発展を概観する。予定では、イギリス、フランス、ドイツ、北欧諸国などについて、その戦後の経済体制と政策の推移をあきらかにし、とくに1980年代初頭以来のその政治経済の動向を紹介する。</p>		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。講義の進行におうじて必要な文献を指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大西健夫・岸上慎太郎編『EU統合の系譜』『EU制度と機能』『EU政策と理念』早稲田大学出版部，1995年。</li> <li>・田中友義・河野誠之・長浜貴樹『ゼミナール 欧州統合 歴史・現状・展望』有斐閣ビジネス，1994年</li> <li>・梶田孝道著『統合と分裂のヨーロッパ』岩波新書，1993年</li> <li>・中木康夫・河合秀和・山口定『現代西ヨーロッパ政治史』有斐閣，1990年</li> </ul>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ2回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済原論と経済史の一般的な知識を備えていることを期待する。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### [前期]

1. 第一次世界大戦以前のヨーロッパ経済
  - (1) 国民国家と国民経済の形成
  - (2) 勢力均衡と市場獲得競争
2. 两大戦間期のヨーロッパ
  - (1) ヴェルサイユ体制のもとの欧州経済
  - (2) 世界大恐慌とブロック経済への転換
  - (3) 第二次世界大戦による地域経済の変貌
3. 戦後体制の準備とその制度化
  - (1) 連合国による戦後構想
  - (2) 戦後復興の開始
  - (3) 統合への始動と反動
4. ヨーロッパ共同体の形成過程
  - (1) 域内市場統合の完成まで
  - (2) その後の発展
5. ヨーロッパ共同体の現状

### [後期]

6. 各国経済の動向
  - (1) ドイツ
  - (2) イギリス
  - (3) フランス
  - (4) 北欧三国
7. 国境を超える経済問題（環境、労働、地域開発など）

科目名	地域経済論(3) 東ヨーロッパ	担当者名	鈴木 勇
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>この地域の諸国は社会主義体制の崩壊と資本主義体制への移行という大転換期に直面している。社会主義の崩壊という現実、マルクス主義の見方からすれば、歴史の歯車の逆転であって起るはずのない出来事であった。にもかかわらず、ソ連・東欧の社会主義は崩壊してしまった。「なぜ崩壊したのか」、「社会主義とは一体何であったのか」。これらの問題を考察することが本講義の第一の目標である。もう一つの目標は、転換期のただ中にあるこれらの国が、どのような状況にあり、どのような問題を抱えているのか、体制転換の展望と意義を探ることにある。</p>		
講義概要	<p>つい近年まで、この地域の諸国は社会主義体制のもとにあったが、同じ社会主義といっても経済システムの特徴からすると著しく性質を異にするものであった。まず、ソ連型の国家管理社会主義と旧ユーゴスラヴィアの労働者自主管理社会主義、それに1968年改革後のハンガリーの経営者管理社会主義の三つに大別できる。本講義ではこの点に着目して、これら三つのパターンを中心に考察し、マルクスの社会主義モデルとの比較検討も加えて、上記の講義目標に接近したいと思っている。この地域の最近の経済事情に関しては、本年度はロシア経済と新ユーゴ経済を中心に考察する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・鈴木勇『市場的社会主義とマルクス主義』（増補改訂版）学文社、1988年</p>	
	参考文献	<p>その都度指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は前期・後期の定期試験の成績と出席状況をもって行う。</p>		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	社会主義経済システムの比較研究のための準備的考察
3	マルクスの社会主義・共産主義モデル
4	ロシア革命（1917年）
5	戦時共産主義と新経済政策（NEP）の時期
6	集権型国家管理社会主義の形成と経済構造（1）
7	同 上（2）
8	ソ連の経済改革（1965年）
9	第2次世界大戦後の東欧諸国
10	旧ユーゴスラヴィア（1）対ソ決裂から独自の道へ
11	同 上（2）労働者自主管理社会主義の形成
12	同 上（3）1980年代までの変遷過程
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ハンガリー（1）1968年の経済改革
2	同 上（2）経営者管理社会主義の経済
3	市場的社会主義の理論（1）（B.ホルヴァート）
4	同 上（2）（O.シク）
5	ベレストロイカと国有企業法（1）
6	同 上（2）
7	社会主義の崩壊（ソ連・東欧諸国）
8	ソ連邦崩壊後のロシア経済（1）
9	同 上（2）
10	旧ユーゴスラヴィアの解体と現状（1）
11	同 上（2）
12	総 括
備考	

科目名	地域経済論(4) アジア・オセアニア	担当者名	森 健
-----	--------------------	------	-----

講義の目標	<p>アジア太平洋に位置する様々な国・地域（今年度は主にオーストラリア）の経済を学ぶことによって、要素賦存状況、発展段階、政治社会状況、価値観などの相違が、各国・地域の経済をどのように規程するのか、多様な経済構造の中で経済原則はどのように貫徹しているのかを理解する。</p>		
講義概要	<p>今年度の講義では「アジア太平洋地域にあるアングロ・サクソン系の白人国家」であったオーストラリアが近年、経済自由化、多民族国家化を推進し、政治的にも急速に「アジア太平洋国家化」している現状を、多方面から検討する。そして、この「変革」が文明的に見て極めて先駆性に富んだ新しい実験であることを確認する。これに続く授業の主なテーマは、「オーストラリアがこのような変革に取り組むに至った理由」、「歴史的に見たオーストラリア経済・社会の特質」、「日本を含むアジア太平洋諸国（主に APEC 加盟諸国・地域）とオーストラリアとの政治的、経済的関係」、「オーストラリアの先駆的実験が日本を含む他の国々に持つ意味」といったものになる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>1) プリントの配布、2) 竹田いさみ、森健共編、『オーストラリア入門』、東京大学出版会、1997年（予定）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関根政美、鈴木雄雅、竹田いさみ、加賀爪優、諏訪康雄著 『概説オーストラリア史』 有斐閣、1988年。</li> <li>・ 小島清・日豪調査委員会編 『豪州経済ハンドブック』 日本経済新聞社、1981年。</li> <li>・ 川口浩、渡辺昭夫編 『太平洋国家オーストラリア』 東大出版会、1988年。</li> <li>・ ウォーレン・リード著 『オーストラリアと日本』 中央新書、中央公論社、1992。</li> </ul>	
評価方法	<p>定期試験</p>		
受講者に対する要望など	<p>最初に記したように、我々が海外の経済社会について学ぶ目的は、海外事情通になるためではなく、それぞれ条件が異なる国においても普遍的に見られる経済原則が存在すること、を学ぶ点にあることに留意。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：総論(1) 多民族国家志向、増加するアジア移民、マボ判決
2	近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：総論(2) 経済自由化、規制緩和、地域外交、地域安全保障、共和制移行案
3	オーストラリアの地理と歴史(1) クック、米国独立とフィリッパ、牧羊業
4	オーストラリアの地理と歴史(2) ゴールド・ラッシュ、移民、中国人排斥、労働者と牧羊資本
5	オーストラリアの地理と歴史(3) ナショナリズムと英帝国、1890年代の恐慌、仲間主義と平等主義
6	オーストラリアの地理と歴史(4) 地理
7	オーストラリアの政治と外交(1) 立憲君主制度、圧力団体、官僚機構
8	オーストラリアの政治と外交(2) 労働党政治：経済自由化、新労使関係
9	オーストラリアの政治と外交(3) 多国間外交、移民・難民政策、援助政策
10	オーストラリアの政治と外交(4) 近世外交略史：日英同盟とオーストラリア、冷戦とベトナム戦争、ウィットラムとフレーザーによる自主路線
11	オーストラリアの社会(1) 多文化社会への変容、アボリジニとマイノリティ、反多文化主義論とその鎮静
12	オーストラリアの社会(2) オーストラリアのメディアと多文化主義、教育制度
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オーストラリアの社会(3) 労使関係の新展開：強制仲裁制度とアコード
2	オーストラリアの社会(4) 女性の社会進出、社会福祉制度
3	オーストラリアの文化
4	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(1) 経済成長とマクロ経済政策
5	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(2) 財政と金融通貨
6	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(3) 産業構造と産業政策
7	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(4) 対外経済関係：貿易構造
8	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(5) 対外経済関係：外国投資と対外経済政策
9	日豪関係(1) 貿易関係、投資関係、経済交渉
10	日豪関係(2) 外交関係、文化交流
11	近年のオーストラリアの変革の持つ意義
12	(予備)
備考	

科目名	地域経済論(5) アフリカ	担当者名	千代浦 昌 道
-----	---------------	------	---------

講義の目標	<p>世界の中でも現在もっとも経済的に停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決に向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。</p>		
講義概要	<p>まずアフリカの概観、植民地分割以前の歴史、植民地時代以降の近現代史を講義する。続いて、1980年代以降の経済危機と構造調整時代、政治的民主化と紛争等に言及する。発展途上地域における政治と文化は、経済・社会の動向と密接な関係を持つから、それらの問題についても触れる。近代の複雑な国際政治関係の中で翻弄されるアフリカ諸国の姿は、経済問題とも切り離すことはできない。食糧・人口・難民・環境等もアフリカ地域についての最重要課題である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>小田英郎他著『アフリカ』（国際情勢ベーシックシリーズ）、自由国民社 1996</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『アフリカ年鑑』（アフリカ協会）</li> <li>・『月刊アフリカ』（アフリカ協会）</li> <li>・『アフリカレポート』（アジア経済研究所）</li> <li>・伊谷純一郎・小田英郎・川田順造・田中二郎・米山俊直共同監修『アフリカを知る事典』（平凡社、1989）</li> <li>・『アフリカ現代史Ⅰ～Ⅴ』（山川出版社、1978～1982）</li> </ul>	
評価方法	<p>前後期、2回の定期試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>アフリカならびに一般に発展途上国の経済社会問題に関する新聞や雑誌の記事を見逃さないこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前期

#### 1～2週 アフリカの概観

- 1) 地域としてのアフリカ
- 2) アフリカの住民と文化
- 3) アフリカの国々に

#### 3～4週 現代アフリカの歴史的背景

- 1) 植民地分割以前のアフリカ
- 2) 植民地化とアフリカ性の否定
- 3) 解放運動の形成と発展
- 4) 二つの世界大戦とアフリカ

#### 5～6週

- 1) 独立の時代
- 2) 国家建設への苦難の道
- 3) アフリカの社会主義とその挫折

#### 7～8週 構造調整の時代

- 1) 構造調整の始まり
- 2) 経済危機はなぜ生じたか
- 3) 構造調整をめぐって
- 4) 構造調整の残したもの

#### 9～10週 民主化の90年代

- 1) 民主化の雪崩現象とその原因
- 2) 民主化過程の展開
- 3) 構造調整計画の政治的影響
- 4) アフリカにおける民主化の展望

#### 11～12週 内戦・民族紛争・地域紛争

- 1) アフリカの紛争の多様性
- 2) 80年代までのアフリカの紛争
- 3) 90年代の民族紛争
- 4) 紛争への対応

### 後期

#### 1～2週 人種問題

- 1) アフリカにおける人種問題の概観
- 2) 南アフリカのアパルトヘイト問題
- 3) 南アフリカにおけるカラード社会、インド系人社会の解放運動

#### 3～4週 政治と宗教

- 1) 現代アフリカにおける政治と宗教
- 2) ナイジェリア
- 3) アルジェリア

#### 5～6週 地域協力と地域機構

- 1) 地域協力の背景と経過
- 2) アフリカ統一機構(OAU)
- 3) 諸地域における地域協力と地域機構
- 4) 冷戦終結後のアフリカの地域協力と今後の展望

#### 7～8週 開発と援助

- 1) 植民地開発と宗主国
- 2) 第二次世界大戦後の開発と援助
- 3) 構造調整以後の開発と援助

#### 9～10週 国際関係の中のアフリカ

- 1) 冷戦期の国際関係におけるアフリカの位置
- 2) フランス＝アフリカ諸国首脳会議の展開
- 3) 国際関係の主体としてのアフリカ

#### 11～12週 現代アフリカの課題

- 1) 食糧問題
- 2) 人口問題
- 3) 難民問題
- 4) 人権問題
- 5) エイズ問題
- 6) 環境問題

科目名	地域経済論(6) ラテンアメリカ	担当者名	山本正三
-----	------------------	------	------

講義の目標	日本経済と深いつながりのあるラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情を、自然的基盤、歴史的発展過程、資源と産業、国内諸地域の地理的、経済的、社会的諸特性を分析し、考察することが目標で、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても考察を進めていく。		
講義概要	前期にはラテンアメリカ経済の現状とその自然的基盤との関連、歴史的経緯、経済活動を一般的に説明し、後期にはこの地域の経済発展の諸相、経済問題、産業と企業の特徴について説明する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A. ギルバート『ラテンアメリカ入門』二宮書店、1996</li> <li>・ 小池洋一、西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論社、1993</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加茂雄三編『ラテンアメリカ・ハンドブック』講談社、1982</li> <li>・ 細野昭雄『ラテンアメリカの経済』東大出版会、1983</li> <li>・ 染田秀藤編『ラテンアメリカ』世界思想社、1993</li> </ul>	
評価方法	定期試験の成績と、前期と後期それぞれ1～2回のレポートおよび出席を加味して行う。		
受講者に対する要望など	テキストを必ず用意すること。私語をつつしむこと。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラテンアメリカ経済の一般的・地域的特質
2	経済の一般的条件 (1) 自然条件——位置、地形
3	経済の一般的条件 (2) 自然条件——気候の地域的差異と経済への影響
4	経済の一般的条件 (3) 歴史と住民——住民の構成、歴史的発展過程
5	経済の一般的条件 (4) 歴史の住民——先住民とその文化・経済、植民の展開
6	経済の一般的条件 (5) 住民の社会的特質
7	経済の一般的条件 (6) 人口増加、分布状態、都市の発展
8	経済活動 (1) 農牧業——土地所有、農場規模構造、生産構造、生産物の経済的特性
9	経済活動 (2) 農牧業——農牧業の地域分化、生産の地域的特性
10	経済活動 (3) 鉱山業——経済における鉱山業の地位、発展過程、主要鉱山業地域
11	経済活動 (4) 商業・貿易——輸出業の盛衰、その特質
12	経済活動 (5) 工業——工業化の進展、経済における工業の地位の変遷、工業地域の形成過程と地域的特質
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済発展の諸相 (1) ラテンアメリカ農牧業の特質——大土地所有制、輸出指向、近代化と農村人口減少、農村の貧困
2	経済発展の諸相 (2) 一次産品輸出経済——その形成過程と要因、温帯工業国との関連
3	経済発展の諸相 (3) 工業化戦略の展開——輸入代替工業化戦略、自由主義戦略
4	経済発展の諸相 (4) 経済発展と所得分配——現状と歴史的、社会的構造的要因
5	経済発展の諸相 (5) 都市のインフォーマルセクター——その実態とその社会経済的意義
6	ブラジルの経済 (1) ブラジル経済の特質、その形成過程、自然的基盤
7	ブラジルの経済 (2) 経済発展の地域的特質、地域較差と地域開発計画の進展
8	ブラジルの経済 (3) ブラジル経済における日系人
9	アンデス諸国の経済的特性——とくにペルー、コロンビア、ベネズエラ、ボリビアの経済的特性
10	温帯ラテンアメリカの経済——アルゼンチン、ウルグアイ、チリその経済的発展
11	メキシコの経済——アメリカ合衆国との関係
12	ラテンアメリカ経済と日本との関連——歴史的過程、日系企業の進出、相互依存関係
備考	

科目名	地域産業政策論	担当者名	伊藤正昭
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>これまで、産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきた。もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。</p> <p>こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとしたい。</p> <p>とくに、わが国の例を参考にしながら、産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>
講義概要	<p>わが国では産業政策 (industrial policy) という言葉がよく使われる。しかし、産業政策は、経済政策のなかでも位置づけが曖昧で、理論的な基礎も確立していない。わが国ではなじみの深い産業政策は、先進各国では最近になって注目するようになったものである。</p> <p>講義では、わが国の産業政策の実態を分析しながら、産業政策の体系的な理解に努める。これによって産業構造政策の特異性が明らかになるであろう。ついで、産業組織政策 (独占禁止政策) の意義と内容に触れ、産業構造政策との関係を明らかにする。</p> <p>さらに、地方分権化、地域の自立、地域産業をキーワードにしながら、地域経済のあり方を多面的に検討してみたい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小宮隆太郎・奥野正寛他編『日本の産業政策』東大出版会、1984年</li> <li>・伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年</li> <li>・今井賢一・小宮隆太郎編『日本の企業』東大出版会、1989年</li> <li>・三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年</li> <li>・チャーマーズ・ジョンソン／矢野監訳『通産省と日本の奇跡』TBSブリタニカ</li> <li>・マイケル・ダートウズス他／依田直也訳『Made in America』草思社、1990年</li> <li>・O. E. ウイリアムソン／浅沼・岩崎訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年</li> </ul>
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行って、成績の評価を行う。</p>
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済政策</p>



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策と産業政策の関係—産業政策はセミ・マクロの経済政策—
2	産業政策の意義と問題点(1)—産業政策の3つの領域—
3	産業政策の意義と問題点(2)—現代の自由主義と保護主義—
4	日本の産業政策の特徴と変貌—旧産業政策から新産業政策へ—
5	戦後における産業政策の展開—政府主導の産業育成政策の実態と評価—
6	諸外国の産業政策—イギリス、EU、アメリカ、ASEAN、中国—
7	産業調整の意義と問題点—構造的不況業種の撤退と縮小—
8	積極的調整政策の構造—衰退産業の活性化、OECDの戦略—
9	産業構造の高度化と産業調整—日本の経験からなにが学べるか—
10	産業政策の変質—規制緩和、行政指導の制限、PL法、官僚の役割—
11	産業組織と政策(1)—産業組織論（ハーバード学派とシカゴ学派）
12	産業組織と政策(2)—規制緩和によって産業組織はどう変わるか—
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	産業政策としての中小企業政策—産業政策との連動性—
2	中小企業政策の成立根拠—諸外国の中小企業政策の比較から学ぶ—
3	産業構造政策からみた中小企業—中小企業基本法と近代化政策の役割—
4	産業組織政策からみた中小企業—下請分業システムの取引コスト分析—
5	中小企業政策の透明性と国際性—産業政策としての有効性の検討—
6	地域政策の理念と現実—市場原理による地域間分業構造と地域格差—
7	地域政策における課題—地域経済への政府介入はなにをもたらしたか—
8	地域構造の調整と政策—日本の地域開発政策における問題点—
9	地域の自立と地域主義—地方分権の必要性和条件、地域の主体性とは—
10	地域の活性化と地域産業—地域の論理と産業の論理のずれと政策—
11	地域産業起こしと地場産業—産業活性化と地域活性化のケース・スタディー—
12	まとめ
備考	

科目名	社会政策	担当者名	桑原靖夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>社会政策 (Social Policy) とは一体いかなる学問なのか。講義名を聞いて直ちにその内容を類推することができる人はきわめて少ないだろう。元来、社会政策という学問は明治期にドイツから輸入された政治経済学であり、資本主義の発展に伴い、展開してきた様々な労働問題を対象とする政策科学として成立・発展してきた。しかし、今日では、社会政策が対象とする領域も大きく変わり、多くのチャレンジングな問題が提起されている。講義では新しい視点から広く「労働」(働くこと)にかかわる現代の様々な政策課題を検討する。</p>		
講義概要	<p>今日、世界の労働の分野では、きわめて多くの注目すべき変化が展開している。雇用機会の空洞化現象、国際労働力移動 (外国人労働者)、開発途上国の低賃金、技術革新の雇用に与える衝撃、高齢化、女子労働者の増加、労働時間短縮、サービス経済化など、枚挙にいとまがない。人生において、労働 (雇用) の次元はしばしば最も重要な時期を占めている。21世紀に向けて我々の社会における労働のあり方はいかなる変貌をとげるのだろうか。</p> <p>講義では、いまやきわめて広範な領域にまで拡大した労働の問題を整理し、新たな実証分析の成果を加えて解説する。並行して開設される「労働経済学」が理論的・実証的アプローチを主とするのに対して、「社会政策」ではより幅広く問題の政策的アプローチを主とすることにしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本講義では特定のテキストを使用しないが、桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995年)は講義の一部をカバーしている。</p>	
	参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <p>・桑原靖夫・G. バンバー、R. ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年</p>	
評価方法	<p>原則として年1回ないし2回のテストによる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義で取り上げる課題は多くの点で、受講生諸君の今後の人生のあり方、設計に関連する重要な意味を内包している。受け身で授業に出るのではなく、積極的に問題を発見する意欲を持って出席してほしい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期・後期（講義の進行は受講者の理解度を見て調整する）

- 1 社会政策とはいかなる学問か  
社会政策学の歴史、産業の発展と社会政策の対象とする内容の変遷を取り上げる。
- 2 第二次大戦前の社会政策（2回）  
戦前日本の工業化と社会政策の課題について説明する。あわせて、戦後の一時期、学会の中心的テーマであった社会政策論争といわれる論争の評価を行う。
- 3 現代の社会政策の展望  
高度な段階にまで到達した工業化社会における労働の特徴、ポスト工業化時代の到来と社会政策が対象とする課題の変容について検討する。
- 4 国家の盛衰と労使関係（2回）  
第二次大戦後の極貧の時代から「世界の先端モデル」とまで言われ、いまや頂点へ立つことになった日本経済の発展過程における労使関係の役割について評価を行う。
- 5 日本労使関係：歴史の変遷（2回）  
労働問題の中心的課題のひとつである労使の関係は、戦後の「労使対決」の時代から「労使協調」の時代へと変容した。この変化の過程を新たな視点から解剖してみたい。
- 6 変化する雇用・労働の世界（展望）  
現代日本の労働市場では、サービス化・情報化、高齢化、女性化など、雇用の仕組みの再編が進行している。これらの構造的変化と労働市場への影響を展望する。
- 7 雇用機会としての企業（2回）  
企業は労働者がそこに雇用され、賃金・俸給を得る場所以上の意味を持っている。生き甲斐発見の場、スキル蓄積の場としての企業の意味、日本人が企業に期待するものはなにかを考察する。
- 8 現代日本の経営構造と労使（2回）  
働く場としての日本の企業は、経営の構造・編成という点でいかなる特徴を持っているのか。日本的雇用慣行といわれる大企業に特有な制度、慣行の実態を新しい角度から分析する。
- 9 中小企業の労使関係  
日本の雇用機会の大部分を構成するのは、中小企業である。この領域における雇用についての通念と現実の差異、雇用労働の特徴を分析する。
- 10 採用と配置・昇進  
企業における採用、配置、昇進のあり方は、労働者の勤労意欲、報酬、効率などに重要な意味を持つ。今日求められている公正な採用、配置、昇進とはいかなる内容のものか。
- 11 変わりゆく労働組合：新しい労使関係の枠組み  
伝統的労使関係は、労働組合と使用者（団体）の関係を意味してきた。しかし、今日では組織率の低下など、労使の関係は実態および概念の双方において再編を迫られている。
- 12 景気循環と賃金・雇用調整  
資本主義経済においては景気循環は避けがたい現象である。企業が実施する賃金・雇用調整の仕組みを分析し、日本の特徴を明らかにする。
- 13 技術革新と変貌する職場  
1970年代以降、マイクロエレクトロニクスなどの技術革新の展開で、日本の職場は大きく変貌した。これらの技術変化が雇用や仕事の内容に与える影響を考える。
- 14 サービス化・情報化と労働のあり方  
サービス化の進展はホワイトカラーの増加、労働の質的・量的変化、労働時間の弾力化など、多くの変化を雇用の場にもたらした。今日の国民的課題ともいえる時間短縮についても考察する。
- 15 高齢化時代の経営と労働  
21世紀初頭には世界有数の高齢国となる日本では、従来の雇用慣行にも様々な修正が迫られている。高齢者に適した職場の再編・処遇、生き甲斐などについて考える。
- 16 国際化と労使関係  
日本企業の海外直接投資の拡大にともない、日系企業に働く現地従業員の数も増加した。この新しい環境における日本的経営・労使関係を検討する。
- 17 外国人労働者と日本（2回）  
1980年代から急速に増加した外国人労働者は日本社会に大きな衝撃をもたらした。その実態と政策のあり方について考察する。
- 18 新しい働き方を求めて  
21世紀に向けて、真に人間らしい仕事と生活の両方を求めて、「新しい働き方」の模索が始まっている。その現状と方向性について展望を試みたい。

科目名	労働経済論	担当者名	桑原靖夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する次元、いかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。</p>		
講義概要	<p>労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新しい問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。医学でいえばいわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには1年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。受講者が終了段階で今まで見えなかった世界への分析武器を身につけることが出来たと実感できるように、インテンシブな講義を目指している。講義では現代労働経済学の主要領域をカバーし、さらに上級段階へ登頂するための手がかりを準備したい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本講義の全体をカバーするテキストはないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成9年 労働白書』日本労働研究機構、1997年6月頃刊行。</p>	
	参考文献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学の主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献のいずれかに目を通すことを勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年）</li> <li>・小野旭『労働経済学』（東洋経済新報社、1994年）</li> </ul>	
評価方法	<p>原則として年1回ないし2回のテストによる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義はできるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

- 1 労働経済学とはいかなる学問か  
臨床医学・基礎医学との対比  
制度学派、社会政策学との関連  
応用経済学としての特徴
- 2 労働経済学の発展  
イギリス、アメリカなどにおける学問的発展  
マクロ・ミクロ経済理論との関係  
労働統計の見方、使い方
- 3 労働市場の理論（学説史的考察）  
学問的系譜  
制度学派、新古典派、組織の経済学
- 4 労働市場理論の展望(1)  
制度学派の貢献、分析のための工具箱の充実
- 5 労働市場理論の展望(2)  
新古典派の労働市場についての見方
- 6 労働市場理論の展望(3)  
組織の経済理論、組織論  
理論の統合は可能か
- 7 労働供給の理論(1)  
家計の経済学的意味、所得・余暇選好の理論、労働供給の理論→供給曲線の導出、供給曲線の形状と意味、所得効果と代替効果
- 8 労働供給の理論(2)  
日本の経済学者の貢献、新しい発展→新家庭経済学 (New Home Economics)  
家計内生産 (home production) の意味
- 10 労働需要の理論(1)  
派生需要としての労働需要、企業の行動様式の理論化、企業の労働需要曲線の導出、産業・社会全体の労働需要
- 11 労働需要の理論  
不完全競争下の労働需要、投資と雇用
- 12 労働市場の構造と機能（2回）  
労働市場における需給調整、調整の速度、制度的要因  
分断的労働市場 (Segmented Labour Markets) の理論
- 13 労働移動（2回）  
労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働移動の理論と実証  
無制限的労働供給の理論（ジョブ・サーチの理論）
- 14 賃金決定・賃金構造（2回）  
賃金決定の理論、賃金構造（賃金格差）、賃金プロファイル、最低賃金制度、労働組合と賃金決定
- 15 雇用と賃金の理論(1)  
古典派理論、ケインズ理論、新古典派理論の展開  
失業の概念→自発的失業、非自発的失業、摩擦的失業
- 16 雇用と賃金の理論(2)  
失業とインフレーション、フィリップス曲線、自然失業率の概念、所得政策、効率賃金仮説、暗黙の契約理論
- 17 雇用調整のメカニズム  
雇用調整の速度と範囲、雇用保険制度の機能
- 18 人的資本の理論  
理論の基本的骨組み、熟練と訓練、一般的熟練と企業特殊熟練  
教育の経済学→教育投資と生涯賃金、応用問題：差別の経済分析  
高齢化と定年制
- 19 労使関係の理論（2回）  
労働組合の構造と機能、団体交渉、労使協議、苦情処理  
耐立と協調、シェア・エコノミーの概念

科目名	財政学	担当者名	大島通義
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>政府は年々予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これを外交や軍事、社会福祉や教育、公共投資、さらには対外援助などにあてている。「財政学」とは、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。公共部門の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えているのと同時に、政府の意思決定にかかわる政治や行政にも目を向けることが必要になる。このような観点から、家計、企業、国際経済に大きな影響を及ぼしつつある現代財政についての理解を深めることを、この講義は目的とする。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財政とは何か——最近の財政問題、財政学の課題</li> <li>2. 民間部門と公共部門——「市場経済」と「政府」の関係、第三セクターの役割</li> <li>3. 公共財政の制度とその収支——政府の経済活動の計画としての予算、そのバランスシート、国と地方公共団体の財政関係、国民経済計算における政府部門の構成とその収支</li> <li>4. 政府の役割——「公共財」とは何か、その供給のメカニズム、福祉国家の成立とその財政、高齢化社会の財政問題</li> <li>5. 租税論——租税とは何か、租税の歴史とその体系、租税各論（所得税、法人税、消費税、資産税等）</li> <li>6. 公債発行をめぐる財政問題</li> </ol>	
使用教材	テキスト	<p>貝塚啓明・宮島洋『財政学』（放送大学教材）、その他、講義の必要に応じて、参考文献目録、資料等を配布する。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貝塚啓明『財政学』第2版（東大出版会）</li> <li>・林健久・今井勝人編『日本財政要覧』（東大出版会）</li> <li>・本間正明編『ゼミナール現代財政入門』（改訂版）日本経済新聞社</li> </ul>
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求めることがある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提にして講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要、最近の財政問題、財政学の課題
2	「政府」とは何か、二つの見方
3	「市場経済」と「政府」、その中間組織
4	予算の仕組みとその決定の過程
5	国民経済計算における政府部門
6	国と地方の財政関係
7	「公共財」とは何か
8	政府支出決定の論理とその実際
9	政府支出の長期的趨勢
10	公共投資とその管理——社会資本の整備
11	福祉国家の成立とその発展
12	高齢化社会の財政問題
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	租税とは何か、租税体系、租税負担の国際比較
2	個人所得税の理論とその実際
3	同 上
4	法人企業課税の理論とその実際
5	同 上
6	消費課税の理論とその実際
7	同 上
8	資産課税の理論とその実際
9	同 上
10	租税政策の社会経済的作用
11	公債発行の財政問題
12	同 上
備考	

科目名	日本財政論	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>「財政危機」、「行財政改革」、「公共部門の借金四百数十兆円」といった文字を新聞や雑誌で毎日のように見かけるが、これはわれわれの社会生活と財政あるいは公共部門の活動とが深く結びついていることのあらわれであると考えられる。財政支出がこれほど巨大になったにもかかわらず、平成の大不況から抜けられず迫り来る高齢化社会にも備えなければならないのが日本の今日の姿である。本講では中央・地方の公共部門が効率的で公平な経済活動を行うためにどのように行動してきたか、今後どのようにすべきかといった問題を考える。</p> <p>日本の財政を図や表を使いながら概観し、今日の財政の姿を明らかにする。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評価方法	年度末の成績および中間での小テストの成績によって評価する。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 1. 公共部門の範囲

- ① 財政とは何か ② 国民経済に占める政府の活動領域の拡大 —「安価な政府」から「高価な政府」へ— ③ 文献紹介

## 2. 財政の役割と機能

- ① 資源配分機能 ② 所得再分配機能 ③ 経済安定化機能

## 3. 日本経済の現状

- ① 中央・地方の財政規模と GNP ② 財政の国際比較 ③ 本年度予算の特色

## 4. わが国財政の歩み

- ① 明治期の財政 ② 大正から昭和初期の財政 ③ 戦後の財政——シャープ勧告 ④ 高度成長期の財政  
⑤ オイルショックの影響と財政 ⑥ 低成長期の財政

## 5. 予算制度

- ① 予算制度の概要 ② 予算の機能と原則

## 6. 政府支出の内容と規模

- ① 政府支出の増大と内容の変化 ② 政府支出の効率化——財政改革

## 7. 政府収入の内容と規模

- ① 財政赤字の増大 ② 租税の意義と分類 ③ 租税原則 ④ 租税構造 ⑤ 所得税、法人税、消費税

## 8. 公債

- ① わが国の公債制度 ② 公債政策の推移 ③ 公債の機能 ④ 累積公債と財政再建

## 9. 財政投融资

- ① 財政投融资とは何か ② 財政投融资の役割 ③ 財政投融资の規模と運用

## 10. 地方財政

- ① 国家財政と地方財政 ② わが国地方財政の特色——国際比較 ③ 国・地方間の事務配分と税源配分  
④ 財政調整制度 ⑤ 地方債

## 11. 財政の現状と今後の課題

- ① オイルショック以後の財政 ② 行財政改革 ③ 地方分権 ④ 情報公開

科目名	公共経済学	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどうする方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。		
講義概要	公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。		
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評価方法	年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 1. はじめに

- ① 公共部門の範囲 ② 関連する図および表配布 ③ 文献紹介

## 2. 公共部門存在の理論的根拠

- ① 市場の失敗 ② 資源配分 ③ 所得再配分 ④ 経済成長・経済安定

## 3. 公共財の定義と理論的特徴

- ① 純粋公共財 ② 混合財と補助金政策 ③ メリットウォント

## 4. 社会資本と公共サービス

- ① 社会資本と経済発展 ② 高度成長と社会資本充実政策 ③ 高齢化社会に向けて

## 5. 公共サービスの供給と財源調達

- ① なぜ租税が必要か ② 公平な課税制度 ③ 各種課税様式 ④ 公共料金政策

## 6. 公債政策

- ① 公債の増大 ② 公債管理政策

## 7. 地方政府

- ① 地域公共財の供給 ② 地方財政の拡大

## 8. 都市問題——極集中問題

- ① 土地と住宅 ② 交通問題 ③ ゴミ問題

## 9. 環境問題と財政

- ① 市場の失敗と環境政策 ② 課徴金か補助金か ③ PPPから環境税へ

## 10. 高齢化社会と財政

- ① 高齢化の進展 ② 年金財政 ③ 高福祉・高負担

## 11. まとめ

科目名	金融論A、B	担当者名	田村申一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>金融論は理論経済学と違い、抽象的な理論の枠にとどまっていたら意味がなく、いま動いているナマの姿をとらえて分析して、はじめて生きてきます。とはいっても、金融論は応用経済学の一分野ですから、理論の裏付けがなければ、ただの時事解説になってしまいます。金融のさまざまな出来事をバラバラではなく、理論をもとに体系的に把握することによって、金融の姿が立体的に分るのです。この講義では、最小限の現代理論をベースにし、理論分析と現状分析を絡めながら、激動する金融の世界を解明し、分り易く面白く説明していきたいと思っています。</p>	
講義概要	<p>金融を理解するためには、金融システム、金融行動、金融市場、金融政策の4本柱を一体的にとらえ、それらの相互関係を把握することが最も大事です。時代環境は金融システムを規定し、その中で各経済主体の最適な金融行動が決まり、結果的に行われる金融取引が金融市場を動かします。金融市場の動向は金融政策を発動させ、政策は金融行動や市場を望ましい方向に誘導します。このような視点から、講義ではこれら4本柱を順次説明し、それらの体系的な理解が得られるようにしたいと思います。講義のもう一つの視点は、これら4つのテーマを全体として一つの大きなテーマで包括することです。いま、日本では金融自由化、証券化、国際化が急速に進んでいますが、これらを軸にまとめてみます。</p>	
使用教材	テキスト	未定。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山田良治・田村茂・田村申一・花輪俊彦著『金融入門』有斐閣、1989年。</li> <li>・堀江康熙・吉野直行著『金融』東洋経済新報社、1991年。</li> <li>・池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顯著『金融』（新版）有斐閣、1993年。</li> <li>・柴沼武・森映雄・藤下史郎・書問文彦著『金融論』有斐閣、1993年。</li> <li>・岩田規久男著『金融入門』岩波書店、1993年。</li> </ul> <p>あとは各章ごとにその都度提示します。</p>
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。前期レポートの提出期限は9月末日（教務課）、後期試験は定期試験の時間割で実施します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠状況と成績との間には、ほぼ正の相関関係がみられます。欠席すると、内容の理解が困難になってきます。授業には、必ず出席して下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス この講義のねらい、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法など 序章 金融の現況と問題点
2	第1章 金融システム 1 マネー (1)マネーの機能 (1A) 古典派、ケインズ、ケインジアン、マネタリストの貨幣観、(2)マネーサプライ
3	(3) 金融自由化とマネー 2 資金循環 (1)資金過不足
4	(2) 金融の機能と金融方式 (2A) 間接金融の優位
5	(3) 金融構造の変化 3 金融制度 (1)戦後、日本の金融制度
6	(2)金融制度改革 (2A) 金融制度改革の実施状況
7	(3) 金融国際化と今後の金融制度 第2章 金融行動 1 資産選択 (1)個人・企業の貨幣需要
8	(2)投資家のポートフォリオ・セレクション (3)個人部門の資産選択の推移
9	2 企業金融 (1)企業の資金調達 (2)金融方法と資金コスト
10	(3)企業金融の変容 3 銀行行動 (1)銀行の機能
11	(1A) メインバンクの機能 (2)銀行の業務
12	(3)信用創造のメカニズム (4)銀行の経営原則と行動原理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1章～第2章のまとめ 金融システムと銀行行動をめぐる課題と展望
2	第3章 金融市場・金利 1 金融市場 (1)金融取引と金利裁定 (2)マネーマーケット
3	(2A) マネーマーケットの自由化 (3)公社債市場
4	(4)金融派生市場 (4A) 先物取引、オプション取引の拡大
5	2 金利 (1)利子率水準 (2)預金金利、貸出金利と金利自由化
6	(3)金利の期間構造 (3A) 利回り曲線の推移
7	第4章 金融政策 1 金融政策の目標 (1)政策目標 (1A) 国際政策協調と国内政策目標
8	(2)運営目標 (2A) マネーサプライ重視の金融政策
9	2 金融政策の手段 (1)貸出政策 (2)オープン・マーケット・オペレーション
10	(2A) 日本銀行の金融調節 (3)準備預金制度
11	3 金融政策の有効性 (1)金融政策の波及経路 (2)金融自由化・国際化と金融政策の有効性
12	第3章～第4章のまとめ 市場規律と公的規制、セーフティネットをめぐる課題と展望
備考	

科目名	国際金融論	担当者名	山本美樹子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>本講義ではこれから社会にでていく諸君が、日々のニュース、新聞等をにぎわしている国際金融に関連した出来事を、読みこなしていく、あるいは耳で聞いただけであつたことを知っているんだ、とわかるように、基礎的な事項についての講義、さらには最近特筆すべきことについての講義をしていく。</p>	
講義概要	<p>金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じである。ただ、国際間では通貨単位が異なるため国内金融にはない様々な問題がでてくる。本講義の前半では国際金融論を学ぶのに当たって最低限知ってほしいこと、たとえば、為替レートはどのように決まってくるのか、政府の介入行為とは...という点にスポットを当てて説明していく。</p> <p>応用編では、現在の国際金融制度が設立されるまでのいきさつ、経過といった歴史的な側面、世界的に注目を浴びている開放マクロ経済政策、それに関連した国際政策協調、国際的な資本移動等のテーマをとりあげて説明していく。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	<p>標準的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺福太郎編『エレメンタル国際経済学』英創社</li> <li>・伊藤元重『ゼミナール国際経・経済入門』日経新聞社</li> <li>・高木信二『入門国際金融論』日本評論社</li> <li>・須田美矢子『国際マクロ経済学』日経新聞社</li> </ul>
評価方法	<p>後期の試験と出席</p> <p>前期末には夏休みのレポート課題を出す。後期試験に失敗したものについてはレポートを加味して評価を出す。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出席をきちんとすること。</p>	

講義を始めるにあたって

第一部 国際収支

第1章 国際収支とは何か

- 1、国際収支表
- 2、経常収支とは
- 3、経常収支の金融的側面
- 4、経常収支の変動メカニズム

第二部 外国為替取引と為替レート

第2章 外国為替取引と為替レート

- 1、外国為替、為替レートとは何か
- 2、為替リスクとヘッジング
- 3、為替投機
- 4、外国為替市場への介入

第3章 為替レートの決定と変動の理論

- 1、購買力平價説
- 2、フローアプローチ対アセットアプローチ

第4章 固定相場制とは何か

- 1、金本位制
- 2、IMFとブレトン・ウッズ体制
- 3、固定相場制のメカニズム
- 4、固定相場制はなぜ崩壊したのか
- 5、世界の通貨制度

第三部 開放マクロ経済学

第5章 開放マクロ経済学

- 1、外国貿易乗数の理論
- 2、固定相場制の開放マクロ経済学
- 3、変動相場制の開放マクロ経済学

第四部 国際資本移動の拡大

第6章 国際金融取引拡大の背景

- 1、国際金融取引とは何か
- 2、国際資本移動とは何か
- 3、国際投資と為替レート
- 4、外国為替のスワップ取引の具体的形態
- 5、オプション取引

第7章 ユーロ取引

- 1、ユーロ市場、ユーロ取引とは何か
- 2、ユーロ市場の始まり
- 3、ユーロダラーの信用メカニズム
- 4、ユーロダラーの発展
- 5、ユーロ債とユーロ債の金利スワップ

第8章 発展途上国の累積債務問題

- 1、累積債務問題顕在化の背景
- 2、メキシコのデフォルト
- 3、ソブリンデフォルトとは何か
- 4、デフォルトに対する対応

講座をしめくくるにあたって

科目名	社会科学概論	担当者名	宮澤 清
-----	--------	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>誕生期経済学の思想的基盤となったのは、「自然法理論」と「自然秩序」の思想である。ここでは、存在と当為が、現実と価値が直接にかつ論証も経ないで同一視された。19世紀末葉の「限界革命」とよばれる経済学は、経済現象を専ら個人の主観的な行為にまで遡って分析する。そこでは、現実と価値、事実と当為が峻別されるという論理が働いている。ケインズの『一般理論』は現実に直面している経済現象を病理現象であるとみなし、その病気についての診断と治療を提示した点にその特徴がある。人間の経済学は、経済学に人間性を賦与し、人間の優位を確立し、人間らしく生きるための批判的精神と何ごとにも理性と経験にもとづいた論議によって解決することを基本信条とする批判的経験主義を保持するということである。</p>		
使用教材	テキスト	・拙著『社会科学方法論』白桃書房	
	参考文献		
評価方法	期末テストによる。		
受講者に対する要望など			



年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	序論：社会科学としての経済学成立の基礎となったのは、近代自然法論と近代自然科学理論であるが、それにもまして重要なのは、それまでの自然法哲学である。それは歴史のなかで永劫回帰するものだからである。
2	ピュンスとノモス：自然法の観念はギリシャ哲学に溯るが、ピュンスとノモスとの最初の理論上の対置は、ギリシャ自然学に見出される。その対置はソフィストに用いられ、プロタゴラスによって実践的に唱えられた。
3	形相理論：プラトンにおいては、ピュンスは「イデア」と同じ意味で用いられ、事物そのものの本質を意味した。その本質基準にもとづいて真と偽との、実在と現象との、エピステーメとドクサとの対置が明示された。
4	目的原理：アリストテレスにおいても、形相は事物の本質であるが、個物に対して超越的ではなく内在的である点でプラトンと異なる。その形相は、質料と結びついて事物に内在し、潜在態から顕在態へと展開し遂には神にいた。
5	ロゴス：自然法を最初に理論化したのはストア学派である。創始者ゼノンには、万有を貫く掟は「ロゴス（理性、理法）またはピュンス（自然）に従って生きよ」ということであると唱え、感覚に対して理性を重視した。
6	ストア的理性：キケロやセネカは、法の基礎はドクサ（臆見）ではなくピュンス（自然）であり、理性によって認識されるという。ここに、理性によって平和を保持するというストアの自我を重んずる精神がみられる。
7	純粹形相：トマス其自然法論は、アリストテレスの目的論的自然観をその哲学的支柱として、宇宙の目的論的秩序の頂点に自ら動くこともなく、一切の世界生起の元となる純粹形相としての不動の神が存在すると説く。
8	形相→質料：近代になると、ガリレオやデカルトによって自然の概念は一変し、形相が質料にとってかえられ、新たな自然認識の方法が確立された。なかでも、数理的手法を認識のモデルとしたのはニュートンであった。
9	自然権：ホッブズの哲学は機械論的社会観である。そこでは各人が己の欲するままにその力を用いる自由が自然権と規定され、それをコントロールするために理性によって人為的に作り出された戒律が自然法とされた。
10	自然的自由：ロックは、この世に地上の人びとを裁く絶対的な権威をもつ者がたとえいなくとも、理性によって、人びとの生活が互いに自由であり、平等であり、人びとの生命や財産も尊重される権利を自然権とする。
11	コンベンション：ヒュームは、ホッブズにならって「人間の本性は利己心である」とし、この利己心を抑える便宜的な取決めをコンベンションとよび、これによって成立する社会の基本的ルールが自然法であるとした。
12	自然的秩序：誕生期における経済学の思想的基礎は自然法哲学である。この概念にもとづいてケナーはこの概念を経済学に援用した。それは重農学派の哲学的基礎としての自然法であり、普遍的法則概念としての自然的秩序である。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	自然的自由：アダム・スミスが経済学の基礎に据えたのは、自然的秩序と自然的自由の概念であり、利益の自然調和の理論である。この理論で看過しえないのは、ニュートン力学とライブニッツの神の予定調和である。
2	自然価格：スミスが重視したのは、価値の最善の尺度としての労働と規範としての自然価格である。労働はピューリタンの禁欲主義的なエートスの反映であり、自然価格はその属性が自然法思想の一つの顕在態である。
3	限界革命：19世紀後半における経済学近代化の動きは「限界革命」とよばれる。その理論は、古典派になかった限界分析や一般均衡の分析という二つの新しい理論を生み出したという思想上の革命であったからである。
4	目的と手段：ワルラスの一般均衡理論とパレートの無差別曲線の理論は、ともにマックス・ウェーバーの没価値性の理論と同じように目的と手段との関係の論理によって規定される合理的行動の論理によって貫かれている。
5	関数概念：19世紀後半以降の経済学は、マッハの「要素一元論」とカッソーの「実体概念と機能概念」において端的に示される。彼らが試みたのは、実体（因果）から機能（関数）への移行の重視ということである。
6	名目論：新古典派経済学は方法論的个体主義である。そこでは「経済人」の仮定が本質的なものから名目論的なものにとってかえられたからである。ジェヴォンズ、メンガー、ワルラスの理論がそれを巧みに論証している。
7	ケインズ革命：ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』がケインズ革命とよばれるのは、スミスの「見えざる手」の論理にもとづいて展開されてきた従来の経済学を排して不況を克服する理論であったからである。
8	自然と人間：カール・ポランニーが提起したのは、人間の経済学を主題としての、「経済的」という言葉の形式的な意味から実質的な意味への再認識ということであった。その意味とは、自然と人間との共存のことである。
9	人間の経済学：現実のさまざまな「危機」を克服し、経済学および社会科学に人間性を賦与するには、経済学および社会科学が人間を出発点とする方法論、つまり方法論的人間主義にもとづくものでなければならない。
10	認識の客観性：この講義で最も重要なのは、社会科学における認識の客観性についての問題である。そこでのポイントは、科学は認識の作用であり、その任務は、支配ではなく説明であり、世界を記述することである。
11	方法：社会科学でいう「方法」とは、社会ないし歴史における技法ではなく、科学的知識が知識として受け入れられるための論理的根拠を問うという意味であるから、いかなる科学も、その方法は、原理上同じである。
12	同質性：社会科学と自然科学を質的な違いとしてではなく程度の違いとして連続的にとらえることによって、自然科学と同じ範疇の客観性（論理による批判と経験による批判）が社会科学においても可能となるのである。
備考	

科目名	地域精神衛生論 —暮らしの中の精神衛生—	担当者名	佐々木 雄 司
-----	-------------------------	------	---------

講義の目標	<p>「地域精神衛生」とは、コミュニティメンタルヘルス (CMH) の日本語訳である。私は精神科医で、CMH のパイオニアの1人である。</p> <p>CMH の基本思想は、メンタルヘルス活動の輪を、「医療の場」の専門スタッフから、「生活の場」の一般社会人にまでひろげることである。私自身、日頃の実践の中で、あらゆる生活の場（地域、職場、学校）に、精神衛生の基礎知識をもった仲間が1人でもいてくれたら……と思うことの連続である。産業精神衛生は、すでに現代の企業の重大問題の1つ。</p> <p>本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>		
講義概要	<p>「暮らしの中の精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっているありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての30数年間の私自身の実践や研究やフィードワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。</p> <p>我国は、急速な都市化・現代化のみではなく、高齢化の問題も加わり、高度のストレス社会に突入している。こうした現在、本授業が、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の1つともなれば幸である。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木 雄司『宗教から精神衛生へ』金剛出版、1986</li> <li>・厚生省精神保健課『我が国の精神保健』厚健出版（最新版）</li> </ul>	
評価方法	2回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。期末テストのみ参加は認めない。		
受講者に対する要望など	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと、参加することが基本要件。従って、先にも述べた講義形態のこともあり、遅刻は厳禁。なお、ゼミ生（地域精神衛生論）は、本授業も受講されたい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
3	いまそこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
4	" (2) まとめ
5	信仰と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) スライド
7	" (3) Video、まとめ
8	精神医学の知識 (1)具体例、グループ討論
9	" (2) スライド
10	" (3) Video、まとめ
11	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
12	" (2) スライド
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (3) Video、まとめ
2	家庭の精神衛生
3	学校の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
4	" (2) まとめ
5	職場の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) まとめ
7	加齢と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
8	" (2) まとめ
9	日本の医療の現状
10	医師、医療機関の選び方
11	総括 (1) 新聞記事、グループ討論
12	" (2) Video、まとめ
備考	

科目名	経営学	担当者名	河野重榮
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学科の学生が経営学に関する全般的な理解を得られるようにするために、この講義は設けられている。経営学では企業と経営を分けて考えているが、それは現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、解が与えられないからである。この「経営とは何か」を研究対象とするのが経営学である。</p>		
講義概要	<p>①はじめに経営学の対象と方法について述べ、②ついで明治維新以降の我が国における経営問題認識の過程を展望する。併せて、欧米とくにアメリカにおけるマネジメントの発展とそのわが国への導入に關説する。③さらに経営の職能論的理解にもとづき、経営の職能構造と経営者機関について述べ、経営活動が行われる制度的環境について考える。④最後に経営問題の今日的課題をとり上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河野重榮著『マネジメント要論』八千代出版</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</li> </ul>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義を正確に理解し、キチンと講義ノートをとるようにして欲しい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営学の対象と方法 ①「経営」とは何か
2	②経営経済学とマネジメント論
3	③経営の実際・実践・原理
4	経営問題認識の進展 ①近代産業人の養成と経営経済学の導入
5	②初期マネジメントの導入
6	マネジメント論の発展 ①テイラー・システム
7	②テイラー・システムの問題点
8	③フォード・システムとオートメーション
9	④スタッフ論とファヨールスム
10	⑤フォレットの機能的統一論
11	⑥人間関係の科学
12	国際化と日本的経営
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営職能構造 ①経営職能構造の形成
2	②有機的機能の分化と経営職能
3	経営者機関 ①株式民主主義と取締役会
4	②専門経営者の出現
5	③取締役会から常任執行委員会へ
6	④利害者集団論とコーポレート・ガバナンス
7	⑤CEOの職務と役割
8	マネジメント・リーダーシップ①マネジメント要素論
9	②マネジメントのフィードバック・モデル批判
10	③近代組織論と戦略的事業単位
11	④組織の活性化と人間資源管理
12	経営問題の今日的課題
備考	

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標	
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみだすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するという事、つまり合理的行動の基礎が必然的に求められることになる。結局、そこに求められるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎となる情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>
使用教材	テキスト ・拙著『財務会計論』白桃書房
	参考文献
評価方法	期末テストによる。
受講者に対する要望など	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2	測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3	伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4	会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定され制約される客体が会計単位といわれる。
5	継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6	貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7	真実性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真実性の原則とよばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8	剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則とよばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。各主体が立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9	明瞭性：財務諸表のうえでそれぞれの利害関係者に必要な会計事実を明確に表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則とよばれる。
10	継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五に規定される継続性の原則である。
11	保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12	単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念（形式）のない直観（内容）は盲目であり、直観（内容）のない概念（形式）は空虚である」ということである。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
2	情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債務者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
3	情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、財務情報の利用者に対する真の保証となるのである。
4	比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語るができるが、比較的可能性は単独では語るができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
5	コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。この二つの言葉は常に比較されることによって意味をもつのである。
6	資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
7	負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
8	持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつ言葉である。
9	包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
10	認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
11	真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうることもできて、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
12	認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心（関心方向）つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。
備考	

科目名	民法	担当者名	滝沢昌彦
-----	----	------	------

講義の目標	民法を専攻しない学生（他学部学生も含めて）を対象として、民法全体を概観する。細かい解釈論にまで立ち入るゆとりはないが、少なくとも主要な制度についてはきちんと理解し、民法について具体的なイメージを持つことを目標とする。		
講義概要	民法とは一般市民の生活に関する法律でありその内容は多岐に渡るが、大きくは財産法と家族法に分かれる。財産法分野では、法人制度等財産取引の主体である「人」に関する諸制度、不動産登記制度等財産取引の客体である「物」に関する諸制度、契約概念等財産取引そのものに関する諸制度の順に解説する。これらは財産取引法の基礎理論としての性格を持つ。その次に、実務上も極めて重要な債権担保に関する諸制度について説明する。家族法分野では、婚姻、親子、相談が主な話題となる。		
使用教材	テキスト	特に指定しない。ただし、六法は買っておくこと。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮海他『民法財産法入門』青林書院</li> <li>・成田博『民法学習の基礎』有斐閣</li> <li>・その他の参考文献については開講時に紹介する。</li> </ul>	
評価方法	前期にはレポートを提出してもらい、後期にはいわゆる期末試験を行なう。		
受講者に対する要望など	特にない。		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序：民法
2	財産法の構成（１）：物権と債権
3	人（１）：能力者制度
4	同上、代理
5	人（２）：法人制度
6	同上
7	物（１）：不動産登記制度
8	同上、登記の対抗力
9	物（２）：即時取得
10	物（３）：共有他
11	同上、占有
12	同上、時効
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	契約（１）：売買、契約の成立
2	同上、売買契約の内容、契約の効力
3	契約（２）：賃貸借地
4	同上、委任等、消費者取引（割賦販売法等）
5	損害賠償：不法行為、不当利得等
6	債権担当（１）：担保物権
7	同上
8	債権担保（２）：保証、相殺
9	財産法の構成（２）：抽象的上位概念とパンデクテン体系
10	家族法（１）：婚姻・親子
11	同上、後見
12	家族法（２）：相続、遺言
備考	

科目名	商 法	担当者名	青 木 英 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	ビジネス法としての商法について、最少の時間で、概説的知識を与えることを目標とする。		
講義概要	ビジネスの主体の組織に関する法である会社法、殊に株式会社法を中心に講義をする。株式会社法を中心とするのは、株式会社の現代社会における重要性を考慮したからである。株式会社法を中心としつつも、関連するビジネスの基本的な制度に触れ、ビジネス法の全体像の中で株式会社法を理解させる。		
使用教材	テキスト	青木英夫著：会社法（新訂版）、税務経理協会刊。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青木英夫著：手形法・小切手法（改訂版）税務経理協会刊</li> <li>・青木英夫著：商法総則・商行為法、税務経理協会刊</li> </ul>	
評価方法	前期および後期の試験を行うが、後期試験を中心に評価する。		
受講者に対する要望など	板書も多いので、ノートを持参すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	商法の特徴
2	商法の基本的制度
3	会社の意義
4	会社の営利性・社団性
5	会社の法人性
6	会社の解散命令
7	会社法人格の否認の法理
8	株式会社法の意義(1) 株式および有限責任
9	株式会社法の意義(2) 資本
10	株式(1) 額面株式および無額面株式
11	株式(2) 株式の併合および分割
12	株式(3) 株主の権利および株主平等の原則
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式(4) 特殊内容の株式
2	株式(5) 株主名簿、名簿の閉鎖および基準日
3	株式(6) 自己株式の取得禁止
4	株式(7) 株式譲渡の定款による制限
5	株式(8) 端株および単位株
6	株主総会(1) 総会の招集および議議権
7	株式総会(2) 決議および決議の瑕疵
8	取締役の意義および資格・員数
9	取締役会
10	代表取締役および表見代表取締役
11	取締役の義務および責任
12	監査役その他 (なお、講義の進行によっては、同テーマについて、数週に及ぶこともありうる。)
備考	

科目名	国際法	担当者名	廣部 和也
-----	-----	------	-------

講義の目標	国際社会の法である国際法について学ぶ。国際社会においても、国内社会（国家）と同様に、法が存在し一定の役割を果たしていることを知ってもらいたい。	
講義概要	国際法の全般について取り上げる。国際問題で国際法に関連する問題があれば、適宜取り上げて解説する。	
使用教材	テキスト	解説条約集（石本泰雄・小田滋編・三省堂、第7版） 標準国際法（寺沢一他編、青林書院）
	参考文献	
評価方法	試験による。適宜出席をとり評価の際に参考とする。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	この講義の全般的概要の説明
2	国際社会における国際法の役割と法としての特徴
3	国際社会における国際法の誕生と発展
4	国際法の存在形式。条約と慣習法
5	国家の成立と国家の権能
6	国家管轄権の態度
7	国家領域の性格
8	日本の領土問題
9	海洋法制の成立と発展
10	領海と公海
11	経済水域と大陸棚
12	深海底
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	航空機と人工衛星（空の制度）
2	人の国際的移動と国際法（国籍・外国人の地位・経済活動）
3	難民
4	人権の国際的保護
5	外交使節（外交官・領事）
6	国際責任法（国際違法行為と国家の責任）
7	国際請求
8	地球環境保護と国際法の規制
9	国際紛争の解決（裁判以外の紛争解決手続）
10	国際裁判
11	戦争の違法化と国際安全保障
12	軍縮
備考	

科目名	政治学総論	担当者名	永森誠一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>何が政治であり政治的であるかということをつくめて、政治について考えたり論じたりする方法ないし技術に親しんでほしい。その方法ないし技術を駆使するには、政治についての知識や情報が多ければ多いほどいいわけであるが、そうした知識や情報はほとんど無限に大量であり、欲を言えばきりがない。そこで、限られた知識、限られた情報を用いて、できるかぎり冷静に政治を考え論ずる方法ないし技術が、ここでいう政治学ということになる。</p>		
講義概要	<p>政治学はある意味では政治の構成要素であるから、政治の変化にしたがって政治学も変化する。他面、政治も政治学も人間とともに古いわけで、そのすべてを取り扱うことは無理であろう。この講義では、ここ100年余りの政治を現代政治と呼ぶことにして、もっぱらその現代政治と、現代政治を考え論ずる方法ないしは技術としての政治学を紹介することにした。要は、言葉と言葉の使い方、言葉の選び方や使い分けを練習すると心得ていただきたい。</p>		
使用教材	テキスト	特定のテキストは用いない。	
	参考文献	講義の冒頭で参考文献一覧を手渡したい。	
評価方法	<p>課題レポート。レポートの数と質を総合して判定するので、いわゆる平常点に近い。講義の冒頭で詳しく説明する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方と講義の概略について説明する。
2	「現代政治」とは何だろうか。その手がかりとして、まず「大衆社会」について考える。「われわれ」や「みんな」が動かす政治は、コンセプトとしては、かなりの通用力をもつようになっている。
3	「現代政治」を論じる手がかりの2つ目として、「国民国家」を取り上げてみる。「大衆」を「国民」に仕立て上げることが政治の課題であったし、課題でありつづけている。
4	手がかりの第3には、「政治権力」という問題を取り上げる。「政治権力」は、「大衆社会」と「国民国家」の相互作用が生み出した一種の力であるといえる。
5	もうひとつ、4つ目の手がかりとして、「産業」を加えておこう。それは「大衆社会」の原動力でもあり、「国民国家」はその道具でもある。
6	政治と政治学。政治を理解し説明する制度として政治学は形成されてきた。その制度の成り立ちを簡単に振り返っておく。
7	政治学が政治をとらえようとする時、モデルを使う。つまり、頭の中で簡単な模型を作ってみることになる。そのモデルを3つ用意しよう。過程、体制、そして構造と呼んでおく。
8	政治のモデルその1、政治過程。政治を時間の順序に整理して定型を作ってみる作業である。
9	政治のモデルその2、政治体制。政治をひとまとまりの全体とみなして、一個の体系として再構成してみる作業である。
10	政治のモデルその3、政治構造。政治過程や政治体制を規定している「見えざる手」を想定して、それを簡単な形に表現してみる作業である。
11	政治のモデルを使って、手近な材料で「現代政治」の肉づけをしてみよう。
12	前期の総括と補足。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「現代政治」の課題あるいは問題を整理し直してみる。重複は避けられないが、ひとつずつ考えていく。
2	大衆社会とデモクラシー（民主政）。まずは、投票による決定という制度がもたらしたものについて考える。
3	デモクラシーとリーダーシップ。大衆社会における政党の役割を改めて考える。マス・メディアの時代におけるリーダーシップという問題でもある。
4	国民国家と政治家。リーダーシップの問題を再論する。デモクラシーは、（政治家でない）国民と（やはり国民である）政治家が向きあう構造になっている。
5	国民国家とビューロクラシー（官僚制）。デモクラシーの前提に事実上なっている国民国家は、巨大な行政機構の形をとるようになった。
6	ビューロクラシーと政治権力。ビューロクラシーの浸透は、行政機構にかぎられない。それは、政治権力とは別の力を働かせているように見える。
7	政治権力と政党。政党と政党政治を再論する。政治権力を形成する手続としての選挙についても、改めて考えてみたい。
8	政党と政策。政治権力を形成する過程で、デモクラシーと最もなじむシンボル（象徴）としての政策について考えてみよう。政党も政府も、政策を作成するシステムにすぎないとしばしば言われる。
9	産業社会と政策。政策は国民国家の継続を前提にし、またその継続を目的とするが、国民国家の基盤である産業と産業が規定する社会構造とに影響される。
10	産業社会とデモクラシー。国民国家が要求するデモクラシーと産業社会が要求するデモクラシーは必ずしも一致しない。そこに「現代政治」のイデオロギーが生じるであろう。
11	イデオロギーとデモクラシー。イデオロギーのないデモクラシーは可能であろうか。
12	総括と補足。
備考	

科目名	ドイツ語 I (総合) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部と法学部の1年1組を合併して授業を行います。</p> <p>対象は、ドイツ語の基礎を高校(中学)で学んだことのある人か、ドイツ語圏に滞在しドイツ語の知識のある人です。</p> <p>ドイツ語の基礎的な力を確実なものにし、さらに高度な能力にのばすように指導します。</p> <p>文法を中心に勉強してきた人は、聞いたり話したりする力をつけましょう。また、耳からドイツ語を覚えてきた人は、正確な文章を話し、書くことができるように練習しましょう。</p>		
講義概要	<p>ドイツ人教員と日本人教員がペアを組み、緊密に連絡し合いながら指導します。</p> <p>日本人教員が、文法と語彙の説明、テキストの意味の確認を行います。次に、ドイツ人教員が、それらの知識をもとに、発音、反復、聞き取り、簡単な対話の練習を指導します。さらにわからないことがあれば、次の時間に日本人教員が質問に答え、説明します。</p> <p>教科書は、下記のものを使いますが、参加者の希望とレベルに応じて何課から始めるか決めたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag), および Arbeitsheft</p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典 (中型のもの)</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト、前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの紹介と今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (会話)	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	自然なスピードの英語をビデオから得られる視覚的情報を利用しながら理解し、また、基本的な日常英会話が行なえるようになることを目標とする。		
講義概要	ビデオを見てその内容を理解し、テキストにのっているスクリプトで内容の確認を行なう。また、ドリルとして、スクリプトからとった重要会話表現のリピートをする。さらに、さまざまな疑問文の作り方、文型練習などを行なう。最後に学習した内容の確認として True-False Quiz を行なう。		
使用教材	テキスト	Family Album, USA	
	参考文献		
評価方法	前後期定期試験としてビデオを使ったヒアリングテストを行なう。これに加え毎週実施する True-False Quiz, 出席、平常点などをもとに評価を行なう。特に遅刻せず授業に出席することが重要である。		
受講者に対する要望など	テキスト及び60分のテープを毎回持ってくること。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Episode 1, Act 1
2	Episode 1, Act 2
3	Episode 1, Act 3
4	Episode 2, Act 1
5	Episode 2, Act 2
6	Episode 2, Act 3
7	Episode 3, Act 1
8	Episode 3, Act 2
9	Episode 3, Act 3
10	Episode 4, Act 1
11	Episode 4, Act 2
12	Episode 4, Act 3 の概説及び復習
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Episode 5, Act 1
2	Episode 5, Act 2
3	Episode 5, Act 3
4	Episode 6, Act 1
5	Episode 6, Act 2
6	Episode 6, Act 3
7	Episode 7, Act 1
8	Episode 7, Act 2
9	Episode 7, Act 3
10	Episode 8, Act 1
11	Episode 8, Act 2
12	Episode 8, Act 3 の概説及び復習
備考	

科目名	英語 I (講読)	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	本講義は、英語で書かれた小説、随筆、雑誌、新聞など様々な文章を読みこなすことができる読解力の基礎を養うことを目標とする。		
講義概要	講義は、学生の英語力を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、読解力をつけるために訳読、要約、文法など総合的に学ぶ。		
使用教材	テキスト	各担当講師が決める。	
	参考文献	各担当講師の指示による。	
評価方法	各担当講師による。		
受講者に対する要望など	<p>予習、復習を欠かさず、積極的に学習して欲しい。</p> <p>年間講義予定については、授業時に指示する。</p>		

科目名	フランス語 I (一外)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基本的な知識を復習しながら、さらに確かなものにします。		
講義概要	この科目は、二人の担当者により週2コマ開講されます。授業の進め方などの詳細については、第一回目に各担当者から説明がありますので、必ず出席して下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	辞書や参考書については、直接担当者に相談して下さい。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語Ⅰ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>I A（基礎）／ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>I B（読解練習）／読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>I C（口頭練習）／日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p> <p>I Aを中心に、I AとI B、またはI AとI Cというように組み合わせて履修して下さい。</p>		
講義概要	<p>I A（基礎）／ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>I B（読解練習）／易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>I C（口頭練習）／コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。</p>		
使用教材	テキスト	各担当者により使用テキストが異なります。詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典（中型のもの）	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。
2	第2週～第12週 テキストに基づいた練習
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週～第12週 テキストに基づいた練習
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅰ（二外）	担当者名	上村 巖
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>1、英語の基本的な能力の再確認（大概の人は高校までに数年にわたり英語を学んできているわけだが、運用能力という面から見るといろいろ問題があると思われる。たとえば“go”“come”といった簡単な動詞を使いこなす練習は学校の授業の中では行われぬ。）</p> <p>2、限られた授業時間の中で出来ることには限度がある。授業で出来るのは、学ぼうという意欲のある人へヒントを提供することである。（英語を身につけようと思う人は、それぞれの志向と興味に応じて、英語に接し、親しむべきである。現代は教室以外で英語に接するチャンスは無尽蔵にある時代である。）</p>	
講義概要	<p>1、上記に従い、練習問題形式で授業をすすめる。</p> <p>2、しかし、大切なのは正解そのものではなく、その過程で行なう解説（しばしば雑誌風に行なう）を通じて、皆さんに提供するヒントである。</p> <p>3、上記2に基いて随時小テストを行なう。</p> <p>4、授業のできる以上のレベルのものを期待する有志のみを対象に、英文のレポートを自由参加形式で提出してもらおう。（テーマ等は授業時に指示する）</p>	
使用教材	テキスト	未定（開講時には決定しておく）
	参考文献	授業の中で折にふれて指示する。
評価方法	<p>1、期末テスト（これが中心となる）</p> <p>2、随時に行なう小テスト</p> <p>3、英文レポート（有志のみ）</p> <p>以上を総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>1、授業を受ける目的をきちんと考えてもらいたい。</p> <p>2、出欠・授業時の態度（私語その他）にけじめをつけていただきたい。</p> <p>3、授業だけを当てにしないこと。（自ら学ぶ意欲と姿勢の問題）</p>	



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の概要の説明・テキストの解説 その他授業に関するさまざまな注意事項の説明
2	演習と小テスト（以下基本的には同じ）
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	期末試験
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	（前期と同じ）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	期末試験
備考	

科目名	英語Ⅰ（二外）	担当者名	森永京一
-----	---------	------	------

講義の目標	習得した英語を、情報入手のために活用すること、さらにはその能力を向上させること――が目的。		
講義概要	<p>テキストは、フォード、リーバイス、ティファニーなど、世界的ブランドを生み出したヒーローたちに焦点をあてたもの。その生き方を知ることは、米国を知ることであり、ビジネスの本質を知ることにも通じる。</p> <p>テキストを読み、その内容について話し合うほか、ビデオなども活用する予定。</p>		
使用教材	テキスト	Ronald Hambleton: The BRANDING of AMERICA 開文社出版	
	参考文献		
評価方法	授業への参加度と定期試験。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語Ⅰ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎的文法を習得し、簡単なテキストを読む力をつけます。		
講義概要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による（場合によっては、二人の担当者で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい）。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、必ず購入して下さい。</li> <li>・教科書の末尾にはたいいてい動詞活用表が掲載されていますが、より詳細なものも出版されていますので、購入するとよいでしょう。その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。</li> </ul>	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。		

科目名	スペイン語 I (総合) (二外)	担当者名	各担当教員
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。</p>		
講義概要	<p>テキストにそって、第6課(点過去)まで進む。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。および小テストがある場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語 I (会話) との同時履修を望む。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第1課から第3課まで前期でおこなう。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第4課から第6課まで後期でおこなう。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（二外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。	
講義概要	スペイン語Ⅰ（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。	
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> （芸林書房）
	参考文献	
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。	
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅰ（総合）との同時履修を望む。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第1課から第3課まで（前期）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第4課から第6課まで（後期）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ロシア語Ⅰ（講読）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	複雑な構造のロシア語の骨組みを、講読を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。		
講義概要	全くの初学者を対象としています。前期は文法の授業と並行して文法の教科書に従って進め、名詞の格変化、動詞の現在人称変化がおおよそ理解できるようにします。後期は前期で学んだ文法知識の応用として簡単なテキストによる講読を行ない、基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりていねいに進めます。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各1回の試験及び授業の出席の割合によって決定します。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は、キリル文字のつづり、発音から始め、動詞の不定形と現在人称変化、名詞の格変化、形容詞の性・数変化、場所の用法を学ぶ。後期は、簡単なテキストの講読を行なう。講読の教材は、教科書及びプリント。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ロシア語Ⅰ（文法）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>単語の活用が多く、一見取っつきにくいロシア語の骨組みを、文法を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としています。キリル文字（アルファベット）、発音から始めます。文法の教科書にしたがって、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形などを中心に学び、最も基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりていねいに進めます。</p>		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社）	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	<p>前後期各1回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は、キリル文字のつづり、発音から始め、動詞の不定形と現在人称変化、名詞の格変化を学ぶ。後期は、過去時称形、名詞の格変化の続き、未来形、形容詞の変化を学ぶ。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅰ（講読）（二外）	担当者名	頼 明
-----	--------------	------	-----

講義の目標	初めて中国語を学習する学生を対象とします。正確にピンインを発音でき、初級段階において必要な基礎的な文法事項や日常会話の習得、平易な文章の読み書きができることを目標とします。		
講義概要	テキストを中心に、発音を繰り返し、文法や文型について説明し、実際に習得した単語を用いて各自で文を作り、発音します。		
使用教材	テキスト	守屋宏則／余延玲 『中国語プレリユード』朝日出版	
	参考文献	授業中に必要に応じてその都度紹介します。	
評価方法	出席を重視します。授業態度を平常点として、小テストや前後期の筆記試験を総合して評価します。		
受講者に対する要望など	無断に欠席せず、予習・復習を必ずしてください。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中国、中国語を紹介し、中国語を学ぶ上での留意点や同じ漢字圏に属する私達が特に注意すべき事柄について説明します。簡単な発音の導入をします。
2	中国語の声調、単母音、複母音について学びます。
3	声母表と関連させて、無気音、有気音、そり舌音について学びます。
4	鼻音を伴う母音について学びます。
5	中国語の声調変化について学びます。
6	発音の総チェックと、ピンイン綴りの規則を学びます。
7	中国語の基本的な語順と、平叙文の疑問文、人称代名詞を学びます。
8	正反疑問文、否定の“不”、指示代名詞(1)について学習します。
9	特殊な動詞“有”、疑問の省略“呢”、副詞“也”について学習します。
10	助数詞と「時」に関する言葉について学習します。
11	形容詞と構造助詞“的”について学習します。
12	前期の総まとめをします。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	疑問詞を用いた疑問文、存在を表す二つの文型、指示代名詞(2)について学習します。
2	前置詞、助動詞(1)、数詞を伴う疑問文について学習します。
3	動作の完了を示す“了”、連動文について学習します。
4	“V了”+目的語、数量補語、“是……的”文型について学習します。
5	経験を示す“过”、助動詞(2)、語気助詞について学習します。
6	進行を表す“在”と持続を表す“着”について学習します。
7	様態補語、存現文、副詞“就”について学習します。
8	結果補語、方向補語、不定代名詞について学習します。
9	可能補語、語気助詞“了”、動詞の重ね型について学習します。
10	兼語文、近未来を表す表現について学習します。
11	“把”を用いた文型、受け身について学習します。
12	これまで学んできたことの総まとめをします。
備考	

科目名	中国語 I (講読) (二外)	担当者名	陳 跡
-----	-----------------	------	-----

講義の目標	この講義の内容は、中国語の基礎知識（発音、文法、文の構造等）の習得を中心として、聴く力と会話力の学習を第一目標とする。		
講義概要			
使用教材	テキスト	水 世娣・長谷川寛 共著『会話からはいる 中国語入門』白水社	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と最終試験をほぼ均等に扱う。		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します。		

科目名	中国語Ⅰ（文法）（二外）	担当者名	秦 敏
-----	--------------	------	-----

講義の目標	はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で基本的な会話と平易的な文章を読みとることを目標とする。		
講義概要	講義の内容は発音、文型、文法です。発音は声調から母音、子音の発音と組合せまで、文型は挨拶、買物、旅行など初歩段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深める。		
使用教材	テキスト	榎本英明『言える中国語』 国学社	
	参考文献		
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など	復習と予習することを望みます。 前・後期とも講義は概要沿い、環境に対応しながら進めます。		

科目名	韓国語Ⅰ（講読）（二外）	担当者名	朴 勇 俊
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌等から時事情報を得る基本的能力の総合的な定着をめざし、多角的な授業を行なう。</p>	
講義概要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象とし、読解・作文力の養成を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。その際に韓国語と日本語の共通点・類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させるようにする。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また言語だけでなく、絵・写真・スライド・ビデオ等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。</p>	
使用教材	テキスト	『韓国語学習ー基礎から完成までー』朴勇俊（プリント）
	参考文献	後日指定
評価方法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2	韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
3	韓国語の文字・文章の理解と解読
4	韓国語の文字・文章の理解と解読
5	韓国語の文字・文章の理解と解読
6	次のような内容の題材を辞書をひきながら解読でき、それをもとに作文、会話ができるようにする。「1日の生活」
7	「家族といっしょに」
8	「ショッピング」
9	「道で」
10	「四季」
11	「韓国料理」
12	前期末試験
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	次のような内容の題材を辞書をひきながら解読でき、それをもとに作文、会話ができるようにする。「百貨店で」
2	「観光」
3	「引っ越し」
4	「健康」
5	「週末」
6	「趣味」
7	「韓国の名前」
8	「韓国の民俗遊び」
9	「韓国の大衆歌謡」
10	「太陽と月（民話）」
11	「牛と鶏と犬（民話）」
12	後期末試験
備考	

科目名	韓国語Ⅰ（文法）（二外）	担当者名	朴 堅 雨
-----	--------------	------	-------

講義の目標	韓国語をはじめて学ぶ人を対象に、ハングル文字の読み書きと日常生活に必要な基本的会話および韓国語の文法の基礎を指導する。韓国語の音韻、語順、助詞、語尾変化、文型などにおいて日本語との類似点や相違点を比較、検討しつつ韓国語の表現の特徴を体得させる。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語の文字、発音、文型等に関する基礎指導</li> <li>2. ハングル文章の正確な読み、発音、和訳、作文</li> <li>3. 日常生活で用いられる基本的な韓国語会話をできるだけ多く学習させ、その過程で韓国語のしくみ、構文、音韻、語彙の変化等、文法の基礎を指導する。</li> </ol>		
使用教材	テキスト	朴 勇俊、編「韓国語学習——基礎から完成まで——」（プリント）	
	参考文献	参考書や辞書等は後日、指定する。	
評価方法	評価は、前・後期各1回の定期試験と出席状況、授業へのとりくみ等を総合して判定する。		
受講者に対する要望など	韓国語は日本人にとっていちばん学びやすい外国語なので楽しく学習できると思う。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の概要紹介と韓国語学習法について
2	韓国文字（ハングル）の母音学習——単母音と複母音、会話（あいさつ）
3	ハングルの単母音と子音——会話（自己紹介）
4	ハングルの複母音と終声（パッチム）——会話（文房具）
5	韓国語の語彙（辞書でのさがし方）——会話（学校と先生）
6	韓国語の短文読み——会話——（教室）
7	韓国の学校と先生（会話）
8	尊敬語——会話（ともだちと目上の人）
9	ショッピング（会話）
10	旅行（会話）
11	韓国の食事と食べ物（会話）
12	前期末試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	下の主題による「会話」と会話文にかかわる文法事項を学習して行く。「韓国語のべんきょう」、一人称の確認、時制区分（原形、現在形）
2	「わが家の家族」——数詞、時制区分（過去形、大過去形）
3	「韓国の風習(1)」——時制による語尾変化
4	「韓国の風習(1)」——時制変化の活用による作文
5	「韓国の音楽(1)」——歌詞の読み方、連音、子音接変
6	「韓国の地形と産業」——韓国の地形、山川の特徴などを学ぶ、漢字の読み方
7	「韓国の市場と商品」——外来語と在来語
8	「韓国の気候と衣服」——尊敬語
9	「韓国の伝説」——助詞のいろいろ
10	「韓国のことわざ」——文章表現にかかわる記号のいろいろ(1)
11	「韓国のことわざ」——文章表現にかかわる記号のいろいろ(2)
12	後期末試験
備考	

科目名	ドイツ語Ⅱ（総合）（一外）	担当者名	各担当教員
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>ドイツ語学科の2年5組（既習者クラス）と合併で授業を行います。2年5組の「総合ドイツ語」（週に2コマ）のクラスに出席して下さい。</p> <p>5組は皆さんと同じく高校でドイツ語を学んだか、滞独経験のある人のいるクラスです。ここでも、1年次に修得した基礎知識をさらに高度なものにのぼせるように指導します。</p>		
講義概要	<p>ドイツ語学科での授業も、皆さんが1年次に履修した「総合」と基本的には同じです。教科書はもとより、進度もほぼ同じです。ただ、2コマともにドイツ人の先生が指導します。</p> <p>2年5組には、他に「講読S」（「総合」の授業を日本人講師が補います）、「文法」、「講読」、「LL」の授業があります。これらも必要と感じたら出席して下さい。ただし「他学部履修」ということとなります。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag)、および Arbeitsheft</p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典（中型のもの）</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト、前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ（一外）	担当者名	信 達 郎
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>外国語、そのなかで英語ほど社会にでて実際に役立つ技能はない。このクラスは、英文の新聞（The Nikkei Weekly）や雑誌（Business Week, Time）などカレントな資料を教材にして、実際の世の中がどう動いているかを技能的に学ぶものである。講師の実務経験と長い英語圏での生活、それに昔、米国のビジネススクール（経営大学院）で学んだ経験を生かしたい。</p>		
講義概要	<p>概要としては、形式は参加型の授業で、教材はあらかじめ渡されることから、授業の準備は絶対的に必要である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリントをメインな教材にする。その他に教材があれば授業を通じて指示する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>受講態度が50%、定期考査が50%の割合で行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業の成績にこだわることなく、就職など実際の活用のための知識習得と考えてほしい。なお、内容的には英検の準一級受験可能程度、TOEICのスコアが650点くらいが望ましい。むろん、私語は厳禁。もし、受講態度が悪い場合には退出を命ずることがある。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明 今後の授業の年間計画と、授業の進め方を説明。プリントを配布する。原則として毎回ごとに内容は異なり、一つの記事を2週に分けて使う。
2	(統)
3	Economic Viewpoint ビジネスウィークのコラムの社説形式で説明した記事を読む。
4	(統)
5	Economic Trends 最近のビジネス傾向をあつかったコラムを読む。
6	(統)
7	Business Outlook 主要国の市況開設を読む。
8	(統)
9	Asian Business アジア、とくに、最近めだつ中国、台湾、ベトナム関連のトピックを拾う。
10	(統)
11	European Business ヨーロッパの主要企業の動きを追う。
12	(統)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	American News 社会保障、予算、政権問題、産業動向など話題は毎回ことなるが、ウォール街関連の記事を読む予定である。
2	(統)
3	The Corporation 毎回違った世界主要企業のトピックを取りあげてあるが、できれば日本企業の経営戦略がらみの記事を読んでみたい。
4	(統)
5	Science & Technology 科学、技術記事は多岐にわたるが、コンピュータ関連の記事を読む予定である。
6	(統)
7	Information Processing 通信関連のトピックのうち話題性の強いものを取りあげる。
8	(統)
9	Finance 証券、銀行、株式市場関連の話題がメインで、そのうちの一つを選んでみたい。
10	(統)
11	Corporate Finance 企業財務問題でできれば国連投資関連を選んでみたい。
12	(統)
備考	

科目名	英Ⅱ（二外）	担当者名	平柳久美子
-----	--------	------	-------

講義の目標	読解力をつけることを目標とする。広告、手紙、ニュース、物語、エッセーなど、様々な読解対象に対して、その目的、用途に応じて、skimming（拾い読み）、scanning（走り読み）、careful reading（精読）等、種々の読解法を指導する。		
講義概要	英語を英語のまま理解する訓練をするため、練習問題を中心に授業を進め、訳読はしない。		
使用教材	テキスト	David Peaty, <i>WAYS INTO READING</i> 、マクミラン ランゲージハウス 1854円	
	参考文献	随時プリントを用意する。	
評価方法	期末試験とともに授業中の積極的な参加を評価していく。		
受講者に対する要望など	必ず予習して来ること。英英辞典（小さいものでよい）を一冊用意して欲しい。		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	Skimming : Read quickly to find out what the text is about.
3	Scanning : Look for specific information.
4	Careful reading : Read for exact meaning.
5	Critical reading : Don't believe everything you read.
6	Identifying referents
7	Identifying propositions
8	前週の続き
9	Processing links
10	前週の続き
11	Guessing what a word means
12	Guessing meanings from context
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Making predictions
2	前週の続き
3	Reading between the lines
4	Does it mean what it says?
5	What's missing?
6	Extensive reading
7	Bicycles and flying machines
8	Monsters
9	Three great monuments
10	Journey to India
11	Island of Aphrodite
12	Scary tales
備考	

科目名	英語Ⅱ（一外）	担当者名	山本英政
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>意識は英文理解の上で必須の条件です。英語を楽しめるかどうかは、日本語の置き換えに掛かっているのではないのでしょうか。授業では、意識の大切さと難しさを知り、日本語との違いをわかってほしい。</p>	
講義概要	<p>アメリカ人の人生相談をテキストとして使います。</p> <p>テキストの英文は比較的簡単ですが、日本語に訳したときにきつと戸惑いを感じるでしょう。というのも文が日常的な言い回しを用いた手紙文なので、直訳では正しく意味をつかめません。そこで授業では意識を大いに試みたい。意識をすることで、日本語と英語の違い、さらに日・英の思考や文化の違いまでもが見えてくるでしょう。</p>	
使用教材	テキスト	Ann Lander's とプリント
	参考文献	適宜指定
評価方法	筆記試験と授業での発表	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	フランス語Ⅱ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語による会話能力を高める。</li> <li>・文法の知識を深め、より高度なテキスト読解力を身につける。</li> </ul>		
講義概要	<p>フランス語Ⅱ（一外）は、フランス人担当者による会話クラスが週1コマ開講されます。第二学年でフランス語を履修する場合には、このクラスに出るようにして下さい（この授業はフランス語Ⅲを読み替えます。授業の詳細については、シラバスのフランス語Ⅲを参照して下さい）。なお、外国語部フランス語学科では、フランス語Ⅱの「文法」と「講読」のクラスが週に計8コマ開講されます。会話の他にさらに履習を希望する場合には、この中から選ぶようにして下さい。</p>		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	参考書については、担当者に随時相談して下さい。	
評価方法	評価方法については、各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	会話クラスの授業の進め方などについて、第1回目に担当者から説明がありますので、必ず出席して下さい。		

科目名	ドイツ語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	II A（読解練習＝ノンフィクション） II B（読解練習＝フィクション）		/ドイツ語Ⅰで修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。
	II C（口頭練習）/基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。		
講義概要	II A（読解練習＝ノンフィクション） ドイツの政治・経済・社会・地誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。	II B（読解練習＝フィクション） 小説・童話・説話・小話などのフィクションを教材とします。	/最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。 はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。
使用教材	テキスト 各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。	参考文献 ・独和辞典（中型のもの）、ドイツ語Ⅰで使用したテキスト。	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2	2-7、8週 文法の復習、未修事項の学習を行います。
3	
4	
5	
6	
7	
8	徐々に、ドイツ語ⅡA・Bではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡCでは口頭練習に入ります。
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1週～12週 ドイツ語ⅡA・Bはテキストの読解練習、ドイツ語ⅡCは口頭練習を行います。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ（二外）	担当者名	菅原清次
-----	---------	------	------

講義の目標	文学作品の原典を鑑賞するのに必要な英語の基礎的読解力の養成を目指す。英文を逐語的に日本語に変換するのではなくて慣用的な英文の構文や成句を正確に把握してそれらを含む英文を明確で流暢な日本で表現する練習をする。		
講義概要	Sherwood Anderson という米作家の佳作 “Winesburg Ohio” (1919) を読む。上記の講義目標を達成するために語学的な解説を重視するがそれと平行してこの米文学史上極めて有意義な作品を鑑賞するのに必要なアメリカの伝統的な思想的背景と十九世紀以降の小説のテーマと技法の展開についても詳述する。		
使用教材	テキスト	Winesburg, Ohio 南雲堂	
	参考文献	心理主義的自然主義に関する解説やフロイト心理学に関する解説書や各種の米文学史など。	
評価方法	前期後期のテストの成績は評価上極めて重要なデータであるがそれ以上に出席状況を重視する。		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅱ（二外）	担当者名	飛田ルミ
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>本講座では異文化理解を深めながら、英語の4技能におけるコミュニケーションに必要なスキルを効果的に習得することを目標とする。具体的には、インプットした内容を自分自身で自由にアウトプットできる能力を獲得するために、インプットのリーディング及びリスニングでは英文の大意を正確に速く把握するストラテジーを、アウトプットのライティング及びスピーキングでは与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識して、実際に使える英語を身につけることが理想である。</p>		
講義概要	<p>英語のコミュニケーション能力の向上を目指し、英国の教育、政治、皇室から現代の生活、文化に至る幅広いテーマをとり上げたテキストを使用して、4技能を無理なくレベルアップできる訓練を行なう。テキスト以外にも、プリント、ビデオ教材などを利用し、ディクテーション、スピーチの様なアクティブな練習を通し、自分の英語基礎能力を工夫して、コミュニケーション活動へとつなげる演習を行なう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>UNDERSTANDING BRITAIN 素顔のイギリス 成美堂 その他ビデオ等を使用し、プリントも配布する。</p>	
	参考文献	<p>授業中に適宜紹介する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期試験、レポート及び平常点（授業内での発言、提出課題、出席等）を総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習及び課題、発表等が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要についての解説：授業方針、評価方法等。 1. The Royal Family 現在の英国王室の姿を紹介。
2	1. The Royal Family EXERCISES 2. Mrs Thatcher 前英国首相サッチャー女史について。
3	2. Mrs Thatcher EXERCISES 3. Waterways of Britain 英国における水路の発達の歴史を学習する。
4	3. Waterways of Britain EXERCISES 4. Trains 英国の鉄道の歴史について。
5	4. Trains EXERCISES 5. A Green and Pleasant Land 英国の美しい田園地帯について。
6	5. A Green and Pleasant Land ビデオ、テープを使った EXERCISES
7	6. London ロンドンの紹介
8	6. London ビデオ、テープを使った EXERCISES
9	7. Marriage and Families 英国人のライフスタイルについて。
10	8. British Traditions and Customs 英国の伝統行事を紹介。
11	9. The World of the Media 英国のマスメディアについて。
12	10. Leisure Pursuits 英国人の余暇について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	11. British Pubs 英国のパブを紹介。ビデオ等による学習も行なう。
2	12. Youth Culture and Fashion 若者文化、ファッションを考える。
3	13. Nessie ネッシー騒動についてプリントも含めて学習する。
4	14. Stone Circles of Bqitain ストーンサークについて。
5	15. British Education 英国の教育制度について。
6	15. British Education 副教材により英国の教育制度を学習する。
7	16. Public Schools 英国特有の学校制度について。
8	17. Oxford and Cambridge 英国伝統のオックスフォード・ケンブリッジ大学について。
9	18. Wales ウェールズ地方の紹介。
10	19. Scotland スコットランドの紹介。
11	20. Nothern Ireland 北アイルランドの紹介。
12	簡単なプレゼンテーションを課す予定。
備考	



科目名	フランス語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講義概要	フランス語Ⅱ（二外）は、二人の担当者がそれぞれ週1コマずつ開講しますので、自由に選んで履習するようにして下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	参考書については、担当者に直接相談して下さい。	
評価方法	評価方法については、各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。		

科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（二外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（総合）の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形（点過去と線過去）および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである。</p>		
講義概要	<p>テキストにそって、第6課以降を学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i>（芸林書房）</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ（会話）との同時履修を望む。</p>		

# 年間講義予定

## 前期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第6課から9課まで
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第10課から第12課まで
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（二外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（会話）の二年目の授業である。スペイン語Ⅱ（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i>（芸林書房）</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ（総合）との同時履修を望む。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第6課から第9課まで（前期）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第10課から第12課まで（後期）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（総合）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	ロシア語Ⅰに引続き、ロシア語の文法を中心に学び、基本的な構文からさらに複雑な構文までを読解し、使いこなせるようにすることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰ（文法、講読）を昨年履習した学生を対象とします。ロシア語の重要な概念のひとつである動詞の体（完了体、不完了体）を中心として、命令法、無人称文、定動詞、不定動詞などを学び、ロシア語に特徴的な表現を正確に理解し、使いこなせるようにします。		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社）	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各1回の試験及び出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は動詞の体（完了体、不完了体）、命令法、無人称文について、後期は定動詞、不定動詞、形容詞の比較級、関係代名詞などについて学ぶ。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（会話）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	日常生活で使われる基本的な構文からさらに複雑な構文まで、会話を通して学び、これらの構文がスムーズに表現できるようになることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰ（文法、講読）を昨年履習した学生を対象とします。テキスト（プリント教材）に従って、自己紹介、あいさつから始め、レストランでの会話など様々な状況での会話を学び、ロシア語に特徴的な表現を正確に理解し、使いこなせるようにします。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各1回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は自己紹介、あいさつ、年齢、ホテルでの会話、後期は、家族構成、値段、買物に関する会話やレストランでの会話などについて学ぶ。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅱ（総合）（二外）	担当者名	張 継 浜
-----	--------------	------	-------

講義の目標	習得した中国語の知識を整理し、読む、聞く、話す、書く能力の向上を目指します。辞書をひきながら、新聞記事が読めるというのが一応の目安です。		
講義概要	文法に重点をおいた内容理解にあて、日文中訳、中文日訳、中国語による対話など口頭練習を重視して、ある程度まとまった内容を自己表現できるようにします。		
使用教材	テキスト	『你知道吗?』 矢嶋美都子・楊麗瓊著 白帝社	
	参考文献		
評価方法	授業中の学習態度、出席、テストなど総合評価する		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うこと。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第一課
2	第一課
3	第二課
4	第二課
5	第三課
6	第三課
7	第四課
8	第四課
9	第五課
10	第五課
11	復習
12	テスト
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第六課
2	第六課
3	第七課
4	第七課
5	第八課
6	第八課
7	第九課
8	第九課
9	第十課
10	第十課
11	復習
12	テスト
備考	

科目名	中国語Ⅱ（講読）（二外）	担当者名	陳 跡
-----	--------------	------	-----

講義の目標	この授業は、聴く力と会話力の向上を主要目標とする。言語習得にとって読み聴き話す練習は原則であるが、ここではとりわけ聴き取りと話すことを中心とする。		
講義概要			
使用教材	テキスト	『リピート中国語』 相原茂 玄宜静 朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と定期試験をほぼ均等に扱う。		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します。		

科目名	韓国語Ⅱ（総合）	担当者名	朴 勇 俊
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>日本からもっとも近い隣国である韓国は古来から日本と密接な関係を保ってきた。今後の日韓両国は政治、経済、社会、文化の諸分野において、特に民間レベルでのよりいっそう盛んな交流の進展が望まれるところである。このような相互理解と緊密な交流の進展に不可欠なのが民間の生きた言語による直接のコミュニケーションであり、今後韓国語の需要もますます増えていくことが予想される。このような観点から本科目では生きたコミュニケーションができる会話力、読解力、作文力、新聞やラジオから時事情報を得る能力の総合的な定着をめざし、多角的な教授を行う。</p>		
講義概要	<p>多様な表現力の定着のために外国人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、そこで実際に使われる文型、特別な表現法等を身につけさせる。また韓国の民話、歴史、小説、詩、音楽、映画等から題材を選び、対話劇、役割遊び等を通した学習にも取り組む。さらにテレビやラジオ放送を聞いて時事情報を得ることができる能力をつけさせる。教材は自学自習ができるような形式で作成し、指導は短時間の個別机間指導を基本に進める。</p>		
使用教材	テキスト	『韓国語学習—基礎から完成まで—』朴勇俊（プリント）	
	参考文献	後日指定	
評価方法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興民、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2	次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着をめざす。「スーパーマーケット」
3	「市場」
4	「薬局」
5	「喫茶店」
6	「郵便局」
7	「洋服店」
8	「クリーニング店」
9	「映画館」
10	「スポーツ」
11	「図書館」
12	前期末試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着をめざす。「銀行」
2	「役所」
3	「銭湯」
4	「美容院」
5	「趣味」
6	「国際電話」
7	「健康管理」
8	「演劇」
9	「伝統的行事」
10	「余暇」
11	「韓国料理」
12	後期末試験
備考	

科目名	韓国語Ⅱ（講読）	担当者名	朴 堅 雨
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>韓国語の基本的会話を正しく聞きとり、かつ自分の考えや意見を正確に表現し、相手に伝えることができると同時に、長文を読み書きできるようにし、最終的には、辞書を用いて新聞・雑誌（ハングル）を読み、的確に理解することが可能となるよう指導する。</p>		
講義概要	<p>韓国の日常生活や問俗、歴史、文化、気候、地理、生産、産業、宗教、教育など幅広い題材にわたる文章を読むことで韓国の人々の考え方や生活の諸相について理解を深め、多様な語彙や文型に習熟させ、とくに長文の読解を可能にする。個別進度にそって指導を中心に自学自習が可能な補助的資料を活用する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>朴 勇俊 編、「韓国語の活用」、プリント、1993</p>	
	参考文献	<p>朴 聖雨、金 貞淑、「韓国語の完成」、同文書院、1982</p>	
評価方法	<p>前後期、各1回の定期試験と授業への取り組み方、および出席状況を含め総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>継続と反復練習が語学力を高める鍵である。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の概要および学習方法のオリエンテーション
2	テキストおよび参考文献の題材を次の順序で学習して行く
3	「あいさつ」
4	「電話」
5	「図書館」
6	「地下鉄で」
7	「わが家の家族」
8	「一日の生活時程」
9	「韓国の年中行事」
10	「村の祭祀」
11	「おいしい食事のいろいろ」
12	前期末試験
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期学習の反省と後期学習のオリエンテーション
2	「韓国人の家庭教育」
3	「韓国の伝統芸能」
4	「韓国の映画と演劇」
5	「韓国の現代音楽」
6	「韓国の文化と歴史(1)」
7	「韓国の文化と歴史(2)」
8	「韓国の童話」
9	「韓国の名勝、古蹟」
10	「アリランと白衣」
11	「お日さまときびとお月さま」
12	後期末試験
備考	



科目名	外国書研究 I	担当者名	青木雅明 A
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>これまで長期に学習した「英語」と「経済学」を結合して、経済学の基礎を平易な英語で表現できるようになってもらう。そのため、</p> <p>① 主要な経済学用語を英語で記憶すること、</p> <p>② 平易な英語表現に習熟し、英語の日常的な語を増やすこと、</p> <p>③ 経済学の独特な思考方法に慣れること、</p> <p>に熱意を持ってもらう。</p>
講義概要	<p>下記のテキストの第1～7章を順次全員で読み進む。講義する部分はあらかじめ配布するので、英和辞典を引いて十分予習したうえで出席してもらう。できるだけ早く逐文訳の段階を卒業したい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>Joseph E. Stiglitz ; <i>ECONOMICS</i> W. W. Norton &amp; Company, Inc., 1993.</p>
	<p>参考文献</p>
評価方法	<p>出席、授業における意欲と到達度、期末テストの得点を総合評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>欠席、遅刻、私語の禁止。</p>

科目名	外国書研究 I	担当者名	青木雅明B
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>これまで長期に学習した「英語」と「経済学」を結合して、経済学の基礎を平易な英語で表現できるようになってもらう。そのため、</p> <p>① 主要な経済学用語を英語で記憶すること、</p> <p>② 平易な英語表現に習熟し、英語の日常的な語を増やすこと、</p> <p>③ 経済学の独特な思考方法に慣れること、</p> <p>に熱意を持ってもらう。</p>	
講義概要	<p>下記のテキストの第37～41章を順次全員で読み進む。講義する部分はあらかじめ配布するので、英和辞典を引いて十分予習したうえで出席してもらう。できるだけ早く逐文訳の段階を卒業したい。</p>	
使用教材	テキスト	Joseph E. Stiglitz; <i>ECONOMICS</i> W. W. Norton & Company, Inc., 1993.
	参考文献	
評価方法	出席、授業における意欲と到達度、期末テストの得点を総合評価する。	
受講者に対する要望など	欠席、遅刻、私語の禁止。	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	井出 健二郎
-----	--------	------	--------

講義の目標	<p>テレビ・新聞の経済記事では最近、原語（カタカナ）で綴られている用語が多くなりました。また、これまでの講義（経営学 Management, 会計学 Accounting）の中には、皆さんに是非知ってもらいたい専門の用語や特有の言葉があります。これらは、どのような意味を持ち、英語ではどのように呼ばれる（呼ぶ）のでしょうか？</p> <p>本講義では、皆さんが受験の時に英単語を覚えたように、“ビジネスの英単語”をマスターしてもらいます。そして、文章がスラッと読めるように習得していきます。</p>	
講義概要	<p>経営学 Management と会計学 Accounting に関する入門用の外書をもとにして、読み進めていきます。進行としては以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) テクニカルタームについて皆さんにあらかじめ調べてもらいます。</li> <li>(2) テクニカルタームについて解説していきます。</li> <li>(3) それをもとにして、英文を皆さんに解釈してもらいます。</li> <li>(4) その解釈されたものについて、必要とあれば補足・修正の説明を行なっていきます。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	Management と Accounting の入門書を取りあげます。テキストを特に指定せずに、プリントを配布していきます。
	参考文献	<p>特に、経営経済の英書をあつかいますので、手元に英和の経営・会計用語辞典などがあると予習や、講義の理解のときに役立つものと思われます。</p> <p>（そのいくつかについては、開講時に紹介していきます。）</p>
評価方法	<p>定期試験（前期テスト・後期テスト）、出席、レポートを総合評価していくつもりです。評価の配分としては、試験40%、出席50%、レポート10%を予定しています。（また、外書の輪読という形式のため、通常点をプラスしていきます。）</p>	
受講者に対する要望など	<p>できるだけ皆さんの積極的な姿勢を期待しています。コミュニケーションをはかり、楽しくそして満足の得られるものにしていきましょう。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今後の講義にあたってのガイダンス
2	The Importance of Management
3	Management Defined
4	Management Decision Making
5	The Basic Functions of Management
6	Planning
7	Organizing
8	Directing
9	Controlling
10	Management Responsibilities
11	Sources of Knowledge about Management
12	前期のまとめ
備考	テキストの変更の時は、上記が大幅に変わるようになります。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Accounting Vocabulary 1
2	Accounting Vocabulary 2
3	What Is Accounting?
4	Users of Accounting Information
5	The Development of Accounting Thought
6	Types of Business Organizations
7	Accounting Concepts and Principles
8	The Accounting Equation
9	Accounting for Business Transactions
10	Evaluating Business Transactions
11	Financial Statements
12	後期のまとめ
備考	テキスト変更の場合、予定には変動があります。

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	伊藤 為一郎
-----	--------	------	--------

講義の目標	公共部門の経済に関する論文を読み、テクニカルタームを学びながら内容の理解を深める。		
講義概要	内容を理解するため必要に応じて講義する。論文を輪読しながら議論する。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献		
評価方法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	予習をしておくこと。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	伊藤正昭
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>1年間という短い期間で成果をあげるのはなかなか難しいが、使用予定のテキストによって、外国の経済文献に接することに慣れ、「経済学をとおして英語を学ぶ姿勢」を身につけることを目標としたい。また、経済学をすでに学んでいても、英語で書かれた経済学の本を読むには相当の時間と慣れが必要であるから、その機会の出発点としたい。</p>	
講義概要	<p>使用テキストは未定であるが、たとえば、下記のような本を使用して、入門レベルの「経済学」あるいは「経済政策」を学びたい。</p> <p>G. F. Stanlake; <i>Introductory Economics</i>, Longman, 1993.</p> <p>Mauice Mullard; <i>Understanding Economic Policy</i>, Roudledge, 1992.</p> <p>また、機会をみて、Financial Times (新聞)、Economist (雑誌) などから、大きな問題になっている経済記事を取りあげて読んでみたい。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷川啓之編『英和・和英 経済用語辞典』富士書房</li> <li>・長谷川啓之編『英和経済用語辞典』富士書房</li> </ul>
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。出席もポイントに加えることもあります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回、英和辞書を持参してください。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス (講義の進め方についての説明)
2	The Politics of Economic Policy Making(1) <i>Introduction, Autonomy and Constraints in Economic Policy</i>
3	The Politics of Economic Policy Making(2) <i>Rationalist Model</i>
4	The Politics of Economic Policy Making(3) <i>The Institutional Model</i>
5	The Politics of Economic Policy Making(4) <i>Political Economic Model</i>
6	Liberal Individualism and Market Economics(1) <i>Introduction</i>
7	Liberal Individualism and Market Economics(2) <i>The Concept of the Individual</i>
8	Liberal Individualism and Market Economics(3) <i>The Theory of Demand The Theory of Markets</i>
9	Liberal Individualism and Market Economics(4) <i>The More Integrated Markets</i>
10	Liberal Individualism and Market Economics(5) <i>The Concept of Market Failure</i>
11	Liberal Individualism and Market Economics(6) <i>The Problem of Spillover Effects</i>
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Market Economics(1) <i>Introduction ; Market Principles</i>
2	Market Economics(2) <i>Labour Market Economics ; The Dual Labour Market</i>
3	Market Economics(3) <i>Market Economics ; Macro Approach</i>
4	Market Economics(4) <i>Supply Side Economics</i>
5	The Political Implications of Market Liberalism(1) <i>Problems of the Political Market</i>
6	The Political Implications of Market Liberalism(2) <i>The Classical Model of the Minimal State</i>
7	The Political Implications of Market Liberalism(3) <i>The Political Agenda for a Market Liberal State</i>
8	The Political Implications of Market Liberalism(4) <i>Markets and the Problem of Order</i>
9	The Economics of Keynes and Keynesianism(1) <i>Introduction ; The Meaning of Keynesianism</i>
10	The Economics of Keynes and Keynesianism(2) <i>The Challenge of Keynes</i>
11	The Economics of Keynes and Keynesianism(3) <i>Keyensianisms ; The Challenge to Market Principles</i>
12	まとめ
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	犬井 正
-----	---------	------	------

講義の目標	英文テキスト <i>Environmental Hazards</i> をテキストとして用い、世界の災害・環境問題の種類、分布、影響などについて理解をする。		
講義概要	世界の災害・環境問題に関する英文テキストを輪読し、災害・環境問題が生態・経済・文化に与えている影響を読みとる。シラバスに沿って進行させていくが、テキストの輪読に終始するのではなく、討論や作業などをまじえながら講義をすすめていく。		
使用教材	テキスト	・ Chris C. Park (1992); <i>Environmental Hazards</i> , Nelson.	
	参考文献	随時提示する。	
評価方法	試験またはレポートによる。		
受講者に対する要望など	環境・災害問題などに興味・関心を持ち、常時出席が可能な勤勉な学生に限る。「経済地理演習」を履習する予定者は、本講義を履習しておくことが望ましい。		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行う。
2	Hazards-concept and context (1)
3	Hazards-concept and context (2)
4	Hazards-concept and context (3)
5	Spacial variability and human persistence (1)
6	Spacial variability and human persistence (2)
7	Spacial variability and human persistence (3)
8	Project work (1)
9	Hazard forecasting and risk assessment (1)
10	Hazard forecasting and risk assessment (2)
11	Hazard forecasting and risk assessment (3)
12	Project work (2)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Perception of hazards and extreme events (1)
2	Perception of hazards and extreme events (2)
3	Experiencing hazards (1)
4	Experiencing hazards (2)
5	Adjustment to hazards (1)
6	Adjustment to hazards (2)
7	Project work (3)
8	The human impact (1)
9	The human impact (2)
10	Hazards-present and future prospects (1)
11	Hazards-present and future prospects (2)
12	Project work (4)
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	氏原茂樹
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>①会計情報に関する英文の記事や論文の読解力をつける。</p> <p>②英語の会計用語と構文に親しむ。</p> <p>③欧米と我国の会計情報の比較研究の展開。</p>	
講義概要	<p>①毎回テーマにそって、一定の範囲を輪読する。</p> <p>②主要な概念、問題点については、その都度解説する。</p> <p>③受講者は、その時に割り当てられた順番で訳す。</p>	
使用教材	テキスト	『Accounting The Easy Way』、その他の配布資料による。
	参考文献	『International Accounting Standard』 経済用語辞典 会計用語辞典
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価する。</p> <p>①定期試験</p> <p>②学習意欲と学習成果</p> <p>③出席状況</p>	
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない</p> <p>②予習・復習をする。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	What Is Accounting?	The Art of Recording.
2	Accounting Information	The Financial Status
3	What Are Assets?	Money Value, etc.
4	The Value of Items	Monetary Principle
5	Accounting Equation	Assets = Liability + Capital
6	What Are Profit?	Revenue - Expenses = Profit
7	Recording Revenue	A Result of the Sale
8	Recording Expenses	Cost of Doing Business
9	Capital	Permanent Capital, Temporary Capital
10	Financial Statements	Income Statement, Balance Sheet, etc.
11	Income Statement	Listing of the Revenue and Expenses
12	Statement of Capital Balance Sheet	The Proprietor's Ownership Financial Position of a Business
備考		

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	Classifying Assets	Current Assets, Intangible Assets, etc.
2	Classifying Liabilities	Current or Liabilities
3	Business Transactions	Related to Business Activities
4	Kinds of Information	Date, Explanation and Amount
5	The Ledger Binder	A Recording of Account
6	Standard Form of the Account	The "T" Account, etc.
7	Ledger Accounts	Showing of Balance
8	Recording Asset Changes	Calculating of Asset Accounts
9	Recording Changes	In Liability Accounts, etc.
10	Recording Transactions	In Temporary Capital Accounts, etc.
11	Double-Entry Accounting	Rules and Concepts
12	Standard Form for the Ledger Account Recording Business Transactions	Debit and Credit Journal and Ledger Account
備考		

科目名	外国書研究 I	担当者名	内 倉 滋
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、会計学の「発展史上最も重要な文献である」(土岐政蔵)とされている、オイゲン・シュマーレンバッハ (Eugen Schmalenbach, 1873/8/20—1955/2/20) の「動的貸借対照表 (論)」という文献を取り上げ、その英語版 (Schmalenbach, Eugen (Translated by G. W. Murphy and Kenneth S. Most) ; <i>Dynamic Accounting</i>, London: Gee &amp; Company (Publishers) Limited, 1959.) の講読・研究を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本講義が取り上げる上記文献は、「近代会計学の基調であるいわゆる動的会計思考を最初に体系化した古典的文献のひとつであり、いまや世界的規模における学界の共有財産である」(戸田博之)と評されているものである。それゆえ本講義では、単に「テキストの解読」に終わることなく、その内容紹介をも(講義形式で)試みる予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>上記文献(英語版)の個人での入手は困難であるため、すべてこちらで用意します。</p>	
	参考文献	<p>上記文献の解説書は数限りなくあるのですが、その1つとして次のものを推薦致します(解説書というよりも、その核心的な考え方を現代の制度会計の問題の中で明らかにした、とても読み易い本です); 新田忠誓、『財務諸表論究—動的貸借対照表論の応用—』、中央経済社、1995年3月。なお、次のような邦訳もありますが、すでに絶版となっております; エ・シュマーレンバッハ著、土岐政蔵訳、『十二版・動的貸借対照表論』、森山書店、1959年11月。</p>	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその最終評価の際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講義科目の主役は、担当者である私ではなく、受講生である皆さん方です。そのことへの認識だけは、お願いしておきます。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	The Historical Development of Annual Accounts
2	The Main Types of Balance Sheets
3	The Objects of Dynamic Accounting
4	Principles and Construction of the Dynamic Balance Sheet : Principles
5	Principles and Construction of the Dynamic Balance Sheet : The construction of results accounts
6	The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of revenue
7	The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of expenditure (a)-(c) (2)
8	The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of expenditure (c)-(e) (3)
9	Valuations Independent of Price Variations : The Rule of Caution
10	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (a)
11	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (b)-(c)
12	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (d)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (e)-(f)
2	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for intangible assets
3	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for Stocks
4	Valuations Independent of Price Variations : Accounting for debtors and creditors
5	Valuations Independent of Price Variations : Reserves, provisions and adjustment Accounts (a)
6	Valuations Independent of Price Variations : Reserves, provisions and adjustment Accounts (b)-(c)
7	Valuations Independent of Price Variations : Special types of expense
8	The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on the valuation of fixed assets
9	The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on the valuation of stocks
10	The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on other balance sheet valuations
11	Separating Operating Factors from External Factors in the Profit and Loss Account
12	Balance Sheets for Special Purposes
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	遠藤 信
-----	---------	------	------

講義の目標	現代の著名な科学者による一般読者向けの本と講演（数式は一切ない）を講読して、数学と自然科学の歴史をたどり、現代の宇宙像、生命とは何かという問題、人類の未来について、必要な解説を加えながら考えることが、この講義の目標である。		
講義概要	<p>(1) 宇宙には始まりがあるのか。宇宙はどこから来て、どこへ行こうとしているのか。宇宙像の変遷をたどり、現代の宇宙像がどのようなものを学ぶ。</p> <p>(2) 生命について考える。何故、この惑星（地球）に生命が現れたのか。生命の起源と生命が未来に向かってどのように発展するのかについて考察する。</p>		
使用教材	テキスト	<i>A BRIEF HISTORY OF TIME LECTURES BY S. W. HAWKING</i>	
	参考文献		
評価方法	平常点と出席状況とテストの成績を総合して、成績を評価する。		
受講者に対する要望など	<p>予習を必ずしてくること。</p> <p>欠席をしないこと。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は Our Picture of the Universe
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期は Life in the Universe
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	岡下 敏
-----	--------	------	------

講義の目標	英文に親しみ、将来社会人となって活躍するときに役立つ読解力をつけることを目標にします。	
講義概要	特に専門分野を限定しません。いろいろな分野の文献を少しずつコピーして配り、輪読形式ですすめてゆきます。辞書を必ず持つてくること。 年間講義予定については、第1週の授業で指示します。	
使用教材	テキスト	適宜、コピーを配布します。
	参考文献	
評価方法	受講者によりますが、平常点を重視します。期末試験も行います。	
受講者に対する要望など	予習を必ず行うこと。	



科目名	外国書研究 I	担当者名	岡田 博
-----	---------	------	------

講義の目標	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を一層深めてもらうことを目標におく。	
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマにオーエンの上記テキストを読んでいく。	
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.
	参考文献	
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。	
受講者に対する要望など	次週の授業で進む範囲を指示するので、毎週指示された範囲のところを予め訳してきて、それを提出させる。欠席の多い人には単位を与えない。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

『Transportation and World Development』の中の7章 Global System Strategies を読んでいく。

### 後 期

前期に引続き、Transportation and World Development を読解していく。

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	奥山正司
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>様々な社会において、人種差別や性差別と並んでエイジズム（年齢差別）がどのようなかたちで浸透しているのかを学ぶ。人種差別や性差別と異なり、エイジズムという現象については、そのことばさえ知らない人が多い。しかし、米国や日本だけでなく、数多くの国々では、高齢者に対する偏見や差別が深く浸透している。米国研究者のエイジズムに関する資料を題材にして、これらのことについて、考える力を身につける。</p>		
講義概要	<p>社会のありかたによって、高齢者の処遇は異なっているが、具体的には、高齢者の優遇策や否定的な処遇は、経済社会の動きや人口高齢化の進展といかに関連しているのか。また、どのような社会において、どのようなエイジズムがみられるのかを学ぶ。授業は、エイジズムに関する分かりやすい論文を輪読しながら、討論し、講義を進めていく。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Erdman B. Palmore ; <i>Ageism : Negative and Positive</i>, (1990)</li> <li>・ Springer Publishing Company, New York</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

主 要 テ ー マ	
1	エイジズムの形態
2	年齢の意味
3	個人的原因
4	社会的影響
5	文化的原因
6	エイジズムの結果
7	経済におけるエイジズム
8	政府におけるエイジズム
9	家族におけるエイジズム
10	住宅及び健康政策にみられるエイジズム
11	エイジズムの解消にむけて

科目名	外国書研究 I	担当者名	香取 徹
-----	---------	------	------

講義の目標	経済社会一般に関する事柄を英語で読み、英語に慣れることを目標にします。		
講義概要	毎回、話題になりそうなテーマを選んで配布します。これを読んで考えること、考えたことを表現することが大切です。		
使用教材	テキスト	新聞や雑誌などを配布する。	
	参考文献	なし	
評価方法	出席とテストによる評価		
受講者に対する要望など	なし。 年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	栗村英二
-----	--------	------	------

講義の目標	経済外書の授業は、経済・経営用語の理解を通してできるだけ英語の情報を身につけることを願っている。	
講義概要		
使用教材	テキスト	テキストは未定です。
	参考文献	
評価方法	平常の学習意欲と定期的テストの結果による。	
受講者に対する要望など		

科目名	外国書研究 I	担当者名	河野重榮
-----	---------	------	------

講義の目標	最近の経営問題について論じている英語文献を用いて、外国語文献の基本的な読解力と経営のテクニカル・タームを習得する。		
講義概要	英文を一行ずつ音読し、日本語訳をつける。これを繰り返す。十分な日本語訳ができなかった場合、パラグラフの途中で別の受講生に交替する。一パラグラフ全体の日本語訳が十分にできるようになるまで、受講生全員の読解力を進める。		
使用教材	テキスト	・ D. A. Wren; <i>The Evolution of Management Thought</i> , 4th ed.	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点と、学期末のレポート（学期間に読了した原書の全訳とテクニカル・タームの要旨）による。		
受講者に対する要望など	パラグラフの割り当てを行わず、ランダムに読解者を指名する。したがって、欠席しないこと（無断で3回以上欠席の場合、この科目を受講しないことにする）。全員、予習を必ずすること。辞書を必ず携行すること。		

# 年 間 講 義 予 定

THE PAST AS PROLOGUE (D. A. Wren, 4th ed., Chap. 23)

## I The Managerial Functions—Past and Future

Planning

Organizing

Leadership

Human Resource Management

Controlling

## II The Cultural Environment

The Economic Environment

The Social Environment

The Political Environment

Summary



科目名	外国書研究 I	担当者名	小林 進
-----	---------	------	------

講義の目標	理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽 <sup>けんさん</sup> を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」		
講義概要	米国の標準的な英語の経済学テキストの講読		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献		
評価方法	平常の出欠と予習を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	外国書研究 I	担当者名	齋藤 正章 A
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居られるかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感をますます強めさせるであろう。しかし、それらはいくまでも「他人の翻訳」であって自分のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われていることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解力の養成を目標としている。</p>	
講義概要	<p>使用するテキストは、標準的な経済学の教科書である。オールカラーで、イラストや3Dのグラフを駆使して読者の理解を助けるような工夫が随所になされていて、初学者を読む気にさせる体裁となっている。</p> <p>次に授業の進め方であるが、英文や専門用語に慣れるために最初の教回はややスローペースとなる。しかし、読解力向上のためには量を読むことが必要なので、後半はハイペースで進めたい。1年間で教科書全体を（少なくとも8割位までは）カバーすることを目標とする。そのためにも予習は必須である。</p>	
使用教材	テキスト	SCHILLER, B. R; <i>ESSENTIALS OF ECONOMICS</i> 2nd. ed., McGrawHill, 1996.
	参考文献	
評価方法	前後期の試験結果に出席率を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期はミクロ経済学の部分を読解する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期はマクロ経済学の部分を読解する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	齋藤 正章 B
-----	--------	------	---------

講義の目標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居られるかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感をますます強めさせるであろう。しかし、それらはあくまでも「他人の翻訳」であって自分のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われていることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解力の養成を目標としている。</p>		
講義概要	<p>使用するテキストのタイトルを和訳すると「管理会計」となるが、内容的には「原価計算的側面からみた経営学入門」といったところであろう。テキストは少々厚めであるが、オールカラーで、文章も平易に書かれている。したがって、原価計算や経営学の予備知識は必要なく、これからそれらの勉強を始めようと思っている人には格好のテキストとなろう。</p> <p>授業の進め方であるが、英文に慣れるまで前半はややスローペース、後半はピッチをあげて進める予定でいる。語学上達の秘訣は量をこなすことだからである。受講生全員予習しているとの前提で授業を行うので、予習は必ず行うこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>ATKINSON, BANKER, KAPLAN; YOUNG, <i>MANAGEMENT ACCOUNTING</i>, Prentice Hall, 1995.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前後期の試験結果に出席率を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. MANAGEMENT ACCOUNTING: INFORMATION THAT CREATES VALUE
2	
3	2. MANAGING ACTIVITIES
4	
5	3. COST CONCEPTS
6	
7	4. COST BEHAVIOR
8	
9	5. BUDGETING FOR OPERATIONS
10	
11	6. BASIC PRODUCT COSTING SYSTEMS
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	7. TWO-STAGE ALLOCATIONS ACTIVITY-BASED COSTING SYSTEMS
2	
3	8. PRICING AND PRODUCT MIX DECISIONS
4	
5	9. PROCESS AND ACTIVITY DECISIONS
6	
7	10. CAPITAL BUDGETING
8	
9	11. PLANNING AND CONTROL
10	12. FINANCIAL CONTROL
11	13. COMPENSATION
12	14. BEHAVIORAL AND ORGANIZATIONAL ISSUES IN MANAGEMENT ACCOUNTING AND CONTROL SYSTEM DESIGN
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	庄 司 啓 一
-----	---------	------	---------

講義の目標	アメリカ経済と日本経済、日米経済関係に関する英文のジャーナルを読みながら、経済についての基本的知識と簡単な専門用語を習得することを目的とする。また、アメリカ社会経済の動向についても同時に触れたい。	
講義概要	アメリカの主要な経済雑誌である。ビジネスウチーク・フォーブス、フォーチュン誌、それにアメリカ社会の動向については U. S. ニュース&ワールドリポート誌を使い、その日本語訳と内容の説明をしたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ "Business Week"</li> <li>・ "Forbes"</li> <li>・ "Fortune"</li> <li>・ "U. S. News &amp; Word Report"</li> </ul>
評価方法	前期小テスト 後期テスト	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	“ビジネス・ウィーク” (Business Week) 誌のなかから、日米経済関係に関する記事を抽出し、三週間程度で読み切る予定。
2	日米摩擦について 自動車・半導体の貿易摩擦
3	アメリカにおける日本的経営について 在米日本企業における労使関係
4	まとめ
5	“Forbes” “Fortune” 誌の記事を利用してアメリカ産業のリストラクチャリングの現状を把握する。
6	リストラクチャリングとは何か？
7	先端産業におけるリストラクチャリング 半導体、コンピュータ産業 航空宇宙産業など
8	基幹産業におけるリストラクチャリング 鉄鋼、自動車産業など
9	アメリカ労働市場の変化について サービス経済化の実体について 産業の空洞化現象について
10	研究開発 (R&D) の重要性についての記事を読む
11	まとめ
12	小テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	“ビジネス・ウィーク” を利用し、多国籍企業についての記事を読む
2	多国籍企業とアジア
3	多国籍企業とラテン・アメリカ
4	多国籍企業と産業の空洞化
5	まとめ
6	“US. News World Report” 誌を使い、アメリカの社会経済状態について勉強する。とくに、アメリカ社会の分極化現象、貧富の差の拡大について、その原因を追求してみたい。
7	アメリカ黒人の社会経済状態
8	ヒスパニックの社会経済状態
9	アジア系の社会経済状態
10	後期のまとめ
11	前期、後期全体のまとめ
12	テスト
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	高橋 善四郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	Patricia H. Werhane Adam Smith and His Legacy for Modern Capitalism, Oxford Univ. Press, 1991. 第3章 Self-Interest, the Social Passions, and the Invisible Hand in the Wealth of Nations を講読する。		
講義概要	最新のアダム・スミス研究。スミスの「道徳情操論」「法学講義」そして、「国富論」の三つの文献から、一貫したアダム・スミスの経済哲学を描こうとする、非常に興味深い文献である。		
使用教材	テキスト	テキストをコピーしたものを配布する。	
	参考文献		
評価方法	期末試験の成績、出席状況、ノートの提出、授業における評価を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		



科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	高松 和幸 A
-----	--------	------	---------

講義の目標	<p>現代経営学に影響を与えた名著を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>James G. March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> </ul> <p>英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。</p>		
講義概要	<p>James G. March &amp; Herbert A. Simon の <i>Organizations</i> は、組織を構成するメンバーを「意思決定者」とみなして理論を展開している。前・後期とも対象となる Chapter を選定して、全編を読まなくても理解できるように、解説を加えることにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>James G. March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons. (本書は入手困難なため、コピーを配布する。)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	The literature of organization theory
2	same as above
3	same as above
4	Some types of propositions
5	same as above
6	Taylor's Scientific management
7	same as above
8	Operational and empirical problems of classical administrative science
9	same as above
10	Theory of bureaucracy
11	same as above
12	Conclusion
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Motivation to produce
2	The evoked set of alternative
3	same as above
4	Individual goals
5	same as above
6	The theory of organizational equilibrium
7	same as above
8	Employee participation: The participation criterion
9	same as above
10	Employee participation: The general model
11	same as above
12	conclusion
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	高松 和幸 B
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>現代経営学に影響を与えた名著を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>James G. March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> </ul> <p>英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。</p>		
講義概要	<p>James G. March &amp; Herbert A. Simon の <i>Organizations</i> は、組織を構成するメンバーを「意思決定者」とみなして理論を展開している。前・後期とも対象となる Chapter を選定して、全編を読まなくても理解できるように、解説を加えることにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>James G. March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons. (本書は入手困難なため、コピーを配布する。)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	The literature of organization theory
2	same as above
3	same as above
4	Some types of propositions
5	same as above
6	Taylor's Scientific management
7	same as above
8	Operational and empirical problems of classical administrative science
9	same as above
10	Theory of bureaucracy
11	same as above
12	Conclusion
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Motivation to produce
2	The evoked set of alternative
3	same as above
4	Individual goals
5	same as above
6	The theory of organizational equilibrium
7	same as above
8	Employee participation: The participation criterion
9	same as above
10	Employee participation: The general model
11	same as above
12	conclusion
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	立 田 ル ミ
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>アメリカで行われているコンピュータサイエンスの授業の教科書を読む事により、コンピュータの専門用語がどのように使われているかを知る。そして、現在どのようなマルチメディアのためのソフトウェアが利用されているかを理解することを目的とする。また、ネットワークを用いてアメリカの大学のコンピュータサイエンス学科をアクセスし、どのような授業や研究が行われているかを調べる。また、コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかをWebのページを読むことにより、調査・研究することを目的として講義・演習を行うつもりである。</p>		
講義概要	<p>マルチメディアシステムがどのようなものかを、最初に外書を読みながら講義する。また、画像作成のためのソフトウェアについて講義と実習を行う。次にビデオとアニメーション作成のためのソフトウェアについて講義し、デモンストレーションを行う。また、オーディオ作成のためのソフトウェアについて、講義と実習を行う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ John A. McCormlc ; "Create Your Own Multimedia system", McGraw-Hill</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>毎回レポートを提出してもらい、それを40%の評価とする。          前期1回、後期1回の定期試験を行い、これを各25%の評価とする。          出席状態を10%の評価とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修した学生、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎知識のある学生に限る。          出席をしない学生は単位を与えない。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マルチメディアの基礎：マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語の説明、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要か
2	オペレーティングシステム環境：Microsoft、Windows、Machintosh、OS/2、Windows NT、Unix
3	テキスト編集ソフトウェア：ワードプロセッサ、変換ソフト、データベース
4	テキスト編集ソフトウェア演習：大学に設置されているコンピュータで使えるテキスト編集ソフトウェアを用いて演習問題を解く。
5	静止画像作成ソフト：ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト、画像作成のためのチップ
6	静止画像作成演習：大学にあるソフトウェアを用いて、静止画像を作成する。
7	ビデオとアニメーションのソフトウェア：クリップビデオ、アニメーション、ソフトウェア、ビデオ編集
8	プロダクション管理ツール：ストーリーボードソフトウェア、プロジェクト管理、ソフトウェア
9	オーディオプロダクションソフトウェア：オーディオファイルタイプ、マルチメディアサウンド、オーディオファイル作成
10	オーサリングソフトウェア：プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラム
11	オーサリングソフトウェア演習： 大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なコースを作成する。
12	ネットワーク演習：ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す、マルチメディアのコースがどのように出来ているかを調べる。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本的なコンピュータのプラットフォーム：コンピュータの速度、コンピュータの記憶容量、ビデオ利用の問題点
2	機種によるプラットフォーム：Machintosh、Windows、Unix
3	モニター：品質、マルチスキャン、ビデオカード
4	キーボードとポインター：キーボード、ポインター
5	ビデオ入力と操作：ビデオ標準、ビデオボード、デジタルカメラ
6	オーディオハードウェア：オーディオ入力ボード、MIDIハードウェア
7	スキャナー：スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケール
8	メインストレンジ：グラフィックス、ビデオ、オーディオ、ハードディスクの特長
9	2次記憶装置：磁気、光学、記憶装置の比較
10	システム統合：マルチメディアワークエリア、ソフトウェア導入、システムテスト
11	電子出版：CD-ROM、ビデオカセットレコーダー、レーザーディスク
12	マルチメディアシステム演習：CD-ROMの使用と内容発表
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	田村申一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>この授業では、英文で書かれた経済学入門書の講読を通じて、初歩的なマクロ経済学のエッセンスを学んだ上で、金融の基礎を理解して貰うことを目標にしています。1年間のテーマは、マクロ経済学と金融入門ということになります。教材には、現在、アメリカの大学で経済学のテキストとしてベストセラーになっているスティグリッツの「経済学」を使用します。この本はわかり易く書かれた入門書ですが、最新の経済学の知識をとり入れ、現代の経済問題に取り組んだ意欲的な本なので、読んだ満足感は大きいでしょう。</p>		
講義概要	<p>まず、最初に現代のマクロ経済学を概観し、基本的な分析手法である総需要・総供給分析について簡単に学んでおきます。つぎに、金融論の基礎の学習に進みます。そこでは、貨幣、銀行、金融システムなどについて考察したあと、総需要・総供給分析を土台にして現代の貨幣理論と金融政策について検討し、最後に金融政策の国際経済的側面をとりあげて分析します。著書は1,140頁に及ぶ大著ですが、授業では上記の関連部分をコピーして、輪読していきます。授業では、随時、日本経済や日本の金融の現状に言及し、興味をもって学習できるようにしたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・STIGLITZ J. E.; "Economics", W. W. Norton &amp; Company, 1993.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況、輪読分担個所の報告状況を加味して、総合的に決定します。授業の性格から、出席状況や報告状況を重視します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業での講読は、受講学生が分担して輪読する形をとります。大事なことは、邦訳の暗記ではなく、内容の理解です。欠席すると、理解できなくなることが多いので、授業に出席して下さい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

次の各章を順次とりあげます。

Stiglitz J. E., "Economics",

## *Part Four Aggregate Markets*

### Chapter 26 An Overview of Macroeconomics

- 2、 The Product Market

## *Part Five Money's Role*

### Chapter 33 Money, Banking, and Credit

- 1、 Money is Money does
- 2、 The Financial System in Modern Economies
- 3、 Creating Money in Modern Economies
- 4、 The Instruments of Monetary Policy
- 5、 The Stability of the U. S. Banking System

### Chapter 34 Monetary Theory and Policy

- 1、 Money Supply and Economic Activity
- 2、 The Velocity of Money
- 3、 Keynesian Monetary Theory
- 4、 Critics of the Keynesian Theory of Demand for Money
- 5、 Alternative Ways that Monetary Policy Works
- 6、 Monetarists
- 7、 Money and Credit Availability
- 8、 Money and Credit : Competing or Complementary Theories?

### Chapter 35 Monetary Policy : The International Side

- 1、 Determining the Exchange Rate
- 2、 Monetary Policy in an Open Economy
- 3、 Exchange Rate Management



科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	中村泰將
-----	--------	------	------

講義の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文の意味内容を的確に理解すること。</li> <li>2. 専門用語をできるだけ身につけること。</li> <li>3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ること。</li> </ol>				
講義概要	<p>講義内容：私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。むしろ、社会一般、経済、政治、経営等の関係領域に関して記載している、雑誌、新聞、著書などを題材として、カレントなトピックスを取り上げ講読する。</p> <p>授業の進め方：あらかじめ受講者全員に講読のコピーを手渡します。授業では、あらかじめ講読担当者を決め、その人だけが授業の主役になることのないよう、全員が予習をしてきて、誰があてられてもよいように準備をしてもらうことが要求されます。従って、授業の主役は、受講者全員であることを承知しておいてください。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>前半：BIG BUSINESS in AMERICA (ビジネスとアメリカ文化)</p> <p>BLAKE Baxter, SEIBIDO</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ U.S. News &amp; World Report.</li> <li>・ Japan Times.</li> <li>・ Business Week.</li> <li>・ Economist.</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>前半：BIG BUSINESS in AMERICA (ビジネスとアメリカ文化)</p> <p>BLAKE Baxter, SEIBIDO</p>	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ U.S. News &amp; World Report.</li> <li>・ Japan Times.</li> <li>・ Business Week.</li> <li>・ Economist.</li> </ul>
テキスト	<p>前半：BIG BUSINESS in AMERICA (ビジネスとアメリカ文化)</p> <p>BLAKE Baxter, SEIBIDO</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ U.S. News &amp; World Report.</li> <li>・ Japan Times.</li> <li>・ Business Week.</li> <li>・ Economist.</li> </ul>				
評価方法	<p>授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。</p> <p>3回以上欠席すると、評価にも相当影響するので注意されたい。</p>				
受講者に対する要望など	<p>辞書は、必ず毎回持参すること。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Coca-Cola : The Symbol of America
2	Disneyland East and West
3	The Automobile Industry : Its Peaks and Valleys
4	McDonald's Global Strategy
5	The Sears Catalog : A Trove of Americana
6	Xerox : Bridge across the Pacific
7	IBM : Triumphs, Reverses, and Rebirth
8	AT&T : Towards The Multimedia Age
9	American Life and Advanced Technology
10	The Age of Upheaval and Change : American Dynamism
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期は参考文献の中から選びます。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	西川純子
-----	--------	------	------

講義の目標	経営学や経済学の古典的な文献に接して直接にその魅力を体得することを目標とする。		
講義概要	英文を音読し、一行ずつ日本語に移しかえることを繰り返す。進度は遅いが確実に読みこなす努力を重ねることによって読解力はすすむはずである。		
使用教材	テキスト	・ Adam Smith; <i>Morae Sentiment</i>	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点による。但し、各学期の終りに単語のテストを行う。		
受講者に対する要望など	欠席しないこと。予習を必ずしてくること。辞書を常に携行すること。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	原 亨
-----	--------	------	-----

講義の目標	この外書Ⅰは、英語で経済の理論や現状分析を学ぶ。語学を勉強するのではない。もっとも英語が読めなくては、それどころではない。それにも十分留意はするが、経済学を学ぶ方に重点がある。本年は、アメリカ経済の現状に関する文献、論文を抜粋して、理論や現状分析の方法を吸収する。		
講義概要	<p>94年以降、アメリカ経済は、拡大傾向を示している。そこまでにいたるマクロ、ミクロの経済過程と主要な経済ファクターについて、現状の把握につとめる。ただ文章だけではなく、表や図による分析方法も学ぶ。その中から学術用語やベーシックな理論も、できるかぎり抽出して解説していくようにする。</p> <p>まず、経済成長とその陰に潜む財政赤字、なおも不十分な公共投資、低生産性、所得不平等とその対策、経済成長戦略、対外貿易政策についての外観をみる。</p>		
使用教材	テキスト	テーマに沿った英文を用意し、配布する。	
	参考文献	参考文献は、講義の中で適宜指示する。	
評価方法	評価は、下訳（講義をきいて修正したもの。評価はこれを重視する）とその清書（いずれもレポート用紙を使用）の提出。前期、後期の試験、授業中の発表などによって決定する。		
受講者に対する要望など	予めテキストを読んで、受講すること。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	松本正信
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>日本が経済先進国と言われるようになって久しい。外国書研究（講読）の目標はもとより外国語の専門書等を読んで理解出来る能力を養成することであるが、逆に日本の経済諸事情など日本に関する事柄の外国語で著わされた書籍や資料を読んで、これを外国人に解説して理解して貰えるような能力の養成ということ、今日では要請されてもしくはないであろう。その意味で格好の教材を見つけた。文章も平易・平明で分かり安く、直ぐ慣れるであろう。意欲ある諸君の選択を望む。</p>		
講義概要	<p>テキストを覗れば一目瞭然であるが、近時ほぼ20年；1970—1990年の日本経済の事情や特質を、アダム・スミスやケインズの古典を引用し、理論的ツールも駆使しながら極めて分かり安く解説していく。また明治時代からの近代化と経済成長についての歴史的概観も示され、最後には最近時の言う所のバブル発生とその余波や将来に対する課題や挑戦にも言及されていて教材としても格好、なかなか面白い内容だ。また、これからの国際人としての豊富な用語の習得にも役立つ教材だ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Tachi, Ryuichiro, translated by Richard Walker; <i>THE CONTEMPORARY JAPANESE ECONOMY An Overview</i>, University of Tokyo Press, 1993.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>後期定期試験を中心にして評価していきたいと考えてはいるが。</p>		
受講者に対する要望など	<p>文章は平明で分かり易いから、ともかくテキストを早目に求めて読んでみてほしい。途中所によっては簡単な解説のみで訳は省略し、年間を通じて読み切りたいので、受講者も左様心得度し。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

序論、後書を合わせて10章を、年間を通じて各章2～3回の講読のペースで進めて行く積りである。

The Contemporary Japanese Economy, An Overview by Ryuichi Tachi

Introduction

1. The Growth and Development of Japan's Economy
2. Monetary Policy
3. Public Finance
4. The Social Security System
5. International Balances of Payments
6. Prices
7. Structural Changes in the Economy
8. Problems and Challenges for the Future

Afterword: The "Bubble" and Its Aftermath

科目名	外国書研究 I	担当者名	宮城浩祐
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>ここでは、「異文化間経営比較の父」と呼ばれる Geert Hofstede (オランダ人) の研究をわかりやすく解説するのが目標である。</p> <p>彼には、“Culture’s consequences” (1980) という「記念すべき研究」がある。この本を書いたことで、彼は「異文化間経営比較の父」と呼ばれるようになったのであるが、残念なことに、ここで1年間かけても読みきれない程の大著であるので、下記に示したテキストで代替することにした。</p>	
講義概要	<p>彼の業績の要点は、いかなる経営システムにも、普遍的に正しいものは存在しないということである。彼自身の言葉を示そう。「経営技術の本質は、文化の制約を受けていることである。だから、ある国の文化に当てはまる経営技術や経営哲学も、他の国の文化には、かならずしも当てはまらない」。われわれは、あらゆる場面を通して、これを解説したいと思っている。これを学習することによって、われわれの日常の社会行動も、文化によって、いかに異なるかを、体系的に学習できるという、副次的利益もある。</p>	
使用教材	テキスト	Geert Hofstede, “Motivation, leadership, and organization: Do American theorise apply abroad?” <i>Organizational Dynamics</i> , 1980.
	参考文献	なお、後期テキストとして、同じ著者による “Cultural dimensions in management and planning,” <i>Asia Pacific Journal of Management</i> , 1984 を使用する。
評価方法	総合評価による。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	外国書研究 I	担当者名	百瀬 房徳
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパ経済共同体が1993年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成の為に種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。</p>	
講義概要	<p>付加価値税は導入以来ほぼ100年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となって以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。</p>	
使用教材	テキスト	・Ernst & Young; <i>VAT in Europe</i>
	参考文献	無し
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>無し</p>	



## 年 間 講 義 予 定

下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：

The European Economic Community

The Aims of the European Community

The White Paper

The Community's Institutions

The Financial Means of the Community

The Value Added Tax

Harmonisation of VAT Regulation within the European Community

The Proposals for Further Harmonisation

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	森 健
-----	--------	------	-----

講義の目標	近年の日本経済の動向を分析した英文文献を読むことにより、(1)現実の経済問題を分析するときに一般的に取り上げられる指標や概念についての知識を深めること、(2)その指標や概念の背景にある経済理論を学ぶこと、(3)近年における日本経済と世界経済との関連について理解を深めること。		
講義概要	単行本、学術雑誌、国際機関刊行物、セミナー・ペーパー、ビジネス誌などの英文文献の中で、上記の課題について、できるだけ最近の情報を材料にして分析を行っているものを教材として輪読する。		
使用教材	テキスト	(プリントを配布する)	
	参考文献		
評価方法	定期試験および普段点		
受講者に対する要望など	授業の主眼は、英文を機械的に邦訳することにあるのではなく、文献に記された経済分析の内容を理解し、これを批判的に検討することにあることに留意して受講すること。		
年講予 間義定	受講者の要望を参考にしながら決定したい。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山越 徳
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>海外（英語）の文献を通して、経済学や経済の状況をより広く、より多く知ること、専門用語の知識を増やすことにより、経済学や経済の情報、海外の情報、外国語の文献に対して、少しでも身近に感じ、自ら進んでそれらに触れる1つのキッカケになればと考える。また、社会や立場、地域が異なれば、考え方、捉え方も違ってくることなども、いっしょに考え、議論する。</p>		
講義概要	<p>経済学や経済の状況さらには専門用語等、より広く、より多く知するため、国際労働力移動、外国人労働力問題、NIESの現状、貿易摩擦、技術変化などの中から最近のペーパーを採り挙げ、読み、議論する。問題を理解するためには、ペーパーを読み切ることも必要であり、またより多くの問題を扱いたいとの理由から、夏休みのレポートも含めて、ペーパーを4～5件は読み進める。なお関連事項に関して詳しく知る必要があるものは、授業中に指名し、次回までに調べ、報告してもらうこともある。</p>		
使用教材	テキスト	<p>上記ペーパー（現在選択中）のコピーを授業に配布する。</p>	
	参考文献	<p>英和・和英の辞書は必ず授業には携帯すること。</p>	
評価方法	<p>授業の出欠、授業の中での応答、夏休み期間中の課題レポートおよび、期末考査の結果により評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>文献の内容をより深く理解するには、より多くの知識が必要であり、そのため、外国語、日本語を問わず、多くの文献、書籍を読むことを勧める。とくに翻訳されたものを広く読むことを勧めたい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

後期完結（後期のみ、週2回）

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方、取組み方の説明 講義の概要にも示した様に、4～5件のペーパーを読み終えることを目指して授業を進めるため、1つのペーパーを4～5週で読み、議論をする予定である。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山田浩一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>本講義においては、英語文献を通じて税務会計上の知識を深めることをめざしていきたい。すなわち、語学力の上達のみでなく、専門知識そのものを蓄積することに重点を置きたいと考えている。</p> <p>内容としては、法人税を中心として税務及び会計の領域にふれていくこととなる。</p>		
講義概要	<p>日本の税制を解説した英語の文献を用いていきたい。法人税法が主な内容となるが、それを手がかりとして、日本の会計制度・法律制度との関係、さらに諸外国の制度との比較にも言及してみたい。</p> <p>予めプリントを配布する予定であるが、学生諸君には、順次、和訳してもらった上で内容の説明を求める。それに追加して、必要と思われる解説を施していきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>「GUIDE TO JAPANESE TAXES」YUJI GOMIを用いる予定であるが、受講生諸君との協議により変更もあり得る。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の英和辞典の他に、法律・会計・税務関係の英和辞典の利用を勧める。</li> <li>・また、税務会計、法人税法及び会計に関する各種参考書、法人税等の法規集、通達集が参考となろう。</li> </ul>	
評価方法	<p>講義への出席と報告、意見発表等を重視したい。定期試験の実施も予定しているので、その結果も成績に反映されることとなる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者は必ず予習して講義に臨むことが求められる。また関連授業として、税務会計、財政学、会計学原理等の科目の履修が求められる。</p> <p>年間講義予定：省略させていただきます。</p>		

科目名	外国書研究 I	担当者名	山本 栄
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>原書を通して「本の読み方」を勉強します。「本の読み方」というと何をいまさらと思う人も多いと思います。しかしそこには重大な落とし穴がある。日本語だと斜め読みをして読んだ気になるが、実の所中身がわかっていないという場合がよくある。そこで原書を通して著者が何をいわんとするのかを考えながら読む習慣をつくようにしたい。そのため一字一句たりとおろそかにできない。それが本の中身を理解することであり、それが「本の読み方」なのである。原書を通して勉強法の仕方を覚えると言っても良いであろう。</p>		
講義概要	<p>テキストはアメリカの大学で使う標準的なものです。人間-機械系 (Human-Machine System または Human-Computer System) における基礎的なことが書かれています。コンピュータ・ソフト開発者に必要な基礎的な知識が書かれています。本書は790ページと大部ですが、アメリカでは1年間で読みます。本講義では2～3ページを全員が読んで内容の紹介をおこなう。単に英語を辞書の訳語に置き換えるのではない。著者の言わんとするところを述べてもらう。特に分担はせず当日あてていきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Sanders and McCormic ; <i>Human Factors in Engineering and Design</i>, 7th ed. McGraw-Hill 出版</p>	
	参考文献	<p>(テキストは授業中に配布します)</p>	
評価方法	<p>出席点と2回の期末テストで評価します。出席点とは当てられたところができると0点、できないと-1点、良くできると+1点、他の人が出来ないところができると+1点とし、年間でマイナスにならなければ出席点は合格となります。よくできるとは内容について自分で調べ解説ができることです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一回の分量はそれほど多くないので、まず声を出して5～10回読み、それから辞書をひくと良いとおもいます。最低何が書かれているかを説明できるように予習して下さい。単語の訳を調べるだけではだめです。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

Chapt. 3 Information Input and Processing

Chapt. 4 Text, Graphics, Symbols, and Codes

## 後 期

Chapt. 5 Visual Displays of Dynamic Information

Chapt. 6 Auditory, Tactual, and Olfactory Displays

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山本正三
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>経済地理の基礎知識を学ぶと同時に、専門外国語の学習が可能なことを念頭において、イギリスの大学における入門テキストを選んだ。内容は簡潔で、複雑で難解な文章はほとんど含まれていないうえに、記述されている事実は多方面にわたっているので、入門者向きなテキストである。</p>		
講義概要	<p>下記テキストの第3部「商品生産の地理」と第4部「工業の地理」を分担をきめて講読していく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ H. Robinson ; <i>Economic Geography</i>, Macdonald &amp; Evans</p>	
	参考文献	<p>・ 青野寿郎他編『地理学辞典』 二宮書店          ・ 芦刈孝 『地理学小辞典』 二宮書店          ・ 三野与吉他編『地理小辞典』 三省堂          ・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房</p>	
評価方法	<p>講読を分担して行く間に主に評価していくが、他に訳読の課題を課し、レポートを提出させる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>原則として出席すること。</p>		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Part 3 : The Production of Commodities
2	XIII. Industrial raw materials Textile fibres
3	Vegetable Oils
4	
5	Forest products
6	XIV. Metals and minerals Mineral resources
7	Important minerals
8	XV. Fuel and power resources Resources
9	
10	Oil and natural gas
11	
12	Hydro-electric power
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Nuclear power
2	Part Four : Manufacturing Industry
3	XVI. Industry and its distribution Major industrial regions of the world
4	Features of modern industry
5	XVII. Location of Industry Factors of location
6	XVIII. The heavy industries Iron and steel industry
7	Engineering industry
8	XIX. The light industries Nature of light industry
9	XX. The major manufacturing regions Europe and America
10	
11	Asia and the southern hemisphere
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山本美樹子
-----	--------	------	-------

講義の目標	英字新聞の経済欄の記事を辞書をあまり使わなくても済む程度で読みこなせるように、毎回の授業でトレーニングする。		
講義概要	英字新聞には新聞独特の言い回しがあるが、そのような点にも注意を払いつつ、内容の経済学的な意味を説明しながら授業を進めていく。扱う記事は最新のもので、日常生活のなかで頻出する題材を取り扱っているものを選んでいく。また、私の専門は国際経済学なので、国際経済学関連の記事にも目を通していきたい。		
使用教材	テキスト	特になし。授業で使う記事は毎回プリントして配る。使う新聞は Asahi Evening News, The Japan Times, Nikkei Bussiness Weekly 等。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の学期末試験</li> <li>・出席回数</li> <li>・予習を含めた平常点</li> </ul>		
受講者に対する要望など	演習なので講義には学生が積極的に参加していくことが前提となる。出席するのが前提なのでできる限り出席してほしい。また出席だけでなく、予習を含めて講義に積極的に参加してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	外書講読1をどのように進めるのかについての説明。
2	前の週に配られたプリントを読んでいく。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	前期の期末試験。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前の週配られたプリントを読んでいく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	後期の期末試験
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	湯田雅夫
-----	---------	------	------

講義の目標	会計学の新しい領域である社会報告書および環境報告書の内容の把握と理解につとめる。		
講義概要	環境会計の分野で、イギリスにおける第一人者であるグレイ教授、オーエン教授ならびにアダムス教授の著書をテキストとして採り上げ、各自予習していることを前提に、輪読形式で進める。		
使用教材	テキスト	・ Rob Gray, Dave Owen, Carol Adams ; <i>Accounting &amp; Accountability</i> , 1996	
	参考文献	・ R. グレイ / D. オーエン / K. マンダース著 山上達人監訳 水野一郎、向山敦夫、 國部克彦、富増和彦訳『企業の社会報告—会計のアカウンタビリティー』白桃書房 ・ 小川 洵、鎌田信夫編『現代英和会計用語辞典』同文館	
評価方法	成績評価は、授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロ〔A4版〕で作成し、提出のこと）、および後期試験によって行う。		
受講者に対する要望など	私語厳禁。受講者は、十分に予習をして出席すること。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	米山昌幸
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>国際経済にはさまざまな問題が存在し、国家間の利害対立を深めている。その中でも発展途上国の貧困問題、経済発展に関する問題はとくに深刻である。途上国の経済発展は決して途上国だけの問題ではなく、先進国も含めた地球全体として取り組んでいかなければならない問題である。</p> <p>先進国社会に生きる私達にまず必要なことは、途上国の抱える諸問題の実態を認識し、問題解決に向けて何ができるかを考えることである。この講義では、テキストの講読を通して発展途上国の経済開発問題への体系的なアプローチを目指す。</p>
講義概要	<p>テキストの概要は次の通りである。</p> <p>このテキストは実証的なデータ、経済理論、政策論議を通して、途上国の開発問題に体系的にアプローチしている。〈第1部〉では、第三世界における低開発の実態と意味およびそのさまざまな発現形態に焦点を当てる。〈第2・3部〉では、国内的、国際的両面から主要な開発問題と政策に焦点を当てる。トピックスは経済成長、貧困と所得分配、人口、失業、人口移動、都市化、技術、農村および地域開発、環境、教育、国際貿易および金融、海外援助、民間海外投資、そして債務危機を含む。そして〈第4部〉では、第三世界の可能性と展望を考察する。</p> <p>詳しい章構成については、右のページを参照されたいが、その中からいくつかの章を選んで輪読していく。</p>
使用教材	<p>テキスト Michael P. Todaro, <i>Economic Development, 5th edn</i> (Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布する。</p> <p>参考文献 渡辺利夫『開発経済学—経済学と現代アジア—』日本評論社、1986年。 高木保興『開発経済学』有斐閣、1992年。 世界銀行、白鳥正喜監訳『東アジアの奇跡』東洋経済新報社、1994年。 World Bank, <i>World Development Report</i> (『世界開発報告』) 各年版。 World Bank, <i>World Debt Tables</i> (『世界債務白書』) 各年版。 海外経済協力基金開発援助研究会編『経済協力用語辞典』東洋経済新報社、1993年。</p>
評価方法	成績評価は、前期および後期の定期試験の成績に、授業への参加・報告を考慮して行う。
受講者に對する要望など	<p>受講者に毎回テキストを分担して報告してもらいますが、毎回かなりの分量を読むので、必ず予習をして来て下さい。また、報告者は必ずレジュメを用意して下さい。講読の授業というよりむしろ内容理解に重点を置いたゼミ形式の授業にしたいと思いますので、各自の十分な予習に基づいた主体的な参加を期待します。</p> <p>※履修者は、必ず第1週目の授業に出席すること。</p>

## 年 間 講 義 予 定

### 【講義の予定】

第1週はテキストのコピーを配布し、講義のガイダンスを行う。イントロダクションとして、テキスト・参考文献の紹介、講義の内容と進め方、学習の仕方、成績評価の方法などを説明する。また、第2週以降の報告者も決める。

第2週以降はテキストの輪読、参考文献を利用した補足学習、討論を行っていく。

### 【テキストの章構成】

#### 〈第1部〉原理と概念

1. 経済学、制度、開発：グローバルな観点
2. 発展途上国の多様な構造と共通の特徴
3. 開発理論：比較分析
4. 歴史的な成長と現代の開発：教訓と論争

#### 〈第2部〉国内的諸問題と政策

5. 成長、貧困、所得分配
6. 人口成長と経済開発：原因、結果、論争
7. 失業：問題、規模、分析
8. 都市化と農村＝都市の人口移動：理論と政策
9. 農業の変容と農村開発
10. 環境と開発
11. 教育と開発

#### 〈第3部〉国際的諸問題と政策

12. 貿易政策と開発経験
13. 国際金融、第三世界債務、マクロ経済的安定化論争
14. 貿易政策論議：輸出促進、輸入代替、経済統合
15. 海外直接投資と対外援助：論争と機会

#### 〈第4部〉可能性と展望

16. 計画立案、市場、国家の役割
17. 金融システムと財政政策
18. 1990年代の重大な諸問題：新たな相互依存、地球規模での環境の脅威、アフリカの悪循環、東欧の経済的移行、貿易と金融のグローバリゼーション

科目名	外国書研究 I	担当者名	D. G. Moen
-----	---------	------	------------

講義の目標	<p>The aim of this course is to expose students to readings, lectures, and documentary films in English that offer alternative analyses of contemporary socio-political issues. By doing so, students will gain an understanding of social issues from varied (and often critical) perspectives, and learn to not rely only on mainstream interpretations of complex social phenomena.</p>		
講義概要	<p>This course is intended to be a discussion-based rather than a lecture-based course. During the first half of the course, I will be the discussant, choosing the reading materials and leading the discussions. However, during the second half of the course, students will be the discussants and choose particular readings that interest them. In this manner, students will take part in designing the course to meet their individual needs and interests. Discussions will be in English although Japanese use will be allowed.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>Readings will be assigned on a weekly basis. Students will be given copies of the readings one week in advance, with the expectation that they will come to class the following week prepared to discuss the contents of the assigned reading for the week. In addition to assigned readings, I will periodically lecture on topics such as Third World development, U. S. military interventionism, or racism in the United States. Students will be expected to take lecture notes and be prepared for group discussions the following week. Lectures will be supplemented by documentary films related to the lecture topic. There will be no required texts for this course. Since this course is student-designed, the readings (and lectures) will reflect the interests of the students.</p>	
評価方法	<p>Grades will be based on class attendance, class participation, and a 3-4 page analysis of the first 12 weeks of class discussions (to be written in English).</p>		
受講者に対する要望など	<p>I hope that students, by realizing that various relevant interpretations of social phenomena are possible, will gain the confidence to express their opinions on a wide variety of topics. It is only through discussion and exposure to a wide range of perspectives on any given issue that a meaningful understanding of often complex and multi-faceted social phenomena can be made.</p>		

## 年 間 講 義 予 定

Week 1 Introduction to the course

Week 2 - 12 Teacher-selected reading / lecture / film based discussions

Week 13 - 23 Student-selected reading-based discussions

Week 24 Open discussion and course summation



科目名	外国書研究Ⅰ（外国人学生用）	担当者名	駒形哲哉
-----	----------------	------	------

講義の目標	外国人留学生のために企画された経済学の入門書の輪読（参加者が1冊の本を一緒に読んで意見を交わすこと）をつうじて、日本語文献を読み、日本語で討論する力を養うことを目標とする。		
講義概要	下記テキストを受講者が分担して報告し、その内容について日本語で討論する。		
使用教材	テキスト	岡田泰男、野澤素子、村田年共編『はじめての経済学 日本語と英語で学ぶ経済用語 1,000』慶応義塾大学出版会、1995年	
	参考文献		
評価方法	受講者の発表と討論への参加の状況によって成線評価を決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講時に受講者と相談のうえ決定する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講時に受講者と相談のうえ決定する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（独語）	担当者名	御園生 眞
-----	------------	------	-------

講義の目標	ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、経済学の基礎を学びます。		
講義概要	テキストを分担して訳してもらいながら、説明を加え講義を進めます。		
使用教材	テキスト	・ Otto Seitzer ; <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> , 三修社	
	参考文献	独和辞典（どの出版社のものでも良い）	
評価方法	出席と前期・後期の試験の成績で評価します。出席を重視します。		
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語を第一外国語あるいは第二外国語として履習した人を対象としますが、意欲ある人の参加も歓迎します。 希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。		

科目名	外国書研究 I (仏語) 外国書研究 II (仏語)	担当者名	千代浦 昌 道
-----	-------------------------------	------	---------

講義の目標	フランスの経済関連書籍ならびに定期刊行物等の講読を通じて、フランス経済の現状を把握し、分析し、その成果を国内・国際経済理論等に役立てること。		
講義概要	前後期とも、最近の LeMonde 紙の経済・社会関連記事を講読する。		
使用教材	テキスト	LeMonde 紙の記事のコピーを教場で配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本 正『実務に役立つ経済フランス語』(第三書房、1971)</li> <li>・松本 正『時事経済フランス語』(第三書房、1973)</li> <li>・小林 茂『新聞のフランス語』(白水社、1984)</li> </ul>	
評価方法	前期、後期各1回のレポート(仏文和訳)によって評価する。		
受講者に対する要望など	日本語、外国語を問わず、新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1) 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2) 最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識 (3) フランス経済の基礎データの説明
2	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(1) の講読
3	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(2) の講読
4	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(3) の講読
5	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(4) の講読
6	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(5) の講読
7	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(6) の講読
8	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(7) の講読
9	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(8) の講読
10	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(9) の講読
11	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(10) の講読
12	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(11) の講読
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(12) の講読
2	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(13) の講読
3	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(14) の講読
4	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(15) の講読
5	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(16) の講読
6	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(17) の講読
7	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(18) の講読
8	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(19) の講読
9	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(20) の講読
10	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(21) の講読
11	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(22) の講読
12	Le journal "LeMonde" 最新経済記事(23) の講読
備考	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	伊藤 為一郎
-----	--------	------	--------

講義の目標	テクニカルタームを学びながら内容の理解を深める。	
講義概要	内容を理解するため必要に応じて講義する。英国の社会・経済に関する論文や教材として用いる。	
使用教材	テキスト	プリント教材
	参考文献	
評価方法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	予習をしておくこと	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	香取 徹
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>会計学の基本的なテキストを読んで会計の英語に慣れることを目標にします。英文の財務諸表なども読めるようにしたいものです。</p>		
講義概要	<p>基本的な会計学のテキストを全員で読んでいきます。将来、英文の会計書類を見る機会があるかもしれません。少しでも専門用語に慣れておき、日本との相違や背景なども理解してもらいたい。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	なし	
評価方法	出席とテストによる評価		
受講者に対する要望など	<p>なし</p> <p>年間講義予定については、第1週の授業で指示する。</p>		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>外書Ⅱは選択科目なので、英語の力を一層向上させたいかまたは現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。講義内容については、外書Ⅰとはほぼ同様な傾向のものをテキストとして採用するつもりである。なお学期末試験は辞書持ち込みを認めて行う予定である。</p>	
講義概要	<p>講読を中心とする。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	未定
評価方法	<p>平常の出欠と予習を重視し、前期と後期の試験については受講者と相談して必要があれば実施する。なお昨年度はその必要がなかった。</p>	
受講者に対する要望など	<p>年間講義予定については、第1週の授業で指示する。</p>	



科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	高松和幸
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現代経営学に影響を与えた名著を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Herbert A. Simon, <i>Models of Man</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> <li>● James G. A March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> </ul> <p>英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。</p>	
講義概要	<p>前期は Simon の <i>Models of Man</i> の中で出てくる有名な概念「Bounded Rationality」を取り上げる。それは、「Rationality and Administrative Decision Making」や「A Behavioral Model of Rational Choice」などである。</p> <p>後期は James G. A March &amp; Herbert A. Simon の <i>Organizations</i> の中で出てくる有名な概念「Cognitive limits on rationality」を取り上げる。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Herbert A. Simon, <i>Models of Man</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> <li>・ James G. March &amp; Herbert A. Simon, <i>Organizations</i>, John Wiley &amp; Sons.</li> </ul>
	参考文献	(本書は入手困難なため、コピーを配布する。)
評価方法	後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「Rationality and Administrative Decision Making」と「A Behavioral Model of Rational Choice」の概要説明
2	毎回1～2頁程度の進捗予定
3	同 上
4	同 上
5	同 上
6	同 上
7	同 上
8	同 上
9	同 上
10	同 上
11	同 上
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「Cognitive limits on rationality」の概要説明
2	The concept of Rationarity
3	same as above
4	Performance programs in organizations
5	same as above
6	Perception and identifications
7	same as above
8	The division of work
9	same as above
10	Communication
11	same as above
12	まとめ
備考	

科目名	外国書研究 II	担当者名	宮城浩祐
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>この授業では、「異文化間経営比較の父」と呼ばれるG.Hofstedeの研究をわかりやすく解説するのが目標である。オランダ人である彼には、Culture's consequences (1980) という「記念すべき研究」(H.C.Triandis) がある。この本をあらわしたことで異文化間経営比較の父と呼ばれるようになり、この領域における知的共有財産になったのであるが、残念なことに、ここで1年間かけても読みきれない程の大著であるので、下記に示したテキストで代替することにした。</p>		
講義概要	<p>彼の業績の要点は、いかなる経営システムにも、普遍的に正しいものは存在しないということである。彼はいう。「経営技術の本質は、文化の制約を受けているということである。だから、ある国の文化に当てはまる経営技術や経営哲学も、他の国の文化には、かならずしも当てはまらない」。ここでは、経営のいろいろな側面を通して、このことを解説したいと思っている。これを学習することによって、われわれの日常の社会行動も、文化によって、いかに異なるかを、体系的に学習できるという副次的利益もある。</p>		
使用教材	テキスト	<p>G. Hofstede, "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, 1980.</p>	
	参考文献	<p>なお、後期テキストとして、同じ著者による "Cultural dimensions in management and planning", Asia Pacific Journal of Management, 1984 を使用する。</p>	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>年間講義予定については、第1週の授業で指示する。</p>		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	森 健
-----	--------	------	-----

講義の目標	<p>近年のアジア太平洋地域における貿易、投資、経済発展について論じた英文文献を読むことにより、(1)現実の経済問題を分析するとき一般的に用いられる理論仮説について理解を深めること、(2)経済論文における議論の進め方(論文の書き方)について学ぶこと、(3)アジア太平洋地域の経済と日本経済について知識を得ること、(4)英文で書かれた経済専門用語・概念についての知識を得ると共に、その用語、概念について一般に使用されている邦訳を知ること。(例: intra-firm trade→企業内貿易)</p>	
講義概要	<p>単行本、学術雑誌、国際機関刊行物、セミナー・ペーパー、ビジネス誌などの英文文献の中で、上記の課題について、できるだけ最近の情報や現象を材料にして分析を行っているものを教材として、輪読する。時には、そこで採用された分析方法(論理の組立て)の背景となる理論を理解するため、英文理論書の関連部分の講読も行なう。</p>	
使用教材	テキスト	(プリントを配布する)
	参考文献	
評価方法	定期試験および普段点	
受講者に対する要望など	<p>授業の主眼は、英文を機械的に邦訳することにあるのではなく、文献に記された経済分析の内容を理解し、これを批判的に検討することに留意して受講すること。</p>	
年講予 間義定	受講者の要望を参考にしながら決定したい。	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	山本美樹子
-----	--------	------	-------

講義の目標	英字新聞の経済欄の記事を辞書をあまり使わなくても済む程度で読みこなせるように、毎回の授業でトレーニングする。		
講義概要	英字新聞には新聞独特の言い回しがあるが、そのような点にも注意を払いつつ、内容の経済学的な意味を説明しながら授業を進めていく。扱う記事は最新のもので、日常生活のなかで頻出する題材を取り扱っているものを選んでいく。また、私の専門は国際経済学なので、国際経済学関連の記事にも目を通していきたい。		
使用教材	テキスト	特になし。授業で使う記事は毎回プリントして配る。使う新聞は Asahi Evening News, The Japan Times, Nikkei Bussiness Weekly 等。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の学期末試験</li> <li>・出席回数</li> <li>・予習を含めた平常点</li> </ul>		
受講者に対する要望など	演習なので講義には学生が積極的に参加していくことが前提となる。出席するのが前提なのでできる限り出席してほしい。また出席だけでなく、予習を含めて講義に積極的に参加してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	外書講読1をどのように進めるのかについての説明。
2	前の週に配られたプリントを読んでいく。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	前期の期末試験。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前の週配られたプリントを読んでいく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	後期の期末試験
備考	

科目名	外国書研究Ⅱ（外国人学生用）	担当者名	駒形哲哉
-----	----------------	------	------

講義の目標	日本語文献をつうじて東アジア（とくに日本や中国）がどのように論じられているのかを知ることを目標とする。		
講義概要	東アジアにかんする日本語文献を受講者が分担して報告し、その内容について日本語で討論することを予定しているが、受講希望者との相談によって詳細を決めたい。		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	受講者の発表と討論への参加の状況によって成績評価を決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講時受講希望者と相談のうえ決定する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	使用教材が未定のため、開講時に通知する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	



科目名	外国書研究Ⅱ（独語）	担当者名	御園生 眞
-----	------------	------	-------

講義の目標	ドイツ経済史・現代ドイツ経済に関連するドイツ語テキストを読みながら、ドイツ経済の理解を深めることを目的とします。		
講義概要	テキストを分担して訳してもらい、それに解説を加えながら講義を進めます。		
使用教材	テキスト	未定。履習希望者と相談して決める予定です。	
	参考文献	独和辞典（どのようなものでもよい）	
評価方法	未定。		
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語の外書Ⅰを履習した人を対象とします。履修希望者は、必ず第1回の授業に出席すること。		

科目名	貿易英語	担当者名	山崎 静光
-----	------	------	-------

講義の目標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。		
講義概要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書きかたの説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行なう。手紙のみならず信用状、契約書裏面約款等の読解を課し、用語に親しませる。		
使用教材	テキスト	・物産研修センター編『ザ ビジネスレター』有斐閣刊	
	参考文献	・山崎静光『輸出入手続ガイドブック』中央経済社刊	
評価方法	中間及学年試験		
受講者に対する要望など	<p>高校程度の英語は心得ておくこと。</p> <p>「貿易」と「英語」の二兎を追うつもりだが「英語」に時間を取られて「貿易」までなかなか手が回らない。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ビジネスレターの構成要素 テスト
2	— 〃 —
3	— 〃 —                      テスト
4	ビジネスレターの本文
5	— 〃 —                      テスト
6	カバーリングレター
7	— 〃 —                      テスト
8	新商売の開拓
9	— 〃 —                      テスト
10	引合とその返却
11	— 〃 —                      テスト
12	— 〃 —
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オファーと見積り
2	— 〃 —                      テスト
3	カウンターオファー
4	— 〃 —                      テスト
5	受諾と拒絶
6	— 〃 —                      テスト
7	受諾後の手続
8	— 〃 —                      テスト
9	苦情とクレーム
10	— 〃 —                      テスト
11	苦情・クレームに対する返事
12	— 〃 —                      テスト
備考	

科目名	総合講座(1)	担当者名	経済学部
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>二十一世紀へ向かう世界と日本 ——「混迷と新生」の狭間の90年代を考える——</p> <p>私達の日本と日本人は、あと十年後に迫った二十一世紀に入ってから、いったいどうなっていくのだろうか。どのように生き、働き、そしてそれぞれの喜怒哀楽をいかにもって日々を暮らしていくだろうか。日本人として、人間として、恥ずかしくない生き方をしていることができようか。</p> <p>現代世界では、「南」の諸民族における貧困、窮迫、混乱、抑圧、悲惨の渦が巨大化し日常化していることを、誰もが否定できない。「北」の諸民族においても、高度文明と大量消費経済の享受の陰や裏側において、精神的かつ物質的な人間疎外現象が深刻に展開していることを軽視できないだろう。</p> <p>現在進行中の「東」側世界における「解体と新生」も、日本と世界に不可避的に連関していくだろうし、その国家社会のペレストロイカや民衆生活における信仰復活のありようも、人類史の今後に大きな意味を持つことになるに違いない。</p>	
講義概要	<p>大変に好評だった前年度の総合講座に引き続いて、本年度も、経済学部は、諸君の前に、日本経済の現状はどうか、いかに未来に向かって生き抜いて行くか、の知恵と処方箋を問題提起したい。講師陣には、前年同様第一線で活躍されている方々をお呼びしたいと考えている。</p> <p>官庁エコノミスト、文学者、ジャーナリスト、テレビCM評論家、一流経済学者や実業家、第一線の産業人、流通問題専門家、宗教家などを招いて、率直な所を講義していただきたいと計画している。とくに、三・四年生にとって、就職試験のために不可欠の学習となるに違いない。</p> <p>日本経済と、それを動かす日本人がいま世界中でぶつかっている諸困難を考えるにつけても、私達に求められている学習の質と量は、うんざりするほど歴大かつ高度なものとなるだろう。この総合講座は、それらの課題へアプローチするための、学生諸君に最適の参考意見として貴重なものとなるだろう。</p>	
使用教材	テキスト	各回とも講義担当の方々が配布したものをを使用する場合がある。
	参考文献	
評価方法	前期・後期それぞれ、筆記試験を行なう。追試験および卒業再試験は行わないので注意すること。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	担当講師は基本的には毎回、異なるので、年間講義予定は、第1回講義の際に配布する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済構造の変革とか、産業構造の変革とか言われはじめてひさしい。社会での、いわゆる人間の占める位置も多様化してきている。企業内での「いじめ」現象も指摘されている。日本人の人脈づくりの研究会方式も悪評プンプンである。労働時間についても、労働省と通産省の考え方の違いがでてきている。国内における労働者のあり方、海外進出企業の現地の労働者の訓練のプログラムなり、人づくりの問題がある。とりあえず、こゝでは、大卒ホワイトカラーの人間開発なり、アメリカとの対比をみてみたい。</p>		
講義概要	<p>日本的経営として考えられた「年功」とか「終身雇用」とかの用語が衰え、効率とか、昇進についての考え方も変わってきている。アメリカにある、能力主義、実力主義の評価、日本にある集団主義、会社主義といった用語の意味上の違いは人間にとっての本質的なものであるのか、この認識の差は、日本側に批判として作用している。</p> <p>真の経済効率とは、よりよい機械をいれ、すぐれた製品をつくりだすことに意味があるのではないか。技能や技術をたかめるためには、職場への定着にも時間がかかる。評価や報酬にも気をかけねばならぬ。とにかく日本の若者は目標を失っている。考えてみたい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>小池和男著『アメリカのホワイトカラー』 小池和男著『大卒ホワイトカラーの人材開発』</p>	
評価方法	<p>まだ、決めていないが、定期試験、レポートの提出、等々による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎度、出席することですね。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「会社内000技術者とは何か、生産工程、研究開発部門の組織とか、人事制度、新人研修について
2	技術者のキャリアについて
3	営業分野の人材開発について ○食品卸、大手デパート、小売店、自動車ディーラー、システムエンジニア、建設技術者
4	総合会社におけるキャリア形成 ○海外勤務とキャリア
5	銀行におけるキャリア形成 ○金融環境の変化、国際化、証券化とキャリアの変化
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	製造業事務系のキャリア形成 人事とか労務というキャリア、昇進とか昇格について
2	人事部門におけるキャリア形成の実態と課題
3	昇進とか、キャリアとかについて
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特殊講義 A	担当者名	田代力也
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>サッカーを愛好する者の多くは、ゲームを鑑賞し、ゲームを楽しむことに終始する。そこにはやがて技を高め、ルールを理解し、戦法を知ろうとする自然な欲求が働らく。</p> <p>ここで一步を進めてサッカーの全体について学習し、更に踏み込んで各自でポイントを捉えて考察し、レポートにまとめて発表する。</p> <p>理論と実際とを有機的なものとして把握し再認識する。</p>	
講義概要	<p>前期、後期の講義、実技、ゲーム見学の中で、サッカーの歴史、特性、戦法、システム、ルール、そして現在のサッカーについての分析を行う。</p> <p>年間講義予定の詳細については、前期1週目のガイダンスで発表する。</p> <p>オープン参加の形で、夏期休暇中に3泊4日の合宿を予定している。</p> <p>場所については前期1週目のガイダンスで発表する。</p> <p>ゲーム見学は3回の予定。水、土、日のいずれかに授業を振り替える。若干のチケット代が必要となる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	授業毎に予習分も含め必要資料をコピーにて配布する予定。
評価方法	実技、レポート、出席、参加態度等を総合して評価する。	
受講者に対する要望など	サッカーについて、その技術、経験は問わないが、真面目に取り組む姿勢は必須である。	



科目名	特殊講義A	担当者名	和田 智
-----	-------	------	------

講義の目標	アウトドアスポーツ、アウトドアレクリエーションの計画と実施を授業の中心に置き、レジャーとは何か、また、レジャーの今日的意味と課題を探る。将来的には、学校教育・社会教育でさらに必要性の高まること予想される野外教育・野外活動について実践を通して学んでもらい、現場で役立つ能力を身につけてもらいたい。		
講義概要	年間に数回予定するアウトドア・シーズンスポーツ、レクリエーションナルスポーツを学内平常授業時に学生が自ら計画・立案し、週末、休日等を利用して学内、学外集中授業で実施する。今年度予定する主な種目は、「レクリエーションナル・スポーツ（ペタンク・ウォークラリーほか）」「アウトドア・シーズンスポーツ（アドベンチャーキャンプ・カーリングほか）」である。使用する用具等の都合で授業の定員は20名までとする。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本野外教育研究会編『野外活動テキスト』杏林書院</li> <li>・日本野外教育研究会編『キャンプテキスト』杏林書院</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本野外教育研究会編『キャンププログラム1、2』杏林書院</li> <li>・中野孝次『清貧の思想』草思社</li> <li>・ミヒャエル・エンデ『モモ』岩波書店</li> </ul>	
評価方法	授業への参加と取り組む姿勢、レポートをあわせて評価する。		
受講者に対する要望など	アウトドアでの活動・教育に特に興味関心のある学生の受講を希望する。また、数回にわたって実技を中心に授業を行うため、現地への交通費、その他必要とされる実費、個人で準備すべき装備類に費用が必要となる。日程金額などはオリエンテーション時に連絡する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	仲間づくりゲーム実習 その1
3	仲間づくりゲーム実習 その2
4	レジャーの意味について その1
5	レジャーの意味について その2
6	レジャーの意味について その3
7	野外活動について その1
8	野外活動について その2
9	野外活動について その3
10	「アドベンチャーキャンプ」の計画と立案 その1
11	「アドベンチャーキャンプ」の計画と立案 その2
12	「アドベンチャーキャンプ」の計画と立案 その3
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「アドベンチャーキャンプ」の反省と評価
2	「ウォークラリー」の計画と立案 その1
3	「ウォークラリー」の計画と立案 その2
4	「ウォークラリー」大会の実施
5	「ウォークラリー」の反省と評価
6	「カーリング」の計画と立案 その1
7	「カーリング」の計画と立案 その2
8	「カーリング」大会の実施
9	「カーリング」の反省と評価
10	レクリエーションスポーツ（フリスビー）実習
11	レクリエーションスポーツ（ベタンク）実習
12	1年間の活動の反省と評価
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	D. G. Moen
-----	-------	------	------------

講義の目標	<p>The aim of this course is to gain a critical understanding of the Third World "development" paradigm offered by international agencies such as the World Bank, and assess its worth from the perspective of the peoples directly affected.</p>		
講義概要	<p>During the first half of this course, through discussions based on lectures, documentary films, and assigned readings, we will explore some of ways in which governments of First World countries such as the United States and Japan, representing the interests of major corporations based in their countries, have directly contributed (during the postwar era) to the dramatic increase in Third World poverty, starvation, militarization and human rights abuses, and environmental destruction and cultural collapse. Some of the topics we will cover will include sexism and racism ; colonialism and imperialism ; deforestation, mining and damming ; the Green Revolution and export processing zones ; and militarization and genocide.</p> <p>This will lead into the second half of the course in which students will give oral presentations (either individually or in groups) of their fieldwork exercise. Each student will do a minimum of eight hours of participant observation research on the topic of his/her choice (related to environment or development issues) in an accessible location, taking fieldnotes. Students will note their successes, setbacks, surprises, and adaptations for class discussion.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>Readings relevant to the lectures will be assigned on a weekly basis. Most readings will be in English, with two or three readings in Japanese. Students will be given copies of the readings one week in advance, with the expectation that will come to class the following week prepared to discuss the contents of the assigned reading for the week. There will be no required texts for this course.</p>	
評価方法	<p>Grades will be based on class attendance, class participation, and a 3-4 page fieldwork analysis to be written in English. Students will write an informal 3-4 page discussion of their fieldwork experience on the research on the topic and setting, methods used, and data gathered, which evaluates the field experience. The grade will not be based on English proficiency or the relative "success" of the fieldwork, but on the student's analysis of the fieldwork project.</p>		
受講者に対する要望など	<p>I expect students to attend class on a regular basis so that they will become familiar with not only the course materials and their intended message, but with the varied experiences and interests of their fellow students as well.</p>		

科目名	経営学総論	担当者名	河野重榮
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりが、この科目の狙いである。経営学の研究対象である「経営とは何か」を理解し、経営学の考え方——原理の実際への適用——について学ぶ。現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、問題解決に達しない。経営学の最近の研究成果を熟知することによって、「経営とは何か」が、一層明らかになるであろう。</p>		
講義概要	<p>①はじめに、経営の研究対象である「経営」の把握の仕方、経営学の方法について、②また、経営の所有形態（企業形態、企業グループ、非営利事業体など）と制度的環境（支配集団、利害関係集団など）について述べる。③ついで、トップ・マネジメントのあり方について論じ、④それとの関連で日本的経営の特質と経営の国際化に言及する。</p> <p>管理問題に関しては①マネジメントの生成と発展を、人・組織・システムにおいて考え、②マネジメント・プロセスをめぐって、環境適応、組織の活性化、人材の育成に關説し、③最後に、経営戦略と経営問題の今日的課題を取り上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</p>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義を正確に理解し、キチンと講義ノートをとるようにして欲しい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに——経営学の学び方——経営学を学ぶ姿勢・方法について
2	組織・制度・職能
3	ドイツ経営学とアメリカ経営学
4	企業形態と株式会社
5	企業グループと非営利事業体
6	経営者支配、利害者集団、コーポレート・ガバナンス
7	トップ・マネジメント論
8	企業家精神、社会的責任、経営理念
9	最高経営責任者の役割
10	日本の経営へのマネジメントの導入
11	日本的意識決定システム
12	国際化と経営文化
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マネジメントの生成と発展
2	マニュアルと流れ作業
3	マネジメント・サイクルと人間問題
4	管理原則論と組織の編成原理
5	人間関係論と職場士気
6	マネジメント・プロセス
7	管理過程論への挑戦
8	管理システムと環境適応
9	組織の活性化と動機づけ
10	人材の育成と活用（人間資源管理）
11	経営戦略と競争優位
12	経営問題の今日的課題
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	高松和幸
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしている ので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいつ たい何か。その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。 経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。 本講義は、この種の疑問に、現代経営学の研究成果を平易に概説することによって、正面か ら答えようとするものである。</p>		
講義概要	<p>現代企業とその経営の解明を、現代経営学の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学が いかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方法について考 察する。つぎに、企業に注目して企業の形態と企業間の関係を解明する。この企業の運営の 側面が経営および管理であるが、この分野の研究過程を経営管理学説史の概説を通して全体 像を把握し、以下、個別のテーマにはいる。</p> <p>個々のテーマとしては、経営者、企業の目的と理念、企業と環境、経営戦略、人と組織、 企業文化、計画とコントロールなどのマネジメント技法、経営と情報などについて取り上げ て、年間を通しての講義が現代企業とその経営を映し出す「現代経営学入門」としたい。</p>		
使用教材	テキスト	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・河野重榮編著『現代マネジメント』同文館</li> <li>・小椋康宏編著『経営学原理』学文社</li> <li>・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版</li> </ul>	
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績評価する。 定期試験は後期末1回だけ、教科書等持込なし。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないの で、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の概説
2	経営学方法論 (経営学の対象と方法)
3	企業論 (企業形態と企業結合 1. 企業形態
4	の種類) 2. 企業体制
5	3. 企業間関係
6	経営管理学説史 (経営学の生成と発展) 1. テイラー～日本的経営
7	2. フォレット～人間関係論
8	経営組織論 (組織の生成と発展) 1. 伝統的組織論～近代的組織論
9	2. 組織の編成と活性化
10	経営戦略論 1. 激動する環境とマーケティング
11	2. 経営戦略と競争優位
12	前期のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営者論 (経営体と経営者) 1. 経営者の理念と機能
2	2. 企業家精神とイノベーション
3	経営理念論 (企業の目的と理念) 1. 企業の目的と目標
4	2. 経営理念と経営社会責任
5	経営文化論 1. 経営文化、企業文化
6	2. 経営の国際比較と日本的経営論
7	MIS・SIS 1. 経営情報システム論
8	2. 戦略情報システム論
9	マネジメント技法 1. マネジメント・プロセス
10	2. 経営計画と経営コントロール
11	人間資源管理論 (人材の育成と活用)
12	年間講義のまとめ
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	富田忠義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしているので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいったい何か、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。本講義は、この種の疑問に、現代経営学の分野での最新の研究成果を平易に概説することによって、正面から答えようとするものである。</p>				
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の分野での最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方法について考察する。次に、企業に注目して企業の形態と企業間の関係を解明する。この企業の運営の側面が経営および管理であるが、この分野の今日までの研究の過程を経営管理学説史の概説を通して全体像を把握し、以下、個別のテーマに入る。</p> <p>個別のテーマとしては、経営者、企業の目的と理念、企業と環境、経営戦略、人と組織、企業文化、計画とコントロールなどのマネジメント技法、経営と情報などについて取り上げて、年間を通しての講義が現代企業とその経営を映し出す「現代経営学入門」としたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</li> <li>・小椋康宏編著『経営学原理』学文社</li> <li>・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</li> <li>・小椋康宏編著『経営学原理』学文社</li> <li>・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版</li> </ul>
テキスト	・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</li> <li>・小椋康宏編著『経営学原理』学文社</li> <li>・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版</li> </ul>				
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。</p> <p>定期試験は後期末1回だけ、教科書等持込なし。</p>				
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>				



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義計画の概説
2	(経営学方法論) 経営学の対象と方法
3	(企業論) 企業形態と企業結合の種類 I 企業形態
4	II 企業体制
5	III 企業間関係
6	(現代経営者論) 現代的経営体と経営者 I 経営リーダーシップ
7	II 企業家精神とイノベーション
8	(経営理念論) 現代企業の目的と理念 I 現代企業の目的と目標
9	II 経営理念と経営社会責任
10	(経営文化論) I 経営文化、企業文化
11	II 経営の国際比較と日本的経営論
12	前期講義のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(経営戦略論) 現代企業の経営戦略 I 激動する環境とマーケティング
2	II 経営戦略と競争優位
3	(経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 I
4	II
5	(マネジメント技法論) I マネジメント・プロセス
6	II 経営計画と経営コントロール
7	(経営組織論) 経営組織の設計と活性化 I 経営組織の編成原理
8	II 組織の能率と組織の活性化 モチベーション(動機づけ)と行動科学
9	(人間資源管理論) 人材の育成と活用 I
10	II
11	(経営情報システム論) 経営情報システムの高度化、情報技術の戦略的利用
12	年間講義のまとめ
備考	

科目名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-----	----------	------	---------

講義の目標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディシプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実地的な学問である。</p>	
講義概要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政策への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。</p>	
使用教材	テキスト	授業で指示します
	参考文献	
評価方法	<p>レポートと定期試験で評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>	
受講者に対する要望など	<p>①毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1.....マーケティングとは何か(第1週) ●人間のニーズとは、人間の欲求とは ●欲求充足の市場の形成と交換の機能 ●人間は何故買うか(欲求=充足=お金) ●市場の形成過程
2	2.....マーケティング管理の変遷(第2・3週) ●企業は生産中心主義からマーケティング志向へ ●企業の利益中心から消費者の満足へ ●利益中心主義から社会貢献主義へ ●マーケティングの活用分野の拡大(ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ) ●非営利組織(大学病院・軍隊・警察・政府の各部門)も大きな関心を持ち始めた。
3	
4	3.....社会の発展と人間欲求の変化(第4・5週) ●農業社会・工業社会・脱工業化社会 ●人間欲求の変化と価値観の変動 ●過去-現在-未来(未来予測の方法論) ●消費者動向の変化と企業の戦略形式
5	
6	4.....消費者ニーズの調査法(第6・7週) ●消費者の欲求をさぐりあてる ●デモグラフィック・アプローチ ●ライフスタイル・アプローチ
7	
8	5.....市場調査の技法(第9週) ●データの収集法 ●サンプリングとその実際的方法 ●グループインタビュー法と潜在意識調査 ●質問紙の作成法と技法 ●市場調査の分析と企業戦略
9	
10	6.....消費者行動の分析(第10週) ●文化的・社会的・心理的な特性 ●社会階層と消費行動 ●欲求の階層化と心理的ヒエラルキー ●新製品の採用プロセス(認知から採用までの五段階)
11	7.....マーケティング・セグメンテーション(第11週) ●デモグラフィック要因とジオグラフィック要因 ●人口動態の変化 ●有望市場の発展とニューマーケット(シルバーマーケット、働く主婦層)
12	8.....製品企画とライフサイクル(第12週) ●アイデアとコンセプト開発 ●開発から衰退までのライフサイクル
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	9.....マーケティングコミュニケーション(第13週) ●企業の広告戦略 ●広告の技術と戦略 ●広告とセールスプロモーション
2	10.....マーケティング戦略と計画の作成(第14・15週) ●セールス・フォース ●セールス・プロモーション ●セールスマンの訓練と育成 ●製品の販売管理
3	
4	11.....サービス・マーケティング(第16週) ●組織のマーケティング ●人材のマーケティング ●計画作成=組織=コントロール機能
5	12.....非営利企業のマーケティング(第17・18週) ●大学のマーケティング ●軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ●ハブリシティの役割
6	
7	13.....マーケティングと企業家(第19・20週) ●企業のリーダーシップとマーケティング ●リーダーのタイプと時代の変化 ●企業のマネジメントとマーケティングの応用
8	
9	14.....マーケティングと国家体制(第21・22週) ●資本主義社会と人間の欲望 ●社会構造と国家政策 ●人間の欲求と国家の政策
10	
11	15.....マーケティングの新しい応用(第23・24週) ●人を動かすマーケティング ●民主主義の理念とマーケティング ●人間とは何か(マーケティングの視点から) ●人生の将来展望(あなたの幸福とは何か?) ●まとめ
12	
備考	

科目名	企業論	担当者名	西川純子
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>企業とは何か、何を目的にどのような活動を行うのかを明らかにするのが、本講義の目標である。問題へのアプローチはさまざまな角度からなされ得るが、本年度は歴史的な分析に力点を置きつつ、企業の生成・発展の過程を把握した上で、現代の企業の問題点を浮き彫りにしてみたい。</p>		
講義概要	<p>前期は欧米の企業を中心に考察し、後期は日本に焦点を当てて日本的企業の特殊性を検討する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間宮陽介『法人企業と現代資本主義』岩波書店、1993</li> <li>・奥村宏『会社本位主義は崩れるか』岩波新書、1992</li> <li>・西川純子、松井和夫『アメリカ金融史』有斐閣、1989</li> <li>・西川純子編著『冷戦後のアメリカ航空機産業』日本経済評論社、1997</li> <li>・Th. Veblen; <i>The Theory of Business Enterprise</i> (1904) (小原訳『企業の理論』勁草書房)</li> <li>・A.A. Berle &amp; G. C. Means; <i>The Modern Corporation and Private Property</i> (1932) (北島訳『近代株式会社と私有財産』文雅堂)</li> <li>・J. K. Galbraith; <i>The New Industrial State</i> (1967) (都留訳『新しい産業国家』河出書房)</li> <li>・J. M. Keynes; <i>The End of Laissez-Faire</i> (1926) (宮崎訳「自由放任主義の終焉」『ケインズ全集9』東洋経済新報社)</li> </ul>	
評価方法	<p>前期、後期それぞれに筆記試験を行なう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業中の私語は堅く慎むこと。活発な質問（試験に関するものを除く）を歓迎する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業家、資本家、経営者／序論：三題噺
2	営業の自由／企業家精神の発露は営業の自由なしには不可能である。
3	自由と競争／自由と競争は無政府的な混乱を招来する。しかし、いずれは「見えざる神の手」によって調和が回復する。 アダム・スミスの世界
4	農業、商業、工業／産業革命は企業者活動を工業に結びつけた。
5	資本家と労働者／資本家と労働者の対立の構図 カール・マルクスの世界
6	企業金融 その1／銀行の役割
7	企業金融 その2／株式会社と資本市場
8	競争と独占／株式会社は巨大になることによって競争力を獲得しようとする。
9	ビッグビジネス形成の論理 その1／アルフレッド・チャンドラーの世界
10	ビッグビジネス形成の論理 その2／ソースタイン・ヴェブレンの世界
11	所有と支配の分離／株式所有の分散化現象をどう考えるか。パーリ＝ミーニズの問題提起
12	企業と国家／「自由放任主義の終焉」 J.M.ケインズの世界
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の企業と日本資本主義／日本の企業の特特殊性を考えることは日本資本主義の特特殊性を考えることである。
2	日本における企業者精神の生成／企業者精神の最初の担い手はどのようにして輩出したか。
3	財閥の生成と発展／三井、三菱、住友を中心に
4	新興財閥の勃興／鈴木商店、日本産業株式会社の場合
5	財閥解体／経済の民主化 その1
6	農地改革／経済の民主化 その2
7	企業集団／日本の企業集団形成の論理
8	法人資本主義／会社本位主義の是非をめぐって
9	企業の系列化／横の系列と縦の系列
10	官民協調／規制と保護の歴史
11	農業経営／農地改革後の50年
12	日本の企業の競争力／規制緩和の是非をめぐって
備考	

科目名	貿易論	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>日本は多くの資源や農産物、工業製品を海外から輸入し、また多くの製品を輸出している。私達の生活が外国との関係を抜きにしては成り立たないことは、改めて言うまでもないことである。このように深く国際経済に組み込まれた日本経済に生きる私達にとって、国際経済のメカニズムを理解することはますます重要となっている。</p> <p>この講義では、国際貿易のメカニズムや貿易政策などを理論的に理解し、分析する力を養成する。この国際貿易の基礎理論の修得を通して、現実の国際経済を考える上での理論的根拠を得ることが目標である。</p>
講義概要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本、労働、経営資源の国際移動を分析対象とする。前期は、伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。ここでは、なぜ貿易が行われるのか(どのような貿易利益が得られるのか)、どのような財が輸出され、どのような財が輸入されるのか、またその貿易パターンを決定する要因は何かなどを明らかにする。</p> <p>後期は、貿易政策の理論を中心に、地域経済統合理論、直接投資の理論などを講義する。前期の伝統的な国際貿易理論では、自由貿易の利益が明らかにされるが、現実には多くの国で保護主義的な貿易政策が採用されている。ここでは、なぜ保護貿易政策が行われるのか、貿易政策の効果はどのようなものかなどを明らかにする。</p>
使用教材	<p>テキスト 未定(次のものを予定している)。 小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス、1989年、第3章2～4(pp.37-48)、第1章1(pp.9-13)、第6章(pp.95-112)。</p> <p>参考文献 奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。 P.R.クルグマン・M.オブズフェルド、石井菜穂子(他)訳『国際経済：理論と政策Ⅰ 国際貿易』新世社(新経済学ライブラリ=別巻3)、1990年。 河合正弘・伊藤元重『三日間の経済学/国際経済学・入門』JICC出版局、1991年。 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門(改訂2版)』日本経済新聞社、1996年。 伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店(モダン・エコノミックス14)、1985年。 なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>
評価方法	成績評価は、前期および後期の定期試験によって行う。
受講者に対する要望など	<p>出席もせずに、試験だけとりあえず受けたような人で、試験ができたためしがありません。まず、出席して講義を聞いて下さい。でも、聞いているだけではだめです。自分で本を読んで勉強し、レポートで腕試しをして下さい。でも、勉強しっぱなしで、わからないところをそのままにしておいてはだめです。質問に来て下さい。以上のような努力をすれば、その努力は必ず結果につながるでしょう。</p> <p>なお、(どの科目でもそうだと思いますが)履修希望者は登録前に必ず授業に出席し、詳しい内容を確認した上で登録するようにして下さい</p>

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 貿易論とはどんな学問分野か?、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、関連科目、成績評価の方法
2	1. リカードの比較生産費説 (1)モデルの設定(2国2財1要素モデル) (2)閉鎖経済の均衡相対価格、絶対優位と比較優位 (3)生産フロンティア(生産可能曲線)の導出 (4)貿易開始後の両国の生産・貿易パターン、貿易開始後の均衡相対価格、完全特化と不完全特化 (5)最適消費点の決定、消費フロンティア(GNP線、価格線)と社会的無差別曲線 (6)貿易利益、大国と小国
3	
4	
5	
6	
7	
8	2. ヘクシャー・オリーン理論—固定投入係数のケース— (1)モデルの設定(2国2財2要素モデル、生産技術は両国で同一)、資本集約財と労働集約財 (2)生産フロンティアの導出、資本豊富国と労働豊富国 (3)要素賦存量と生産構造、リプチンスキー定理 (4)要素賦存量と比較優位(貿易構造)、相似拡大的な選好の仮定、閉鎖経済における均衡相対価格の決定、ヘクシャー・オリーン定理(生産要素賦存説、要素賦存比率定理) (5)財の相対価格と要素価格(所得分配)、ストルパー・サミュエルソン定理
9	
10	
11	3. ヘクシャー・オリーン理論—伸縮的投入係数のケース— (1)生産技術の決定、一次同次の生産関数、等量曲線、限界生産力逓減と技術的限界代替率逓減、規模に関して収穫一定 (2)両部門の単位等量曲線、資本集約的な産業と労働集約的な産業 (3)要素配分の決定(ボックス・ダイヤグラム分析)、生産要素の契約曲線(効率軌跡) (4)一般的な生産フロンティアの導出 (5)両国の生産フロンティアとヘクシャー・オリーン定理
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の解説
2	4. 貿易政策の理論 (1)貿易政策の目的 (2)貿易政策の手段 (3)部分均衡分析による貿易利益、小国の仮定、消費者余剰と生産者余剰、交易条件と経済厚生 (4)関税政策の効果 (5)生産補助金と関税の比較 (6)輸入数量制限と関税の比較、輸出規制と輸入数量制限の違い
3	
4	
5	
6	
7	
8	5. 幼稚産業保護論 (1)モデル設定 (2)保護政策が正当化されるための条件(ミル・バスターブルの基準、ケンプの基準、根岸の基準) (3)幼稚産業保護論の問題点
9	
10	6. 経済統合 (1)経済統合の諸形態(バラッサの分類) (2)経済統合(関税同盟)の理論、静態的效果(バイナーの理論;貿易創出と貿易転換)、動態的效果
11	
12	7. 国際要素移動の理論 (1)国際要素移動とは?、長期資本移動の分類 (2)国際資本移動の効果(マクドゥーガル図の分析)、国際労働移動の効果 (3)直接投資とは?、直接投資の諸形態 (4)直接投資の理論、直接投資の効果
備考	まとめ

科目名	簿記原理	担当者名	井出 健二郎
-----	------	------	--------

講義の目標	<p>この企業は良い・悪い、入りたい・そうでない…と評価するものさしには何があるでしょうか？ それは色々と考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのものさしがあるでしょう。そのものさしを作るもの…それが簿記です。</p> <p>また、皆さんが就職される際、評価されるものは何でしょうか？おそらく、第一は個性が左右されますが、資格の有無があります。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。簿記のしくみを知ってもらい、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。</p>		
講義概要	<p>前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひとつお話しをしていきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。</p> <p>後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、検定試験向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①上田俊昭 小川文雄 渋谷信夫 湯田雅夫『演習商業簿記入門』中央経済社 ②東京商科学院『日商3級 合格ポイント問題集』ほうしょう出版</p>	
	参考文献	<p>a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洸共著『簿記の基礎』創成社</p>	
評価方法	<p>通常の出席状況をもとに試験（前期テスト・後期テスト）をふまえたうえで総合評価していきます。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できる限りわかりやすく、皆さんをひきつけられる講義を心がけますので、皆さん自身も“この講義をうけて得るものが多かった”と充実感の残るようにしましょう。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記の諸目的と種類について
2	簿記の基本等式と基本概念について
3	簿記上の取引とその記録について
4	簿記上の取引の勘定記入について
5	簿記のプロセス1：仕訳について
6	簿記のプロセス2：(元帳)転記について
7	帳簿記入と伝票について
8	簿記のプロセス3：試算表について
9	簿記のプロセス4：精算表について
10	簿記のプロセス5：決算手続について
11	簿記のプロセス6：財務諸表の作成について
12	簿記のプロセスの復習と前期のまとめ
備考	進度によって若干の変更があります。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義内容の復習
2	現金・預金、商品売買取引に関する簿記
3	売掛金・買掛金、その他の債権・債務に関する簿記
4	手形取引に関する簿記
5	貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
6	有価証券、固定資産に関する簿記
7	費用・収益に関する簿記
8	資本と税金に関する簿記
9	決算手続についての簿記1
10	決算手続についての簿記2
11	財務諸表の作成について
12	簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり
備考	随時、検定試験の対策をとっていきます。

科目名	簿記原理	担当者名	氏原茂樹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、簿記の初学者向けに基礎知識から専門知識まで理解可能なように易しく説明します。簿記の知識を修得するためには、まず、基礎概念の構築が必要であり、それを土台にして専門知識の高度化をはかることになります。</p> <p>簿記は、技術的処理を中心とする科目ですが、その技術的処理は会計理論にもとづいているので、両面から理解が深められるように詳細な説明を行いません。</p>		
講義概要	<p>・前期 企業の経済活動を仕訳にもとづいて、仕訳帳・元帳に記張でき、試算表、6桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成方法が理解できるように簿記の基本原則を学びます。</p> <p>・後期 前期に学んだ簿記の基本原則にもとづき、特殊な取引に関する簿記処理を学習します。</p>		
使用教材	テキスト	氏原茂樹著『簿記の基礎詳解』税務経理協会	
	参考文献	新井清光監修『日商簿記検定・ワーク・ブック（3級商業簿記）』税務経理協会	
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価します。</p> <p>①定期試験 ②学習意欲と学習成果 ③出席状況</p>		
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない ②予習・復習をする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	資産・負債・資本	基礎概念と簿記処理
2	収益・費用	基礎概念と簿記処理
3	取引・仕訳	取引要素と仕訳の方法
4	仕訳・転記・伝票	転記の方法と伝票の記入
5	仕訳帳・総勘定元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記入
6	試算表	試算表の機能と作成方法
7	精算表	精算表の機能と作成方法
8	決算手続	決算の予備手続と本手続
9	現金・預金	現金等の内容と処理
10	小口現金	小口現金の内容と処理
11	商品勘定と3分法(1)	分記法、総記法、3分法による仕訳
12	商品勘定と3分法(2)	分記法、総記法、3分法の決算処理
備考	3分法の総合問題	3分法による仕訳と転記の総合問題

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	仕入帳・売上帳	仕入帳・売上帳の機能と記帳方法
2	商品有高帳	商品有高帳の機能と記帳方法
3	売掛金と買掛金	売掛金元帳と買掛金元帳
4	手形取引	約束手形と為替手形の処理
5	貸倒償却と貸倒引当金	貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理
6	有価証券	有価証券の内容と処理
7	固定資産と減価償却	固定資産と減価償却の内容と処理
8	その他の債権・債務	その他の債権・債務の内容と処理
9	個人企業の資本金	個人企業の資本金の内容と処理
10	決算整理	決算整理の内容と処理
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延の内容と処理
12	8桁精算表	8桁精算表の機能と作成方法
備考	損益計算書と貸借対照表	損益計算書と貸借対照表の機能と作成方法

科目名	簿記原理	担当者名	内 倉 滋
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」と言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を純粹に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、言うてみるならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなる。</p>		
講義概要	<p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。</p> <p>まず前期で、「決算整理」を含まない、「分記法」を前提とした（＝要するに基本的で最も簡単な、ということである）「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期になって、その内容に「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実務に近い形のものに深化させていくこととしたい。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	特に必要とはいたしません。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその最終評価の際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>簿記の検定試験類に、どしどしチャレンジして下さい。合格した場合は、本講義の平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	貸借対照表……簿記の目的、資本、貸借対照表の内容
2	損益計算書……簿記の第2の目的の達成方法、損益計算書等式（損益計算書）
3	「取引」の記録……期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成、「取引」の記録のルール
4	仕訳……仕訳とは、設例による説明
5	勘定口座……その必要性、勘定口座の形式、勘定口座への記入ルール
6	仕訳帳と元帳……仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）、元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）、3伝票制
7	試算表……決算（決算予備手続き、本手続、財務諸表の作成）、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
8	精算表……仮設例の提示（次回と共通）、精算表の原理
9	「勘定の振替え」という技法について……定義、具体例による説明
10	決算本手続（帳簿決算）その1：純損益の振替……帳簿決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）、資本金勘定を正しい値に修正するための第1の方法、その第2の方法
11	決算本手続（帳簿決算）その2：帳簿の締切りと繰越試算表……繰越試算表（その必要性等）、勘定口座の締切り（参考：大陸式決算法）、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成
12	前期の総復習……同形式の問題により、前期末試験の予行演習
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金・預金の記帳……現金（現金勘定、現金過不足の処理）、当座預金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）、小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳）
2	商品売上の記帳（3分法その1）……設例の提示、「修正された」分記法、3分法（2つの仮定を導入、期末に在庫が有る時の問題、売上時の処理）
3	3分法（その2）……3分法の復習、値引・返品処理、諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売主負担の場合〔発送費〕）
4	3分法（その3：仕入帳・売上帳）……帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）、仕入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点）
5	商品有高帳……その必要性、その位置付け（3分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」）、移動平均法、先入先出法
6	掛け売買と固定資産の記帳……掛け売買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）、固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳）
7	決算整理その1（3分法関係）……決算整理（仕訳）とは、3分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例
8	決算整理その2（貸倒れの見越し・減価償却）……貸倒れの見越し（意義、原理、償却債権の取立て）、減価償却（意義、毎期の減価償却費〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理）
9	8桁精算表と損益計算書・貸借対照表……8桁精算表（6桁精算表の限界、8桁精算表の原理）、損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）、貸借対照表（評価勘定の表示等）
10	手形の記帳……手形の種類、簿記上の勘定、為替手形振出しの説明、手形の裏書譲渡（意義等、割引）、受取手形記入帳・支払手形記入帳
11	収益・費用の繰延べ・見越し……設例の提示、収益・費用の「繰延べ」、収益・費用の「見越し」
12	その他の期中取引および決算整理事項等……その他の債権・債務の処理（商品券等）、個人企業の資本の記帳、有価証券の期末評価、消耗品の処理
備考	

科目名	簿記原理	担当者名	岡下 敏
-----	------	------	------

講義の目標	<p>簿記は企業で用いられている記録のつけ方で、明治初期に西洋から導入されたものである。したがって記録のつけ方の中に、西洋人の思考パターンが組込まれている。この記録のつけ方を、将来企業人となる者に必要と思われるレベルまで講義する。講義では、単に理論を習得することだけではなく、実際に各自が記帳処理することをも含める。</p>		
講義概要	<p>企業は、二つの計算書（損益計算書、貸借対照表）を作成する。そのためそれらに記載される事柄について、日頃からデータを集めておかねばならない。そのデータを集めるための記録の仕方が簿記であるが、それには一定の形式と記帳順がある。この形式と記帳順について、全くの初歩の段階から講義し、上記二つの計算書を作成しかつ記載内容が理解しうるまでを講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・岡下 敏著 『商業簿記入門』同文館、平成9年</p>	
	参考文献	<p>・沼田嘉穂著 『簿記教科書』同文館、平成6年          ・中村 忠著 『現代簿記』白桃書房、平成5年</p>	
評価方法	<p>前・後期とも幾度かの小テストを行い、後期末に定期試験を行う。評価はそれらの結果をすべて加味して行うが、特に後期の定期試験の結果を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席は、その後の講義の理解に大きく影響する。したがって欠席はしないことが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	資産・負債・資本	簿記の基礎概念
2	収益・費用	簿記の基礎概念
3	取引・仕訳	取引要素と仕訳の方法
4	仕訳・転記	転記の方法
5	仕訳帳・総勘定元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記入
6	試算表（決算予備手続Ⅰ）	試算表の機能と作成方法（合計試算表→残高試算表）
7	精算表（決算予備手続Ⅱ）	精算表の機能と作成方法
8	決算手続	決算の本手続
9	現金・預金	現金等の取引と処理
10	小口現金	小口現金の意義と処理
11	商品取引の処理(1)	分記法、総記法
12	商品取引の処理(2)	3分法
備考	3分法の総合問題	3分法による仕訳と転記

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	仕入帳・売上帳	仕入帳・売上帳の機能と記帳方法
2	商品有高帳	商品有高帳の機能と記帳方法
3	売掛金と買掛金	売掛金元帳と買掛金元帳
4	手形取引	約束手形と為替手形の処理
5	貸倒償却と貸倒引当金	貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理
6	有価証券	有価証券の内容と処理
7	有形固定資産と減価償却	有形固定資産と減価償却の内容と処理
8	その他の債権・債務	その他の債権・債務の種類と処理
9	個人企業の資本金	資本金と引出金
10	決算整理	決算整理の内容と処理
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延の内容と処理
12	8桁精算表	8桁精算表の機能と作成方法
備考	損益計算書と貸借対照表	損益計算書と貸借対照表の意義と作成方法

科目名	簿記原理	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済学部の学生にとって簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な科目です。将来、どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠です。また、財務会計論・管理会計論・原価計算論・経営分析論・会計監査論・税務会計論といった会計学に関連する科目を学んでいく上ではとても重要な基礎となります。そこで、この講義では、日本商工会議所簿記検定3級程度を完全に網羅して、2級の範囲に進みたいと考えています。</p>		
講義概要	<p>前期の講義では、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。簿記の意義と目的、複式簿記の原則、取引・勘定・仕訳とは、試算表と精算表、決算の手続き。</p> <p>後期は勘定科目、補助簿、決算整理事項による決算の手続きを理解することを目標とする。現金・預金、商品、買掛金・売掛金、受取手形・支払手形、有価証券、固定資産と減価償却、資本金、費用収益の見越・繰延。</p>		
使用教材	テキスト	『要点整理日商簿記検定試験練習問題集3級』一橋出版	
	参考文献	中村・百瀬・会田著、『現代簿記精鋭』中央経済社	
評価方法	定期試験による評価		
受講者に対する要望など	<p>簿記は、一定のルールにしたがった帳簿の記帳方法から始まりますので、その修得にはどうしても記帳練習が欠かせません。授業でも記帳練習を行います。授業でやったことを次の授業までに練習してきてください。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

## 授業スケジュール

- 4月 ①～④
- 5月 ⑤・⑥
- 6月 ⑦
- 9・10月 ①～③
- 11月 ④～⑤
- 12月 ⑥～⑧

## 前期講義内容要約

前期は簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。

- ① 簿記の意義と目的：簿記の現代的意義と目的
- ② 複式簿記の原理：複式簿記とはなにか。簿記の基礎概念と基本要素。
- ③ 取引：簿記上の取引。取引の8要素。
- ④ 勘定：勘定とは何か。勘定の種類と勘定口座。
- ⑤ 仕訳と転記：仕訳帳と元帳。
- ⑥ 試算表と精算表：合計試算表と残高試算表。精算表。
- ⑦ 決算：決算の手続。元帳の締切。決算仕訳。

## 後期講義内容要約

後期は勘定科目と補助簿、決算整理事項による決算手続を理解することを目標とする。

- ① 現金・預金
- ② 商品勘定
- ③ 売掛金・買掛金
- ④ 受取手形・支払手形、その他の債券債務
- ⑤ 有価証券
- ⑥ 固定資産と減価償却
- ⑦ 資本金
- ⑧ 費用・収益の見越・繰延

科目名	簿記原理	担当者名	中村泰將
-----	------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の結果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A["(1) 経済活動"] --&gt; B["(2) 簿記上の取引"]     B --&gt; C["(3) 分類・記録・計算"]     C --&gt; D["(4) 試算表"]     D --&gt; E["(5) 損益計算書"]     D --&gt; F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。</li> <li>・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</li> </ul>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何かを理解する
2	(1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
3	(1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
4	(1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
5	(1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6	第5回までの一連のプロセス <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">取引</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仕訳帳</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">元帳</span> → ?
7	試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どういう目的で試算表を作成するか
8	精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9	決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
10	(2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
11	決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
12	(3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
備考	前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金と預金の処理
2	商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
3	(3) 商品有高帳の作成
4	(4) 仕入帳と売上帳の作成
5	有価証券の購入・保有・売却の処理
6	固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
7	債権・債務の処理(1)
8	その他の債権・債務(2)
9	資本金の処理
10	決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用と前受収益
11	決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
12	決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成
備考	

科目名	簿記原理	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が簡単な精算表の作成、決算本手続きを遂行できるようにすることを目的とする。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複式簿記とは</li> <li>○ 取引と勘定</li> <li>○ 仕訳帳と総勘定元帳</li> <li>○ 試算表と精算表</li> <li>○ 決算(1)</li> </ul> <p>後期講義は、学生諸君が、次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、貸借対照表、損益計算書の作成である。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現金・預金の記帳</li> <li>○ 掛取引の記帳</li> <li>○ 商品売買の記帳</li> <li>○ 手形取引の記帳</li> <li>○ 資金調達・返済取引の記帳</li> <li>○ 損益整理</li> <li>○ 決算(2)</li> <li>○ 貸借対照表、損益計算書の作成</li> </ul>	
使用教材	テキスト	・中村、百瀬、会田著『現代簿記精説』中央経済社
	参考文献	
評価方法	年2回以上の試験の結果による。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	簿記原理	担当者名	百瀬房徳
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>		
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間における講義内容の説明。
2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3	仕訳の基本原則および取引勘定への転記。
4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
7	パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10	練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11	練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12	練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金勘定と現金出納帳。
2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
3	商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
4	仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
5	仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
8	受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
10	固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
11	決算前の諸勘定の整理について。
12	決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。
備考	

科目名	簿記原理	担当者名	湯田雅夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・小川冽・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984</li> </ul>	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2	簿記の歴史
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4	第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5	第4章 取引；第5章 勘定
6	第6章 仕訳と転記
7	第7章 帳簿
8	第8章 簿記一巡の手続き
9	第9章 現金預金
10	第10章 商品売買
11	第10章 商品売買
12	第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13章 その他の債権・債務
2	第14章 手形
3	第15章 貸倒れと貸倒引当金
4	第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
5	第18章 収益・費用の繰延と見越
6	第19章 決算予備手続
7	第19章 問題
8	第20章 決算本手続
9	第20章 決算本手続
10	第20章 問題
11	総合問題
12	本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。
備考	



科目名	会計学原理	担当者名	内倉 滋
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後に展開される会計学における「語用論」（＝経営分析論等の応用・専門学科目）への1つの橋渡しとなるものである。</p>		
講義概要	<p>本講義は会計という言語の意味論だと上で述べたが、そのことの意味は、たとえば「簿記原理」が「資産」を「所有する財貨および債権の総称」と説明するだけであるのに対し、そのどちらでもない「資産」が存在することを指摘した上で、“では資産の本質は何か？”といった問題を考察していく講義だ、ということである。ただし、その解決のための拠り所を、本講義では「企業会計原則」およびその解釈論に限定することとしたい。したがって本講義は、表面的には「企業会計原則」の解釈論を展開していく、という形をとることとなるが、そのこと自体が目的なのではなく、あくまでも「簿記原理」の中身を意味論的に肉付けしていくことにその本旨があることを忘れないでほしい。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また（受講生の理解度を知る目的からも）何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその最終評価の際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回の講義の最後は、「私は以上のように考えるのですが、皆さん方はどうでしょうか」と問いかけて終わることになっています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目的……目的＝「制度会計」とそれを支える理論の研究、3つの制度会計、「企業会計原則」（以下「原則」と略す）、それを支える理論
2	会計学の歴史……欧米（複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会計学）、我が国（明治6年の出発点、戦前、戦後）
3	戦後の制度会計の変遷と「原則」……「原則」の設定（設定目的、性質、期待された機能）、3つの制度会計による「原則」の採り入れ（証券取引法、商法、法人税法）
4	「原則」の全体像と「一般原則」の体系……「原則」の特徴（会計担当者に対する行為の指針の存在、具体的な処理ルールの財務諸表別規定）、「一般原則」の体系
5	「一般原則」の第1原則……企業会計の目的観（静態論、動態論）、第1原則の目的観（“経営成績”に力点）、「真実」性を要求（2つの真実性、達成可能性）
6	「一般原則」の第2原則……「正規の簿記の原則」に従えとの要請（第2原則自体≠「正規の簿記の原則」）、「正規の簿記の原則」とは（通説、少数説）
7	「一般原則」の第3原則……「正規の簿記の原則」の「少数説」に立った位置付け、第3原則の要請内容（前段、後段〔「特に」の意味〕）
8	「一般原則」の第4原則……3つの要請内容、「必要な会計事実」（重要な会計方針の開示、重要な後発事象の開示）、「重要性の原則」と第2・4原則
9	「一般原則」の第5原則……要請内容（会計方針の継続性、「正当な理由」による変更の容認）、本原則の意義（相対的真実性ととの関係、代替ルールの無い場合）
10	「一般原則」の第6原則……意味（静態論時代の意義、意思決定のルールとしての現在の解釈）、「原則」の文理解釈、過度の保守主義
11	「一般原則」の第7原則……2つの要請内容、「原則」は「実質的単一性」を要請しているとの解釈、そのうちの「相対的単一性」を要請しているとの解釈
12	収益・費用の“計上額”についての基本ルール……計上額の基本＝収支額、その点についての1つの説明方法、損益計算書原則1 A前段との関係
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	収益・費用の“認識（計上のタイミング）”の基本ルール……費用＝「発生」時点（発生主義の原則）、収益＝「実現」時点（実現主義の原則）、「実現」の要件
2	実現主義の原則の位置付け……収益認識の基本ルールとの立場、代替的ルールとの立場、「原則」も代替的ルールと考えてるとの解釈の可能性
3	実現主義の原則の適用……「原則」〔注6〕の規定（特殊な販売契約への適用）、「注7」の規定（長期の請負工事への適用・非適用）
4	実現主義の原則の適用に関する演習……試用販売、委託販売、割賦販売等
5	実現主義の原則の適用に関する小テスト
6	固定資産の費用の認識……費用認識の基本＝「発生」、減価償却手続きの解釈、「定額法」減価償却への批判
7	棚卸資産の費用の認識……基本、「基準棚卸法」という特殊な方法の存在
8	収益・費用対応の原則……必要性、費用を「対応」させる2手続き（「引当金」による見越し、発生費用の繰延べ）、引当金（「原則」の態度、租税法の態度）
9	発生費用の繰延べ……その手続きの意義、繰延資産（種類、その後の費用化）
10	動的な貸借対照表観……基本、支出と費用間のずれによる貸借対照表項目、収入と収益間のずれによる項目、収入と支出間の「ずれ」、貸借対照表シェーマ
11	資産の無償取得……「原則」の立場（「公正な評価」、「圧縮記帳」の容認）、動的な貸借対照表観の立場
12	財務諸表の形式面のルール……損益計算書について（総額主義、源泉別分類と対応表示）、貸借対照表について（貸借対照表の「区分」と各科目の「分類」等）
備考	

科目名	会計学原理	担当者名	百瀬房徳
-----	-------	------	------

講義の目標	本講義においては会計学全般にわたって基本的な理解をすべく授業をしていく予定である。したがって、今後、各個別の授業を深く掘り下げる場合におおいに役立つようにする。		
講義概要	会計学を最も広く理解し、簿記（商業簿記、工業簿記）、財務諸表論およびそれに関連する制度、原価計算論、管理会計論、経営分析、監査論および社会会計論について、内容の理解するかたちで講義を進めていく。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	授業中に指示	
評価方法	前期および後期の期末試験により評価		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## I 歴 史

会計そのものの歴史資料があり、体系的に理解できるようになったのは、イタリアにおいて地中海貿易が盛んになされた時である。資料としては、当時の商人の会計帳簿によるものであるが、著書としてはルカ・パッチョーリにより著された数学辞典である。ここから始まり日本へ伝わるまで概説する。[予定講義回数=4回]

## II 簿 記

簿記は商業簿記および商業簿記に工業簿記が加わった形で発展して来た。基本的には商業簿記は商人の市場における売買活動を測定・記録するもので、工業簿記は内部の商品製造過程を製品が完成するまで測定・記録する。この基本的原理について概説する。[予定講義回数=4回]

## III 財務諸表論

財務諸表論は経済活動をする実体とその関係者にその活動の伝達手段として発展してきた。特に日本では第二次大戦後は「企業会計原則」が公表され、これをめぐって様々な議論が展開されてきた。この展開過程とそのもの内容について概説する。[講義回数=4回]

## IV 制度会計

制度会計という固有の会計はあるわけではないが、基本的には財務諸表論がどのような形で制度化(法律となる)されているかについてとらえるものと言えよう。特に日本では証券取引法、商法および税法がそれぞれ固有の立場から立法化しているので、それぞれの立場とそれにより財務諸表論が組み込まれているかを概説する。[講義回数=4回]

## V 原価計算および管理会計

原価計算は基本的には製品製造過程においてどのように原価を把握するかを対象とする。それに対して、管理会計は基本的には経営の業績評価をし、意思決定に役立つことを目的とする。これらの基本的な考え方について概説する。[講義回数=4回]

## VI 経営分析

経営分析は経済活動を営む実体が公表する財務諸表を分析することで発展して来た。実体に関係する者にとってその状況および業績を批判的に評価することは次の意思決定にとって重要である。これらの批判的評価の基本的考え方について概説する。[講義回数=3回]

## VII 監 査 論

監査論は経済活動を営む実体が公表する財務諸表について実体の内部に入り批判的に検討を加え、財務諸表が適正に表示されているか否かについて意見を表明することの全過程を対象とする。この役割は通常公認会計士のそれである。これらの内容について概説する。[講義回数=3回]

## VIII 社会会計論

社会会計論は基本的には国民所勘定、投入産出表、国民貸借対照表等々との関連で発展してきた。この内容について概説する。[講義回数=3回]

科目名	情報処理概論	担当者名	各担当教員
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部の学生が4年間の学習・研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習を行なうものである。例えばレポートや卒業論文製作に以下のような手段を使うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章はワープロソフトを使用して作成する。</li> <li>○必要な資料は、図書館や外部のデータベースの文献検索で見つける。</li> <li>○必要なデータは、コンピュータ通信を利用してデータベース検索して得る。</li> <li>○必要な統計計算や、グラフは表計算ソフトを利用して作成する。</li> <li>○報告用、発表用の資料は、これらの情報を組み合わせて作成する。</li> </ul>				
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためにワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>各教員が適宜に指定する。</td> </tr> </table>	テキスト		参考文献	各教員が適宜に指定する。
テキスト					
参考文献	各教員が適宜に指定する。				
評価方法	<p>原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要な考慮ポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。</p>				
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れる”です。くり返しの勉強（復習）が必要でしょう。例年受講希望者が多く抽選により決めています。（毎年改善をしていますが、教室の数、機材の数、教員の数に限界があり、本年度も多分抽選になると思います。）このため何回も抽選に外れてしまう学生さんもいます。抽選に外れて受講したくても出来ない友人もいるということを考え、安易な気持ちで受講しないで下さい。欠席、授業中の私語、途中での単位放棄などなどくれぐれも無きように！</p>				

## 年 間 講 義 予 定

以下の項目は講義順序や講義時間数が担当者によって多少異なることもあるが、上記で述べたような情報処理の基礎に必須の項目として一年間の講義、実習の中で取り上げられる。

- 1) イントロダクション  
情報化社会、情報と産業、情報と倫理、コンピュータの歴史
- 2) 入力装置とキーボード  
QWERTY 配列、マウス、特殊キー
- 3) 日本語ワードプロセッサ  
漢字変換、編集（複写、移動、文字修飾等）
- 4) オペレーティングシステム  
MS-DOS、WINDOWS、他
- 5) 表計算  
スプレッド・シート、関数計算、統計処理、グラフ
- 6) コンピュータ概説（含言語）  
ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの仕組み
- 7) 情報の内部表現  
2進数、文字コード等
- 8) インターネット
- 9) データベース
- 10) コンピュータ・システム

これら以外の項目も各教員ごとに扱う。詳しいことは各担当教員に聞くこと。

科目名	経営管理論	担当者名	富田忠義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業、官庁、学校、病院などの組織体は、経営学の分野では「経営体」とか「経営」とか呼ばれるが、この意味での経営体における管理、または経営と管理を主として研究するのが経営管理論である。経営管理論はきわめて実践的な性質の強い学問分野であるから、その内容は理念、理論、技法などから構成されている。近年の経営環境の変化や経営の国際化などの刺激を受けて、この学問分野もめざましい発展を遂げているが、本講義では、主要なテーマに関する最近の研究成果について、初学者向けに易しく概説したいと思っている。</p>		
講義概要	<p>経営体は絶えず変化を続けている環境の中で活動しており、その存続と発展のためには環境との適合を常に考えながら意思決定し行動することが必要になる。こうした問題をまず、経営戦略の面から取り上げる。次に、合理的な行動が求められるとき、行動の開始に先だって行われる意思決定を個人的な決定と組織における決定に分けて、そのメカニズムを解明する。</p> <p>機能の面からみれば、経営管理は意思決定のほか、計画、組織、動機づけ、コントロールなどの要素機能から成るので、計画以下の機能を個別に取り上げて、実際、理念、理論、技法の面から考察する。</p> <p>最後に、テイラーの科学的管理法以降のこの分野の発展を経営管理学説として概説する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</li> <li>・小椋康宏編著『経営学原理』学文社</li> <li>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</li> </ul>	
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。</p> <p>定期試験は後期末1回だけ、教科書等持込なし。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというわけではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営管理の概要
2	経営戦略Ⅰ 企業と環境
3	経営戦略Ⅱ 経営戦略の基礎
4	経営戦略Ⅲ 成長戦略の策定
5	経営戦略Ⅳ ビジネス・ポートフォリオ・マネジメント
6	経営戦略Ⅴ 競争戦略と戦略経営
7	意思決定Ⅰ 問題解決と意思決定
8	意思決定Ⅱ 組織における意思決定
9	意思決定Ⅲ 日本的意思決定システムとしての稟議制度
10	経営計画Ⅰ 経営計画の基礎
11	経営計画Ⅱ 経営計画の種類と体系
12	経営計画Ⅲ 経営計画の策定過程
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営コントロールⅠ 経営コントロールの過程と種類
2	経営コントロールⅡ 全社レベルのコントロール
3	経営組織Ⅰ 経営組織の基礎
4	経営組織Ⅱ 責任と権限、ラインとスタッフ
5	経営組織Ⅲ 経営組織の基本形態
6	モチベーションⅠ モチベーションの基礎
7	モチベーションⅡ モチベーションの心理学
8	モチベーションⅢ 組織におけるモチベーションの作用
9	経営管理学説Ⅰ 科学的管理の前史とテイラーの科学的管理法
10	経営管理学説Ⅱ ファヨールの管理過程論
11	経営管理学説Ⅲ ホーソン実験と人間関係論
12	経営管理学説Ⅳ 行動科学的管理論・組織論、バーナード＝サイモン理論他
備考	



科目名	経営労務論	担当者名	宮城浩祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営労務論は、人的資源の管理の諸問題を取り扱う領域である。その目的は、企業には効率、従業員には満足をもたらすものであるということはいうまでもない。労務政策には普遍的妥当性をもった政策はない。種々の環境要因に規制されて、個有の政策がうまれるのであるが、ここでは環境要因のうち、文化に着目して、文化と労務政策との関係を考察する。そして、むしろ文化にフィットした労務政策こそすぐれた政策であることを明らかにする。そこで当然のことながら、比較経営的な観点から、各国との比較において、日本の企業の労務政策を明らかにすることになる。</p>		
講義概要	<p>各週別に明らかにする（次頁の各週別の講義概要を見られたい）。</p>		
使用教材	テキスト	<p>その都度、10枚程度の教材を配布する。期末にはかなりの枚数になるので、適宜整理しておかないと、どれが何回目の資料であるか、わからなくなってしまうことがあるので注意して下さい。また英文資料を配布することもあります。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済企画庁編『経済白書』（平成4年版）</li> <li>・同庁編『経済白書』（平成6年版）</li> <li>・R. Dore 著『日本型資本主義なくしてなんの日本か』光文社 1993年</li> <li>・G. Hofstede 著『経営文化の国際比較』産能大出版部 1988年</li> </ul>	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義順位・内容等に若干の変更もあるかも知れませんが御了承下さい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	“your company” と “our company” 「会社は誰のものか」と問われた場合、日本人は「株主のもの」と答えず、「従業員のもの」と答えることが多く、ここに日本人の企業観が示される。ここで stakeholder について考える。
2	配当政策の国際比較 日米の配当政策のちがいを明らかにする。これは直接的には企業と株主との関係の日米のちがいを考察するものであるが、この考察によって株主主権型企業と従業員主権型企業の差異を示す。
3	企業の政治的側面 企業は stakeholder の連合体である。これらの構成員は、意思決定への影響力、情報報の共有度において同一ではなく、階層関係にある。中核集団と衛星集団に二分して、これらを考察する。
4	生産性と成果配分 「生産性」の概念を明らかにするとともに、生産性の向上の成果が stakeholder にどのように配分されるかを考察する。どのように配分されるかは、市場要因、stakeholder の影響、文化で決まる。
5	労働時間の短縮と弾力性 時短のメカニズムを明らかにするとともに、もう一つの潮流である労働時間の弾力化について考える。後者は、自己決定化の世界的潮流を反映する。
6	雇用調整の国際比較 雇用調整政策は、文化によって差異がある。ここでは雇用関係を primary model と relational perspective にわけて考察する。日本企業は後者、米国企業は前者に属する。
7	労働市場の内部化と従業員の志向 労働市場の流動化がつねに叫ばれながら、日本企業は労働市場の内部化を人事・労務の基本戦略としてきた。従業員の志向も上昇志向である。この政策の merit/demerit を考察する。
8	賃金政策と交換理論 文化人類学や社会学の諸領域で開発された交換理論を使って賃金政策を分析する。
9	賃金政策と分配公正理論 分配公正理論では、どのような資源配分が公正と構成員のあいだで認識されるかは、文化によって決まることがわかっている。ここでは、この観点から賃金政策を分析する。
10	付加給付政策と paternalism 付加給無政策は、その企業のおかれた経済的、社会的、文化的要因によって決まる。ここではパターナリズムとの関係も考察の対象としたい。
11	定年制の諸問題 定年制の機能、定年延長の阻害要因を検討するとともに、定年制運用は今後一層フレキシブルにならざるを得ないだろうということを示す。これには、労働時間の弾力化と共通の論理がはたらく。
12	盛田論文をどう読むか ソニー会長盛田昭夫「日本型経営が危ない」(文芸春秋、1992年2月号)は、労務政策に影響を及ぼす重要な提案を起なっている。これをどう読むべきかを検討する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	職務概念と組織設計 A. Brown の組織論は、組織設計において、個人の責任の明確化を貫徹すべきであることを強調する点で、アングロサクソン系組織論の典型である。これに対して日本企業のそれは弾力的である。
2	equifinality について 「講義の目標」を参照のこと。equifinality とは、同一の目標を達成するには、種々の手段があることを示す英語。
3	計算的関与と道徳的関与 A. Etzioni の示した組織への関与の型。この二分法と個人主義/集団主義との関係を考える。
4	合理的経済人と科学的管理法 A. Smith はいかに及ばず、伝統的な経済経営理論は、この人間モデルを前提にしている。労務政策でも同じである。この人間観の上に、管理戦略がたてられた。両者の関係を明かにする。
5	社会人モデルと Hawthorne 実験の意味 ホーソン実験の成果が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。と同時に、そこで生れた人事・労務政策をみる。
6	自己実現人モデルと Maslow の欲求階層理論 彼の仮説が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。また彼の仮説は、米国以外の国で、つぎつぎと検証されたが、それらの結果を紹介する。
7	McClelland の達成動機論と経済成長 M. Weber は、宗教と経済成長との関連を考山したことでよく知られる。McClelland の理論は、この系譜に属し、経済成長には達成動機が寄与していることを証明しようとした。
8	「Made-in America」の動機づけ理論は普遍的妥当性をもつか Maslow の理論といい、McClelland の理論といい、それらはみんな「米国製」の理論である。はたして、それらは他の文化に移転できるか。
9	Herzberg の二要因理論と職務充実 職務設計の人間工学的技術において、職務充実が有名である。Herzberg の理論は、この技術の構築にどのように寄与したかを考える。
10	「仕事の人間化」——もう一つの道 ボルボのカルマール工場では、仕事の人間化のために、ベルトコンベアを廃止して「半自律的作業集団」を導入した。これは職務充実とは別の道である。その文化的背景をさぐる。
11	海外要員政策の諸問題 R. Tung による日米欧の多国籍企業の海外派遣要員政策の比較結果を紹介し、これを文化の観点から考察する。
12	比較経営論と労務政策 G. Hofstede の比較経営論の観点から労務政策を総括的に考察し、終講とする。
備考	

科目名	財務管理論	担当者名	細田 哲
-----	-------	------	------

講義の目標	我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。		
講義概要	各週別の講義予定を見られたい。		
使用教材	テキスト	・井手正介、高橋文郎著『ビジネス・ゼミナール 企業財務入門』日本経済新聞社	
	参考文献	・岡部政昭著『企業財務論』新世社 ・岩村 充著『入門 企業金融論』日本経済新聞社	
評価方法	年2回の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 企業の目的と財務政策 a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b) 企業による市場を通じる価値創造
2	c) 資本市場の役割 d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
3	2 資産の価値をどう評価するか a) 現在価値の評価
4	b) 債券の評価
5	3 株式の価値はどうか a) 配当割引モデルの考え方 b) 一定成長割引モデルと株価収益率
6	c) 配当割引モデルの応用 d) 日本の株価水準と期待収益率
7	4 リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度
8	b) ポートフォリオのリスク
9	c) ベータ値と資本資産評価モデル
10	5 資本コストとは何か a) 資本コストとは b) 投資のキャッシュ・フロー
11	c) 資本コストの推計方法
12	d) 日本企業の資本コストの計算例 e) 資本コストと資金コスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	6 望ましい資本コストとは a) 完全資本市場における資本構成と企業価値
2	b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響
3	c) 企業価値の最大化と株価の最大化 d) 資本構成決定の現実的な考慮点 e) 日米企業の資本構成の動向
4	7 配当政策の考え方 a) 配当政策の理論 b) 配当政策をめぐる問題点
5	c) 株式配当と株式買い戻し d) 日米企業の配当政策
6	8 資金調達が多様化 a) 先物取引
7	b) オプション取引
8	c) スワップ取引 d) 転換社債とワラント債
9	9 社債ファイナンスと格付け
10	10 企業の合併・買収
11	11 日本の伝統的な金融システムの特色と問題点
12	12 日本企業の財務政策の課題
備考	

科目名	国際経営論	担当者名	小林哲也
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、国境を越える資本の活動を、歴史的かつグローバルな視点から捉えることを主テーマとする。現代の世界経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。多国籍企業による生産・販売活動は、第三世界をも含めた各国経済に、大きな構造変化をもたらしつつある。講義では、そうした多国籍企業の活動・世界経済の構造変化を捉えるための、理論的枠組みを議論する。</p>		
講義概要	<p>資本主義世界経済の歴史、多国籍企業の形成史、現代資本主義の構造変化といった歴史的概観のあと、多国籍企業に関する諸問題を分析する。</p> <p>後半では、日本企業の海外進出（と撤退）をとりあげ、主として対アジアおよび対北米の企業進出の事例分析や現地企業との比較分析などを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	特になし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J. H. DUNNING, THE GLOBALIZATION OF BUSINESS, ROUTLEDGE</li> <li>・ ILO, INDUSTRY ON THE MOVE, ILO</li> <li>・ M. CASSON, MULTINATIONALS AND WORLD TRADE, ALLEN &amp; UNWIN</li> <li>・ 『海外進出企業総覧』各年版、東洋経済</li> <li>・ 宮崎義一『現代企業論入門』有斐閣</li> <li>・ 森田桐郎編『世界経済論』ミネルヴァ書房</li> <li>・ 青木昌彦編『システムとしての日本企業』NTT出版</li> </ul>	
評価方法	定期試験による。		
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済原論、経営学総論、企業論、国際経済論、貿易論、国際金融論、地域経済各論などを受講していることが望ましい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

序：国境を越える資本

世界経済の構造

国民経済——世界経済

分析単位としての「世界経済」

世界経済の複合的構造

歴史的形成

植民地体制の崩壊

世界経済の現段階

新国際分業

巨大企業の登場と多国籍企業の時代

多国籍企業とは何か

多数のビジョン・定義・アプローチ

## I. 現代企業の理論

企業の発展段階

株式会社の発展

経営者支配論の再検討——現代資本主義における所有と決定

バーリ＝ミーンズの議論

新しい経営者支配論

## II. 多国籍企業の理論

輸出から直接投資へ

国内企業から世界企業へ

産業組織論的アプローチ

経営資源と優位性——ハイマー理論をめぐる諸論争

内部化「理論」

直接投資の裁定条件

多国籍企業の政治経済学

多国籍企業体制としての現代

多国籍企業と不均等発展

多国籍企業と国際分業の再編

## III. 日本企業の海外進出

日本企業の経営環境

法人資本主義論、日本的経営論、日本企業の経済学

対外直接投資の動向

—ポストバブル期のジャパン・マネー—

日本

70年代／80年代／90年代

アジアへの進出と撤退

NIES, ASEAN, 中国

アメリカの日系企業

経済摩擦と直接投資

日本企業国際化の影響

輸出

技術移転、生産移転、経営移転

国際寡占競争の構造

プロダクト・サイクルと雁行形態

ハイテク産業における競争

## IV. ケース・スタディ

科目名	一般経営史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	経営史を経済的業務の営みの歴史ととらえ、古代より現在にいたる西洋の諸時代における特徴的産業の営業のありかたとその歴史的背景をさぐる。		
講義概要	古代ギリシャ・ローマ社会の産業；中世ヨーロッパの所領経営；中世ヨーロッパ都市の手工業職人の営業と、商人による前貸し問屋制度；近代ヨーロッパにおける資本主義的大規模経営の出現、株式会社と銀行業の発展；小売業者とりわけ大型小売店の発展等の歴史を既観した後に、19世紀以降の先進資本主義諸国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、日本の経営史の比較をみる。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米川伸一『経営史学—生誕・現状・展望』東洋経済新報社 1574</li> <li>・鈴木・安倍・米倉『経営史』有斐閣 1987</li> <li>・湯沢威編『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣 1996</li> <li>・クーリッシュ著、伊藤・諸田訳『ヨーロッパ中世経済史』東洋経済新報社 1975</li> <li>・大河内暁男『産業革命期経営史研究』岩波書店 1978</li> <li>・チャンドラー著、安倍悦雄他訳『スケール アンド スコープ経営力発展の国際比較』有斐閣 1993</li> </ul>	
評価方法	前期試験および学年末試験で評価する。		
受講者に対する要望など			





科目名	日本経営史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは21世紀に向う日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆的マインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。</p>		
講義概要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。</p> <p>1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」、「個人」の問題 5. 土屋喬雄 6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神</p> <p>西鶴文学に現われた近世商人の商業道徳や経営理念を探求するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者や日本的経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、山崎延吉、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 齊藤博『民衆史の構造』新評論</li> <li>・ 齊藤博『民衆精神の原像』新評論</li> </ul>	
	参考文献	<p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p>	
評価方法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートを正確かつ丁寧にとってもらえば、講義の全体像が細部とともに理解できる。その点を評価の基準にしている。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。とにかく、できる限り出席をすること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
2	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
3	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
4	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
5	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
6	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
7	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
8	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
9	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
10	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
11	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
12	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
2	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
3	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
4	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
5	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
6	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
7	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
8	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
9	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
10	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
11	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
12	⑦ 日本精神と日本的経営理念 日本人のたましいを探る
備考	

科目名	行動科学論	担当者名	大久保 貞 義
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会学、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学 (Established Science) である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶ年も意義があるかもしれない。</p>		
講義概要	<p>まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性 (Creativity) をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式 of 概念を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>		
使用教材	テキスト	授業の時に指示する	
	参考文献		
評価方法	<p>レポートと定期試験の成績で評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	○学問の発展段階＝先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか
2	○学問の法則性とは何か＝理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される
3	○ニュートンの力学のポイント＝見方を変えれば……何を表現しようとしているのか
4	○＝科学の目標は何か＝すべての物質の素粒子から生きている人間まで——そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。
5	○社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
6	○集団規範の実験＝実験可能な法則と不可能な法則
7	○人間＝この不思議なもの
8	○人間社会の発展＝農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは……神さま？仏さま？
9	○伝統的社会と近代的社会の対比
10	○それぞれの社会の時間の概念＝人間と時間の関係の仕方 時間の価値は、社会によって相違して来る。
11	○社会の変化に伴う価値観の変動→人間行動の規則性
12	○経済の発展と人間行動のパターン分析 ①経済中心の産業主義：
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	②巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
2	③脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
3	○コミュニケーションの理論 マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
4	○コミュニケーションの二段の流れ その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
5	○オピニオンリーダーの役割とその特性
6	○創造性とは何か＝ 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である
7	○創造性開発の技法＝ブレインストーミングのやり方とチェックポイント その他の開発法
8	○思考とパーソナリティ＝創造的人間と非創造的人間
9	○時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間
10	○未来予測の技術 物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違
11	○予測の面白さは、未確定要素にあり。 高令化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析
12	予測の正確さは、未来を形成する力にあり。 予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。
備考	

科目名	広告論	担当者名	梶山 皓
-----	-----	------	------

講義の目標	現代における広告の役割を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。また社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告を考えます。</li> <li>2. マスコミやマルチメディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。</li> <li>3. 消費者のコミュニケーション過程や購買行動を分析します。</li> <li>4. アメリカと日本のCMをVTR等で紹介し、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。</li> </ol>		
使用教材	テキスト	・梶山皓著『広告入門』日経文庫。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。</li> <li>・干場英男『アメリカの広告・風と土』電通。</li> <li>・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。</li> <li>・W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1995</li> <li>・S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press. 1994.</li> </ul>	
評価方法	<p>試験は講義と教科書から出題します。</p> <p>評価は厳しいと考えて下さい。</p>		
受講者に対する要望など	できるだけ3年生で履修して下さい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事をポジティブにとらえる視点が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Definition) ① : 日本語の「広告」という言葉には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。
3	広告の定義 (Ad. Definition) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPと広告は別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するものは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一國で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATVなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるのかを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
備考	

科目名	交通論	担当者名	山野邊 義方
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>交通は、人や物の空間的・地点間移動であり、経済社会にとって、不可欠のサービスである。</p> <p>第2次大戦後、日本経済の成長とともに、交通部門の整備・近代化を図ることが重要な課題になった。交通政策は、交通事業者間の競争と、利用者の自由な選択を反映する市場構造を整備するために、規制の見直しや、競争促進施策を推進する方向に向かっている。</p> <p>このような時代の進展のなかで、個別企業、国民経済、国際経済等の観点から、交通の体系、実態および将来方向について、考察する。</p>		
講義概要	<p>前期は、交通の概念と機能、日本経済の発展と交通との関連、交通サービスの需要と供給、企業経営と交通機能の管理等に重点を置く。</p> <p>後期は、各交通手段の特性と実態、国際交通の展開、交通事業の経営、交通の将来方向等に重点を置く。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山野邊義方著 『物流管理の基礎』 白桃書房</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山野邊義方著 『陸運業界』 教育社</li> <li>・山野邊義方著 『航空業界』 教育社</li> </ul>	
評価方法	<p>前期・後期の定期試験および出席状況により、総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に常時出席することはもとより、新聞を読み、交通・物流の動向、交通・物流活動に影響を与えている諸要因の認識など、問題意識をもつことが必要である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通の概念・基本的機能
2	日本経済と交通、産業構造と交通、都市化と交通、交通構造
3	貨物の専用輸送と雑貨輸送
4	交通サービスの需要と供給
5	需要開発型事業、労働力の活用
6	交通の基礎施設・拠点施設
7	交通拠点施設—中小企業の集団化と共同事業
8	交通政策、交通近代化の要請
9	運輸行政と法規制
10	規制緩和と交通
11	企業経営と交通
12	交通サービスの管理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	各交通手段の特性
2	鉄道
3	自動車
4	船舶
5	航空
6	国際交通
7	交通手段の複合化
8	配送
9	共同配送
10	交通と情報
11	交通事業と経営の多角化
12	交通の将来方向
備考	



科目名	証券市場論	担当者名	原 亨
-----	-------	------	-----

講義の目標	現代は、貨幣経済社会だといわれる。これは、現実に実物資産を上回って金融資産が累積されていて、「カネ」の方から「モノ」の世界をみるような社会をいうのである。従って、この講義は、金融や証券といった視角から、現代の資本主義社会の枠組み、仕組みを解剖していこうというところにねらいがある。先達が組み立てたいろいろな理論を手がかりに、現実の諸問題を解き明かし、その中から仮説をも組み立てていければよいと思っている。
講義概要	有価証券という金融資産が、今、この世にあふれている。それは、いったいどのようなもので、どんな働きをしているのだろうか。どうしてそんなに沢山この世に生まれてきたのだろうか。お金とよく似ているが、どう違うのだろうか。また、どのように関係しているのだろうか。金融市場も、証券市場も、お金を融通しあう市場という意味では同じである。だが、後者はそれを証券を売買してお金を融通するが故に、証券の売買市場として現れる。前者にはなくて、後者には相場が立つ。これが、金融市場と証券市場とを区別するところである。証券市場論の中心は、証券の売買技術や証券価格の形成、変動にある。特に、先物取引、デリバティブは、最近の価格形成や変動に大きな影響を与えている。このような視点から、本年の講義を進める。
使用教材	テキスト 毎時間、講義要旨をコピーして配布する。  参考文献 ・川合一郎他編 『証券市場論』 有斐閣双書 1981年 ・杉江雅彦他著 『新・証券論』 晃洋書房 1994年 ・津村英文編 『証券市場論入門』 有斐閣双書 1991年 ・矢島保男他著 『金融と経済』 成文堂 1993年
評価方法	講義への出席度。学年末試験によって決定する。 答案。問題に対して、正しく解答されているか。その論旨に整合性があり、論旨が一貫しているか、を採点の基準にする。
受講者に対する要望など	毎日、「日本経済新聞」を読むこと。特に金融、証券の記事は熟読すること。講義には「日本経済新聞」を持参すること。

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	シラバス授業。証券市場論は、どういう学問か、そして、この1年間どういうことが、どういう順序で講義されるか、が話される。
2	貨幣・証券経済社会。現代資本主義経済は、貨幣や証券におおわれた社会である。金融資産が実物資産を上回っている。どうして、そうなったのか。それは、人間生活とどうかかわっているのか。
3	証券の商品化。消費財、耐久消費財は、人間の生活資料である。証券も同じく商品であるが、その役立ち方は大分違う。証券は、形状も、素材もない。それがどうして商品になって、人間社会に大量に存在するのか。
4	有価証券制度。証券は、いわば知的財産である。これは、約束事であるから、きずがつきやすいし、こわれやすい。しっかりした商品にするために、社会的技術や社会的制度が必要になる。それなりに強い規制を受ける。
5	証券の多様化。証券は、債権・債務、権利・義務を表象している。これをベースに、それぞれの経済主体が、いろいろな証券を発行する。どんな種類の証券があるか（大きくわけて貨幣証券と資本証券）。
6	債券の大物。今、最も注目されている大物が、国債である。ただだんに量が多いというだけではない。なぜ最近こんなに多くの国債が発行されたのであろうか。それを経済の仕組みの変化から考えてみよう。
7	株式会社の出現。株式会社制度は、どのようにして生まれたか。「信用制度を基礎とする株式会社」を論じよう。その中で企業形態の発展過程も、資本の集中機構という観点から論じられる。
8	現代の株式会社。近代的な株式会社の仕組みが説明される。「所有と経営の分離」が「有限責任制」にもとづく出資とその回収を、出資証券たる株券の売買に置き換えた。株式流通市場は、その社会的システムである。
9	市場論。市場は、もともと商品の市場であった。貨幣が生まれて様子が変わった。貨幣の市場が生まれ、その信用から各種の証券市場が生まれた。それだけではない。それら各市場は、相互に連なっている。
10	証券発行市場と流通市場。特に証券市場が、どのような仕組みになっているのか、を説明する。手形は裏書によって流通し、債券には譲渡性が付けられる。株券は出資・回収を容易にするためにはじめから売買される。
11	証券会社の経営。証券の売買の仲介機能を果たすのが、証券仲買人（証券会社）である。どんな業務でその機能を果たしているのか。
12	証券会社経営の諸問題。現代の証券会社は、いろいろな業務を兼営する総合証券会社が独占化し、これがどのように市場に影響を与えるのか。そのために、市場はどう変わっているのか。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	証券取引所。証券の売買は、証券会社が取り次いで、すべて証券取引所に持ち込まれる。取引所は、具体的市場として存在する。その形成過程と取引所の機能、価格形成のやり方など、取引所の市場機能について論じる。
2	売買仕法。取引所に上場された証券は、どのように取引されるのか。その取引形態と決済システムを解説する。普通取引と板よせ、ザラバ売買は、その核になる技術である。証券の保管・集中振替決済制度についても説明する。
3	価格の形成。資本主義経済における市場で、価格は一般にどのように形成されるのか。価格とは何なのか。貨幣は、そこでどのような役割をするのか。価格と貨幣の経済的関連は？
4	証券の価格。証券の価格形成は、価格一般の形成とは違う。特殊な価格、擬制資本価格を形成する。貨幣資本運動を擬制して形成される純粋な擬制資本とは、どんな資本で、どのようにして価格が形成されるのか（債券価格の形成）。
5	株式の価格。擬制資本価格の形成一般から、さらに株式の価格は違った形成をする。元来、株式は擬制資本や価格を形成しない。配当は利子ではないからである。それが、どうして債券価格と同じように価格を形成するのか。
6	投機信用と信用取引。普通取引に外部から信用が供与されると、信用取引が生まれる。信用取引の仕組みと、それが投機取引化するプロセスを説明する。
7	投機一般。投機は、価格が変動するところには、どこにでも帰着する。商品投機、為替投機、株式投機など。まず、投機とはどんなものなんだろう。それを賭博と比較して、投機の経済学を講義する。
8	株式投機。今日、投機といえば、株式投機だと誰もがいう。投機の中でも、なぜ株式投機が典型的な投機になったのであろうか。
9	先物投機の時代。70年代にはって先進資本主義諸国では、先物投機が盛行している。今や、それは、現物取引を上回っている。先物投機の時代の到来である。どうしてそうなったのか、経済的背景をさぐる。
10	相場の見方。相場は、普通、株価指標をみて語る。「日本経済新聞」相場欄の主要な株価指標を解説する。単純平均株価、日経ダウ平均株価、TOPIXを解説し、その他の指標やその読み方を解説する。
11	証券投資決定論。昔は「利回り採算」だったが、それは不可能になった。ケイ線やドル平均法、科学的投資法、チャートリーディングから、今やポートフォリオの時代に入った。ポートフォリオ理論とは、どんなものか。
12	金融・証券のグローバル化。金融・証券の国際化は、金融・証券の自由化によるところが大きい。しかも、先物取引が盛行して、数値が商品化された。世界商品の誕生である。これは、どこの国でも取引される。
備考	

科目名	保険論	担当者名	岡村 国和
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>保険現象および保険理論の経済的・経営学的分析を以下の3点を中心に学習する。</p> <p>①金融環境の変化と保険規制の基本的枠組を視野に置いた総合的な問題の解釈。</p> <p>②従来の保険理論では理解しにくかった新たな保険現象を取り上げて、これを新しい理論的枠組で解釈すること。</p> <p>③高齢化社会の問題を含めながら、これと保険との関わりの探求。</p> <p>第1部 保険の基礎理論の理解      第3部 保険企業の行動理論の理解</p> <p>第2部 保険各論の概観              第4部 保険市場の解釈—応用編</p>		
講義概要	<p>保険の発展はいわゆる保険の限界を縮小し、付保可能領域を拡張する事から始まった。たとえば、生命保険の分野では基本的な保障形態が制限されたり、企業の活動領域が制限されたりしている。損害保険の分野においても同様に、その本質的部分において従来の損害保険の把握の仕方では捉えきれない大きな変化が現われている。この原因として第1に保険業法をめぐる理論的かつ実務的問題がある（領域の重複、いわゆる第3分野問題など）。次いで企業環境としては、加速化する高齢化社会への対応や、諸規制、金融期間としての保険企業の「保障」と「金融」をめぐる経営戦略の転換などがあげられる。本年度はまず保険原論を学習した上で次のステップ（応用編）に進む予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・庭田範秋編『保険学』成文堂、1991年</p>	
	参考文献	<p>参考文献は、講義の中でその都度指示する。</p>	
評価方法	<p>原則として定期試験（後期集中）のみで評価する。但し、レポートの提出を許可する。このレポートは強制ではなく任意であるので、未提出者にペナルティを課すことはない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>集中講義なので、連続して学習しないと復習が困難になることが予想される。また、以下のキーワードを最低限理解すること。①保険均衡式、②保険における価値循環の転倒性、③カルテル料率、④規模の経済性、⑤キャッシュ・フロー・アンダーライティング、⑥ギャランティ・ファンド、ALM（資産・負債管理）。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

後 期 の み (週 2 回)

回	主 要 テ ー マ
1	講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。
2	「保険現象の分析」：保険現象を考究するための目的、対象、分析用具の吟味を行う。
3	「リスクの基礎理論（１）」：日常生活をめぐるリスクの性格や対応につき検討する。
4	「リスクの基礎理論（２）」：リスクの源泉の把握とリスクの分類をおこなう。
5	「リスクと保険」：保険可能リスク、ダウンサイド・リスクについて論じ、付保決定基準について考察する。
6	「保険の理論構造（１）」：情報経済学との関連から、保険現象のモデル化を試みる。
7	「保険の理論構造（２）」：保険の理論体系を構築する諸原理・原則の概説を行う。
8	「保険の理論構造（３）」：保険は経済学的には「条件付き請求権」として扱われるが、現実の保険行為は「法的契約」であるので、この点につき若干の解説を行う。
9	「保険の理論構造（４）」：危機負担の一般原則についての諸問題を講義する。
10	「保険の理論構造（５）」：損害補填の一般原則についての講義を行う。
11	「保険の理論構造（６）」：保険における情報の非対称性につき講義する。
12	「保険各論（１）」：保険各論の手始めとして保険の分類につき講義する。
13	「保険各論（２）」：生命保険の仕組みや機能、経済効果などについて講義する。
14	「保険各論（３）」：伝統的な損害保険種目と新種保険のうちでも自動車保険・自動車損害賠償責任保険、自賠責保険および傷害保険について講義する。
15	「保険各論（４）」：高齢化社会における社会保障の財政赤字の原因について保険との関係につき講義する。
16	「保険経営（１）」：保険経営の特殊性と保険商品の「価値循環の転倒性」につき講義する。
17	「保険経営（２）」：保険マーケティング、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングなどにつき講義する。
18	「保険市場論（１）」：応用ミクロ経済学の立場から保険市場を分析する。
19	「保険市場論（２）」：保険市場が寡占市場であることを検証し、完全競争理論、不完全競争理論を概観した上で保険業における価格競争及び非価格競争を取り扱う。
20	「保険の限界とその拡張」：保険過程のダイナミズムの中で生ずる保険の限界とその拡張について講義する。
21	「保険政策論」：保険の公共性の検討と保険政策・保険規制について講義する。
22	「保険業の規制」：金融自由化に伴う規制緩和と新しい保険行政のあり方を考える。
23	「講義のまとめと結び」
備考	

科目名	企業形態論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>今日、公益法人とか、特殊法人とか、社会福祉法人とか、持株会社とか、企業合併とか、いろいろ新聞紙上をにぎわしている。企業が存続成長のプロセスにおいて発生する多くの重要な諸問題がある。そこに企業の形態が生まれてくる。それらについて講ずる。</p>		
講義概要	<p>企業の概念——営利経済体として理解する。公企業とか社会主義企業とかのそれがあるの で。</p> <p>企業形態の概念——狭義と広義</p> <p>企業形態の分類</p> <p>資本主義企業——私企業と非私企業（協同組合、公企業）</p> <p>私企業とは、個人企業、会社企業（合名、合資、有限、株式企業）</p>		
使用教材	テキスト	車戸 実編『企業形態論』（八千代出版）	
	参考文献		
評価方法	年度末、定期試験の結果による合格、不合格の判定		
受講者に対する要望など	経済社会で起こる種々の問題に絶えず関心をもち、究明する姿勢をもつこと。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	私企業概説——私企業の史的発展と形態。私企業の本質。私企業の目的原理。
2	私的企業——私企業の諸形態（個人、合名、合資、有限）。私的企業の特質。私的企業と営利原則。
3	株式会社企業——株式会社企業の特質。株式会社と経営者。株式会社における支配。営利原則の変質。
4	独占企業——企業の結合・独占化の根拠。企業結合の形態。独占企業対策。
5	多国籍企業——企業国際化の根拠。企業国際化の諸形態。多国籍企業の特質。多国籍企業の経営。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代私企業の経営理念——新しい経営理念の要請。経営主体と経営機能。経営目的。経営の社会的責任。
2	資本主義公企業、協同組合企業——公企業の本質。公企業の発展。公企業の経営原則。公企業の形態。協同組合の史的発展。経営原則。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	協同組合論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>世界の諸国家において私企業の雄たる株式会社企業の活動と社会的弱者としての生産者や消費者のサイドからの協同組合の組織化の要請も強い。近年の世界の変化のなかで人類をとりまく深刻な諸問題にたいする人間の自覚的な行動をもとに自分たちの生活をよくするために「協同組合」というものの期待が高まるとともに果たすべき役割も重要になってきた。</p>		
講義概要	<p>協同組合には、百年近い歴史をもつ、農協、漁協、森林組合と云う生産者サイドのものや、生活者の消費者サイドから発想している生協や高度に発展した経済社会のなかで芽ばえた労働者生産協同組合や中小企業の協同組合などがあり、さまざまな特徴をもった多様なものになっているが、「協同組合」という点で共通の本質をもった1つの仲間である。</p> <p>協同組合に共通の本質とは何か。それを理解することをねらいにして授業をすすめる。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	協同組合経営研究所の研究月報や出版物	
評価方法	通常の学習態度や定期試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	「経済大国」といふけれど——現代社会と「協同」○暮らしと世界変容 ○新しい暮らしのあり方をめざして協同組合のあゆみ——誕生から今日まで ○協同組合はこうして生まれた ○世界に広がった協同組合 ○日本の協同組合の歴史
2	協同組合の特徴としくみ——「協同組合の原則」
3	○協同組合とは何か。
4	○協同組合の原則
5	1. 加入・脱退は一人ひとりの自由
6	2. 平等な議決権と主体的な参加
7	3. 公平に出資し、剰余金はみんなのために活用する。
8	4. 組合の自治・自立。
9	5. 教育・研修と広報活動の促進。
10	6. 協同組合間の共同。
11	7. 環境を守り、暮らしやすい地域を創る。
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	七つの原則はバラバラなものではない。
2	協同の21世紀へ——協同組合と私たちの未来
3	○現代社会はどこへ
4	○いま、なぜ協同組合に着目するのか。
5	○新しい時代を協同の力で。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	



科目名	財務会計論	担当者名	中村 泰 將
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>本講義は、企業、特に株式会社の会計を対象とする「企業会計」を中心に勉強します。我が国の会計制度の仕組みを理解するとともに、財務諸表の作成基準としての会計基準とそれぞれの法が要求する会計法規（商法・証券取引法・税法）の関係を理解することを目的とします。授業ではできる限り、実際の企業の財務データを利用しながら平易に説明することにした。</p>				
講義概要	<p>企業の会計をどのように勉強したらよいか。これには、いくつかの段階的な勉強が必要である。第1段階は、「企業会計原則」を中心に会計学の通説を勉強する（典型的な財務会計の著書はその例である。）。第2段階は、我が国の企業会計制度の中で法的な枠組みに組み込まれた会計（これを「制度会計」と呼ぶ。）を勉強する。本講義は第1段階と第2段階を併せて講義する。第3段階は、高度な会計の個別問題である。例えば、①連結財務諸表の作成。②セグメント会計情報の問題。③リース会計の問題。④為替換算処理の問題。⑤物価変動会計の問題。⑥中間財務諸表の作成。⑦金融商品の会計処理、等々の特殊な会計領域である。特に①、②、③、④および⑥は、関連領域の中で講義する予定である。⑤と⑦は時間のある限り講義したい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）</li> <li>・新井清光『現代会計学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている）</li> <li>・中村 忠『現代会計学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい）</li> <li>・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度）</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）</li> <li>・新井清光『現代会計学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている）</li> </ul>	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている）</li> <li>・中村 忠『現代会計学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい）</li> <li>・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度）</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）</li> <li>・新井清光『現代会計学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている）</li> </ul>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている）</li> <li>・中村 忠『現代会計学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい）</li> <li>・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度）</li> </ul>				
評価方法	<p>前期試験と後期試験の総合によって評価する。</p> <p>前期・後期試験：</p> <p>①前期は、出来るだけ会計の専門用語を理解し、現行の会計の仕組みを理解する。</p> <p>②後期は、各論、特論の講義に入るので、会計学の理論的な説明を求める問題を出題する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>①会計学に関する専門書は、書店に山とある。要はその内容を理解することにある。授業をサボルとその内容の行間が理解できないので注意されたい。</p> <p>②テキストは1冊に絞るが、参考文献も読んで、比較してみるのも勉強である。</p> <p>③会計学は、実践科学であり、その意味で理論を会計処理できることが重要であるから、受講者は簿記を習得していることが望ましい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2	企業会計の理論的構造を理解する。
3	企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
4	我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。
5	財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
6	「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
7	イ．真実性の原則とその他6つの一般原則との関係。
8	資産会計(1) イ．資産の意義・概念 ロ．資産の分類 ハ．資産の評価基準
9	資産会計(2) イ．流動資産の意義・分類・評価
10	資産会計(3) イ．当座資産の概念・分類・評価 ロ．有価証券の概念・分類・評価
11	資産会計(4) イ．固定資産の概念・分類・評価
12	資産会計(5) イ．繰延資産の概念・種類・償却
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	負債会計(1) イ．負債の概念・分類
2	負債会計(2) イ．引当金の意義 ロ．引当金の設定の目的 ハ．引当金の設定の要件
3	資本会計(1) イ．資本会計の意義と範囲 ロ．資本の源泉別分類と処分可能別分類
4	資本会計(2) イ．払込資本の概念と範囲 ロ．増資・減資の形態と会計処理
5	資本会計(3) イ．評価替資本の会計 ロ．受贈資本の会計
6	資本会計(4) イ．稼得資本の概念と範囲 ロ．商法第288条の利益準備金
7	損益会計(1) イ．損益会計の意義と範囲 ロ．損益計算の区分計算
8	損益会計(2) イ．損益計算の諸原則 (①費用収益対応の原則 ②費用配分の原則 ③発生主義の原則)
9	損益会計(3) イ．収益の認識基準
10	財務諸表(1) イ．財務諸表の意義と役割 ロ．中間財務諸表の意義と作成
11	連結財務諸表(1) イ．連結財務諸表の意義 ロ．連結貸借対照表の作成基準
12	連結財務諸表(2) イ．連結損益計算書の作成基準 ロ．連結剰余金計算書の作成基準
備考	

科目名	社会会計論	担当者名	湯田雅夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から得られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像を把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境監査（環境管理）情報および従業員関連情報の内容と最近の動向を解説する。</p>
講義概要	<p>社会会計の領域は、経済学の分野から生まれたマクロ社会会計と会計学の分野から生まれたミクロ社会会計に識別することができる。この両者の歴史的経過を概観した後、本講義では、主として、後者のミクロ社会会計＝社会関連会計を中心に考察していく。</p> <p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコビランツ（環境監査、環境管理；Ökobilanz＝Environmental Audit）の領域で新たな展開をみせている。EUではEMAS、EU域外の国々ではISO14000シリーズという二つの環境管理・環境監査に関する国際規格が施行した。EUの動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境監査について考察したい。</p>
使用教材	<p>テキスト 未定。テキストとは別に授業で資料を配布する。</p> <p>参考文献  <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995</li> <li>・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No. 15</li> <li>・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向—ドイツ語圏諸国を中心として—』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。</li> <li>・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。</li> </ul> </p>
評価方法	<p>当該講義科目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>履修条件は、とくに定めない。将来、証券アナリスト、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望する者ならびに企業経営を志す者は、履修することが望ましい。</p>

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	: イントロダクション; 講義概要ならびに問題提起
2	"
3	: 社会会計の名称の由来; 社会会計における二つの研究領域
4	: マクロ社会会計の概要=マクロ社会会計の概念規定、目的及び体系、計算領域を明らかにして、情報内容とその限界に言及。
5	"
6	: 社会のなかの企業; 企業の社会的責任
7	"
8	: ミクロ社会会計の生成: シュテアク社、ベルテルスマン社、ザールベルク鉱山会社等の事例を解説。
9	"
10	: ミクロ社会会計の展開: BASF社、ドイツ・シェル社等の事例を解説。
11	"
12	"
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	: ミクロ社会会計の新展開: ドイツ、スイス、オーストリアを中心に、'80年代半ばから急速に実践されつつある環境管理・環境監査とその報告形態である環境報告書ならびに環境声明書について概観。
2	"
3	: 環境管理・環境監査の事例: スイス・エア社、クーネルト社他。
4	"
5	"
6	: EUにおいて導入された EMAS の実施状況。
7	"
8	: 日本企業における環境管理・環境監査の実状。
9	: ISO 14000 シリーズの実施状況
10	"
11	"
12	"
備考	

科目名	管理会計論	担当者名	香取 徹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>
講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるために会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、意思決定に役立つコストの考え方、利益の測り方などを整理し、改善管理に役立つ分析の仕方や生産及び販売計画への応用について、教科書を中心にして講義し、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伏見・柴田・福川著『経営工学シリーズ7 経営管理会計』（改定版）日本規格協会</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車戸 實編『基本経営学全集11 管理会計論』（改定版）八千代出版</li> <li>・千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』 日本能率協会</li> <li>・千住鎮雄『やさしい経済性工学のはなし』 日本能率協会マネジメントセンター</li> <li>・千住鎮雄・中村善太郎『やさしい経済性分析』 日本規格協会</li> </ul>
評価方法	<p>基本的には定期試験の成績で評価しますが、レポートの提出や出席状況も考慮します。</p>
受講者に対する要望など	<p>2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。</p>

# 年 間 講 義 予 定

後期のみ（週2回）

第1回～第4回：採算計画のためのコスト・利益分析

- ①経済性計算と財務会計方式
- ②経済性の比較の原則とコスト概念
- ③全部原価計算と貢献利益計算
- ④状況に応じたコスト・利益のとらえ方
- ⑤埋没費用の考え方と会計情報

第5回～第8回：生産・販売計画と会計情報

- ①有利な製品の判断尺度
- ②生産ラインの選択と可変的費用・収益
- ③設備能力の変更を含む生産・販売計画、価格政策とコスト情報

第9回～第12回：オペレーションの改善計画と会計情報

- ①時間コスト
- ②停止時間削減の経済的効果
- ③不良率低減の経済的効果
- ④生産スピード改善の経済的効果
- ⑤材料費や売価の改善

第13回～第16回：投資分析とキャッシュフロー利益

- ①資金の時間的価値
- ②時間換算の公式とその応用
- ③投資収益率と回収期間
- ④複数の投資案の優劣の判定

第17回～：コンピューターを使っでの長期計画の収益性と会計情報

- ①減価償却費と支払利息
- ②税引後キャッシュフロー利益と財務会計上の利益
- ③経営の戦略計画と収益性の尺度

科目名	経営分析論	担当者名	百瀬房徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>		
講義概要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・松尾・前林著編『入門経営分析』</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>レポートを完成させるには簿記の知識が必要である。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義内容の説明
2	米国における経済環境における手形市場の形成過程
3	手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4	信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5	信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
6	信用分析のケース・スタディ ケース①—ウォール、ケース②—ブリス、ケース③—シュルター
7	信用分析のケース・スタディ ケース④—ギルマン、ケース⑤—ウォール、ケース⑥—シュマルツ
8	収益性の分析およびその他の分析への発展
9	経営分析の意義とその限界
10	経営分析の主体と目的
11	経営分析の種類
12	経営分析の体系
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	安全性の分析(1)…比率分析 ①新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
2	安全性の分析(2)…資金運用表の作成 ②レポート提出
3	安全性の分析(3)…資金移動表の作成 ③レポート提出
4	収益性の分析(1)…各種資本利益率
5	収益性の分析(2)…売上高利益率と資本回転率 ④収益性の分析”と(をまとめてレポート提出
6	収益性の分析(3)…利益増・減原因分析 ⑤レポート提出
7	生産性の分析(1)…付加価値の意義
8	生産性の分析(2)…付加価値の計算と数値の意味
9	生産性の分析(3)…付加価値の計算 ⑥レポート提出
10	損益分岐点分析(1)…損益分岐点の意義
11	損益分岐点分析(2)…損益分岐点の計算と数値の意味
12	損益分岐点分析(3)…損益分岐点の計算 ⑦レポート提出
備考	



科目名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、大きく分けて、財務諸表作成のため（財務会計目的）と経営管理のため（管理会計目的）という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「原価計算制度」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、企業の生産システム、製造技術、コンピュータネットワークなどの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義では、この2つの視点から企業における原価計算の役割について理解を深めることを目標とします。</p>	
講義概要	<p>前期と後期の半ばまでは、財務会計目的のための原価計算の手続き（伝統的な原価計算）について講義を行います。理解を深めるために、必要に応じて練習問題を解きます。後半は、新しい原価計算の流れについて解説を行う予定です。</p>	
使用教材	テキスト	<p>開講時に指示します。</p>
	参考文献	<p>・岡本 清『原価計算』（5訂版）、国元書房、1994年</p>
評価方法	<p>原則として前後期の試験結果を重視します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましいです。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	原価計算総説
2	原価とは何か
3	原価計算の基礎手続
4	原価の費目別計算
5	原価の部門別計算(1)
6	原価の部門別計算(2)
7	総合原価計算(1)
8	総合原価計算(2)
9	総合原価計算(3)
10	個別原価計算(1)
11	個別原価計算(2)
12	個別原価計算(3)
備 考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標準原価計算(1)
2	標準原価計算(2)
3	標準原価計算(3)
4	直接原価計算(1)
5	直接原価計算(2)
6	直接原価計算(3)
7	特殊原価調査
8	差額原価収益分析
9	原価計算における問題点
10	原価計算の新展開(1)
11	原価計算の新展開(2)
12	原価計算と管理会計
備 考	

科 目 名	会計監査論	担当者名	長 吉 眞 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>会計監査について、その構造と制度についての理解をめざす。具体的な監査手続については、後期において4コマを割り当て、注意すべき点や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>講義は、会計監査論の理論的な理解と、具体的な監査手続の二本建てとなるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>		
講 義 概 要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。講義はテキストを中心に実施するが、監査は実務と密着し理論と実務が相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。このため、講義のあい間に関連する実務上のトピックス等についても必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行うが、周辺科目を履習済みであることが望ましい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>・長吉眞一『財務諸表監査の論理』中央経済社</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前期はレポート提出による。</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はそれらを総合的に勘案して行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>簿記原理、会计学原理、財務会計論などを履習していることが望ましい。とくに、簿記原理は履習していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明 会計監査論とその周辺の会計科目との関連性の説明
2	財務諸表監査の意義（監査の意義をふくむ。） 財務諸表監査と経営者による不正との関連
3	監査基準
4	監査人（その意義、独立性、監査法人）
5	監査人（組織的な監査、正当な注意、責任、守秘義務）
6	監査証拠と合理的な基礎
7	監査要点
8	内部統制（その構造、財務諸表監査との関連）
9	内部統制（その調査、評価）
10	監査計画（その意義、組織的な監査との関連）
11	監査計画（基本計画、年度計画、実施計画）
12	予備及び前期の総括
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	監査手続（通常実施すべき監査手続、分析的手続、一般監査手続）
2	監査手続（個別監査手続）
3	資産科目の監査手続（現金預金）
4	資産科目の監査手続（売掛金）
5	負債科目の監査手続（支払手形、買掛金）
6	損益科目の監査手続
7	監査調査
8	監査報告書（その意義、審査機関への付議）
9	監査報告書（その種類、構造、特記事項）
10	監査報告書 個別意見と総合意見
11	中間財務諸表の監査 連結財務諸表の監査
12	一年間のまとめとして、財務諸表監査のあり方や将来の展望等について考察する。
備考	

科目名	税務会計論	担当者名	山田浩一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現実の企業の会計実践において必要な、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解を形成する事を第一の出発点としたい。進んで、税務と企業会計の相互依存構造、法人税等の規制が企業会計に与えている影響を国際的観点等も踏まえて検討していきたい。すなわち、授業の主な目標は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 法人税法の理念と計算構造の理念</li> <li>2, 会計的思考と税務的思考の相違の把握</li> <li>3, 法人税法等の会計に与えるインパクトの検討</li> <li>4, 諸外国の税務会計制度等との比較検討</li> </ol>
講義概要	<p>税務会計論の進め方としては、法人税の課税所得及び税額計算の技術的理解に重点を置く傾向が生じがちである。しかし、本講義では、個々の経済事象に対する理解を十分にふまえた上で、会計及び税務上どのような取扱いがなされていくのかを追求していく方法を採用したい。</p> <p>そして、さらに確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、本来の真実公正な会計処理の実現を阻害している面があるということを解明していきたい。それは、基本的に国家単位の税務規制と、ますます国際的視点に基づく充実が要求される会計基準の調整の問題としてとらえる必要がある。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中田信正 著『税務会計要論』同文館</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『会計法規集』中央経済社他</li> <li>・『法人税法規集』中央経済社他</li> <li>・『法人税取扱通達集』中央経済社他</li> <li>・鈴木明男・鈴木豊 共著『総説税務会計』税務経理協会</li> <li>・井上久彌 著『税務会計論』中央経済社</li> <li>・武田隆二 著『法人税法精説』森山書店</li> </ul> <p>他に法人税関係書籍多数が参考となろう。</p>
評価方法	<p>主に定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）を重視して評価を行いたい。</p>
受講者に対する要望など	<p>本講義の履修とともに、簿記原理、会計学、財政学等の関連科目の履修が有用であろう。出席にあたっては、テキストの授業予定箇所について、予め通読しておくことが望まれる。</p>

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	税務会計論の対象と方法：年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取扱う。
2	租税制度：租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。
3	制度会計の構造：制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。
4	法人税法上の課税所得の計算：企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。
5	公正会計処理基準：法人税法第22条4項にいう公正会計処理基準の意義、税務理論のGAAP等との関連を考えていく。
6	税務会計判断の特性：税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等を通じてみていく。
7	売上収益と金銭債権：販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。
8	有価証券と受取配当：有価証券の意義、分類、認識と測定、評価にふれた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。
9	売上原価と棚卸資産：売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。
10	有形固定資産・減価償却・リース：有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。
11	圧縮記帳：圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。
12	無形固定資産・借地権：無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	繰延資産：繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の取扱いを概観する。
2	引当金・準備金：会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。
3	給与・報酬・源泉徴収：役員と従業員とにおける人件費の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。
4	交際費・寄付金：交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。
5	租税公課：企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。
6	自己資本：資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。
7	合併・分割・解散：企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。
8	国際課税：企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を扱う。
9	申告・納税制度の概要・連結納税制度：税務会計上の実務的な流れとしての各種申告制度の概要、及び研究対象としての連結納税制度についてみる。
10	消費税と経理方法：消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。
11	非営利法人の税務：公益法人、学校法人等の非営利法人における法人税その他租税の取扱いをみていく。
12	税効果会計：税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果等を概観する。
備考	

科目名	上級簿記	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	「簿記原理」履修者あるいは「日商検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得することを目標とする。		
講義概要	<p>前期講義の内容  主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行勘定調整表の作成</li> <li>○手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳</li> <li>○特殊販売取引に関する記帳</li> <li>○株式会社会計</li> </ul> <p>後期講義の内容  主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本支店会計</li> <li>○連結会計</li> <li>○リース会計</li> <li>○帳簿組織</li> </ul>		
使用教材	テキスト	・井上達雄、染谷恭次郎著『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社	
	参考文献	・新井清光、加古宜士（編著）『リース取引会計基準詳解』中央経済社 ・山浦久司著『体系演習上級簿記』白桃書房 ・大原簿記学校会計士科（編著）『新編連結バイブル』東洋書店	
評価方法	年2回以上の試験の結果による。		
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		

科目名	上級簿記	担当者名	湯田雅夫
-----	------	------	------

講義の目標	本講は、日本商工会議所検定商業簿記2級の技法を中心に懇切丁寧に解説する。	
講義概要	簿記の技法を習得するよう、講義と記帳・計算練習を並行して行う。	
使用教材	テキスト	渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局
	参考文献	その都度指示。
評価方法	前期・後期2回実施する試験によって行う。	
受講者に対する要望など	私語を一切しないこと。	



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金預金
2	有価証券
3	売上債権と貸倒引当金
4	その他の債権、債務
5	手形
6	商品売買
7	委託販売、受託販売
8	割賦販売
9	予約販売、試用販売
10	未着品
11	固定資産
12	繰延資産
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	収益・費用の整理
2	試算表の作成
3	精算表の作成
4	決算手続
5	財務諸表の作成
6	株式会社の資本金、法定準備金
7	剰余金および利益処分
8	社債
9	本支店合併財務諸表の作成
10	帳簿組織および単式簿記
11	帳簿と伝票式会計
12	本講の結び
備考	

科目名	管理工学	担当者名	山本 栄
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業を始め組織は人および物により構成されている。この組織をうまく運営するためには、人と物の管理が必要になってくる。本講義ではこの管理についての基礎知識および管理技術(手法)の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>管理手法全般にわたり講義する。さらに組織内における人間に視点をあててヒューマン・インタフェースに関する基礎も講義する。ここでいうヒューマン・インタフェースとは人間と道具、人間と機械、人間と組織との相性をさす。すなわち使いやすさとか動きやすさを考えていくことである。</p> <p>近年コンピュータが普及してきたが、このインパクトが組織に与えた影響は大きい。従って管理もコンピュータ抜きには考えられない。特に最近の技術革新の中で管理をどうやって行けば良いかについても触れる予定である。</p>		
使用教材	テキスト	特に無し、参考文献を読んでおいて下さい。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野呂影勇編『図説エルゴノミクス』 日本規格協会</li> <li>・秋庭雅夫他著『経営工学概論』 朝倉書店</li> <li>レポートの書き方</li> <li>・木下是雄『理科系の作文技術』 中公新書</li> </ul>	
評価方法	<p>年2回の期末テストを実施します。あと何回かレポートの提出を求めます。出来の良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにして下さい。お客さんだったり、欠席したり、私語をしたりすることは積極的な参加ではありません。それからレポートとは自分のメモではない。他の人(この場合は先生)に読んでもらうということを良く考えて下さい。授業ではときどきこの点を注意していても『私は聞いていません』と平然としている先輩もいました。よく考えてください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	管理工学とは 管理工学と関連する学問領域、管理技術とは。
2	システムズ・アプローチ1 システムとは、モデル、ブラックボックス フィードバックシステム
3	システムズ・アプローチ2 フィードバック・システム、マン・マシン・システム
4	生産管理論 行程管理、日程管理、在庫管理
5	生産管理論 生産管理とは、品質管理、原価管理
6	インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) -1 動作研究、時間研究、
7	インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) -2 作業の計測と分析法、身体計測と作業姿勢
8	インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) -3 行動分析
9	ヒューマン・インタフェースとは-1 ヒューマン・マシン・システム、機能分担
10	ヒューマン・インタフェースとは-2 人間工学適用の原則
11	ユーザビリティ エルゴデザインと使いやすさ
12	ユーザビリティ 認知科学的アプローチ、メヤファー、メンタル・モデル
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	生理的反応 視覚系
2	生理的反応 聴覚、循環器、神経系
3	心理的反応 アンケートの取り方、一対比較法
4	心理的反応 一対比較法、SD 法
5	ソフトウェア・エルゴノミクス マニュアル、テクニカル・コミュニケーション VDT 画面設計
6	OA・VDT 作業
7	FA・ロボット
8	最近の管理技術の動向
9	作業環境管理
10	分散協調 (CSCW)
11	安全管理-1 FTA 分析
12	安全管理-2 FTA 分析
備考	

科目名	経営数学	担当者名	前田 功雄
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済・経営に広範囲に應用されている線形代数の基本的事項をコンピュータを利用しながら解説する。目標としては線形計画問題のコンピュータ・アルゴリズムの理解と應用までとする。</p>		
講義概要	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。BASICによる簡単なプログラムを組むことが要求されるが、必要な事項は講義中に補う。先ず、前期では、<math>n</math>次元ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く應用をもつ線形計画法の理論と Dantzig によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p> <p>キー・ワード：ベクトル空間、内積、写像、線形変換、行列、行列式、基行列、基本操作、連立方程式、逆行列、ピボティング、シンプレックス法</p>		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリント配布。	
	参考文献	授業中に推薦する。	
評価方法	授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。		
受講者に対する要望など	コンピュータ概論又は情報処理概論既修が望ましい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	数学における空間の概念 数学では空間はどのように扱われているか。空間の構成要素は何か？ キー・ワード：空間、点
2	n次元ベクトル空間 n次元ベクトル空間の定義を述べる。 キー・ワード：点、ベクトル、実数、座標、零ベクトル、ベクトル空間
3	ベクトルの幾何学的意味 2次元空間を例にとってベクトルの矢線表示による視覚化を導入する。 キー・ワード：始点、終点、位置ベクトル、和ベクトル、実数倍ベクトル
4	ベクトルのノルム ベクトルの長さ(ノルム)の概念を導入し重要な公式について解説。 キー・ワード：ノルム、コーシーの不等式、n次元ユークリッド空間
5	ベクトルの内積 2つのベクトルの内積を定義することによって交角を求める。 キー・ワード：内積、交角、直交、射影、一般化されたピタゴラスの定理
6	演習 ベクトル計算、ベクトルの交角の計算、コンピュータのスクリーン上に矢線ベクトルを表示するプログラム。
7	線形変換 任意のベクトルを原点の回りに $\alpha$ だけ回転したベクトルの座標を求める。 キー・ワード：写像、変換、線形変換、行列
8	行列と線形変換 行列によって引き起こられる様々な線形変換についての解説。 キー・ワード：恒等変換、伸縮変換、射影変換、変換の積
9	演習 上の各変換に対応する行列み使って平面上の与えられた図形を変換するプログラムを作れ。
10	行列計算 行列の和、差、実数倍および積を定義する。 キー・ワード：行列の和、差、実数倍、積、逆行列、行列式
11	n元連立一次方程式の行列ベクトル表示と解表示 行列ベクトルを使っての連立方程式とその解の表示法。 キー・ワード：n元連立一次方程式、行列ベクトル表示
12	前期レポート解説 レポート課題と提出方法(コンピュータ通信)について説明する
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	連立方程式の解法(ガウスの消去法) ガウスの消去法のアルゴリズムの数値例による解説。 キー・ワード：ガウスの消去法、アルゴリズム、基本行列、基本操作
2	ガウスの消去法の一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：フロー・チャート、プログラム、乱数
3	ガウス・ザイデルの反復法 ガウス・ザイデルの反復法の数値例による解説。 キー・ワード：ガウス・ザイデルの反復法
4	ガウス・ザイデルの一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：ストップングルール
5	演習 ガウス・ザイデルの一般解法のプログラミング
6	逆行列の数値解法 数値例により解法の説明。 キー・ワード：基本操作のサブルーチン化
7	逆行列の一般的解法 一般的解法のフロー・チャートにより表現。 キー・ワード：正則性
8	表計算ソフトを使っての行列計算について紹介。 キー・ワード：表計算、Excel
9	線形計画問題について キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実行可能解、最適解
10	数値的解法の一つである罰金法について数値例で解説。 キー・ワード：シンプレックス法、モストネガティブ、ピボティング
11	罰金法のフロー・チャート フロー・チャートに従って各自の好きな言語によるプログラミング実習
12	後期レポート作成 後期レポート課題と作成法について。
備考	

科目名	応用統計学	担当者名	本田 勝
-----	-------	------	------

講義の目標	この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をベースにして、多変量統計解析の考え方を習得する。		
講義概要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを要約し、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析ではコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でもExcelやSASなどのプログラムパッケージを使用する。		
使用教材	テキスト	田中 豊、脇本和昌著『多変量統計解析法』現代数学社	
	参考文献		
評価方法	各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。		
受講者に対する要望など	『統計学』および『情報処理概論』を既修であることが好ましい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	多変量解析とは何かについての概観を行なう。
2	統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
3	統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化)
4	行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法)
5	行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル)
6	単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法)
7	単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数)
8	実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行なう。(分散分析表の見方、決定係数)
9	重回帰分析への拡張を行なう。(係数の推定と検定)
10	実例データを用いて重回帰分析の演習を行なう。(データの収集)
11	重回帰分析演習 (結果の解釈)
12	回帰分析における変数選択の方法について述べる。(変数増加法、変数減少法)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(幾何学的解釈、係数の重み、主成分)
2	P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(ラグランジュ未定係数法、固有値、固有ベクトル)
3	実例データを用いて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。(寄与率、累積寄与率)
4	各自データを収集し、主成分分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
5	分析結果の解釈および検討。
6	2変量判別分析の考え方とその数式化を行なう。(線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率)
7	実例データを用いて2変量判別分析の演習を行なう。
8	P変量判別分析の数式化を行なう。
9	実例データを用いてP変量判別分析の演習を行ない、分析結果の解釈をする。
10	各自データを収集し、判別分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
11	分析結果の解釈および検討。
12	クラスター分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。(クラスター、デンドログラム、類似度の尺度)
備考	

科目名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本田 勝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>オペレーションズ・リサーチの技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義ではこれらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを、実例を通して理解することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）の基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続いて述べていきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・未定</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>各テーマごとに課すレポートと、毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンピュータを用いた演習も行なうので、「情報処理概論」が既修か、簡単なパソコン操作の知識は既知であるほうが好ましい。また確率モデルの構成では「統計学」の基本事項について既知であるほうがよい。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	OR とは何かについての概観を行なう。
2	線形計画法 (LP) の定式化と幾可学的解法について述べる。(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3	シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。(スラック変数、基底解、実行可能解)
4	単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)
5	パソコンによる演習を行なう。
6	LP の双対性、双対問題について述べる。(双対定理)
7	パソコンによる演習を行なう。 双対問題の経済学的解釈について述べる。
8	LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9	輸送問題と LP との関連について述べる。
10	輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 $\epsilon$ -摂動法)
11	輸送問題のパソコンによる演習を行なう。
12	LP および輸送問題について総合的演習を行なう。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動的計画 (DP) の考え方について述べる。(多段階決定法、最適性の原理)
2	DP のいろいろの応用例を述べる。(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題)
3	DP のパソコンによる演習を行なう。
4	PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
5	PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行なう。PERT の統計的評価について述べる。(3点推定)
6	ゲームの理論について述べる。(純粋戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム)
7	ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行なう。
8	ゲームの理論と LP との問題について述べる。
9	在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
10	在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法、定量発注法)
11	在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行なう。
12	一年間の総まとめを行なう。
備考	

科目名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天 笠 美知夫
-----	----------------	------	---------

講義の目標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>本講義は4部から構成される。第1部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システムズ・エンジニアリングの基本概念とシステムズ・エンジニアリングの工学的方法論の概要について述べる。第2部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第3部では評価と意思決定について述べる。第4部ではシステムズ・エンジニアリングのいろいろな手法とその信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使用教材	テキスト	<p>授業時間にプリント資料を配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天笠美知夫『システム構成論』 森山書店 1986</li> <li>・寺野寿郎『システム工学入門』 共立出版 1985</li> <li>・Wayne C Turner, et. al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978</li> </ul>	
評価方法	<p>成績評価は、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1部 システム工学の基礎 第1章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考
2	システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性
3	自然システムと人工システム、需要の定義、計画の定義、創造のプロセス
4	第2章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その1）（問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定）
5	システム開発の手順と組織（その2）、システム工学方法論
6	第2部 問題の発見とシステムの構造化： 第3章 構造モデルとグラフ理論、ISM法、FSM法とKJ法（その1）
7	ISM法、FSM法とKJ法（その2）
8	ISM法、FSM法とKJ法（その3）
9	構造モデルの分割
10	第4章 統計的手法による構造化（その1）
11	統計的手法による構造化（その2）
12	事例演習1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3部 評価と意思決定：第5章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1）
2	価値と評価、効用理論（その2）
3	第6章 統計的手法による数量化、数量化理論（その1）
4	統計的手法による数量化、数量化理論（その2）
5	第4部 いろいろなシステムの手法と信頼性：第7章 スケジューリング、PERT、CPM（その1）
6	PERT、CPM（その2）
7	第8章 システムの信頼性
8	事例演習2：4～5人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。
9	事例演習
10	事例演習
11	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（1）
12	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（2）
備考	

科目名	情報システム論	担当者名	前田 功雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>	
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をとうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、コンピュータ・ネットワーク、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>	
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。
	参考文献	授業中に述べる。
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

題	主 要 テ ー マ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局に接続して実演。 キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト-端末、LAN、コンピュータ間通信、Internet
4	Internetの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるInternetの仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5	Internetの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	Internetによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルのInternet上での転送 FDのファイルをInternet経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
0	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
1	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
2	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後 期

題	主 要 テ ー マ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測り方（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
0	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
1	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
2	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	標本調査論	担当者名	松井敬
-----	-------	------	-----

講義の目標	<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらずである。この点に違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>				
講義概要	<p>本講義は目標のところでも述べたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・松井敬 『標本調査論』 内田老鶴圃</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "<i>Sampling Techniques</i>", Wiley &amp; Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "<i>Elementary Survey Sampling</i>", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院；辻、有馬、『アンケート調査の方法』、朝倉書店など。</td> </tr> </table>	テキスト	・松井敬 『標本調査論』 内田老鶴圃	参考文献	抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran " <i>Sampling Techniques</i> ", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott " <i>Elementary Survey Sampling</i> ", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院；辻、有馬、『アンケート調査の方法』、朝倉書店など。
テキスト	・松井敬 『標本調査論』 内田老鶴圃				
参考文献	抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran " <i>Sampling Techniques</i> ", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott " <i>Elementary Survey Sampling</i> ", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院；辻、有馬、『アンケート調査の方法』、朝倉書店など。				
評価方法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本調査とは—1：(1)標本調査とはどんなことか—幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2)本講義をどう進めるか—方針と受講生への要請。
2	標本調査とは—2：(1)標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、良いサンプルを得るための試み。(2)有意抽出法—典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。
3	標本（サンプル）、母集団：(1)良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本（サンプル）。(2)母集団特性値—平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。
4	単純無作為抽出法—1：(1)復元抽出法、非復元抽出法—意味と方法。(2)乱数—性質と使い方。(3)単純無作為標本のつくり方。
5	単純無作為抽出法—2：(1)単純無作為抽出法の例、推定量。(2)標本分布の概念—標本平均、標本中央値などの分布。(3)推定量の特性。
6	標準誤差—1：(1)推定量の分散、標準誤差。(2)母平均と母集団総計の推定量としての標本平均と標本総計。(3)標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4)有限母集団補正。
7	標準誤差—2：(1)標準誤差の意味。(2)推定量の精度（誤差）、推定量の相互比較（効率）。(3)母集団比率の推定。
8	標本の大きさ：単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
9	層化無作為抽出法—1：どんな抽出法か、層化抽出法における要点（どんな点が問題となるか）。構造模型。
10	層化無作為抽出法—2：(1)サンプルの配分、推定量とその分散。(2)比例配分と最適配分。(3)単純無作為抽出法との比較。
11	層化無作為抽出法—3：層の作り方、層の数。
12	層化無作為抽出法—4：(1)調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2)サンプルの大きさの決定。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	系統抽出法—1：意味と方法。推定量、その分散。
2	系統抽出法—2：系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。
3	1段集落（クラスター）抽出法—1：(1)なぜ集落抽出法を考えるか—その方法と理由。(2)抽出単位を選出する確率が等しくない場合の標本抽出とその効果。
4	1段集落（クラスター）抽出法—2：(1)1段目を等確率抽出した場合。(2)幾つかの推定量—それぞれの特徴と比較。(3)抽出法の例。
5	1段集落（クラスター）抽出法—3：(1)例を通して問題点の整理。(2)1段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3)比率の場合。
6	2段集落（クラスター）抽出法—1：クラスターの大きさが等しい場合。2段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。
7	2段集落（クラスター）抽出法—2：構造模型。クラスターの大きさが異なる場合。サンプルの大きさ $n=1$ の場合についての考察。推定量と抽出法との関係を調べる。
8	2段集落（クラスター）抽出法—3：一般の場合の説明。1段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
9	2段集落（クラスター）抽出法—4：一般の場合の説明。第2段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
10	抽出法再考：講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。
11	標本調査における問題：標本調査の実際に関わる諸問題。実際の場合で起こりうる問題を整理し、例を通して解説。
12	標本調査：まとめ。課題。
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	高柳敏子
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、非常に単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いてCASLシミュレータを利用して、架空のコンピュータCOMETとそのアセンブラ言語CASLのプログラミングを通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み、またコンピュータ内部での情報の表現、そして基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めにCASLのより応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコン言語の一つとしてコンパイラ言語のC++を取り上げ、CASLプログラムと対応させながらC++によるプログラミングを、できるだけTurbo C++ for Windowsを使用して実習しながら勉学する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社、1993。</li> <li>・『CASL Programming』ITEC（情報処理技術者教育センター）、1994。</li> <li>・Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』第2版アスキー出版局、1996。</li> <li>・『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。</li> </ul>
評価方法	<p>前・後期各1度のテストと、Internetによる前・後期各4～5回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論（経済学部）、情報処理（法学部）、コンピュータ概論（外国語学部）、または言語情報処理Ⅰ（英語学科）を既修のこと。</p> <p>受講者の人数を確認するので第1回の講義には必ず出席すること。</p>



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1):ハードウェア。ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。
2	コンピュータの歴史(2):ソフトウェア。コンピュータ言語、オペレーティングシステム。
3	コンピュータの構成:中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置。
4	COMETの処理装置(1):語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ(PC)。
5	COMETの処理装置(2):レジスタ、汎用レジスタ(GR)、指標レジスタ(XR)、フラグレジスタ(FR)。
6	情報の表現(1):数値の内部表現。整数と2の補数表記、16進表現。
7	CASLプログラミング(1):CASLの命令、疑似命令、マクロ命令、機械語命令 命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈。
8	CASLプログラミング(2):CASLプログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保。
9	CASLシミュレータとその実行:プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し。
10	CASLプログラミング(3):乗除算処理(1) シフト演算命令。
11	CASLプログラミング(4):乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ。
12	CASLプログラミング(5):繰り返し処理。指標レジスタの使用。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASLプログラミング(6):情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCIIコード。
2	CASLプログラミング(7):入出力命令。コード変換と論理演算。
3	CASLプログラミング(8):サブプログラム(1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し。
4	CASLプログラミング(9):サブプログラム(2) スタックを利用したデータの受け渡し。
5	アセンブラとコンパイラ:プログラムの翻訳と実行。例題と Turbo C++ for Windows の操作。
6	C++プログラミング(1):C++言語とは。 C++言語の基本事項。
7	C++プログラミング(2):出力処理。四則演算と演算子、シフト演算。
8	C++プログラミング(3):判断・分岐演算。関係演算子、論理演算子。
9	C++プログラミング(4):繰り返し演算。配列。
10	C++プログラミング(5):入力処理。文字と文字列の扱い。
11	C++プログラミング(6):関数(メインプログラムとサブプログラム)。サブプログラムにデータの値を渡す。
12	C++プログラミング(7):関数(2) サブプログラムにデータのアドレスを渡す。
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	立田ルミ
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等の様に、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目標とする。</p>		
講義概要	<p>現在コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、ビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすれば良いかを、オブジェクト指向言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説する。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・立田ルミ『Visual Basicと教育システム情報』朝倉書店</p>	
	参考文献	<p>・天笠美知夫編『情報処理の基礎』第2版 朝倉書店</p>	
評価方法	<p>前期、後期の試験：60% レポート1、2：30% 出席：10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理論(3)を並行して履修（または既習）することが望ましい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のガイダンスとコンピュータの歴史：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ
2	ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの利用：入力装置、CPU、記憶装置、記憶方式、ビット、バイト、KB、MB、GB、サイクルタイム、アクセスタイム
3	ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム
4	情報処理におけるコンピュータの役割：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
5	システム開発とプログラム開発の手順：システム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間
6	詳細設計とその手法：プログラムのモジュール化設計、モジュールの論理設計、プログラム流れ図、NS チャート、木構造チャート、HIPO
7	プログラム言語の種類と利用目的：機械向き言語、問題向き言語、オブジェクト指向言語、システム開発用言語、シミュレーション言語
8	第四世代言語と CASE ツール：現在開発されている第四世代言語、ソフトウェアの生産性と信頼性
9	各種プログラム言語の使用推移とパソコンソフトウェア各種言語の推移、パッケージソフトの概要、出荷実績
10	Visual Basic とは オブジェクト指向言語、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
11	簡単なプログラム作成の手順：アプリケーション開発手順、Visual Basic 開発環境
12	アプリケーションの構築(1)：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方、プログラム設計の選択
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アプリケーションの構築(2)：プロパティをフォームに割り当てる、プロパティをコントロールに割り当てる、メニューのプロパティ
2	アプリケーションの構築(3)：イベント駆動型プログラミングモデル、Visual Basic と他のバージョンの Basic プログラム編成
3	アプリケーションのデバッグとコンパイル：実行エラーの修正、アプリケーションのコンパイル
4	入出力のテクニック：データをキーボードから入力する、データをディスクに書き込む、売上のグラフを描く
5	データ構造とコントロール：動的データ配列の使用、コントロール配列の使用、データの印刷
6	ランダムアクセスファイル：レコードのフィールドへの入力、データベースファイル、プロシージャとメソッド
7	いろいろな機能を使う：ピクチャーボックス、グラフィクス、タイマーコントロール
8	日付と時刻：日付と時刻の値を利用する
9	ファイル、ディレクトリ、ドライブコントロール 円グラフを描く
10	動的データ交換、シートを印刷する
11	ドラッグアンドドロップ操作、プログラム一覧表を作成する
12	Visual Basic とネットワーク、Visual Basic からネットワークを使う
備考	

科目名	情報処理論(1)	担当者名	高柳敏子
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、データベースの基礎知識を理解するために、初めにデータベースの前段階としてのファイル処理を、C++言語のプログラミングを通して学習し、ファイル処理の基本を理解する。</p> <p>続いてファイルを高度化した情報処理システムとしてのデータベースについて、ファイルとの違いを含め基礎的な知識を学ぶとともに、データベースの作成およびその取扱いを、データベースソフトを使ってコンピュータで実習しながら理解する。</p>		
講義概要	<p>前期は、Turbo C++ for Windows を使ってC++言語によるファイル処理の基礎を実習しながら学ぶ。</p> <p>後期は、まずMS-Excelのデータベース機能を使って、データベースの持つデータ管理機能を概観する。続いてデータベースの特徴と、特に汎用機からパソコンまで多くのソフトが開発されたリレーショナル・データベースおよびその取り扱い言語のSQLを、実際にMS-Accessを使いながら学ぶ。また、本学で利用できるデータベースについては、図書館検索やCD-ROM検索を含めできるだけ講義のなかで使用していく。</p> <p>課題の出題や資料の配布、レポートの提出および出席にはInternetを利用する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前田功雄編『Windowsを活用し情報処理』共立出版、1995。</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・K. Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』第2版アスキー出版局、1996。</li> <li>・B. ストラウストラップ著、斎藤・三次・追川・宇佐美共訳『プログラミング言語C++』第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ-40、1993。</li> <li>・C. Date 著、芝野・岸本共訳『標準SQL』改定第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ-9、1990。</li> <li>・『データベース標準用語辞典』オーム社、1991。</li> <li>・『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。</li> </ul>	
評価方法	<p>前・後期各1回の実習テスト、Internetによる前・後期各2～3度程度のレポート提出および出席を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論（経済学部）、情報処理（法学部）、コンピュータ概論（外国語学部）、または言語情報処理Ⅰ（英語学科）を既修のこと。受講希望者が多い場合には抽選をすることがあるので、第1回の授業には必ず出席すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス：講義の概要と受講生の決定
2	Internet：mail の受信と送信と添付ファイル。
3	C++ 言語(1)：Turb C++ for Windows の操作。例題プログラムの実行。
4	C++ 言語(2)：C++ 言語の基本事項。
5	ファイル処理(1)：C++ 言語(3) ファイルからデータを入力する。
6	ファイル処理(2)：C++ 言語(4) ファイルへ結果を出力する。
7	ファイル処理(3)：C++ 言語(5) メインプログラムとサブプログラム。
8	ファイル処理(4)：C++ 言語(6) 基本的なファイル技法とは。ファイル、レコード、アイテム、フィールド、キー
9	ファイル処理(5)：C++ 言語(7) ソート(1) データを整列する。
10	ファイル処理(6)：C++ 言語(8) ソート(2) データの整列順位を求める。
11	ファイル処理(7)：C++ 言語(9) マージ。整列されているデータを合併する。
12	ファイル処理(8)：C++ 言語(10) 検索。必要なデータを探索する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	MS-Excel のデータベース機能(1)：レコードの並べ替え。条件によるレコード抽出。
2	MS-Excel のデータベース機能(2)：データベース関数の利用。最大値、最小値、平均、標準偏差。
3	MS-Excel のデータベース機能(3)：クロス集計。条件付きのクロス集計。
4	データベースの検索利用(1)：個人資料を作成する(1) 図書館データベースの利用。
5	データベースの検索利用(2)：個人資料を作成する(2) CD-ROM 検索、外部データベースの検索利用。
6	データベースの基礎知識(1)：論理データと物理データ。データ構造（階層型、ネットワーク型、リレーショナル型）。
7	データベースの基礎知識(2)：データベース言語とデータベース管理システム (DBMS)。
8	データベースの基礎知識(3)：リレーショナル・データベース。集合演算と関係演算、SQL 言語。
9	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(1)：MS-Excel からデータを入力する。
10	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(2)：テーブル間のリレーションを作成する。
11	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(3)：選択のためのクエリーを作成する QBE と SQL。
12	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(4)：クロス集計と SQL。クロス集計のためのクエリーを作成する。
備考	

科目名	情報処理論(2)	担当者名	富田幸弘
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶ。また、コンピュータを利用した具体的なプログラムについても学び、より高度な利用法についても体験学習することを目標としている。</p>	
講義概要	<p>出来るだけ具体的な例を示しながら、同時に、情報処理のためのコンピュータの利用についても講義する。その内容は、おおむね以下のようなものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経営科学の必要性</li> <li>(2) 時系列分析と需要予測</li> <li>(3) 在庫管理</li> <li>(4) 日程計画</li> <li>(5) 待ち行列</li> <li>(6) シミュレーション</li> <li>(7) ビジネス・ゲーム</li> </ol>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮川公男・野々山隆幸・佐藤修共著 『経営科学と情報処理』実務出版</li> <li>・高橋三雄・藤森洋志共著 『ビジネス・ゲーム入門』日本経済新聞社</li> </ul>
評価方法	<p>前期・後期のレポートおよび出席状況等により評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理概論（経済学部）、情報処理（法学部）、コンピュータ概論（外国語学部）の既修者を対象にしている。</li> <li>・第1回講義に必ず出席すること。</li> <li>・情報処理論(1)、(3)も平行履修することが望ましい。</li> </ul>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の講義内容と評価について
2	経営科学の利用例
3	情報処理とコンピュータ
4	統計データの整理 〈度数分布表、平均値、分散〉
5	統計的推定・検定 〈区間推定、仮説検定、適合度検定〉
6	乱数の発生と検定 〈合同法、最大周期、無相関検定〉
7	時系列分析 〈変動、移動平均法、指数平滑法〉
8	需要予測 〈相関、回帰、段階的接近法〉
9	在庫管理(1) 〈在庫の種類、在庫の費用、在庫問題の分類〉
10	在庫管理(2) 〈需要と発注、発注システム、最適在庫〉
11	在庫管理(3) 〈ABC分析、在庫管理ゲーム〉
12	前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日程計画 〈PERT、クリティカル・パス〉
2	待ち行列(1) 〈待ち行列の例、待ち行列問題の基本構造〉
3	待ち行列(2) 〈待ち行列問題の分析、シミュレーションによる解法〉
4	シミュレーションゲームについて
5	生産管理ゲーム
6	販売管理ゲーム
7	資金繰りゲーム
8	ビジネスゲーム(1) 〈作成手順、市場構造〉
9	ビジネスゲーム(2) 〈モデルの数式化〉
10	ビジネスゲーム(3) 〈競争力の決定構造〉
11	ビジネスゲーム(4) 〈市場調査、経営分析〉
12	後期のまとめ
備考	

科目名	情報処理論(3)	担当者名	立 田 ル ミ
-----	----------	------	---------

講義の目標	最近のソフトウェアがどのように作成されているかを理解し、オブジェクト指向言語のひとつである Visual Basic を用いて教育用のソフトウェアを作成する。また、ネットワークを用いた教育についても理解することを目的とする。プログラミングを実際に行うことで、マルチメディア、ネットワークを理解して欲しい。		
講義概要	教育におけるコンピュータの利用の例をいくつか取り上げ、その中で基本的な情報処理の手順およびプログラミングについて講義する。90分の授業のうち、前半は講義を行い、後半は Windows の Visual Basic を用いてプログラミング演習を行う。前期、後期を通じていくつかの課題について実際にプログラミングを行ってもらおう。		
使用教材	テキスト	・立田ルミ『Visual Basic と教育システム情報』朝倉書店	
	参考文献	・天笠美知夫編『情報処理の基礎』第2版朝倉書店	
評価方法	授業時に指定されたレポート：30% 前期、後期の試験：50% 出席状態：20% これらの合計の60%を満たさない者は、単位を取得出来ない。		
受講者に対する要望など	情報処理概論を既習のこと。 プログラミング論を履修すること。 コンピュータの操作およびキーボードの操作に習熟していること。 Windows を使い慣れていること。 講義以外の時間にもコンピュータを使わなくてはならないので、かなりハードな授業になる。時間的余裕のある学生を望む。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとコンピュータの概略：ホストコンピュータ、端末装置、LAN、ネットワーク
2	教育におけるコンピュータの利用と情報処理：マルチメディア、ネットワークでの利用 CD-ROMのいくつかを取り上げる
3	Visual Basic 概要と特長：Visual Basic の歴史、言語の特長、プログラム作成方法 構造化プログラミング
4	Visual Basic の簡単なプログラム：プログラムの作成過程、プログラムの実行、プログラムの修正
5	Visual Basic の簡単なプログラム作成：イベントプロシージャ、アプリケーションの開発、アプリケーションのコンパイル、プログラムリストの作成
6	フレームコントロール、コマンドボタンコントロール、フレームコントロールに配置されたコントロール、コマンドボタンコントロールの見だし、イベントを発生させるデフォルトの処理
7	ピクチャボックスコントロール、ASCII 文字の表示領域としての利用、コントロール
8	テキストボックスのコントロール、テキストボックスへのアクセス、テキストのカットアンドペースト、テキストボックスコントロールの行数、テキストのスクロール
9	オプションボタンコントロール、グループ化、オプションボタンの状態
10	コントロール、チェックボックスコントロールの状態 グループ化
11	教材作成：フォームの使い方、コントロールの使い方
12	教材作成演習：各自教材を作成する
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンボボックスコントロール、ドロップダウンコンボ、シングルコンボ、ドロップダウンリスト
2	リストボックスコントロール、リスト項目の編集、リスト項目へのアクセス
3	ドライブリストコントロールボックス、リスト項目へのアクセス、ディレクトリリストボックスコントロールへの対応
4	ディレクトリリストボックスコントロールへの対応、リスト項目へのアクセス、ファイルリストボックスコントロールへの対応
5	他のコントロール、ラベルコントロール、スクロールバーコントロール、タイマコントロール
6	プロパティの種類：いろいろなプロパティを使う
7	Visual Basic でファイルを使う：フォームモジュール、コードモジュール、プロジェクトファイル、変数の宣言、DIM 文、REDIM 文、SHARE 文
8	プロシージャ：イベントプロシージャ、ジェネラルプロシージャ、プロシージャの記述
9	プロシージャの呼び出し、プロシージャ側の仮りパラメータ、DECLARE 文、DECLARE 文の自動生成
10	変数のスコープと共有、モジュール内で変数を共有する、モジュール間で変数を共有する、変数の記憶クラス
11	課題の説明：プログラムの説明、どのようにプログラミングすればよいか
12	教育利用ソフトの試作：Visual Basic のいろいろな機能を使って課題を作成する。教育に利用できるソフトのプロタクトタイプを作成する。
備考	

科目名	老年社会学	担当者名	奥山正司
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。</p> <p>なお、老年社会学は、老年学（gerontology）の一領域であるとともに、社会学（sociology）の一領域として位置づけられる。また、老年学とは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である。</p>		
講義概要	<p>年間を通して、人口高齢化や加齢がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>前半では、人口高齢化、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、老人福祉、老後保障などの側面から講義し、高齢（化）社会の全体像をあきらかにする。</p>		
使用教材	テキスト	教科書は特に使用しない。また、参考書等は授業中にその都度指示する。	
	参考文献		
評価方法	レポート、出席、試験等の総合的な評価によって行う。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

<p>第1～2週 老年社会学とその周辺科学</p> <p>社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていく老年社会学とはどのような学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、老年社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。</p>
<p>第3～4週 人口高齢化と高齢化社会</p> <p>エイジング（加齢）とはどのような現象か。また、わが国の人口高齢化の現象とその要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。</p>
<p>第5～6週 高齢者と家族、老親子の居住形態</p> <p>戦後、イエ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。</p>
<p>第7～8週 ライフ・サイクル、家族周期と老年期</p> <p>人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのであろうか。</p>
<p>第9～10週 高齢者と生計</p> <p>高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。</p>
<p>第11～12週 高齢者と就業・雇用、定年退職</p> <p>人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。</p>
<p>第13～14週 高齢者と住宅環境</p> <p>住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。</p>
<p>第15～16週 高齢者と生涯学習、社会参加</p> <p>高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若・中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。</p>
<p>第17～18週 高齢者と保健・医療</p> <p>死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保健法とはどのような対策なのか。</p>
<p>第19～20週 高齢者と在宅福祉</p> <p>本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市区町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートし在宅福祉10箇年計画をかかげたゴールドプラン・及び新ゴールドプランはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。</p>
<p>第21～22週 高齢者と施設福祉</p> <p>在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、介護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。</p>
<p>第23～24週 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出</p> <p>老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。</p>
<p>第25週～ 諸外国の高齢者対策</p> <p>福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>

科目名	宗教学	担当者名	鈴木康治
-----	-----	------	------

講義の目標	宗教とは何かから始めて、宗教に関わる諸知識を整理し、東西の宗教の比較に関わる。		
講義概要	講義予定を参考のこと。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	一応、岸本英夫『宗教学』（大明堂）を参照。但し、その考え方に全面的に賛同する訳ではない。	
評価方法	テスト。但し、あらかじめ問題提示もありうる。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	宗教とは何か I.
3	同上 II.
4	宗教学の諸問題 I.
5	同上 II.
6	日本の宗教事情 I.
7	同上 II.
8	年中行事 I.
9	同上 II.
10	儀礼の問題 I.
11	同上 II.
12	同上 III.
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概要のまとめ
2	祭りの事例 I.
3	同上 II.
4	同上 III.
5	祭りと現代 I.
6	同上 II.
7	宗教集団の問題 I.
8	同上 II.
9	タブーと戒律 I.
10	修行 I.
11	同上 II.
12	宗教の規定
備考	

科目名	高齢者エルゴノミクス	担当者名	山本 栄
-----	------------	------	------

講義の目標	エルゴノミクス（人間工学）の考え方を理解し、その上い実社会で高齢者を始め、弱者に対し、“やさしい”モノ（ハード、ソフト）を提供する考え方を身に着ける。		
講義概要	高齢化社会における社会的環境整備とはどうあるべきなのであろうか。たとえば駅の券売機の前でお年寄りが自分の切符の値段をうろうろしながら調べていたり、お金を投入するのにまどついていたりする光景によく出くわします。銀行でも自動機（ATM）でまどついていることを見かけたことは多いであろう。高年齢者が日常の生活、社会生活において安心して暮らせるためには社会的にどんな用意をすればよいのか、社会資本の充実といってもよいであろう、この点を考えていくための基礎と応用・実践的問題を取り上げて講義する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服部真理子『高齢者にやさしい商品開発』、日本経済新聞社</li> <li>・『講座 高齢社会の技術 全7巻』日本評論社</li> <li>・レポートの書き方</li> <li>・木下是雄著『理科系の作文技術』中央新書</li> </ul>	
評価方法	年2回の期末テストを実施します。あと何回かのレポートの提出を求めます。出来の良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。		
受講者に対する要望など	積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにして下さい。お客さんだったり、欠席したり、私語をしたりすることは積極的な参加ではありません。それからレポートとは自分のメモではない。他の人（この場合は先生）に読んでもらうということを良く考えてください。授業ではときどきこの点を注意していても『私は聞いていません』と平然としている先輩もいました。よく考えて下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. 序 高年齢者エルゴノミクスとは
2	2. 高齢者を取りまく環境
3	3. 高年齢者の特徴 3.1 加齢効果
4	3.2 生理的变化について-1 視覚系
5	3.2 生理的变化について-2 聴覚系
6	3.2 生理的变化について-3 呼吸器、循環器系
7	3.3 精神的变化について-1 記憶等
8	3.3 精神的变化について-2 精神的活動
9	4. 人間工学の原則 (ISO 6385)
10	5. 高年齢者にとってのユーザビリティとは
11	6. 高年齢者の機能測定法 6.1 身体計測
12	6.2 生理的反応計測
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	7. 高年齢者の情報処理 7.1 情報処理能力と加齢
2	7.2 高年齢者用 OA 作業
3	8. 高年齢者用住環境 8.1 家庭内災害
4	8.2 高齢者用住宅
5	9. 高年齢者と安全 ヒヤリ・ハット
6	10. 高齢化社会と社会システム 10.1 社会システムからの見方
7	10.2 現状とその対策
8	11 高齢化社会への実践的取り組み方 11.1 家庭編
9	11.2 交通編
10	11.3 公共施設
11	12. 諸外国の取り組み方 12.1 ヨーロッパ
12	12.2 アメリカ
備考	

科目名	経済原論(営)	担当者名	高橋 房二
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講においては経済原論としてオーソドックスな現代理論におけるマイクロ経済学の基礎の体系的な講義を行なう。ここで取り扱われる授業内容は経営学科の学生にとっていずれも重要であり、有益なものである。とりあげられる各問題について理解を容易にするために図解的説明が中心とされる。この講義は徹視的経済理論に関する大学専門課程の学生としての学力の育成と充実を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本年はマイクロ経済理論に統一して講義を行なう。経済主体として消費者と企業者のそれぞれの合理的経済行動が対象とされる。その場合、いずれの経済主体もある条件のもとで最適化行動を行なうものとして議論される。まず、家計、あるいは消費者の行動に関する分析として消費における重要な基本概念や無差別曲線理論が述べられ、そしてその応用が種々展開される。ついで、需要に関連する概念と需要理論が上記の議論の延長として取り扱われる。つぎの段階として、企業者行動の理論分析のため、生産と費用に関する必須の事項が講義される。その基礎のうえに立って、完全競争や独占における短期と長期の均衡を取り扱う。さらに、独占的競争や複占に関する問題がとりあげられる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァリアン『マイクロ経済分析』勁草書房</li> <li>・マランポー『マイクロ経済理論講義』創文社</li> <li>・Gould &amp; Lazear, Microeconomic Theory, Irvin</li> <li>・西村和雄『マイクロ経済学』東洋経済新報社</li> </ul> 他	
評価方法	定期試験、ミニテスト		
受講者に対する要望など	出席を十分留意すること。		



年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の主な内容と授業展開の概要と学習上の留意点の説明。 消費者行動の理論 (I) 効用、効用指標、選好、効用曲面、限界効用、無差別曲線とその性質
2	消費者行動の理論 (II) 限界代替率、商品空間、予算空間、効用極大化、消費の均衡
3	需要の理論 (I) 価格変化、価格消費曲線、需要曲線、需要法則、需要の価格弾力性
4	需要の理論 (II) 貨幣所得の変化、正常財と劣等財、所得消費曲線、需要の所得弾力性
5	消費者需要の問題 (I) 代替効果、所得効果、全部効果 (正常財のケース)
6	消費者需要の問題 (II) 代替と補完、代替財、補完財、価格交差弾力性等
7	無差別曲線理論の応用 所得と余暇のトレードオフ、消費者・雇用者均衡、異時点間における消費の決定、オーバータイムの問題等
8	市場需要 (I) 需要の決定因、個別需要、市場需要、需要の価格弾力性
9	市場需要 (II) 総収入、限界収入、需要の価格弾力性と総収入
10	生産の理論 (I) 固定的投入と可変的投入、短期と長期の概念、生産関数 (1要素の場合)、総生産物、平均生産物、限界生産物、限界生産物逓減の法則
11	生産の理論 (II) 固定比率と可変比率、生産関数 (2要素の場合)、規模に関する収益不変、収益逓増、および収益逓減、生産曲面、生産物等量曲線。
12	生産の理論 (III) 生産物等量曲線の性質、技術的限界代替率、生産物空間と費用空間
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	生産の理論 (IV) 所与の費用のもので産出を極大にする最適投入結合、生産設備の長期的適応過程、拡張経路、産出効果と代替効果
2	費用の理論 (I) 費用、機会費用、短期の総費用、可変費用、平均費用、および限界費用、短期の総費用曲線、平均費用曲線、および限界費用曲線
3	費用の理論 (II) 長期の総費用、平均費用、および限界費用、費用からみた工場規模の選択、長期平均費用曲線、長期限界費用曲線、規模の経済と不経済
4	完全競争市場における価格理論 (I) 完全競争、完全競争のもとにおける企業の短期均衡、短期における生産の停止
5	完全競争市場における価格理論 (II) 短期の供給曲線、既存企業の長期均衡、産業の長期的調整過程
6	純粋独占下における均衡 (I) 独占、独占の要因、総収入、限界収入、総費用、限界費用、独占下における短期均衡、総収入と総費用による接近
7	純粋独占下における均衡 (II) 前週につづいて、限界収入と限界費用による接近、独占価格、独占利潤、多工場独占、短期の独占供給
8	純粋独占下における均衡 (III) 独占下における長期均衡、単一工場独占における長期的調整
9	独占理論の特殊問題 価格差別化、双方独占
10	独占的競争の理論 生産物差別化、独占的競争下の短期均衡と長期均衡
11	寡占の理論 (I) 寡占、寡占市場、複占
12	寡占の理論 (II) 複占についての若干のモデル、寡占市場の安定性
備考	

科目名	経済原論(営)	担当者名	西村 允克
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は1つの組織である。それゆえ経済学は市場経済という組織を理解することを目的とする。組織が永続的に機能するのは、そこになんらかの秩序原理が存在するからである。経済学はこの秩序を市場均衡理論によって把握説明する。それゆえ、市場均衡のメカニズムを学習することが前期の目標となる。しかし現実経済は市場均衡状態にあるわけではない。現実経済が市場均衡を乖離しているとき、現実経済はどう進むか、すなわち変動と成長の過程が後期の主要目標となる。</p>		
講義概要	<p>予定の1～2は、経済学を学ぶための基礎となることを集中的に学習する。以下の講義はこれに基づいて進行するから、常に講義の進行にともなって参照する必要がある。</p> <p>3～4はGDP(国内総生産)の定義をもとにマクロ経済変数の関係を述べる。5～7は具体的な関数を説明することによって、関数の意味とその利用方法を完全に学習する。</p> <p>8～12では、経済理論の中心となる市場均衡理論を学習することによって、主要な経済問題を考える論理システムを学習する。13～24は市場均衡理論を財市場から貨幣市場へ拡大し、より現実的な経済問題理解のための基礎を整えることにある。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</p>	
	参考文献	<p>・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版</p> <p>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版</p> <p>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</p> <p>・井堀利宏 『入門マクロ経済学』 新世社</p>	
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果による。試験は講義をいかに理解したかをテストするのであるから、講義中に注意した点を必ず答案に反映することが必要である。</p>		
受講者に対する要望など	<p>学習効果を上げるには、日々の学修が必要である。講義はそれまでの講義を基礎に展開されるから、絶えずそれまでの講義内容を反復学習することを望む。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎 (I) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役 (サービス)、資産 (実物資産と金融資産)
2	経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線、図の読み方、市場 (完全競争市場, 独占的競争市場)
3	国民経済計算 (I) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、内需と外需、グロスとネット
4	国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 産出量と投入量、限界生産力、規模の経済
6	消費関数 (I) 限界消費性向と限界貯蓄性向、両者の関係、平均消費性向と平均貯蓄性向、両者の関係
7	消費関数 (II) 長期消費関数
8	価格決定理論 (I) 価格の決定と変動の理論、完全競争市場における価格決定、独占市場における価格決定
9	価格決定理論 (II) 消費税率を上げると価格はどうかなど価格決定理論の応用問題
10	国民所得決定理論 (I) 貿易がない場合の国民所得決定理論
11	国民所得決定理論 (II) 乗数理論、財政々策の効果
12	前期のまとめ 前期の講義内容を体系的にまとめ、それぞれの相互関係を明らかにする
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣市場について マネー・サプライとその決定因、金融政策——公定割引歩合、公開市場操作、予金準備率
2	貨幣需要量について 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS=LM 分析 (I) IS 曲線の導出、LM 曲線の導出、国民所得と利子率の同時決定のメカニズム
4	IS=LM 分析 (II) 財政々策と金融政策の効果の分析
5	失業とインフレーション 自然失業率、フィリップス曲線
6	景気変動 キッチン波動、ジュグラール波動、コンドラチェフ波動
7	経済成長論 (I) 経済成長率、限界資本係数と貯蓄性向の関係
8	経済成長論 (II)
9	国際マクロ経済理論 (I) 外国貿易乗数、外国為替相場 (固定相場と変動相場制)、国際収支 (貿易収支、経常収支、資本収支)
10	国際マクロ経済理論 (II)
11	総供給・総需要分析 総供給曲線の導出、総需要曲線の導出
12	まとめ 経済理論のより高度な学習にむけての注意と一年間の講義内容のまとめ
備考	